

# 千歳市まちづくり白書

令和元年5月

千 歳 市

# も く じ

<b>1</b>	<b>総論編</b>	<b>1</b>
1-1	人口、世帯数の推移	2
1-2	年齢3区分別人口の推移	5
1-3	地区別人口	6
1-4	男女別・年齢5歳階級別人口の状況	8
1-5	年齢5歳階級別男女比	9
1-6	人口動態の状況	10
1-7	昼夜間人口	11
1-8	市外との流出入状況	12
1-9	産業別就業構成	13
1-10	就業者比率、年齢別就業状況	15
1-11	土地利用	17
1-12	都市計画	18
1-13	都市計画マスタープラン	20
1-14	歳入と歳出	22
1-15	財政力指数と経常収支比率	24
<b>2</b>	<b>各論編</b>	<b>27</b>
2-1	あったかみのある地域福祉のまち	28
(1)	あったかみのあるまちづくり	28
(2)	保健予防対策の充実	31
(3)	医療の充実	37
(4)	高齢者福祉の充実	40
(5)	障がい者及び障がい児の福祉の充実	42
(6)	子育て支援の充実	45
(7)	市民生活の安定	48
(8)	男女共同参画社会の実現	51
(9)	心のふれあうコミュニティづくり	54
2-2	人と地球にやさしい環境のまち	59
(1)	地球環境保全の推進	59
(2)	環境保全行動の実践	62
(3)	自然環境の保全	64
(4)	環境保全対策の推進	66
(5)	廃棄物の減量化と収集処理の充実	69
(6)	生活環境衛生の向上	72
(7)	快適に暮らせる下水道の充実	74
2-3	安全で安心して暮らせるまち	76
(1)	防災対策の充実	76
(2)	交通安全の推進	79
(3)	防犯対策の充実	81

(4) 消防・救急体制の強化	83
(5) 住宅環境の整備	85
(6) 快適・安全な冬の都市環境づくり	88
(7) 安心して暮らせる川づくりの推進	90
(8) 防衛施設周辺の諸障害対策の推進	91
(9) 安全で安定的な水の供給	93
2-4. 学びの意欲と豊かな心を育む教育文化のまち	95
(1) 生涯学習のまちづくり	95
(2) 幼稚園教育の充実	98
(3) 小中学校教育の充実	100
(4) 高等学校教育の充実	106
(5) 社会教育の充実	108
(6) 市民文化の創造	111
(7) 文化財の保護と活用	114
(8) 生涯スポーツの推進	117
(9) 青少年の健全な育成	120
(10) 多様な地域間交流の推進	122
2-5. 活力ある産業拠点のまち	124
(1) 農業の振興	124
(2) 優良農地の確保	128
(3) 林業の振興	129
(4) 内水面漁業の振興	131
(5) 工業の振興	132
(6) 高度技術産業の集積	134
(7) 商業の振興	136
(8) 流通機能の充実	139
(9) 観光の振興	141
(10) 雇用の安定	144
2-6. 都市機能が充実したまち	146
(1) 魅力ある市街地の形成	146
(2) 空港を核としたまちづくりの推進	150
(3) 道路体系の整備	153
(4) 公共交通の充実	156
(5) 緑地の保全及び緑化の推進	159
2-7. 市民協働による自主自立の行政運営	162
(1) みんなで進めるまちづくり	162
(2) 自主自立の行財政システムの確立	165

### 3 地区編 ..... 168

3-1. 地区A	169
3-2. 地区B	173
3-3. 地区C	177
3-4. 地区D	181
3-5. 地区E	185
3-6. 地区F	189

---

# 1 総論編

---

住民基本台帳や国勢調査などの統計を用いて、人口や世帯、産業、土地利用、財政などに関する基礎データを整理しています。

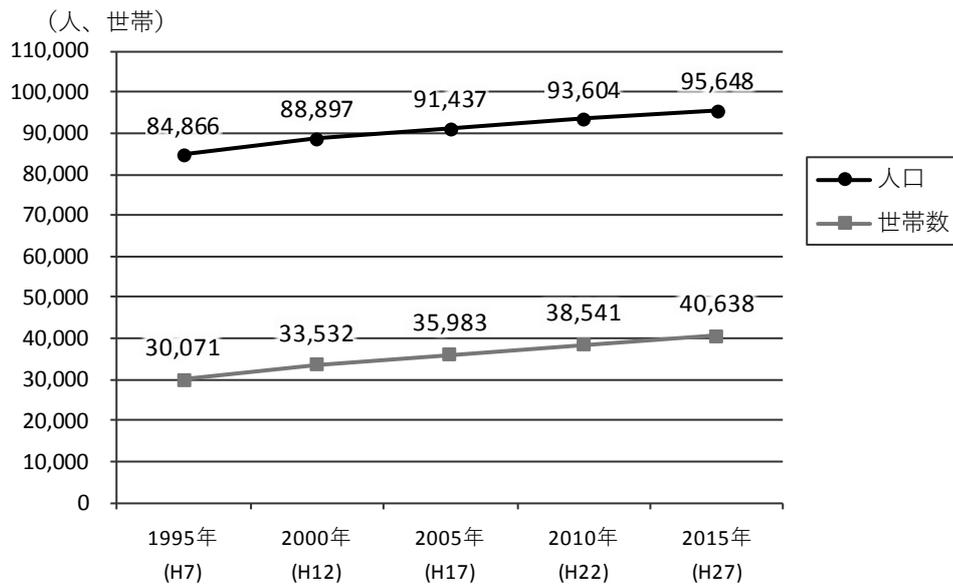
## 1-1. 人口、世帯数の推移

千歳市における人口の推移をみると、1995年（H7）の84,866人から、2015年（H27）の95,648人と増加傾向がみられ、20年間で10,782人増加しています。

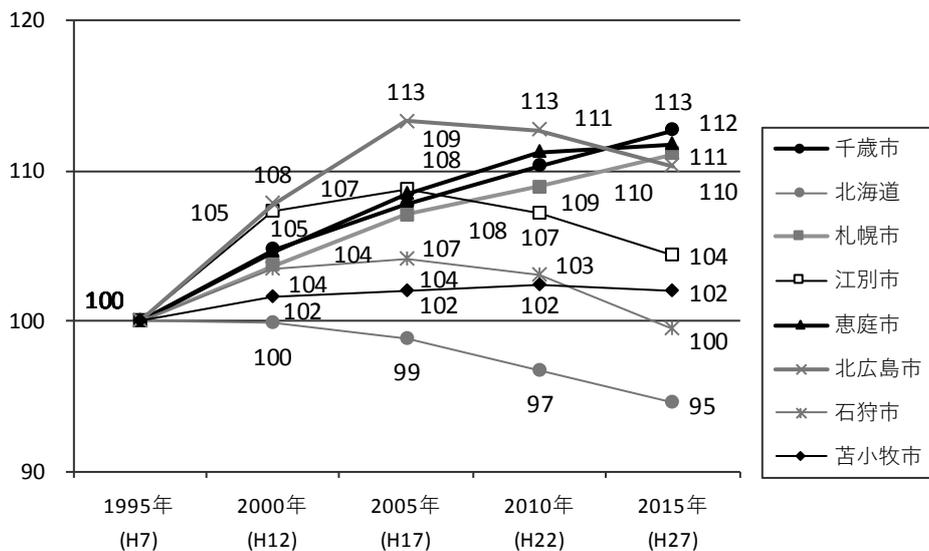
また、世帯数の推移をみると、1995年（H7）の30,071世帯から、2015年（H27）の40,638世帯と人口同様に増加傾向がみられ、20年間で10,567世帯が増加しています。

人口増減指数を北海道及び近郊都市と比較すると、北海道全体が減少するなか、千歳市、恵庭市、札幌市は増加しています。

### 人口、世帯数の推移【国勢調査】

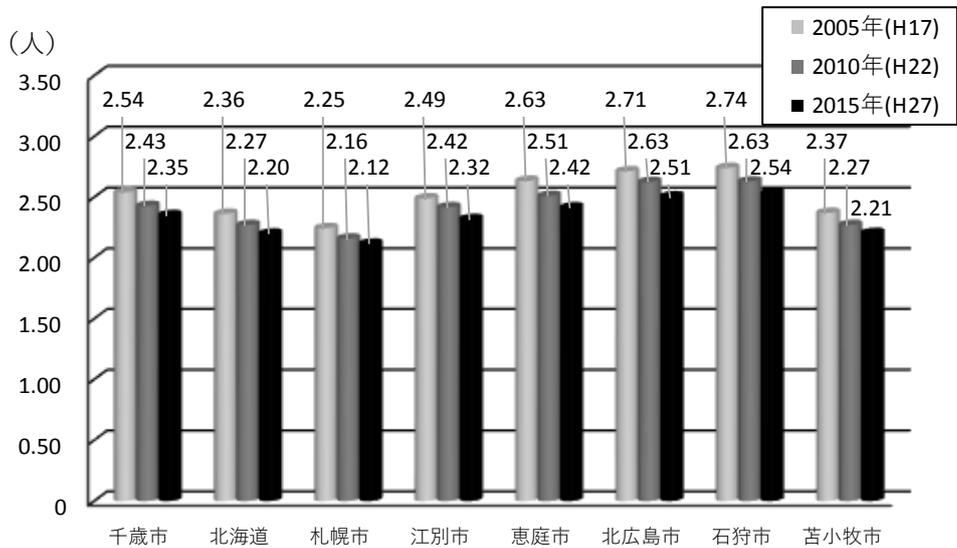
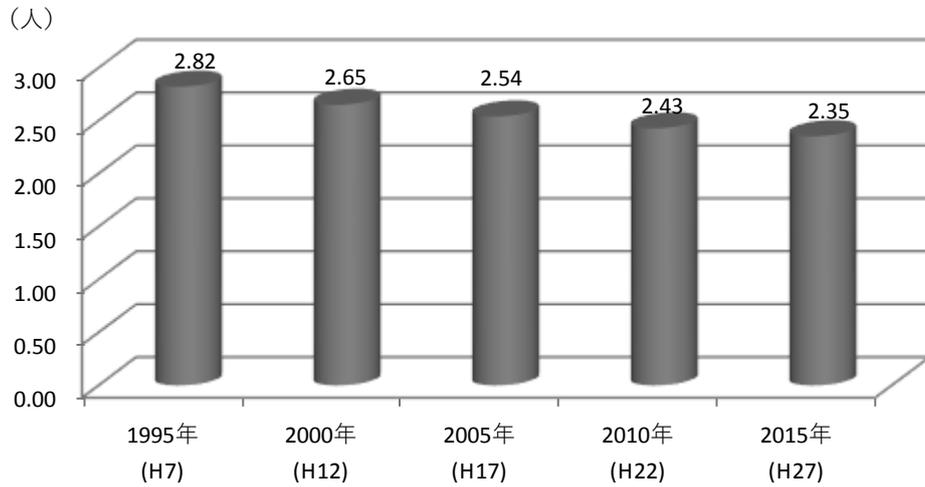


### 人口増減指数（道内比較）（1995年 = 100）【国勢調査】

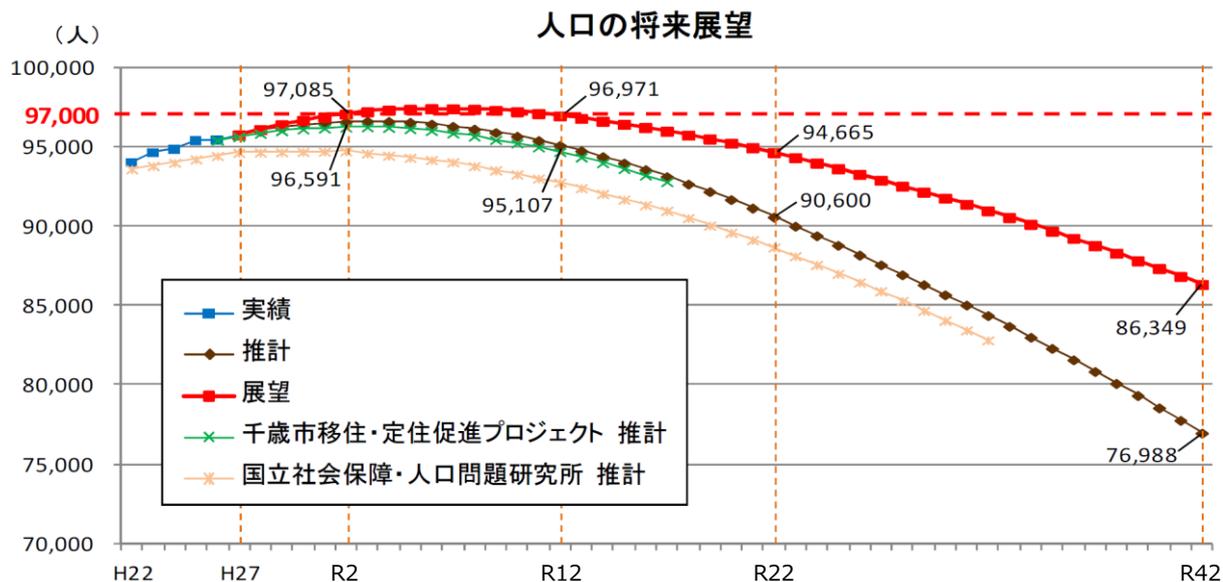


千歳市における1世帯あたりの人員の推移をみると、1995年(H7)の2.82人から、2015年(H27)には2.35人と大幅に減少しています。北海道及び近郊都市と2015年(H27)の数値で比較すると、いずれも減少傾向にあり、千歳市は北海道平均や札幌市、江別市、苫小牧市を上回っていますが、恵庭市、北広島市、石狩市を下回っています。

### 1世帯あたりの人員の推移【国勢調査】



千歳市では、「千歳市第6期総合計画」で設定した令和2年度の目標人口95,000人を早期に達成したことから、目標人口を97,000人に上方修正するとともに、出生率の向上や転入超過数の増加などに積極的に取り組み、平成30年4月には、目標としていた人口97,000人を約2年前倒しで達成しました。



■**展望**：「推計」に加え、合計特殊出生率が、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や北海道の「北海道人口ビジョン」と同様、令和12年に1.8、令和22年に2.07まで向上し、毎年の転入超過数150人が継続されるものとしています。

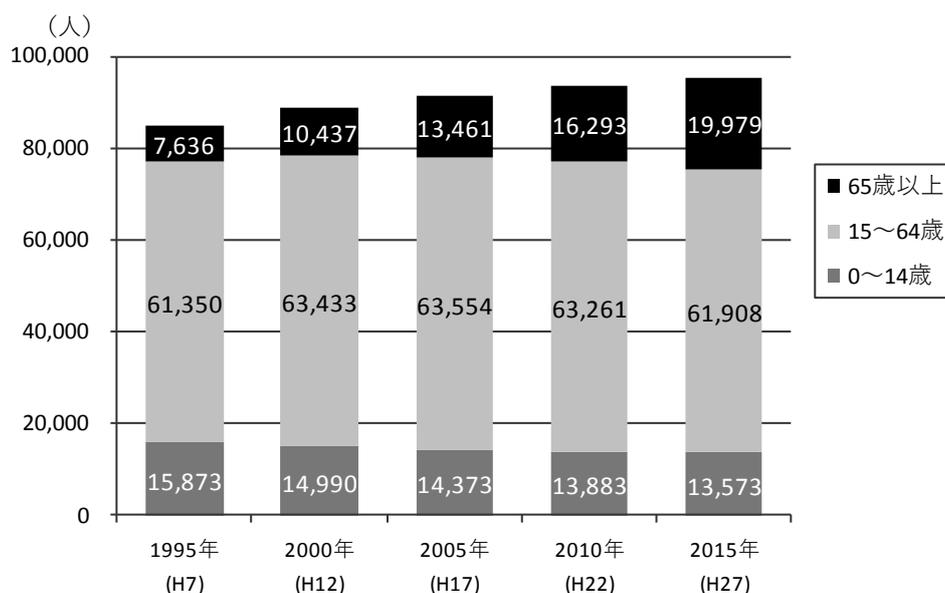
資料：千歳市人口ビジョン・総合戦略〔総合戦略改訂版〕（平成29年3月改訂）

## 1-2. 年齢3区分別人口の推移

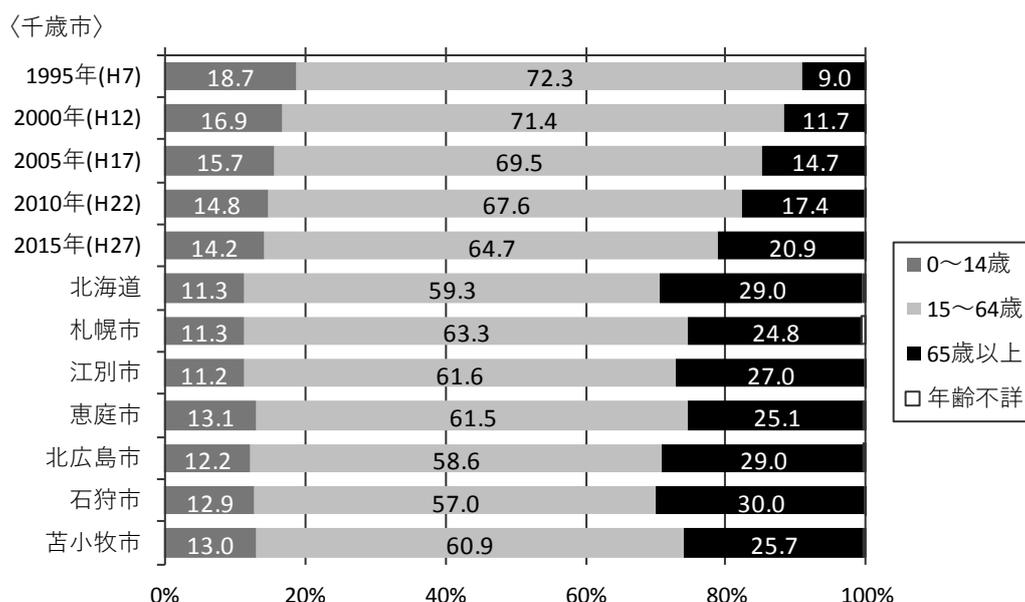
千歳市における年齢3区分別の人口の推移をみると、0～14歳人口は1995年（H7）の15,873人（18.7%）から2015年（H27）で13,573人（14.2%）と減少しています。一方で、65歳以上人口は1995年（H7）の7,636人（9.0%）から2015年（H27）で19,979人（20.9%）と増加しており、少子高齢化が進んでいます。

年齢3区分別人口の構成比を北海道及び近郊都市と比較すると、千歳市は0～14歳人口の構成比が最も高く、65歳以上人口の構成比が最も低いことから、少子高齢化が進みながらも、他の自治体に比べて若い年代構成となっています。

年齢3区分別人口の推移【国勢調査】



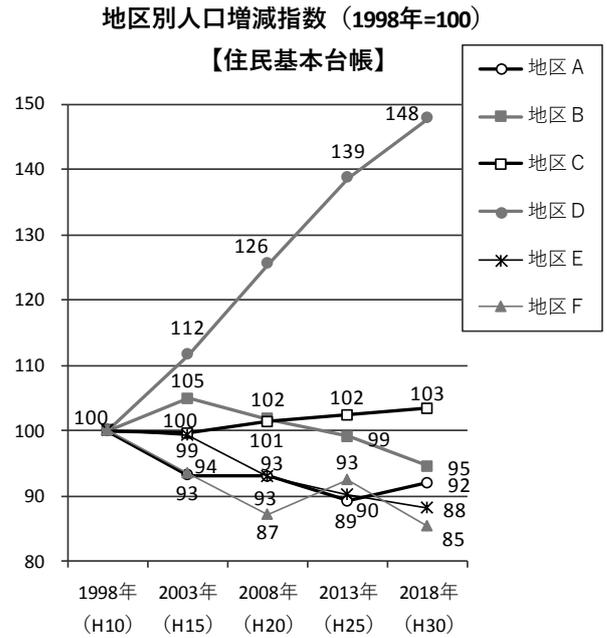
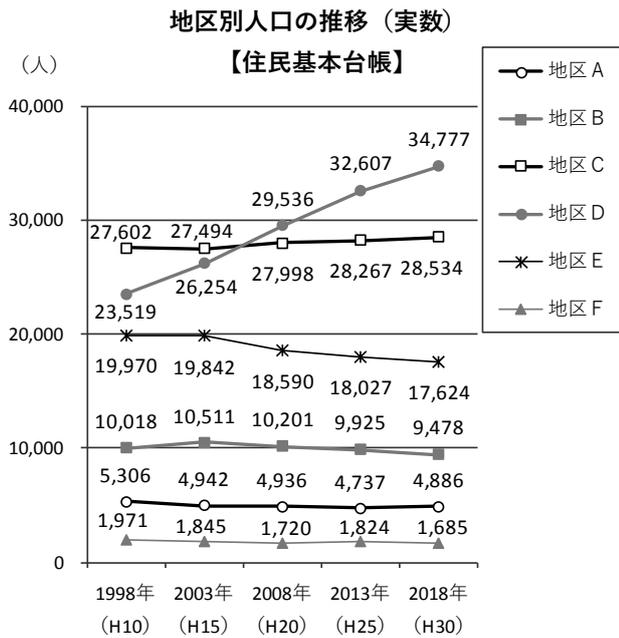
年齢3区分別人口構成比の推移と道内比較【国勢調査】



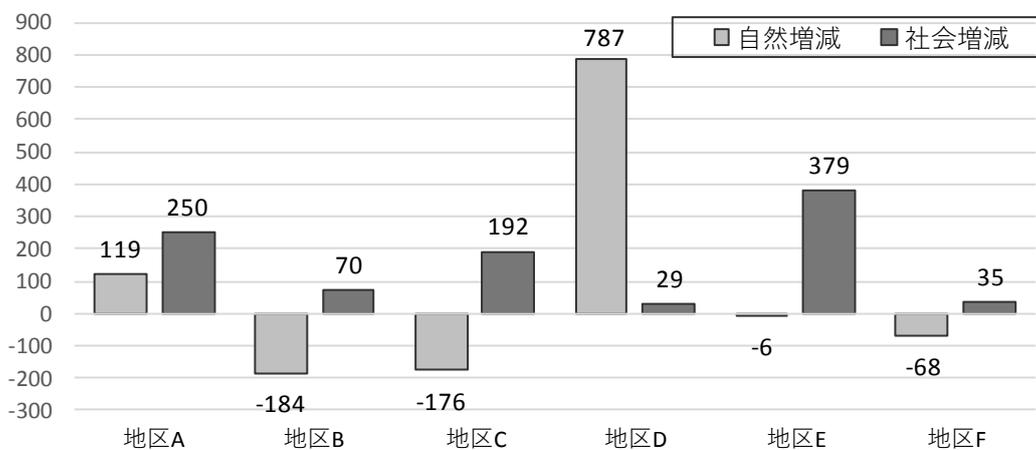
### 1-3. 地区別人口

地区別に1998年（H10）から2018年（H30）までの20年間の人口推移をみると、市街地北西部の地区Dが大幅に増加しており、6地区の中で人口規模が最大となっています。20年間の増減率をみると、地区Dと地区Cが増加、他の4地区が減少を示しており、最も増加した地区Dは48%の増加、最も減少した地区Fは15%の減少となっています。

地区別に2015年（H27）から2018年（H30）の人口動態をみると、地区Dでは自然増が特に多くなっており、地区B、地区Cでは自然減が多くなっています。また、航空自衛隊がある地区A、陸上自衛隊がある地区C、地区Eでは社会増が多くなっています。（地区詳細は7ページ参照）



### 地区別の人口動態（2015年-2018年）【住民基本台帳】



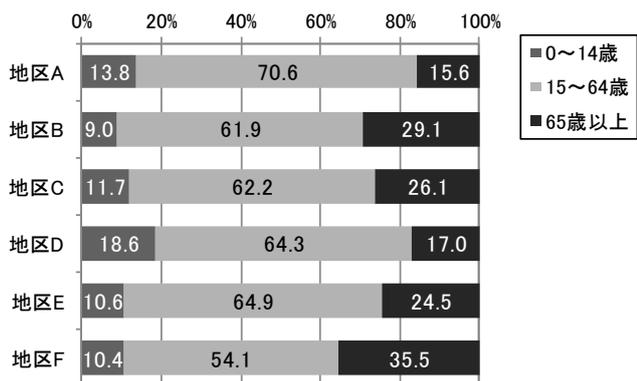
※各年1月から12月までの合計

千歳市の地区別年齢3区分別人口の2018年（H30）の構成比をみると、0～14歳人口の構成比が最も高いのは地区D、15～64歳人口の構成比が最も高いのは地区A、65歳以上人口の構成比が最も高いのは地区Fとなっています。

また、2008年（H20）と2018年（H30）の人口構成比を比較すると、特に地区Bで少子高齢化が進んでおり、高齢人口比率は10年間で2倍以上となっています。

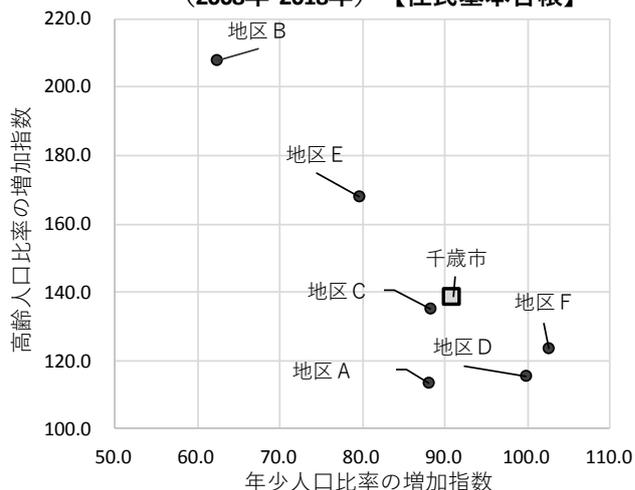
地区別・年齢3区分別人口構成比（2018年）

【住民基本台帳】

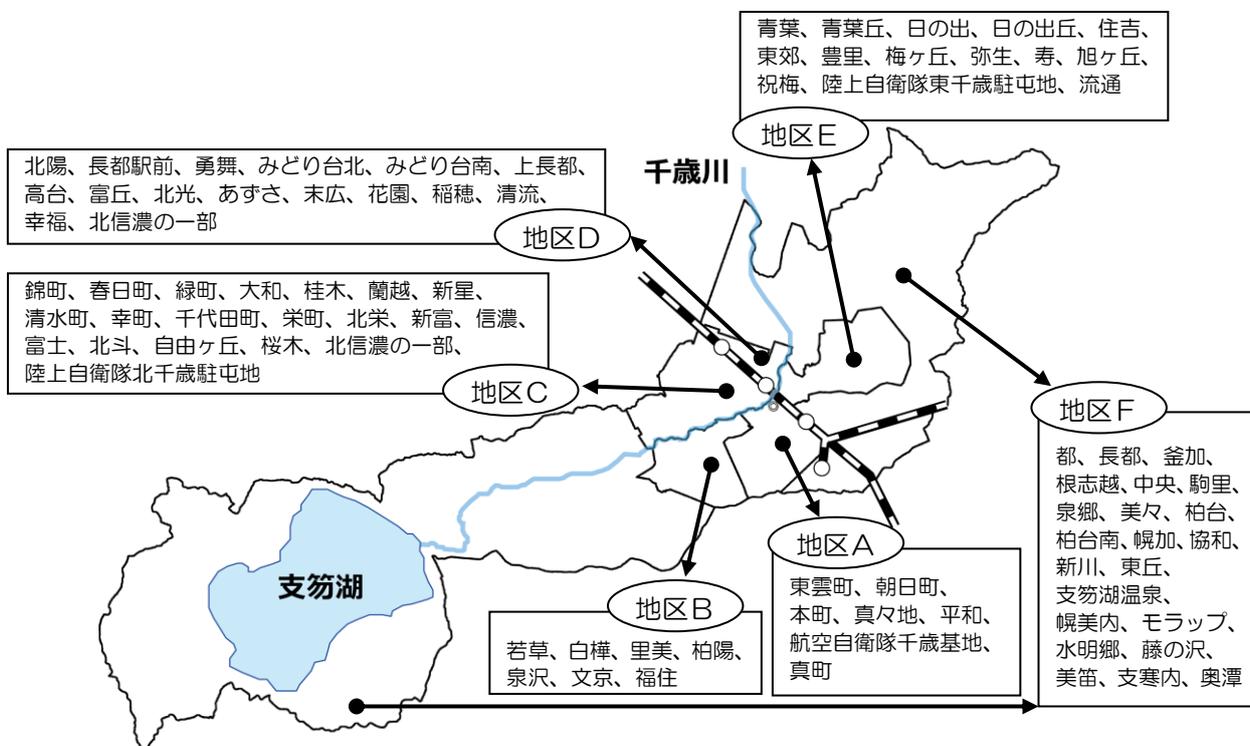


地区別の高齢人口・年少人口比率の増加指数

（2008年-2018年）【住民基本台帳】



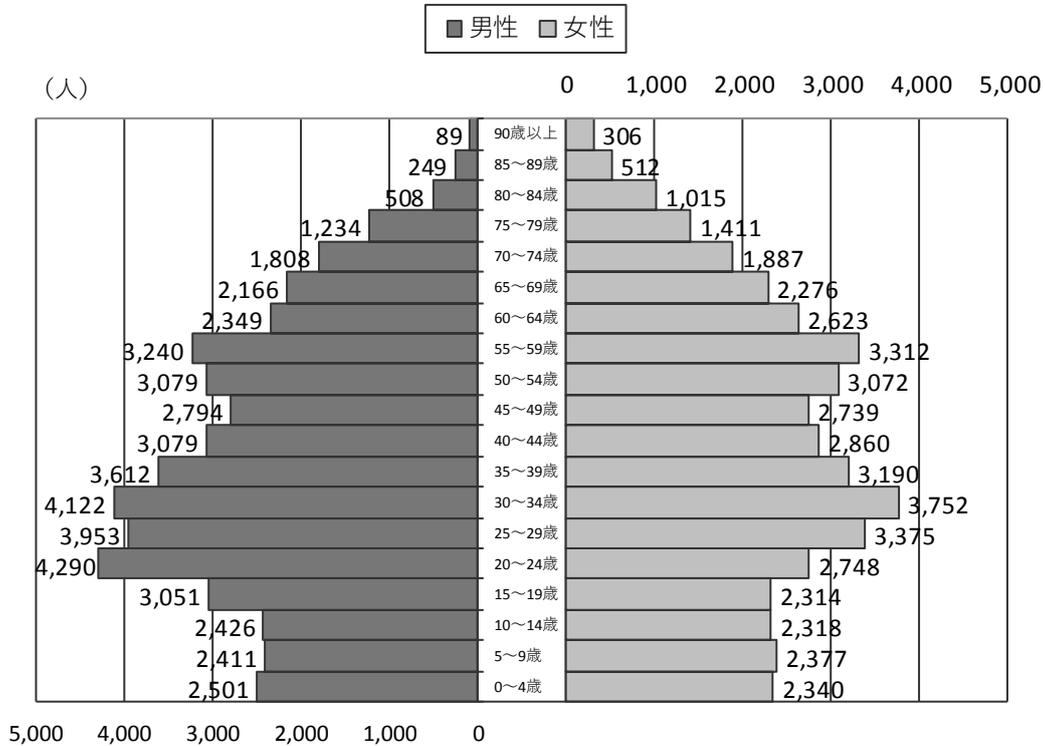
【地区詳細】



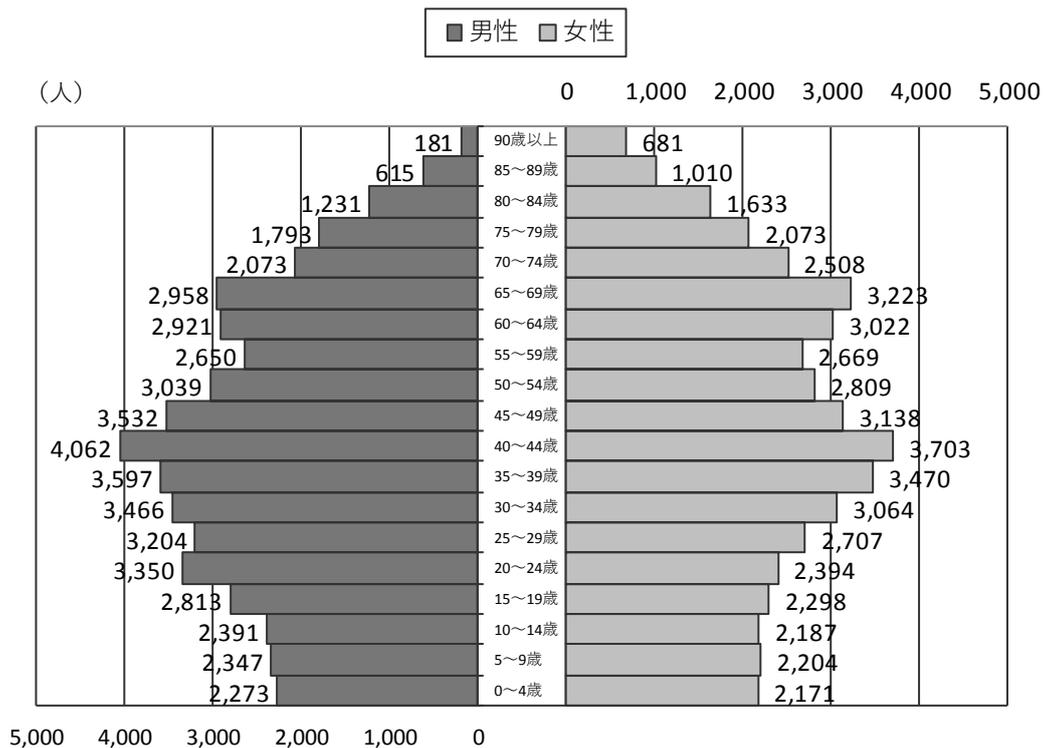
### 1-4. 男女別・年齢5歳階級別人口の状況

千歳市の男女別・年齢5歳階級別人口の状況をみると、2005年（H17）では20～34歳が多くなっているのに対し、2015（H27）では35～49歳が多くなっており、年齢構成の変化がみられます。

2005年(H17)人口ピラミッド【国勢調査】



2015年(H27)人口ピラミッド【国勢調査】

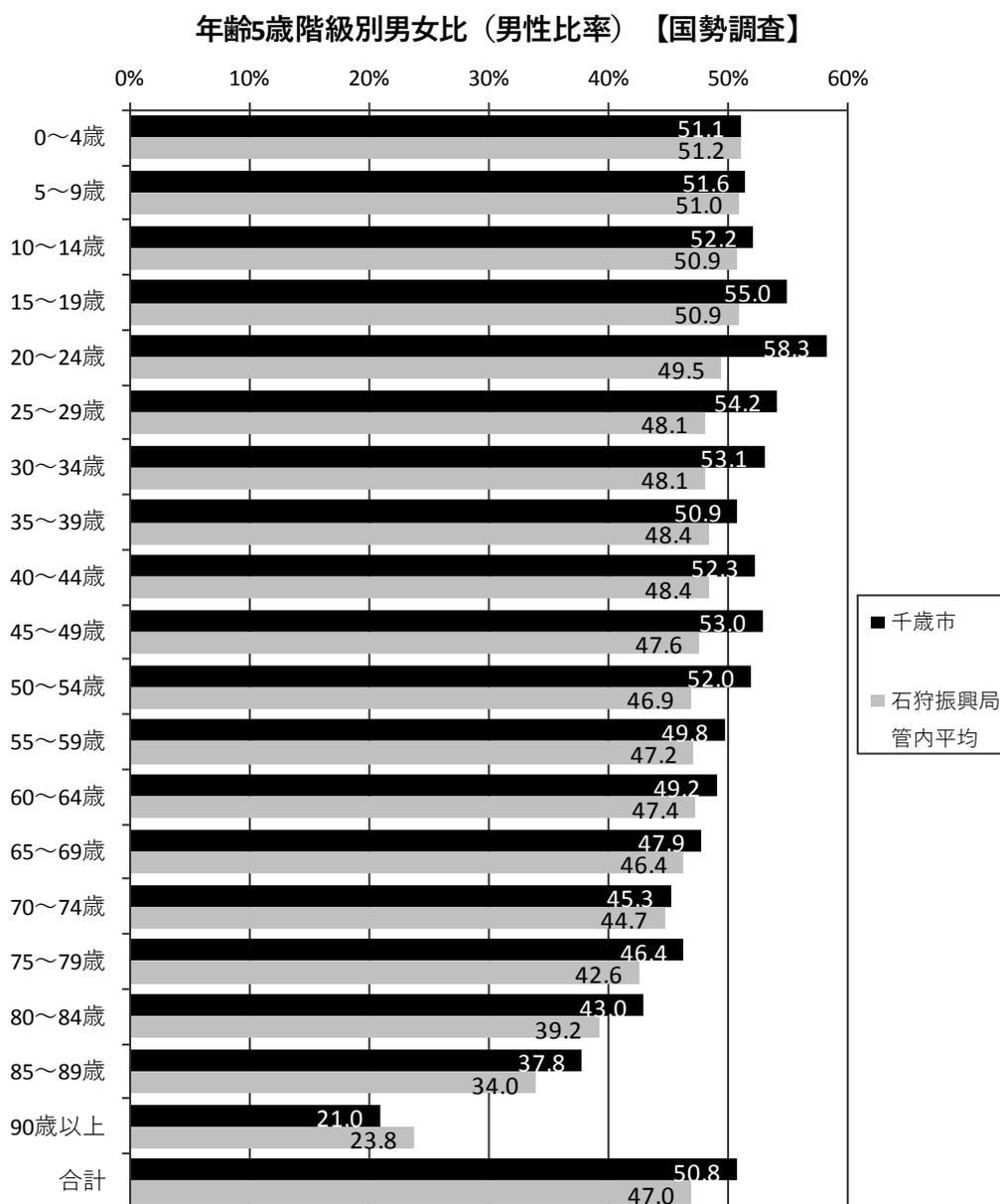


## 1-5. 年齢5歳階級別男女比

2015年（H27）の千歳市における男女比は、総人口では男性が50.8%、女性が49.2%と、男性が女性を上回り、石狩振興局管内平均（札幌市を含む）の男性47.0%、女性53.0%と比較しても男性比率が高くなっています。

男女比を5歳階級別にみると、男性比率は20～24歳が最も高く58.3%を占め、以下、15～19歳の55.0%、25～29歳の54.2%の順となっています。54歳以下の各階級で男性が女性を上回る一方で、55歳以上の各階級は女性が男性を上回っています。

なお、石狩振興局管内平均と比較すると、0～4歳と90歳以上を除いた階級で、千歳市の男性比率が上回っています。

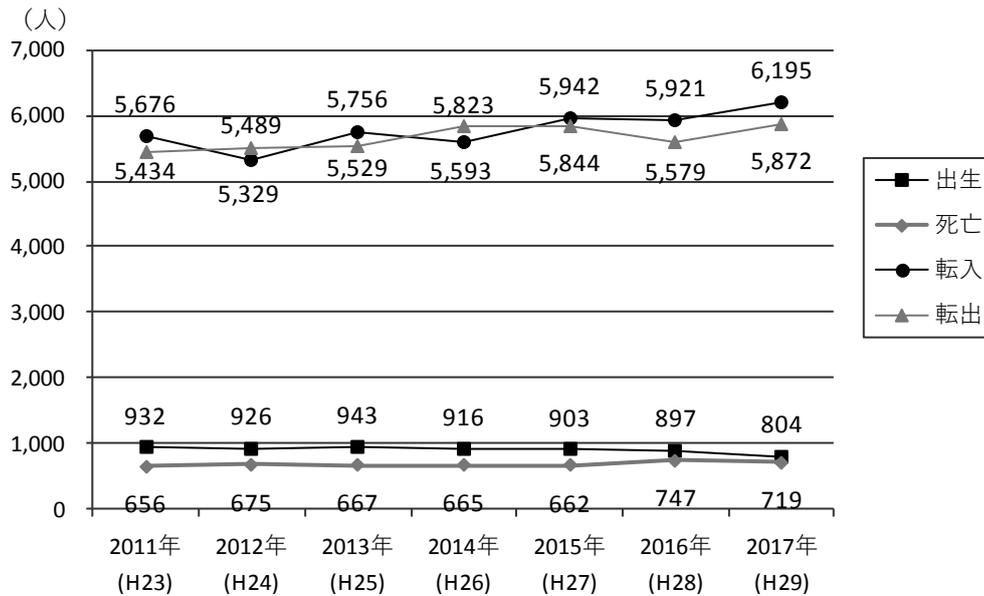


## 1-6. 人口動態の状況

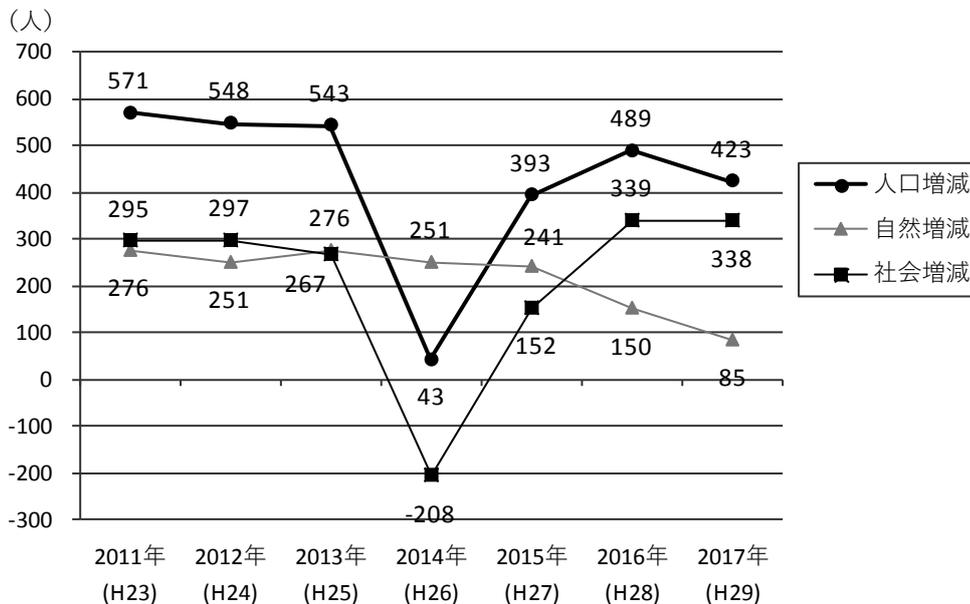
千歳市における自然動態（出生・死亡）の状況をみると、近年は出生者数が減少傾向にある一方で死亡者数は増加しているため、人口の自然動態は2011年（H23）の276人から2017年（H29）には85人へと減少しています。

また、社会動態（転入・転出）の状況をみると、2015年（H27）以降は転入が転出を上回っています。

### 出生・死亡、転出・転入者数の推移【住民基本台帳】



### 人口動態の推移【住民基本台帳】



※各年1月から12月までの合計。

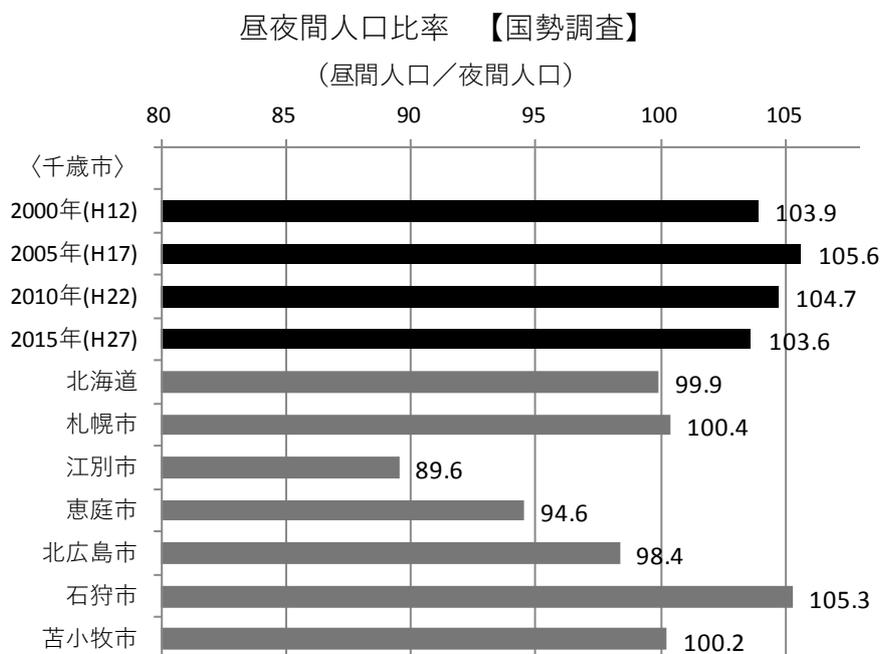
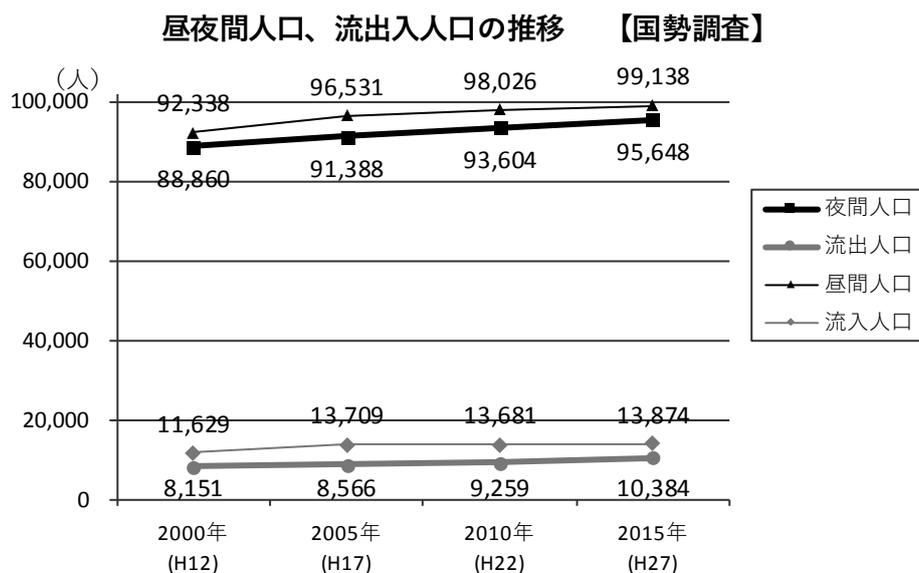
※社会増減には、「転入」「転出」のほか、「その他」による増減分を含む。

## 1-7. 昼夜間人口

千歳市の2015年（H27）の昼夜間人口は、夜間が95,648人に対して、昼間人口は99,138人と上回っています。

昼夜間人口比率（夜間人口に対する昼間人口の比率）は、2005年（H17）の105.6から2015年（H27）には103.6へと減少傾向がみられます。

近隣都市の昼夜間人口比率を近郊都市と比較すると、札幌市、石狩市、苫小牧市が100を超え、昼間人口が多くなっているのに対し、江別市、恵庭市、北広島市は夜間人口が多くなっています。千歳市は、近隣都市の中で石狩市に次いで昼夜間人口の比率が高くなっています。



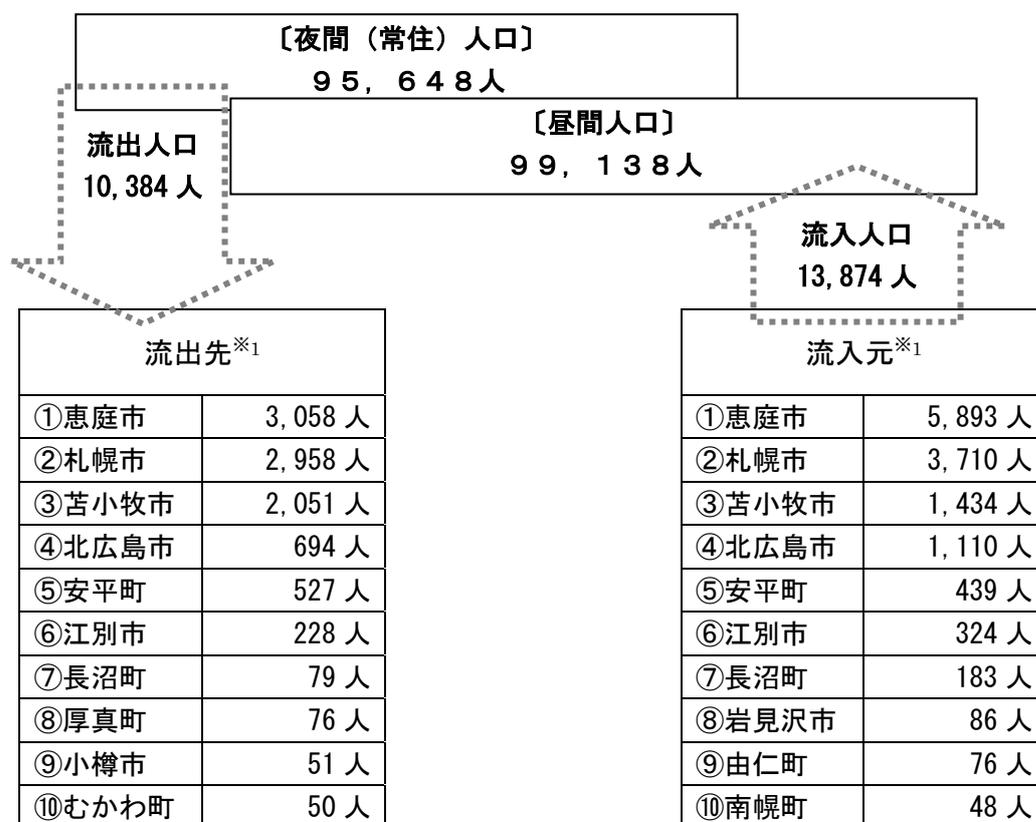
## 1-8. 市外との流出入状況

2015年（H27）における千歳市と市外との流出入状況を見ると、流入人口13,874人に対し、流出人口は10,384人で3,490人の流入超過となっています。

千歳市から市外への流出人口の内訳をみると、恵庭市が3,058人で最も多く、次いで札幌市が2,958人、苫小牧市が2,051人、北広島市が694人、安平町が527人となっています。

一方で、市外から千歳市への流入人口の内訳は、恵庭市が5,893人で最も多く、次いで札幌市が3,710人、苫小牧市が1,434人、北広島市が1,110人、安平町が439人となっており、苫小牧市、安平町、厚真町を除いた市町村が千歳市への流入超過となっています。

通勤・通学による市町村移動の状況【国勢調査】（2015年）



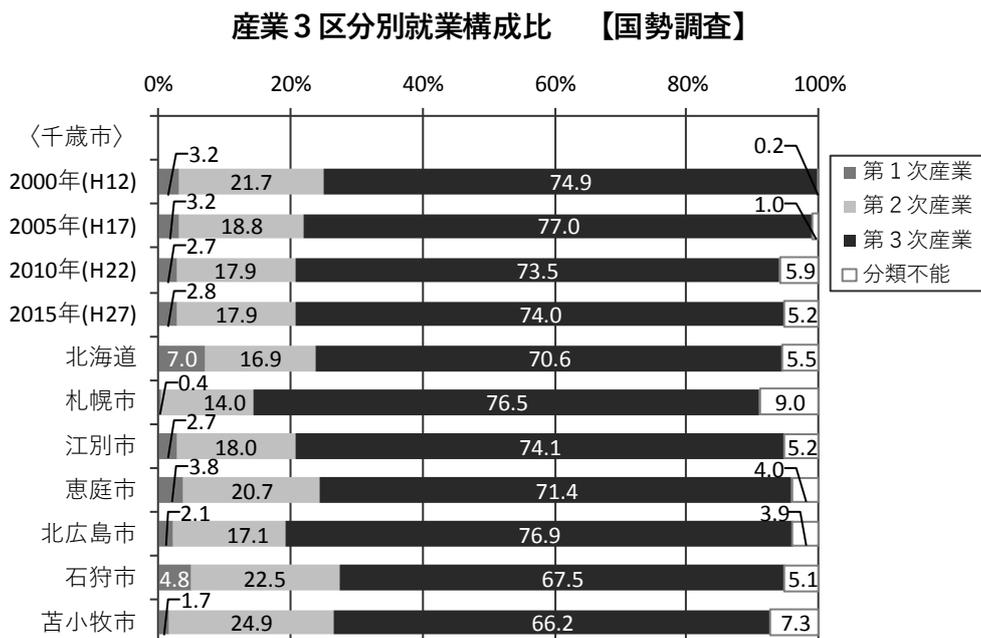
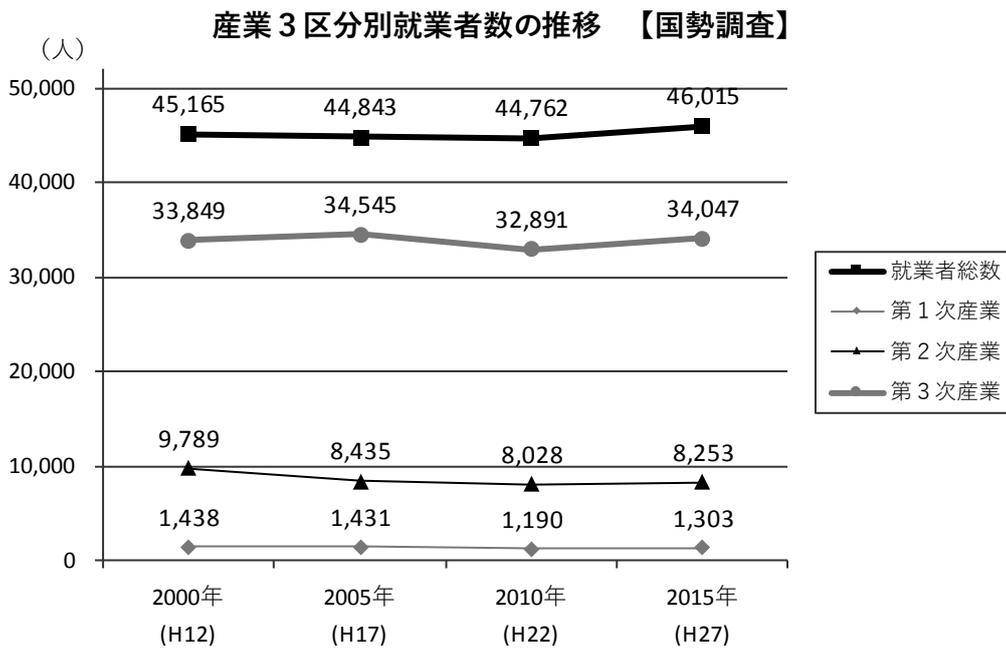
※1：流出先、流出元の内訳は上位10市町村を抜粋して記載しているため、これら合計と流出・流入人口総数は一致しません。

## 1-9. 産業別就業構成

千歳市の15歳以上の就業者数の推移をみると、2000年（H12）～2010年（H22）に減少していた就業者総数が、2015年（H27）年に増加に転じ、46,015人となっています。

産業3区分別の就業者数は、第3次産業が34,000人前後で推移する一方、第1次産業、第2次産業は2000年（H12）から2010年（H22）まで減少傾向にありましたが、2015年（H27）年に増加に転じています。

また、産業3区分別の就業構成比は、第3次産業が74.0%で最も高くなっており、第2次産業は18%前後、第1次産業は3%前後で推移しています。千歳市と北海道及び近郊都市と比較すると、第3次産業の構成比が北広島市、札幌市の次に高く、江別市と同程度となっています。

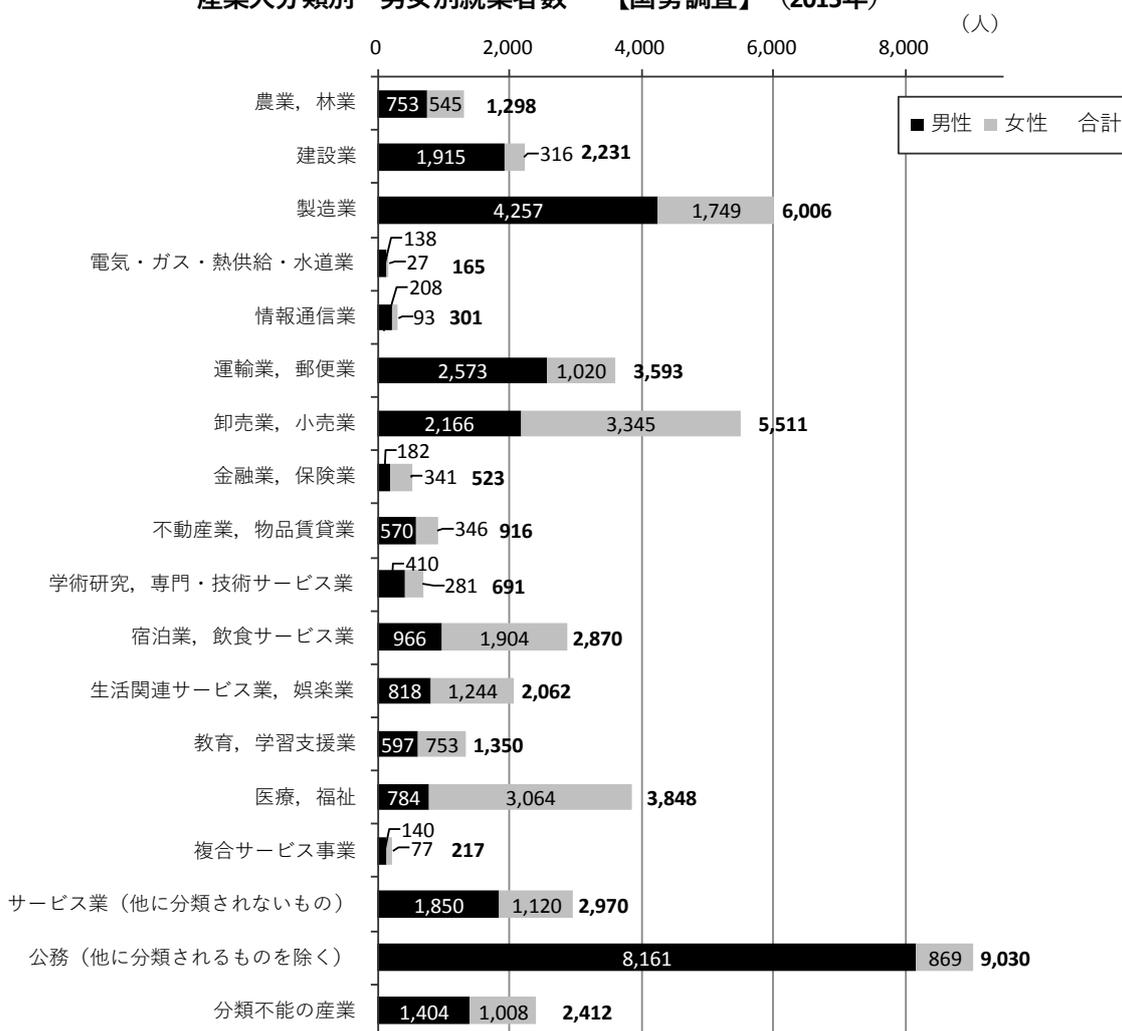


千歳市の産業大分類別の就業者数をみると、防衛省職員（自衛隊員）や一般行政職の公務員の多くが含まれる「公務（他に分類されるものを除く）」が9,030人で最も多く、次いで「製造業」「卸売業,小売業」「医療,福祉」となっています。「公務（他に分類されるものを除く）」は、全国や北海道と比較しても高い割合となっています。

男女別でみると、男性は「公務（他に分類されるものを除く）」が8,161人で最も多く、次いで「製造業」「運輸業,郵便業」となっています。また、「公務（他に分類されるものを除く）」は9割以上が男性となっているほか、「製造業」「運輸業,郵便業」「建設業」などは、女性に比べて男性就業者が多くなっています。

女性は、「卸売業,小売業」の就業者が3,345人で最も多く、次いで「医療,福祉」「宿泊業,飲食サービス業」となっており、いずれも男性に比べて女性就業者が多くなっています。特に「医療,福祉」は就業者の約8割が女性となっています。

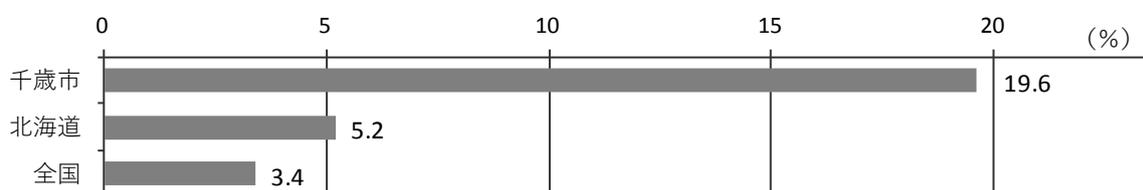
産業大分類別・男女別就業者数 【国勢調査】（2015年）



※就業者数が100人以下の漁業（5人）、鉱業、採石業、砂利採取業（16人）はグラフから除く

産業大分類別・男女別就業者比率 【国勢調査】（2015年）

公務（他に分類されるものを除く）



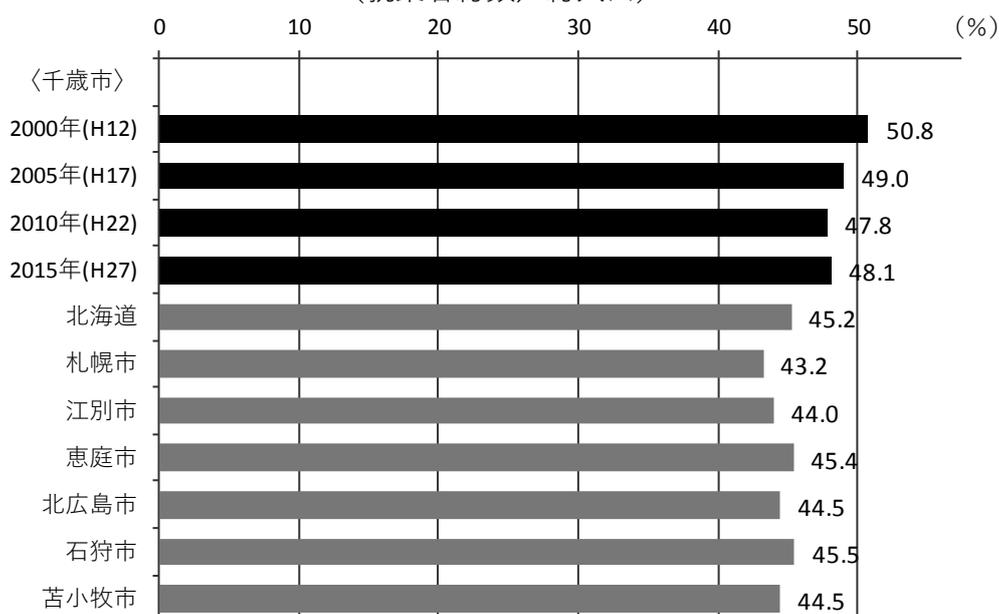
## 1-10. 就業者比率、年齢別就業状況

千歳市の就業者比率（総人口に対する就業人口の割合）は、2000年（H12）～2010年（H22）に減少していましたが、2015年（H27）には48.1%と増加に転じています。就業者比率を北海道及び近郊都市と比較すると、千歳市の比率が最も高く、次いで石狩市が45.5%となっています。

男女別の就業者比率（男女それぞれの総人口に対する就業者の割合）をみると、男性が57.4%、女性が38.5%と、男性が18.9ポイント上回っています。千歳市と北海道平均を比較すると、男性の就業者比率が北海道平均を4.3ポイント、女性は北海道平均を0.3ポイントそれぞれ上回っています。

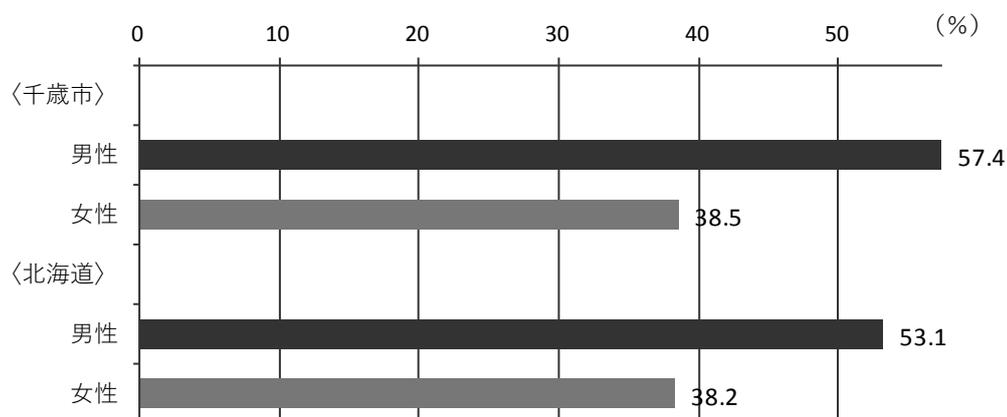
### 就業者比率 【国勢調査】

（就業者総数／総人口）



### 男女別就業者比率 【国勢調査】（2015年）

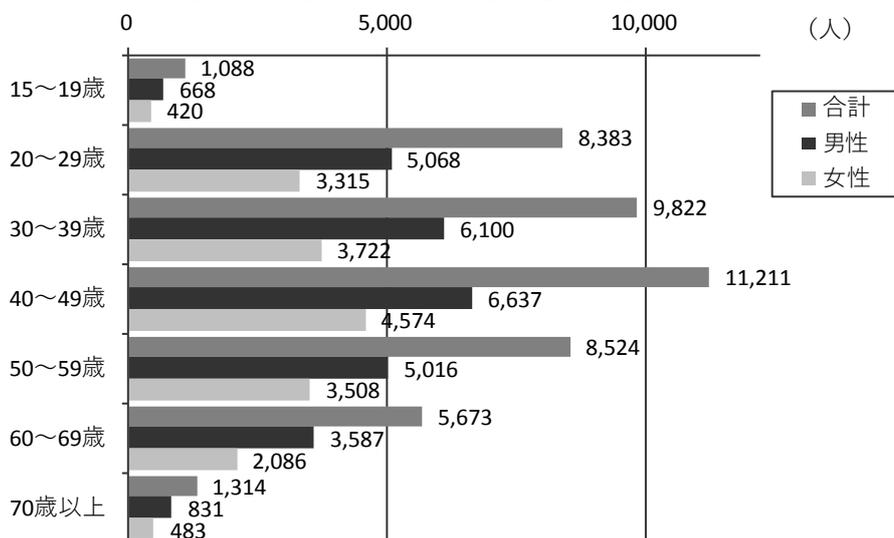
（男女別就業者総数／男女別総人口）



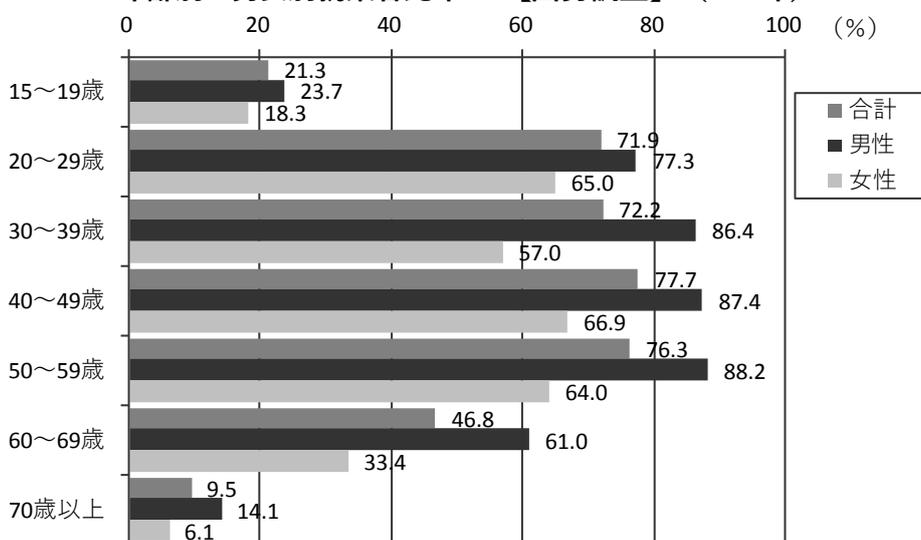
千歳市の就業者数を年齢別にみると、40歳代が11,211人で最も多く、次いで30歳代が9,822人、50歳代が8,524人となっています。

就業者比率を年齢別・性別にみると、男性は50歳代が最も高く88.2%、次いで40歳代が87.4%、30歳代が86.4%となっています。一方、女性は40歳代が66.9%で最も高く、次いで20歳代が65.0%、50歳代が64.0%となっています。

年齢別・男女別就業者数 【国勢調査】 (2015年)



年齢別・男女別就業者比率 【国勢調査】 (2015年)

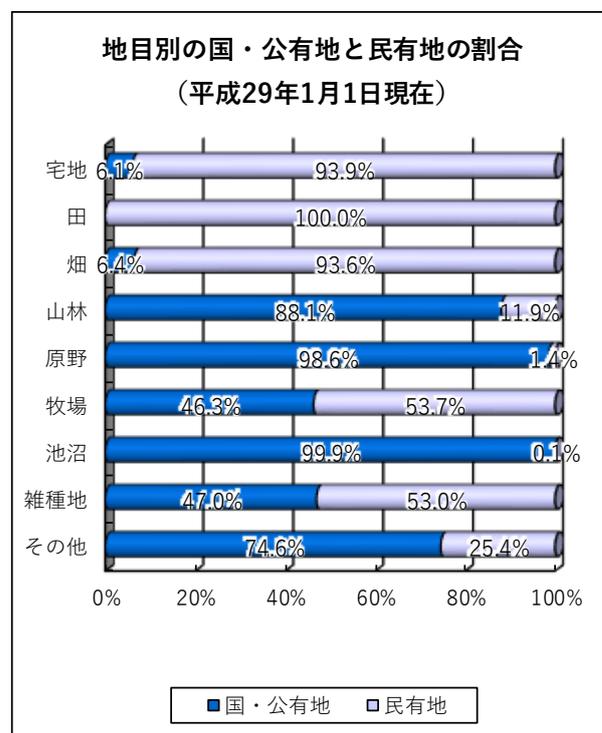
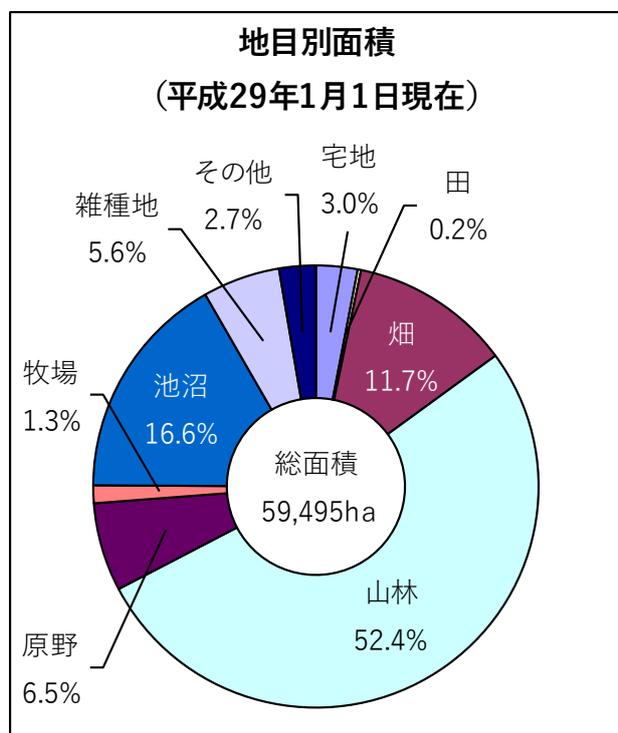


## 1-11. 土地利用

千歳市の地目別面積の構成比をみると、山林が 52.4%を占めており最も高く、次いで池沼が 16.6%、畑が 11.7%となっており、その他は 10%未満となっています。

また、地目別の国・公有地と民有地の構成比をみると、山林、原野、池沼は国・公有地の占める割合が高く、宅地、田、畑は民有地の占める割合が高くなっています。

地目別	面積 (ha)			全体の構成比 (%)			地目別の構成比 (%)	
	総数	国 公有地	民有地	総数	国 公有地	民有地	国 公有地	民有地
総数	59,450	44,801	14,649	100.0	75.4	24.6		
宅地	1,791	109	1,682	3.0	0.2	2.8	6.1	93.9
田	148	—	148	0.2	—	0.2	—	100.0
畑	6,937	447	6,490	11.7	0.8	10.9	6.4	93.6
山林	31,196	27,491	3,705	52.4	46.2	6.2	88.1	11.9
原野	3,842	3,789	53	6.5	6.4	0.1	98.6	1.4
牧場	725	336	389	1.3	0.6	0.7	46.3	53.7
池沼	9,892	9,881	11	16.6	16.6	0.0	99.9	0.1
雑種地	3,339	1,569	1,770	5.6	2.6	3.0	47.0	53.0
その他	1,580	1,179	401	2.7	2.0	0.7	74.8	25.4



資料：要覧ちとせ 平成30年版

## 1-12. 都市計画

千歳市の都市計画区域は、約 27,570ha となっています。

また、千歳市では、都市計画法で定める 13 種類の用途地域のうち 12 種類が指定されており、第一種低層住居専用地域、工業専用地域、準工業地域の割合が高くなっています。

告示年月日	面積	備考
昭和 13 年 10 月 13 日	約 59,436ha	行政区域全域
昭和 43 年 12 月 19 日	約 13,651ha	
昭和 45 年 11 月 30 日	約 16,600ha	
昭和 49 年 6 月 1 日	約 27,570ha	

資料：千歳市の都市計画（平成 27 年 3 月）

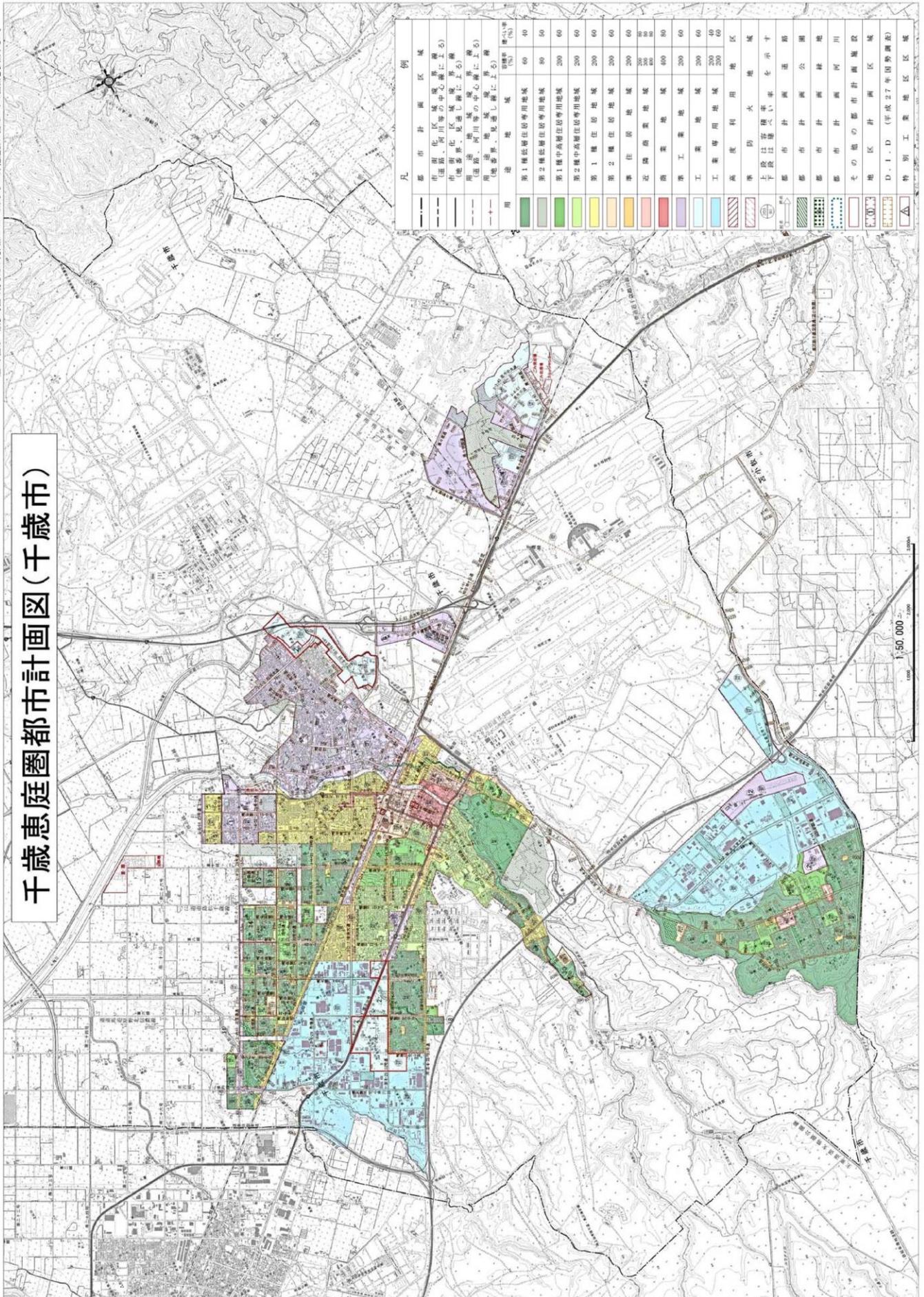
用途地域	面積		説明
第一種低層住居専用地域	772ha	23.9%	低層住宅の良好な環境を守るための地域。小規模な店舗や事務所を兼ねた住宅や小中学校等が建てられる。
第二種低層住居専用地域	26ha	0.8%	主に低層住宅の良好な環境を守るための地域。小中学校等の他、150㎡までの一定の店舗等が建てられる。
第一種中高層住居専用地域	151ha	4.7%	中高層住宅の良好な環境を守るための地域。病院、大学、500㎡までの一定の店舗等が建てられる。
第二種中高層住居専用地域	224ha	6.9%	主に中高層住宅の良好な環境を守るための地域。病院、大学等の他、1,500㎡までの一定の店舗や事務所等が建てられる。
第一種住居地域	268ha	8.3%	住居の環境を守るための地域。3,000㎡までの店舗、事務所、ホテル等が建てられる。
第二種住居地域	30ha	0.9%	主に住居の環境を守るための地域。事務所、ホテル、パチンコ屋、カラオケボックス等の他、10,000㎡までの店舗等が建てられる。
準住居地域	37ha	1.1%	道路の沿道において、自動車関連施設等の立地と、これと調和した住居の環境を保護するための地域。10,000㎡までの店舗等が建てられる。
近隣商業地域	72.6ha	2.3%	近隣の住民が日用品の買物をする店舗等の業務の利便の増進を図る地域。住宅や店舗の他に小規模な工場も建てられる。
商業地域	26ha	0.8%	銀行、映画館、飲食店、百貨店、事務所等の商業等の業務の利便の増進を図る地域。住宅や小規模な工業も建てられる。
準工業地域	602ha	18.7%	主に軽工業の工場等の環境悪化のおそれのない工業の業務の利便を図る地域。危険性、環境悪化が大きい工場の他は、ほとんど建てられる。
工業地域	216ha	6.7%	主として工場の業務の利便の増進を図る地域。どんな工場でも建てられる。また、住宅や 10,000㎡までの店舗等は建てられるが、学校、病院、ホテル等は建てられない。
工業専用地域	801ha	24.8%	専ら工業の業務の利便の増進を図る地域。どんな工場でも建てられるが、住宅、店舗、学校、病院、ホテル等は建てられない。
合計	3,225.6ha	100.0%	

用途地域最終変更年月日：平成 29 年 3 月 15 日

資料：北海道の都市計画（平成 30 年 3 月）

注 本図は一般参考図であるため、詳細についてはまちづくり推進課に掲載している図面を参照下さい。

# 千歳恵庭圏都市計画図(千歳市)



凡	例	用途地域	容積率(%)
—	都市計画区域	第一種低層住居専用地域	40
—	市街化区域	第二種低層住居専用地域	60
—	市街化区域(河川等の中心地による)	第三種低層住居専用地域	80
—	市街化区域(河川等の中心地による)	第一種中高層住居専用地域	200
—	市街化区域(河川等の中心地による)	第二種中高層住居専用地域	300
—	市街化区域(河川等の中心地による)	第一種住居地域	200
—	市街化区域(河川等の中心地による)	第二種住居地域	200
—	市街化区域(河川等の中心地による)	近隣商業地域	200
—	市街化区域(河川等の中心地による)	商業地域	400
—	市街化区域(河川等の中心地による)	準工業地域	200
—	市街化区域(河川等の中心地による)	工業地域	200
—	市街化区域(河川等の中心地による)	工業専用地域	200
—	市街化区域(河川等の中心地による)	高度利用地域	60
—	市街化区域(河川等の中心地による)	準防火地域	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	上段は容積率、下段は建ぺい率を示す	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	都市計画道路	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	都市計画公園	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	都市計画緑地	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	都市計画河川	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	その他の都市計画施設	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	地区計画区域	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	D.I.D (平成27年国勢調査)	—
—	市街化区域(河川等の中心地による)	特別工業地区	—

平成三十年四月 作成

千歳市役所

### 1-13. 都市計画マスタープラン

千歳市第2期計画マスタープラン（平成24年3月）では、将来都市像である「みんなで生き生き 活力創造都市 ちとせ」を実現するために、3つの視点から都市づくりの目標を定めています。

視点	都市づくりの目標	意図・ねらい
①住む・憩う	子どもからお年寄りまで 誰もが安心して快適に暮らせる 水と緑につつまれたコンパクトな都市づくり	少子高齢化、人口の鈍化を背景に、市街地の拡大基調を見直し、既存施設の持続的な活用・更新に努めるとともに、住み手である市民の立場にたって豊かな自然を享受し、災害に強く、通勤・通学・買い物など、生活しやすい都市づくりを目指します。
②働く・営む	空港機能と広域的な交通機能を生かした 効果的な産業集積による活力ある都市づくり	北海道の玄関口としてその機能を拡充させつつある新千歳空港を擁し、鉄道・道路などを含めた交通の要衝のまちとしてモノや人の行き来が盛んな工業・商業などの産業集積都市を目指します。 また、これまでの市街地の拡大基調を改め、都市全体のコンパクト化を基本としつつも、効果的な産業集積を図るため、地域活性化の要である空港周辺に新たな土地利用の可能性を検討していきます。
③集う・もてなす・交流する	魅力ある資源や交通利便性を生かした 賑わいとふれ合いあふれる都市づくり	交通の要衝である利点を生かし、市内での立ち寄り・交流を促すため、自然や農業を含めた魅力ある観光拠点の充実、市街地などの魅力的な空間づくりを目指します。 また、市民による地域資源の活用・発信及び人づくりを支える場の充実を目指します。

#### 【視点①】住む・憩う

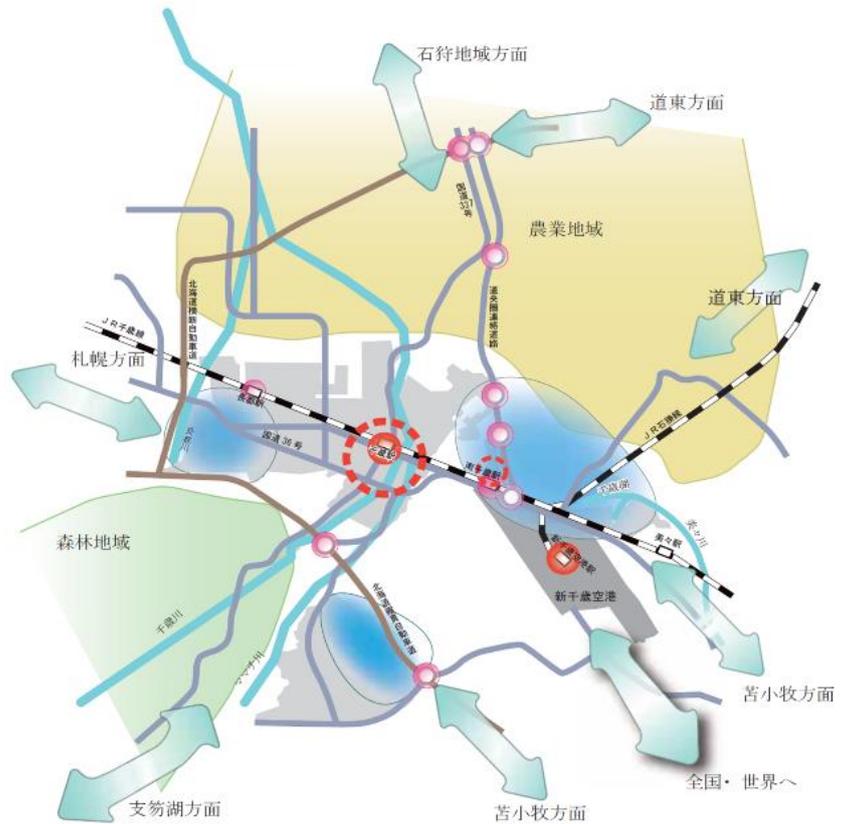
凡例	区分
○	生活機能集積拠点 行政、商業、娯楽、文化、福祉などの施設が集積する拠点
○	生活活動拠点 地域の日常生活を支える施設が集積する拠点
○	アメニティ交流拠点 自然豊かな環境を生かしたレクリエーション機能を有する拠点
●	主要な居住ゾーン 快適に暮らせる居住エリア
—	アメニティ環境軸 潤いと安らぎを与える豊かな河川空間



資料：千歳市第2期都市計画マスタープラン（平成24年3月）

## 【視点②】働く・営む

凡例	区分
	工業・業務集積ゾーン 工場や物流施設などが集積するエリア
	商業・業務集積ゾーン 商業、業務施設が集積し多様な事業活動が展開されるエリア
	人流・物流軸 広域的な交通ネットワークによる人やものの流れ
	交通結節点 主なJR駅、高速道路のインターチェンジなど
	交通結節拠点 多様な交通機能が結節する拠点



## 【視点③】集う・もてなす・交流する

凡例	区分
	市街地交流ゾーン 多くの人が集い交流するエリア
	おもてなし・交流支援拠点 市民や観光客などの回遊や滞在を促す拠点
	おもてなし・交流ネットワーク 広域的な交通ネットワークによる人やものの流れ
	人の立ち寄り・回遊の流れ
	農との交流ゾーン 市街地北東部の農業地域
	支笏湖・森林交流ゾーン 観光地である支笏湖を含む森林地域
	アメニティ環境軸 潤いと安らぎを与える豊かな河川空間
	人材交流拠点 千歳科学技術大学



資料：千歳市第2期都市計画マスタープラン（平成24年3月）

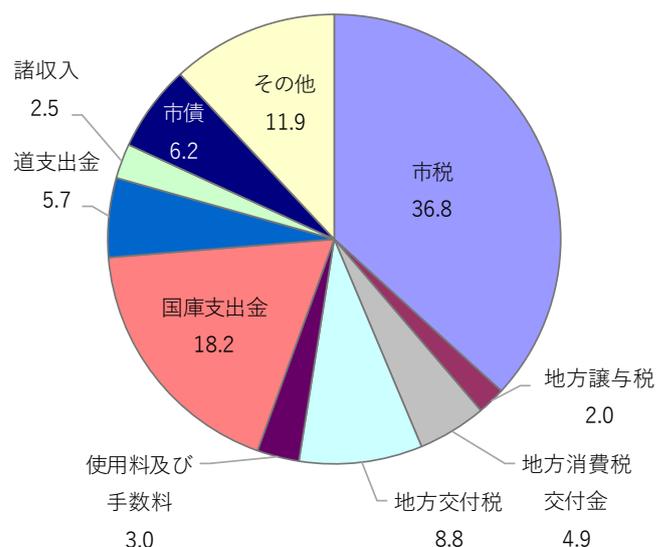
## 1-14. 歳入と歳出

千歳市の平成29年度普通会計※2決算において、歳入は404億5,359万2千円で、前年度の381億6,492万6千円と比較すると、22億8,866万6千円(6.0%)増加しました。内訳をみると、市税が36.8%で最も高く、次いで国庫支出金、その他となっています。

歳出は、403億7,923万8千円で、前年度の376億9,140万7千円と比較すると、26億8,783万1千円(7.1%)増加しました。内訳をみると、民生費が32.6%で最も高く、次いで総務費、土木費、教育費となっています。

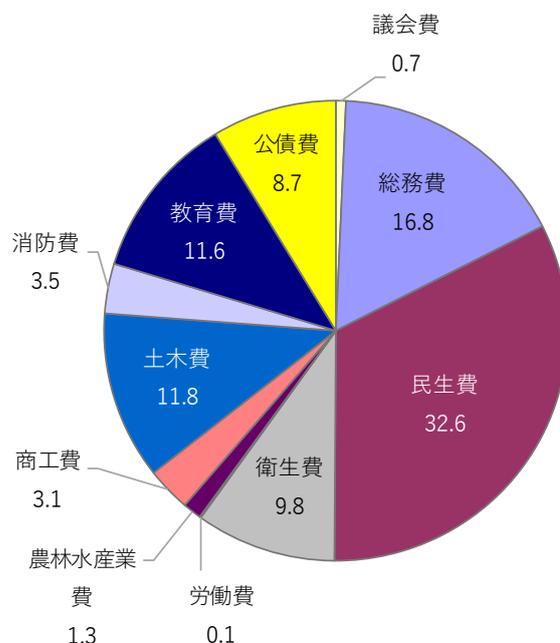
### 平成29年度歳入:40,453,592千円(前年度:38,164,926千円)

区 分	決算額	比率 (%)
市税	14,893,642	36.8
地方譲与税	823,357	2.0
地方消費税交付金	1,979,955	4.9
地方交付税	3,561,590	8.8
使用料及び手数料	1,217,449	3.0
国庫支出金	7,351,040	18.2
道支出金	2,302,706	5.7
諸収入	1,012,648	2.5
市債	2,485,581	6.2
その他	4,825,624	11.9



### 平成29年度歳出:40,379,238千円(前年度 37,691,407千円)

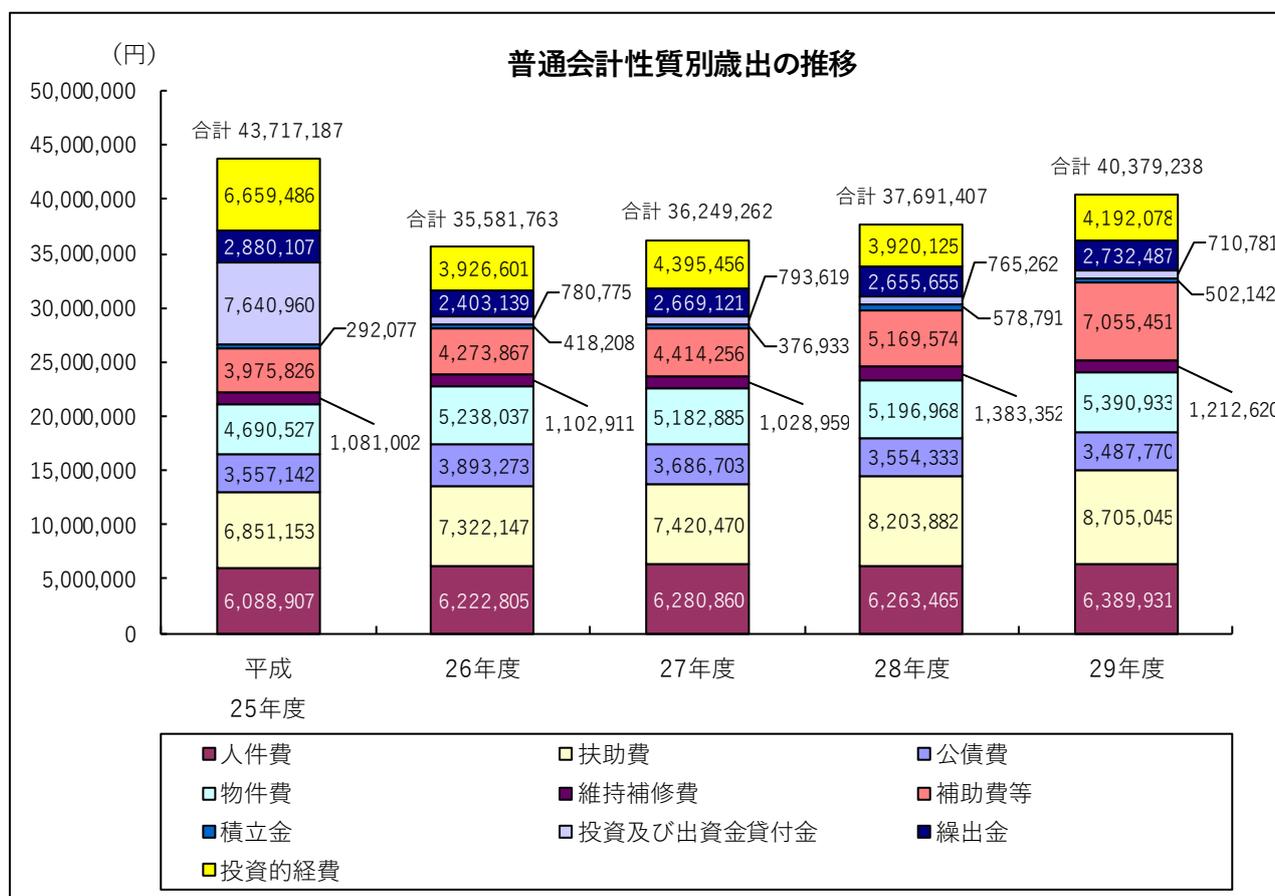
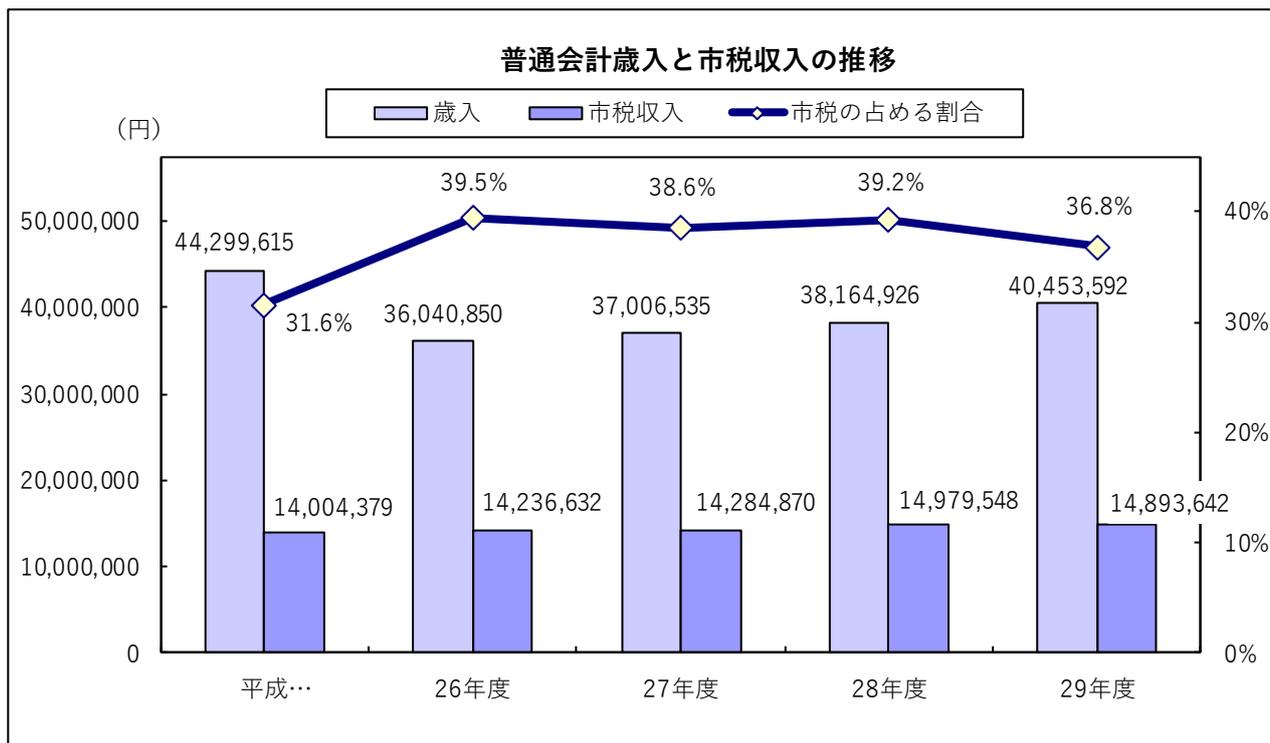
区 分	決算額	比率 (%)
議会費	293,510	0.7
総務費	6,785,911	16.8
民生費	13,169,992	32.6
衛生費	3,952,161	9.8
労働費	48,768	0.1
農林水産業費	528,713	1.3
商工費	1,236,939	3.1
土木費	4,767,952	11.8
消防費	1,418,931	3.5
教育費	4,688,104	11.6
公債費	3,488,257	8.7



資料：平成29年度財政に関する資料（千歳市）

※2：総務省の定める会計区分のひとつで、一般会計、特別会計など各会計で経理する事業の範囲が自治体ごとに異なっているため、統一的な基準で整理して比較できるようにした統計上の会計区分  
普通会計歳入における市税収入の占める割合の推移をみると、平成26年度以降は約4割で推移しています。

普通会計性質別歳出の推移をみると、人件費、扶助費、物件費、補助費、繰出金は増加傾向がみられ、公債費、投資及び出資金貸付金は減少傾向がみられます。

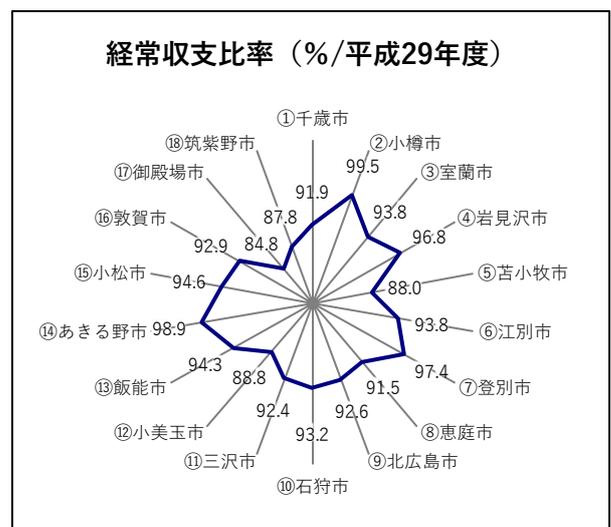
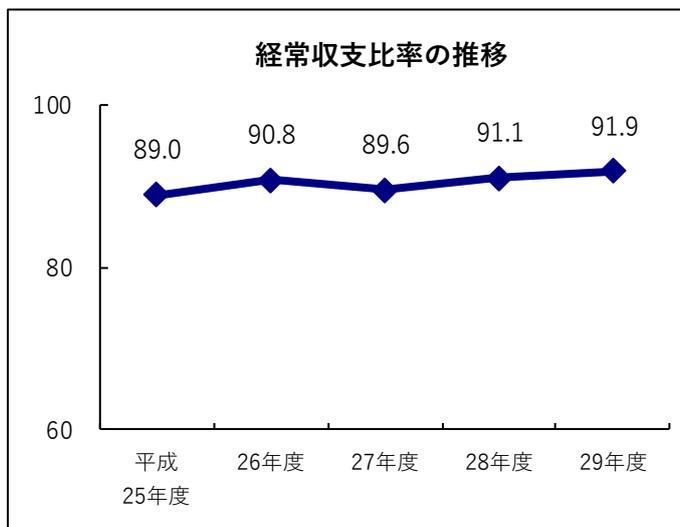
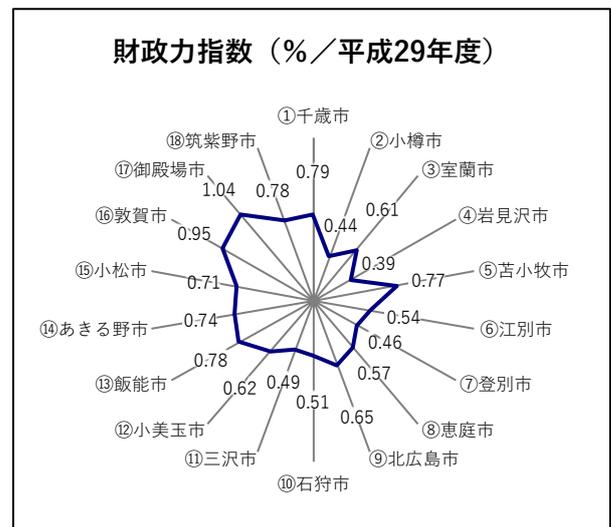
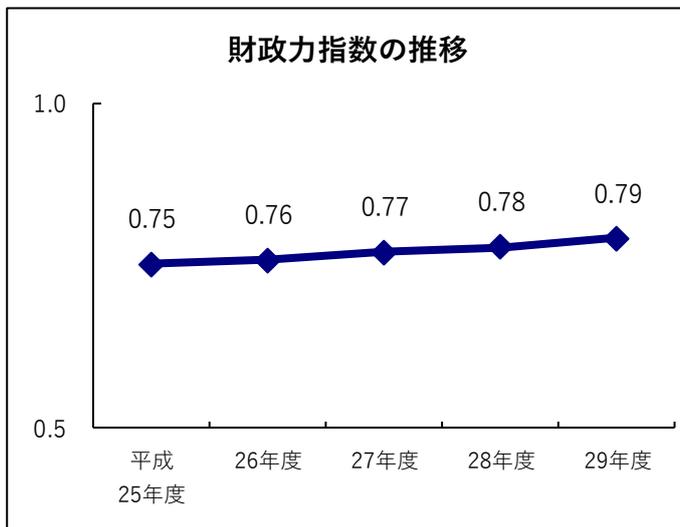


資料：平成29年度財政に関する資料（千歳市）

## 1-15. 財政力指数と経常収支比率

財政力指数<sup>※3</sup>の推移をみると微増傾向であり、平成29年度時点で0.79となっています。道内外の類似都市<sup>※4</sup>と比較すると、千歳市よりも高い数値は敦賀市、御殿場市となっています。

経常収支比率<sup>※5</sup>の推移をみると、ここ5年は概ね90%前後で推移しています。道内外の類似都市<sup>※4</sup>と比較すると、千歳市同様に90%台の都市が多くなっていますが、道内では苫小牧市、道外では小美玉市、御殿場市、筑紫野市が80%台となっています。



資料：平成29年度地方公共団体の主要財政指標一覧（総務省）

※3：地方公共団体の財政力の強弱を示す指数で、この数値が1に近い、あるいは1を超えるほど、財源に余裕がある団体とされます。

※4：道内は石狩・後志・胆振総合振興局管内の「市」の中から、札幌市と5万人未満の市を除く10市を選定、道外は総務省が作成している「類似団体市町村別財政指標」から千歳市と同じ類型（都市Ⅱ-3）に属する団体から、行政面積や海岸線がないなどの地理的状況、人口規模、産業構造などを勘案し、比較的千歳市に近い団体を選定しています。

※5：一般財源に占める経常的な経費（人件費、扶助費、公債費など）の割合を示したもので、地方公共団体の財政構造の弾力性を判断する指数です。

千歳市より低い

区分	都道府県名	都市名	財政力指数	経常収支比率	
空港関連	北海道	函館市	0.47	91.3	
	北海道	釧路市	0.45	96.6	
	北海道	千歳市	0.79	91.9	
	宮城県	名取市	0.81	92.6	
	千葉県	成田市	1.28	82.3	
	東京都	大田区	0.54	83.1	
	新潟県	新潟市	0.73	92.4	
	愛知県	常滑市	0.97	91.0	
	大阪府	豊中市	0.92	93.5	
	大阪府	泉佐野市	0.95	109.6	
	大阪府	泉南市	0.76	102.1	
	広島県	三原市	0.59	91.5	
	香川県	高松市	0.83	90.2	
	愛媛県	松山市	0.76	88.4	
	高知県	南国市	0.61	92.4	
	福岡県	北九州市	0.73	99.4	
	福岡県	福岡市	0.89	92.5	
	長崎県	大村市	0.62	93.7	
	宮崎県	宮崎市	0.67	89.9	
	鹿児島県	霧島市	0.54	88.8	
沖縄県	那覇市	0.80	88.9		
航空自衛隊のある市	青森県	三沢市	0.49	92.4	
	茨城県	小美玉市	0.62	88.8	
	埼玉県	熊谷市	0.89	87.1	
	埼玉県	入間市	0.93	95.7	
	東京都	新宿区	0.66	80.9	
	東京都	目黒区	0.78	84.1	
	東京都	北区	0.40	85.2	
	東京都	府中市	1.21	84.0	
	東京都	福生市	0.79	90.7	
	石川県	小松市	0.71	94.6	
	岐阜県	岐阜市	0.86	95.0	
	静岡県	浜松市	0.89	91.6	
	静岡県	焼津市	0.89	89.9	
	愛知県	小牧市	1.20	81.9	
	奈良県	奈良市	0.77	100.7	
	山口県	防府市	0.82	99.2	
	福岡県	春日市	0.74	89.3	
	沖縄県	那覇市	0.80	88.9	
	千歳市近隣市	北海道	札幌市	0.73	93.6
		北海道	小樽市	0.44	99.5
北海道		室蘭市	0.61	93.8	
北海道		岩見沢市	0.39	96.8	
北海道		苫小牧市	0.77	88.0	
北海道		江別市	0.54	93.8	
北海道		恵庭市	0.57	91.5	
北海道		北広島市	0.65	92.6	
北海道		石狩市	0.51	93.2	
北海道		当別町	0.35	91.5	
北海道		新篠津村	0.18	80.5	

資料：平成29年度地方公共団体の主要財政指標一覧（総務省）

道内各市の平成 29 年度決算に基づく健全化判断比率一覧表

区分 都市※6	人口 (人)	実質赤字比率 (%)	連結実質赤字比率 (%)	実質公債費比率		将来負担比率	
				(%)	順位	(%)	順位
札幌市	1,949,947	-	-	2.8	1	63.8	17
旭川市	340,211	-	-	7.8	12	95.4	24
函館市	260,174	-	-	7.9	13	61.1	15
苫小牧市	171,699	-	-	6.6	8	66.0	19
釧路市	170,935	-	-	10.9	25	103.2	28
帯広市	167,653	-	-	8.7	18	102.4	27
江別市	118,700	-	-	8.6	16	30.9	6
北見市	117,939	-	-	8.8	20	142.9	32
小樽市	117,924	-	-	7.9	13	48.5	10
<b>千歳市</b>	<b>96,841</b>	-	-	<b>9.5</b>	<b>21</b>	<b>61.7</b>	<b>16</b>
室蘭市	84,991	-	-	9.6	22	59.5	14
岩見沢市	82,823	-	-	5.9	6	54.6	12
恵庭市	69,447	-	-	5.4	4	28.9	5
北広島市	58,828	-	-	4.2	2	80.4	21
石狩市	58,406	-	-	8.6	16	84.6	22
登別市	48,852	-	-	12.7	27	99.7	26
北斗市	46,829	-	-	5.3	3	0.0	1
滝川市	40,523	-	-	10.6	24	98.7	25
網走市	35,742	-	-	16.4	34	164.3	34
稚内市	34,834	-	-	13.6	29	55.0	13
伊達市	34,579	-	-	7.7	11	4.3	3
名寄市	27,557	-	-	8.4	15	33.8	7
根室市	26,156	-	-	8.7	18	54.2	11
紋別市	22,527	-	-	10.5	23	39.5	9
富良野市	22,073	-	-	7.4	9	38.6	8
美唄市	21,987	-	-	14.1	30	144.5	33
留萌市	21,498	-	-	15.2	32	79.9	20
深川市	21,237	-	-	14.6	31	142.4	31
士別市	19,348	-	-	13.3	28	133.4	30
砂川市	17,185	-	-	5.8	5	14.9	4
芦別市	14,014	-	-	7.6	10	90.9	23
赤平市	10,369	-	-	16.1	33	129.8	29
三笠市	8,784	-	-	6.5	7	64.5	18
夕張市	8,305	-	-	73.5	35	516.2	35
歌志内市	3,408	-	-	12.4	26	0.0	1
平均値				11.2		85.4	

※6：都市名の記載は人口順

資料：平成 29 年度財政に関する資料（千歳市）

---

## 2 各 論 編

---

「千歳市第6期総合計画」の展開方針ごとに現状や課題となることを整理しています。

- ①これまでの取組では、近年の取組を中心に「千歳市第6期総合計画」の期間内に実施した内容を整理しています。
- ②これからの課題では、「千歳市第6期総合計画」で行った取組や社会情勢等をふまえた今後の課題について整理しています。
- ③関連計画の策定状況は、その項目に関連する計画（部門別計画）です。なお、比較的新しく策定または見直しを行った計画については、策定や見直しの背景を策定のポイントとして整理しています。
- ④グラフ等には、平成30年度に実施した以下のアンケート結果の一部を引用しています。
  - ◆千歳市民まちづくりアンケート      ◆千歳市中学生まちづくりアンケート
  - ◆千歳市高校生まちづくりアンケート   ◆千歳市大学生等まちづくりアンケート
  - ◆千歳市まちづくり団体アンケート
- ⑤みなさんの声には、各種アンケートに寄せられた関連意見を整理しています。

## 2-1. あったかみのある地域福祉のまち

### (1) あったかみのあるまちづくり

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) コミュニティ活動のしっかりした地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉に係る理念の普及を図るため、地域福祉フォーラム、地域福祉勉強会、地域福祉ネットワーク会議を開催するとともに、地域住民の身近な相談役である民生委員児童委員の活動を支援し、地域における生活課題の早期発見・早期対応に努めました。また、明るい社会づくりを担う保護司会の活動を支援し、地域における自立更正保護の取組を進めました。</li> </ul>
(2) 安心して利用できる福祉サービスの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健福祉にかかる各施策について、公募市民を含めた各分野の代表者とともに総合的に調査研究したほか、成年後見、オンブズマン両制度を継続し、対象者支援体制の維持や事業者のサービス向上を図りました。</li> <li>・保健福祉サービスに関するガイドブックを発行したほか、身近な相談役である民生委員児童委員や相談事業を実施している社会福祉協議会の支援を行いました。また、しあわせサポートセンターで分野を超えた横断的な相談対応を実施するなど、福祉サービスを利用しやすい仕組みづくりを進めました。</li> </ul>
(3) だれもが活動しやすい環境整備と福祉活動を担う人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが生活しやすい環境づくりを進めるため、指導や助言等により、バリアフリー化やユニバーサルデザインを取り入れた住宅の普及を図るほか、これらに配慮した公営住宅、コミュニティ施設、公園施設、道路等の整備・改修を進めました。</li> <li>・ボランティアの活動拠点であるボランティアセンターの運営のほか、生活支援や援助活動など地域福祉の中核的な役割を果たしている社会福祉協議会の運営を支援しました。また、地域福祉フォーラム、地域福祉勉強会を開催するなど、人材育成の取組も進めました。</li> </ul>
(4) 地域の特性が生かされた活発な地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉に係る人材の育成など、重要な活動をしている社会福祉協議会を支援したほか、福祉バスの運行により高齢者、障がい者及び福祉団体の研修、レクリエーション等の活動範囲を広げ、団体育成を図りました。</li> <li>・地域活動に関する広域的なネットワークを構築するため、地域福祉ネットワーク会議を開催しました。また、各地区において、高齢者の見守りや生活に課題を抱えた方の相談・支援等の活動をしている地区民生委員児童委員協議会を支援しました。</li> </ul>

## ②これからの課題

- ◎地域福祉に対する理解があり、住民同士の結びつきがあると考えている市民は半数に届いておらず、あまり多くない状況にあります。今後も、引き続き地域福祉の理念の普及を進めていくことが必要です。
- ◎生活の困窮や家族の介護など生活に何らかの課題を有する市民は増加傾向にあり、課題の内容も多様化しています。今後も、多様な生活課題を抱える市民に的確に対応できる地域づくりを進める必要があるほか、災害時の対応なども視野に入れた取組を進めていくことが必要です。
- ◎千歳市社会福祉協議会及びしあわせサポートセンター相談人数は一時期落ち込みが見られたものの、近年は増加傾向にあります。福祉サービスを安心して利用できる、身近に利用できるなど、誰もが安心して暮らすことのできる福祉環境について、福祉の人材確保を含め、今後より一層充実させていく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、市民ボランティア活動の育成・支援は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されていますが、関連計画におけるアンケートでは、地域活動に参加しやすい仕組みがあると思わない回答者が多い傾向が見られています。今後も、市民が地域活動に積極的に関わることのできる仕組みづくりのほか、地域で活動する団体が広域的に連携できるきっかけづくりなど、地域の活動をより活発にするために引き続き取り組んでいく必要があります。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	第3期千歳地域福祉計画	H27-R1
------	-------------	--------

#### 【第3期千歳地域福祉計画（H27.3）における策定のポイント】

- ・社会の変化への対応（すべての世代がその能力に応じて相互に支えあう仕組みの構築）
- ・社会保障制度改革（家族相互及び国民相互の助け合いの実現を支援していくこと、社会保障の機能の充実と給付の重点化、運営の効率化などによる持続可能な制度の実現等）
- ・生活困窮者自立支援制度による既存制度の隙間を埋める施策（社会保険制度・労働保険制度と生活保護制度の中間にあつて、生活困窮者の自立を支える機能を発揮する制度の導入）

### b) 統計データ等

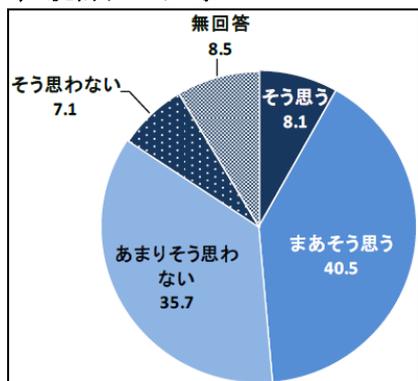


図 2-1-1 地域福祉の理解があり、住民同士の結びつきがあるまちだと思うか

千歳市地域福祉計画策定のための市民アンケート調査（平成 26 年）

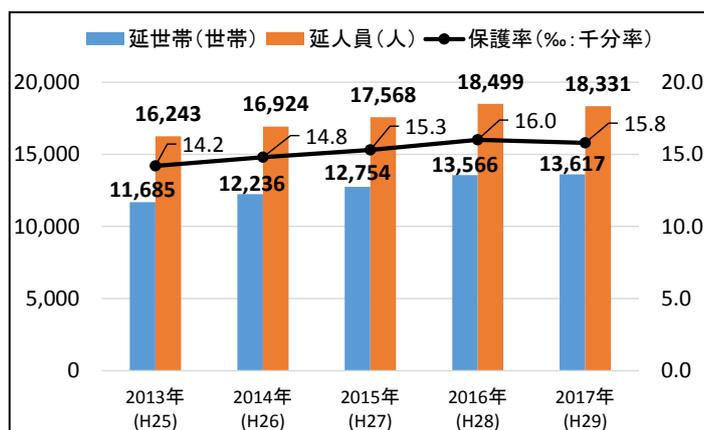


図 2-1-2 生活保護受給者の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

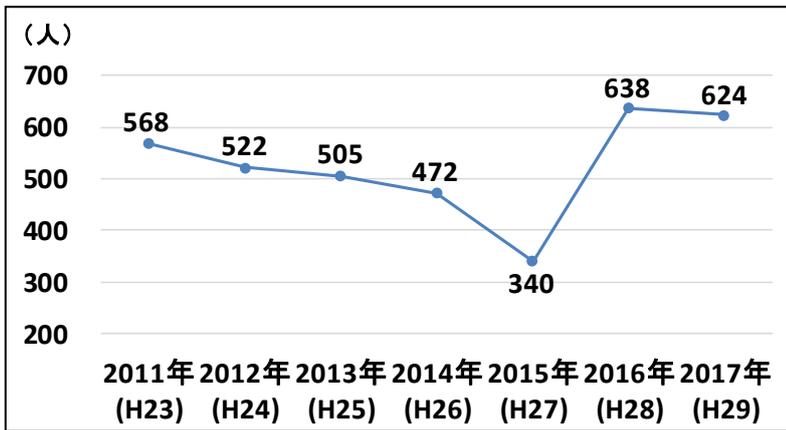


図 2-1-3 千歳市社会福祉協議会及びしあわせサポートセンター相談人数  
千歳市行政評価結果

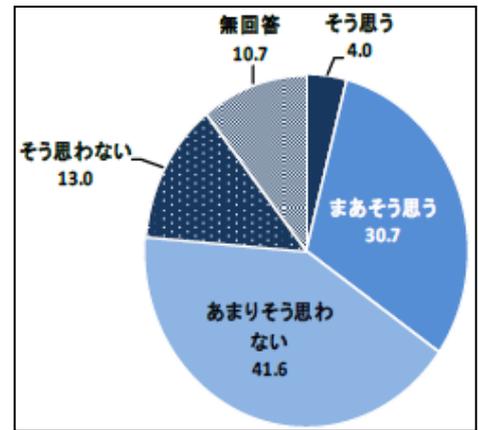


図 2-1-4 地域活動に参加しやすい  
仕組みの有無  
千歳市地域福祉計画策定のための  
市民アンケート調査 (平成 26 年)

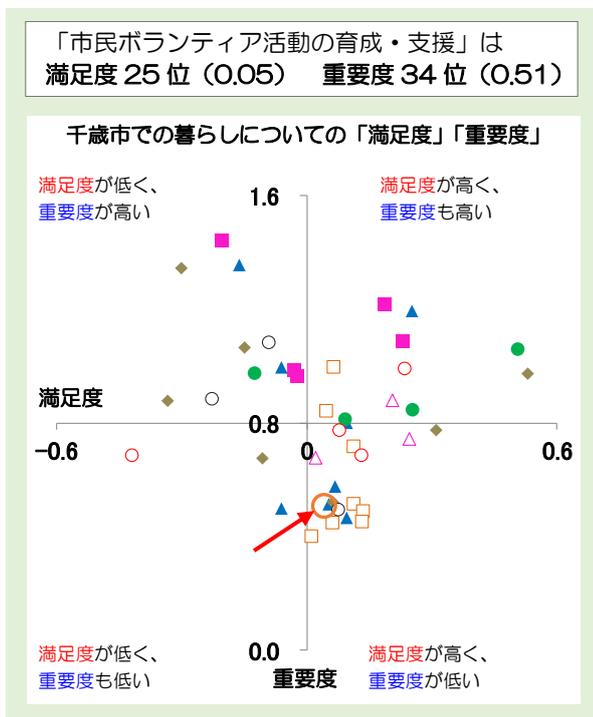


図 2-1-5 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度  
に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

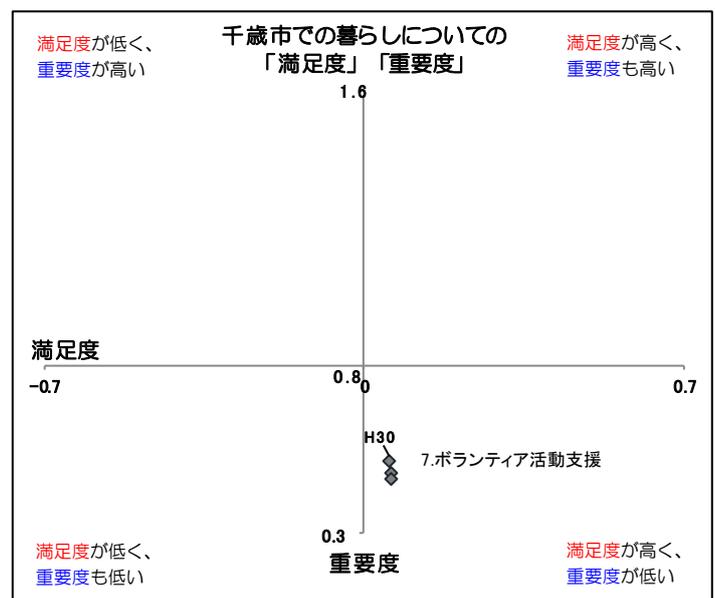


図 2-1-6 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度  
に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・ごみ拾いなどのボランティアをしやすくすると良い。
- ・高齢化が進む中、元気な方も多く社会貢献したいと考えている方もいます。自分自身 60 歳になり、この先何をしたらいいのか、どう過ごしていこうかと考えています。「目標」や「活動」が明確に地域とつながっていくことを希望します。

(2) 保健予防対策の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 健康づくり対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の健康増進の取組のきっかけとなるよう、「健康まつり」、「水と緑を歩こう会」のほか「まちなかウォーキング」や「ノルディックウォーキング体験教室」を実施しました。</li> <li>市民が食に関する正しい知識を習得できるよう、食育推進計画に基づいた食育の啓発普及を行いました。</li> </ul>
(2) 成人保健対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が自らの健康に関心を持ち、適正な健康管理を行うことができるよう、各種がん検診や健康診査等の周知啓発を実施するとともに、ボランティアや市内企業等と連携した啓発活動を行うことで受診しやすい環境づくりに努めました。また、各種検（健）診を実施し疾病の早期発見を図るとともに、健診結果を活用した保健師や管理栄養士による相談日の設置及び訪問等による個別支援を行いました。</li> <li>市民の自主的な健康づくり活動を推進するため、食生活改善推進員の養成講座の実施、こどもの食育教室、生活習慣病予防料理講習会を行いました。また、健康相談、健康教育、健康づくり教室、こころの健康づくり講演会、こころのケア講座等を実施しました。</li> </ul>
(3) 母子保健対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>妊婦や乳幼児の健康の保持・増進や健やかに発達・発育ができるよう、妊婦一般健康診査受診票・超音波検査受診票の交付や乳幼児健診を実施しました。必要時、乳幼児精密検査受診票を発行し、受診勧奨と受診結果の把握に努めています。また、電話訪問や家庭訪問等にて、発達や育児に関する支援を実施しました。</li> <li>妊婦及び子育て家庭を対象として、安心して妊娠期を過ごし、出産や子育てができるよう、「ちとせ版ネウボラ」において相談支援を実施しました。</li> <li>健康に対する正しい知識や育児に関する情報提供を行うことで、妊婦や乳幼児が地域で安全に安心して生活することができるよう、母親学級・両親学級・育児教室や離乳食講座・歯科保健講座及び各種出前講座を実施しました。</li> <li>5歳児を対象として、発達や発育の確認及び発達障がいの早期発見を目的として5歳児相談事業を実施しました。</li> <li>子どもを望んでいる夫婦の経済的負担軽減を目的として、特定不妊治療費及び一般不妊治療費の一部助成を実施しました。</li> </ul>
(4) 感染症予防対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染のおそれのある病気の発生及び、まん延を予防するため予防接種を実施しました。</li> </ul> <p>定期接種は、乳幼児等対象のヒブ、小児肺炎球菌、B型肝炎、四種混合（ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオ）、BCG、MR（麻しん・風しん）、水痘、日本脳炎、二種混合（ジフテリア・破傷風）ヒトパピローマ感染症と高齢者対象の高齢者インフルエンザ、高齢者肺炎球菌となっています。</p>

## ②これからの課題

- ◎医療技術の進歩などを背景に日本人の平均寿命は延び続けており、この傾向は今後も続いていくものと見込まれています。今後は平均寿命とともに、生涯のうちに健康で過ごすことができる期間である健康寿命を、より一層伸ばしていくための取組が重要です。
- ◎千歳市における死因は「がん」や「循環器疾患」が多くなっており、いずれも日ごろの生活習慣が関係する疾患です。これらの疾病は早期に発見し、適切な手当てを行いながら重症化を防ぐことが重要ですが、近年の検（健）診受診率は低下傾向にあります。今後も、受診率向上を図るとともに、健診結果を活用した事後支援等を着実に進めることが必要です。
- ◎健康寿命の延伸や生活習慣の改善のほか、次世代を担う子どもたちが健康に育つためには、健康的な食生活の習慣づくりが重要です。今後も食を楽しみ、健康で豊かな食生活を実践できる環境づくりが必要です。
- ◎今後の人口増加を目指すためには、子育て世帯が安心して暮らせる環境づくりが重要になります。就学前後の環境変化、ひとり親家庭、障がいのある子どもなど、多様化する子育て支援ニーズに対応できるサービス提供のほか、利用しやすいサービスの検討を進めていくことが重要です。
- ◎育児不安や育児負担を軽減し、子育て家庭が孤立することなく、安心して楽しみながら子育てができるために、いつでも気軽に不安や悩みを相談できる場や適切な支援を受けられることが重要です。  
妊産婦においては、医療機関等とも連携し、妊産婦健診や産前産後ケアの充実を図り、乳幼児期においては、乳幼児健診、育児教室や「ちとせ版ネウボラ」等において相談を継続し、子育て家庭に寄り添いながら、引き続き、子育て支援プランの作成や相談、育児支援について取り組んでいくことが重要です。
- ◎国際観光の進展に伴う交流人口の拡大などにより、国内における感染症は多様化が進んでいます。予防接種率は微増傾向にありますが、今後も引き続き多様化する感染症に対応できる予防対策のほか、定期的・計画的な予防接種事業について引き続き取り組んでいくことが重要です。
- ◎千歳市の自殺者数は50歳代が最も多く、自殺死亡率では、男女とも20歳代が全国を上回っています。自殺は誰にでも起こりうることから自殺対策＝生きるための支援としてそれぞれの立場で自殺対策の一翼を担い、包括的に地域全体で取り組むことが重要になっています。
- ◎市民アンケートによると、健康づくりや病気の予防は比較的満足度が高く、重要度も高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。今後も国の動向を注視しながら、これまでの取組を継続していくことが重要です。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	第2次千歳市健康づくり計画	H28-R4
	第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画	H27-R1
	第3次千歳市食育推進計画	R1-R5
	千歳市生きるを支える自殺対策計画	R1-R5

#### 【第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画（H27.3）における策定のポイント】

- ・急速な少子化の進行、核家族化や高齢化、地域での人間関係の希薄化などにより、家庭や地域での子育て力が低下
- ・子ども・子育て支援新制度への対応

【第3次千歳市食育推進計画（H31.3）における策定のポイント】

- ・生活スタイルの多様化による食生活を取り巻く環境の変化が及ぼす課題と対策
- ・心と身体の健康を維持し、生き生きと暮らすために、食育を通して生涯にわたり「食べる力」＝「生きる力」をはぐくむことが重要

【千歳市生きるを支える自殺対策計画（H31.3）における策定のポイント】

- ・誰も自殺に追い込まれることがないように、一人ひとりが「命」の尊さを理解しあい、ともに支えあう、安心して暮らすことができる千歳市の実現
- ・自殺対策の周知、ゲートキーパー研修など支え、支えられるための施策の実施

b) 統計データ等

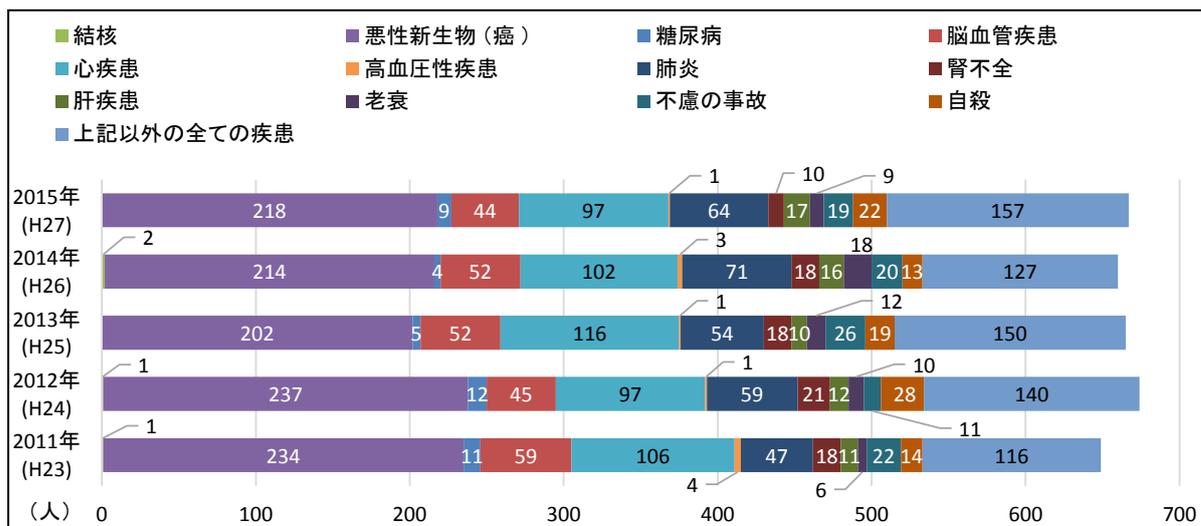


図 2-1-7 主要死因別死者数の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

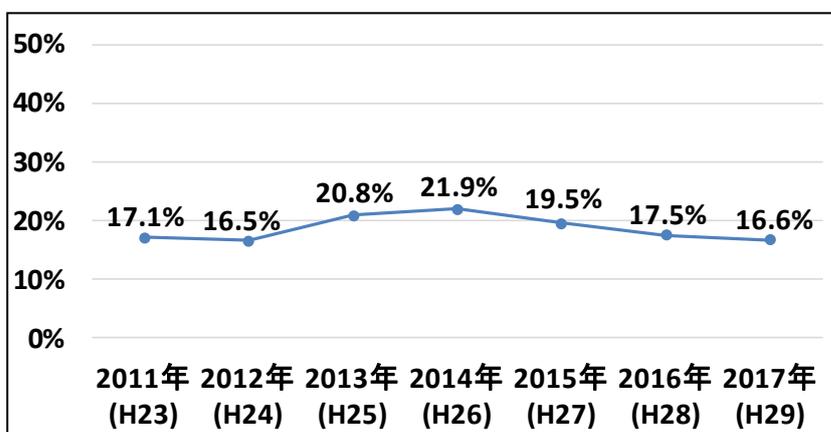


図 2-1-8 健診（検診）受診率の推移

千歳市行政評価結果

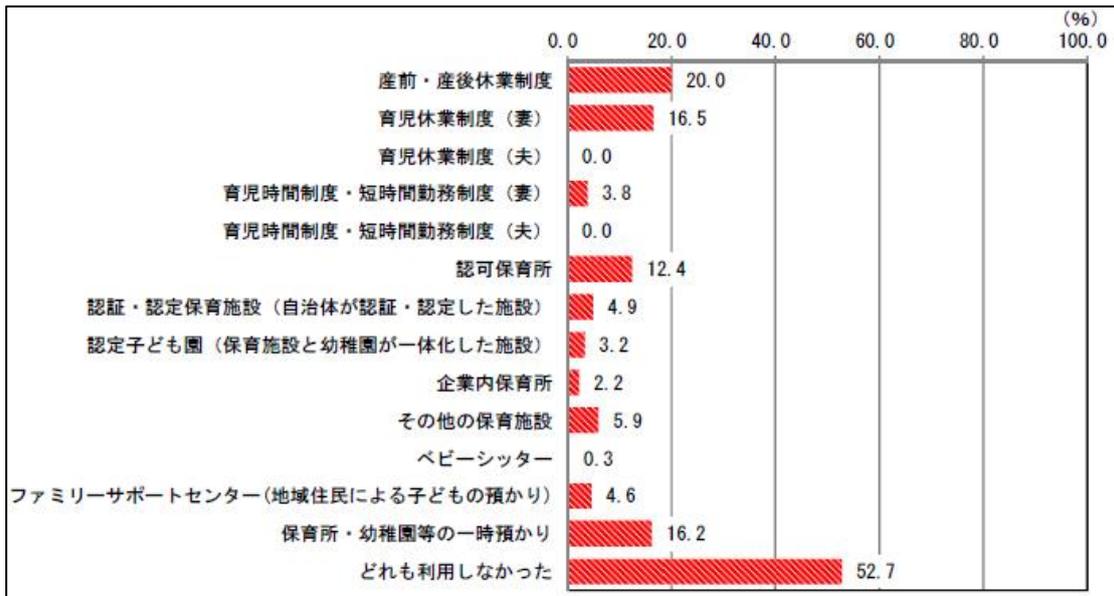


図 2-1-9 第 1 子を育てる際に利用した制度や施設 平成 27 年 市内在住者を対象とした結婚・出産・子育てに関する意識調査

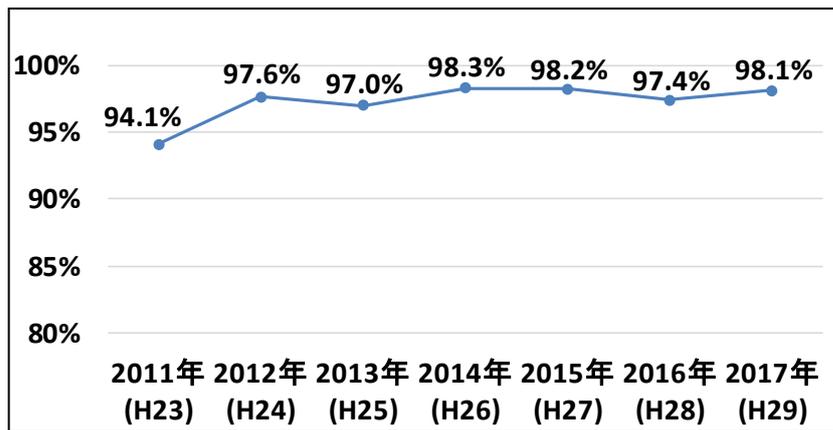


図 2-1-10 予防接種率の推移 千歳市行政評価結果

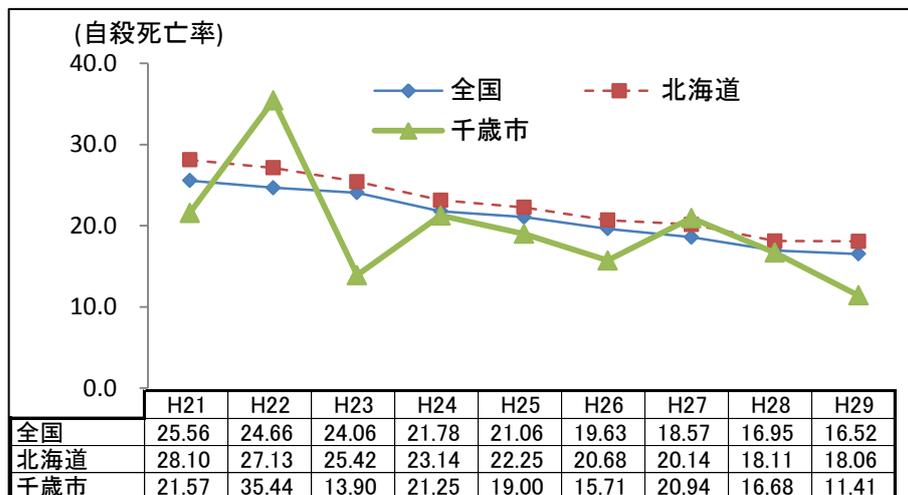


図 2-1-11 千歳市の自殺者数の推移と自殺率の推移 (北海道・全国との比較) 千歳市生きるを支える自殺対策計画

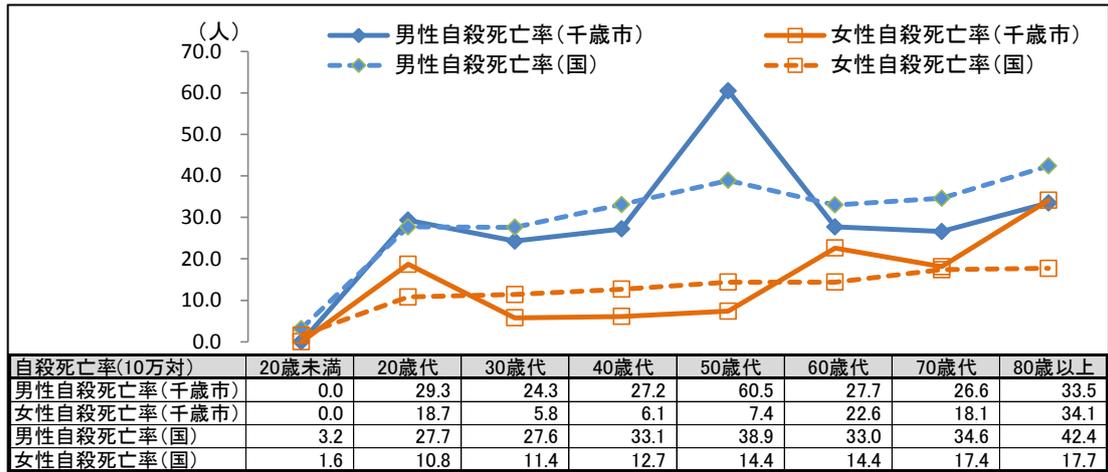


図 2-1-12 性別・年代別の自殺者数（平成 24～28 年の累積） 千歳市生きるを支える自殺対策計画

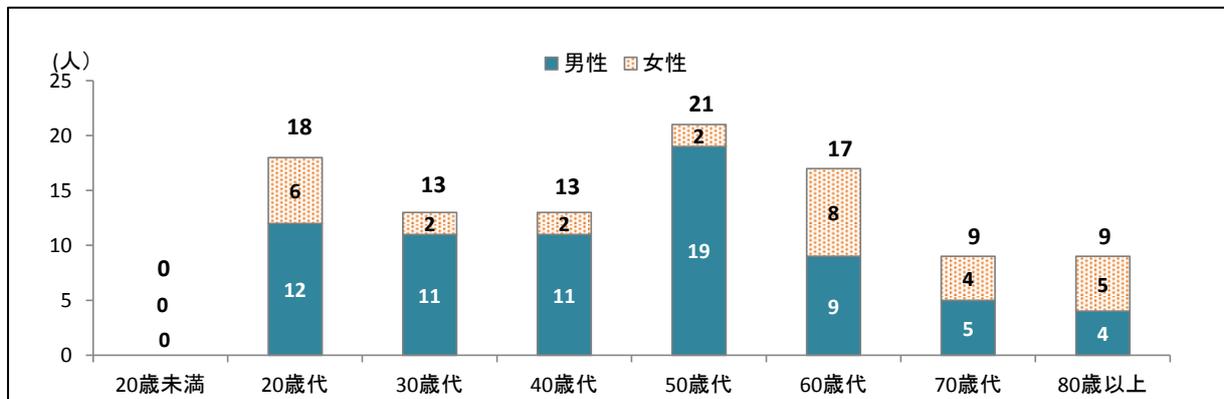


図 2-1-13 千歳市の性・年代別自殺者数の累計（平成 24 年～平成 29 年）  
厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地)より作成

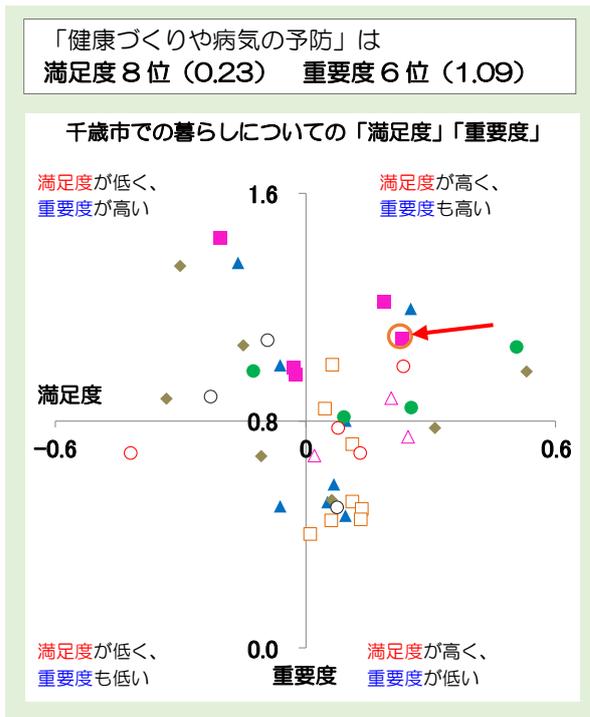


図 2-1-14 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

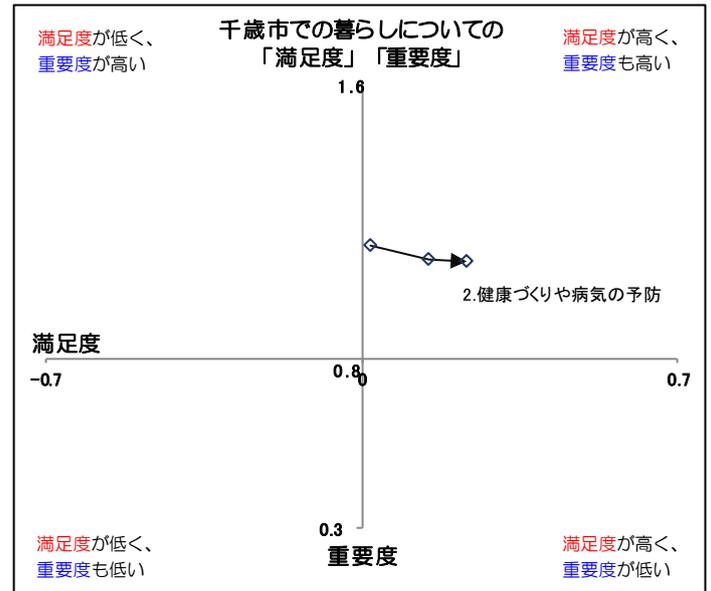


図 2-1-15 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・高齢者になっていつまで自宅に住めるか分からないですが、介護や福祉のお世話になるのを少しでも遅くするよう、身体を「きたえーる」みたいな場所を、介護者ばかりではなく病気の人達にも使えるような施設を希望します。

【大学生アンケート】

- ・受動喫煙の機会が多いと感じた。

(3) 医療の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 地域基幹病院としての医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立千歳市民病院の医療体制を充実させるため、ホームページや広報紙などを通じた職員募集をはじめ、大学医局への要請や医師紹介事業者などの活用のほか、高度医療機器をはじめとする医療機器の計画的な整備に努めました。</li> <li>・地域医療連携を推進するため、「ちえネット（病院、クリニック、歯科、調剤薬局、介護事業所をインターネットでつなぎ、カルテ情報を共有するネットワーク）」を導入し、地域の医療機関等との連携強化を図ったほか、かかりつけ医情報の普及・啓発を行いました。</li> <li>・救急体制を充実させるため、市救急輪番制によって実施される夜間・休日の1次・2次救急の維持や、平日夜間及び日曜の小児救急医療体制の維持に努めました。</li> </ul>
(2) 救急医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急医療体制については、内科系1次救急を担う「休日夜間急病センター（ささえーる）」を開設するとともに、千歳医師会や市内開業医、近隣医療機関の支援のもと、休日・夜間の1次・2次救急医療体制の確保に努めました。</li> <li>・医療の専門家が24時間・年中無休で健康や医療などに関する相談に対応する、「ちとせ健康・医療相談ダイヤル24」を実施しました。</li> <li>・救急医療機関の適正利用等について、広報紙や市ホームページのほか、市民説明会等を実施し、周知・啓発を行いました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎医師確保の取り組みにより、市民病院の医師数は増減があるものの横ばいとなっており、医療従事者全体では増加傾向にあります。一方、全国的に医師不足は深刻であり、地域による格差は今後も続くと考えられます。  
千歳市の医療全体を充実するためには、地域の各医療機関による役割分担や連携強化が必要であり、そのため市民病院は患者の紹介・逆紹介を進め、かかりつけ医を推奨しています。  
今後も、市民病院においては医師確保を進め医療提供体制の充実を図るとともに、千歳市では地域の各医療機関が質の高い医療を提供するため、医療の機能分化を進めることが必要です。
- ◎救急医療体制については、平成29年に休日夜間急病センターを開設したことで、深夜0時以降の診療体制が確保されました。今後は、外科系1次救急の空白日の解消に向けて、千歳医師会や市内の開業医、近隣医療機関との連携を深め、さらなる救急医療体制の充実に努める必要があります。
- ◎市民アンケートによると、病院・診療所などの医療環境は比較的満足度が低く、重要度は高いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。また、今後のまちづくりにおいて特に重要と考えられる取組についても病院・診療所などの医療環境が最も多くなっており、今住んでいる場所から移りたい理由では、医療や福祉面を不安要素としている回答者が多くなっています。  
このため、医療の充実については、引き続き重点的に取り組むことが必要です。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	市立千歳市民病院中期経営計画（改訂版）	H26-R2
------	---------------------	--------

b) 統計データ等



図 2-1-16 市立千歳市民病院の医療従事者の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

※「看護師等」：助産師、看護師、准看護師

「医療技術者」：薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、臨床工学技士、視能訓練士、管理栄養士

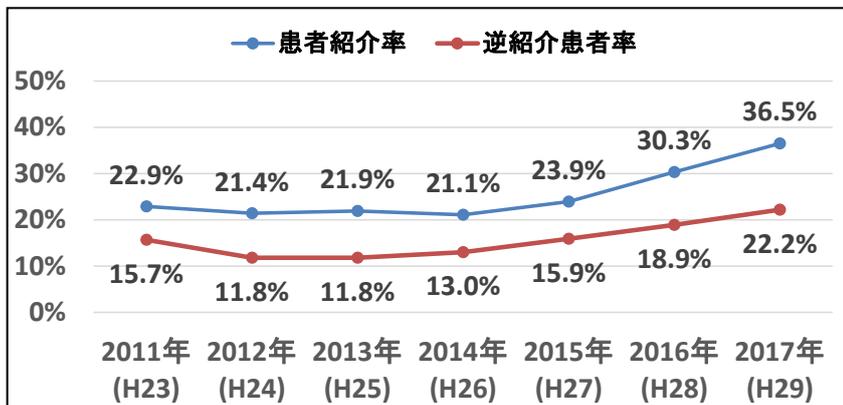


図 2-1-17 患者紹介率と逆紹介患者率の推移

千歳市行政評価結果

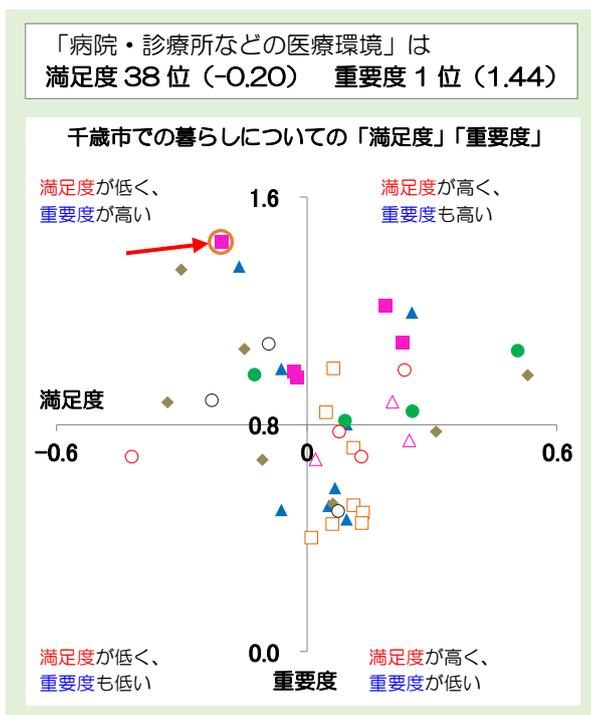


図 2-1-18 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

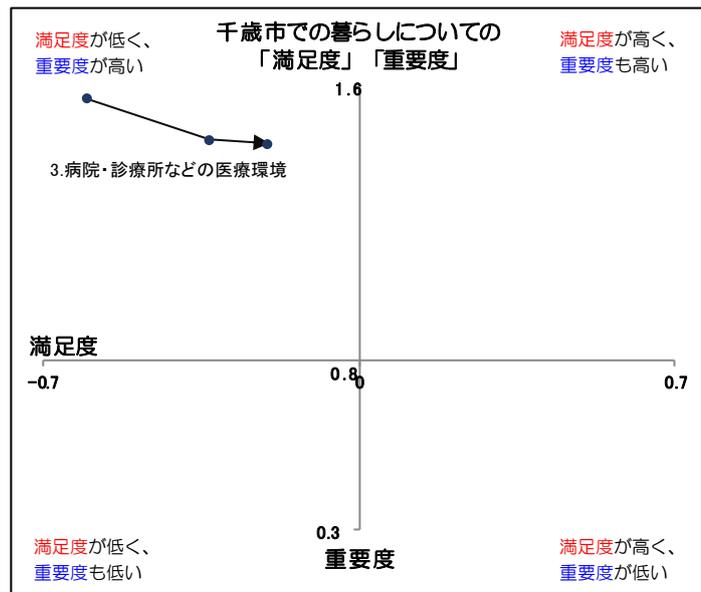


図 2-1-19 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

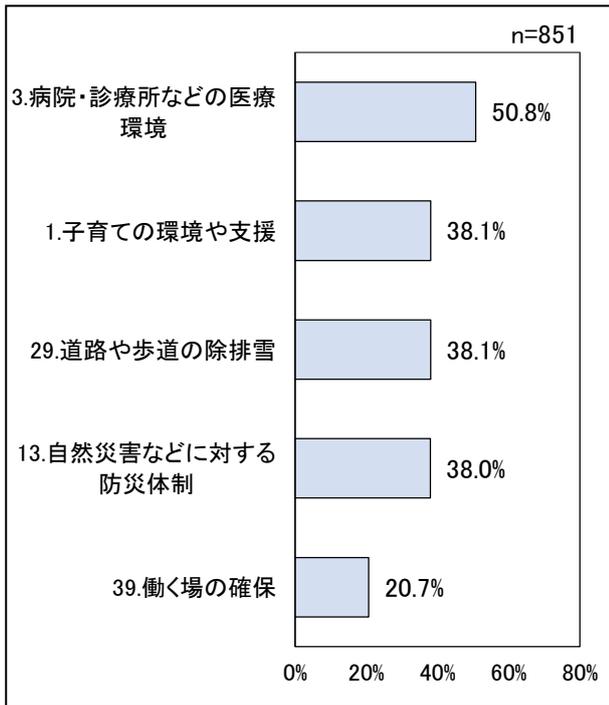


図 2-1-20 千歳市のまちづくりにおいて特に重要だと思う項目（上位 5 項目を抜粋）  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

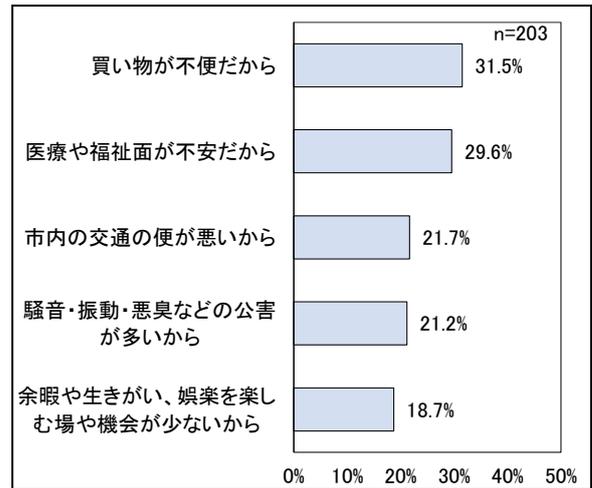


図 2-1-21 今住んでいる場所から移りたい理由（上位 5 項目を抜粋）  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・待ち時間が長く、診療時間が短くて不安になる。
- ・空港があるのに、全国から頼りにされるような病院がない。
- ・診療受付時間が 17:30 までで、仕事が終わってからでは間に合わない。働きながら子育てがしにくいと感じる。
- ・高齢者の病院利用について、市外の病院との連携をとりやすくしてほしい。

#### 【中学生アンケート】

- ・「この病気は千歳市では治せない」というのをなくして欲しい。

#### 【大学生アンケート】

- ・病院が少ない。

(4) 高齢者福祉の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 高齢者の在宅生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の社会参加を促進するため、10種類のサービス（タクシー及びハイヤー、バス、公衆浴場、温泉、理容、美容、はり、灸、あんま、マッサージ）に利用できる「福祉サービス利用券」を交付しました。また、老人クラブの支援を行い、高齢者の健康増進等を図りました。</li> <li>・高齢者が安心して在宅生活を送ることができるよう、高齢者が緊急時の通報や相談することができるシステムを整備しました。</li> <li>・高齢者が住み慣れた地域で必要なサービスを受けることができるよう、在宅福祉サービス提供の拠点づくりを進めました。</li> </ul>
(2) 高齢者福祉施設への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設の機能充実のため、各施設の整備に対する支援を行いました。</li> <li>・経済的な理由等により在宅生活が困難な高齢者を養護するため、養護老人ホーム千歳千寿園の改築に対する支援を行いました。</li> </ul>
(3) 介護保険事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が要支援や要介護状態となることを予防するための事業を行い、住み慣れた地域で継続して生活ができるよう、総合相談や権利擁護等の事業を進めました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎高齢化は、今後ますます進展していくものと想定され、千歳市内においても同様の状況と考えられます。今後増加することが見込まれる高齢者が地域で快適に暮らし続けられるよう、買物支援や見守り等、日常生活に係る支援体制を充実していくことが必要です。また、有事の際にしっかりと対応できる医療・介護体制の構築を進めていくことも重要です。
- ◎千歳市では千歳市介護予防センターを中心として平成27年度から介護予防サロン事業の試行を進めています。支援や介護の必要な高齢者は今後も増加が見込まれているため、これらの取組は、引き続き進めていく必要があります。
- ◎千歳市の既往調査結果では認知機能の低下リスクに該当する高齢者が一定数みられており、今後の高齢化の進展にともない、認知症高齢者の増加が見込まれています。今後は、認知症に対する地域の理解を促進するために正しい知識の普及啓発や、発症を早期に発見・対応できる仕組みづくりが必要です。また、発症に伴い判断能力が十分でなくなった高齢者が、安心して暮らし続ける地域としていくことも重要です。
- ◎国内では平均寿命の延伸が進み、元気な高齢者が増加しています。このような高齢者が生涯にわたり生きがいを持って暮らせるために、地域社会で活躍できる場の創出を進める必要があります。
- ◎市民アンケートによると、高齢者の自立支援は比較的満足度が低く、重要度は高いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。今後も国の動向に合わせて、満足度向上のための取組を続けていくことが重要です。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市高齢者保健福祉計画・第7期千歳市介護保険事業計画	H30-R2
------	-----------------------------	--------

【千歳市高齢者保健福祉計画・第7期千歳市介護保険事業計画（H30.3）における策定のポイント】

- ・地域包括ケアシステムの深化・推進及び介護保険制度の持続可能性確保

b) 統計データ等

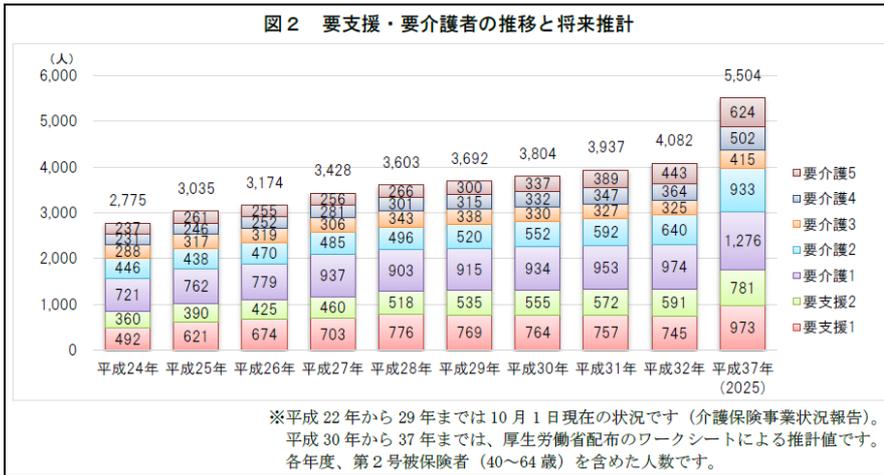


図 2-1-22 要支援・要介護者の推移と将来推計 千歳市高齢者保健福祉計画・第7期千歳市介護保険事業計画

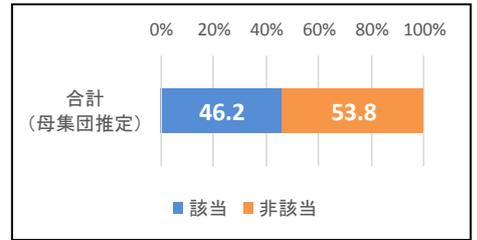


図 2-1-23 認知機能の低下(区別) 千歳市高齢者保健福祉計画・第7期千歳市介護保険事業計画

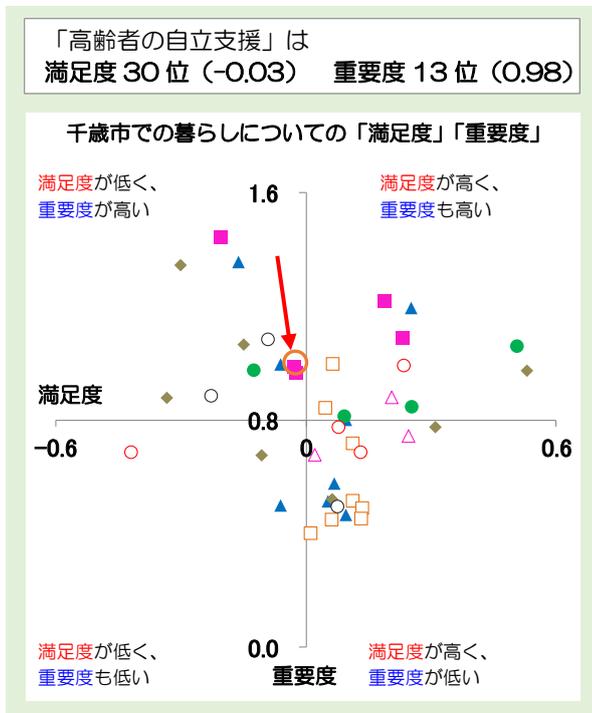


図 2-1-24 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

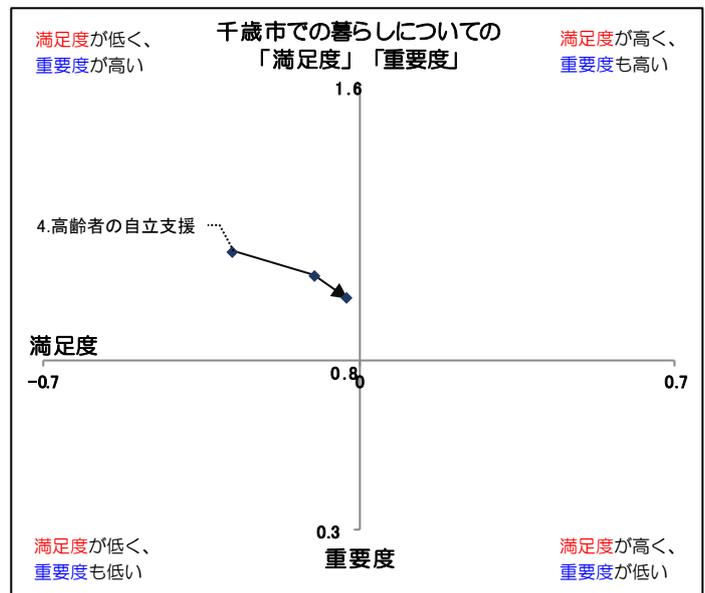


図 2-1-25 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較) 平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・高齢者の生きがいが見つけられる機会を増やすことが大切だと思う。
- ・高齢者の生活に負担がかからない支援をしてほしい。
- ・介護タクシーの数が足りない。
- ・後期高齢者も含め気軽に参加できるイベントや経済的優遇措置を早急に対応すべきだと思う。

(5) 障がい者及び障がい児の福祉の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 障がい者福祉サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい福祉サービス事業者など関係機関と連携し、障害者総合支援法に基づく自立支援給付及び地域生活支援事業などを実施しました。</li> <li>地域生活支援事業の移動支援事業や日常生活支援サービス事業の移送介助サービスなど、社会参加等に必要な外出や移動の支援を行いました。</li> <li>障がい福祉サービス事業者など関係機関と連携し、障害者総合支援法に基づく自立支援給付及び地域生活支援事業を実施しました。</li> <li>重度心身障がい者の健康保持と疾病の早期発見・治療の促進を確保し、医療費負担の軽減を図るための助成を行いました。</li> </ul>
(2) 相談支援及び情報提供体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人や家族等の地域における生活を支援するため、相談対応を行いました。また、事業者等との情報共有の場である自立支援協議会を開催し、地域生活に係る支援ネットワークの充実に努めました。</li> <li>障がいのある人の地域生活支援等を目的として、主に精神に障がいのある人の相談対応を進めました。</li> <li>聴覚等に障がいがある人のため、図書等の点訳や音訳、点訳図書等の貸出を行いました。また、手話通訳者や要約筆記者を依頼に応じて派遣しました。</li> </ul>
(3) 社会参加促進及び就労支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人の社会交流を促進するため、地域活動支援センターの運営を支援しました。また、バスやタクシー、入浴施設等で利用できる助成券を交付したほか、通所に係る公共交通費の半額を助成するなどの取組を進めました。</li> <li>障がいのある人の就労を促進するため、資格取得や研修等に要する受講料を助成しました。また、就労支援推進員を配置しました。</li> <li>障がいのある人とない人のノーマライゼーションに係る普及啓発を行うため、社会福祉協議会が主催する「障がい者、高齢者等の自立・社会参加促進事業」の支援を行いました。</li> </ul>
(4) 日常生活基盤の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人が居住しやすい環境を作るため、手すりの設置や段差の解消などに要する住宅改修工事費の一部を助成したほか、除雪サービスを実施しました。また、消防本部へつながる通報機器を設置し、緊急時の連絡手段を確保しました。</li> </ul>
(5) 早期療育体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある子どもが早期から適切な療養を受けることができるよう、相談対応や個別療育指導、集団療育指導などに取り組みました。</li> <li>療育や保育に関わる職員の技術力向上のため、子どもの発達と障がい講座を開催したほか、専門職員実践講座等を開催しました。また、こども園・保育所・幼稚園等とのケース会議などを行い、連携体制の強化に努めました。</li> </ul>
(6) 肢体不自由児者の機能訓練の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>肢体不自由児者の身体機能の維持・向上のため、こども通園センターにおいて機能訓練等を行いました。</li> </ul>

## ②これからの課題

◎千歳市の障がい者手帳の所持者数は年々増加しており、将来的にも増加が続くものと想定されています。

千歳市が障がいのある人に対して行った既往調査では、千歳市が障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思わないと答えた回答者が一定数見られました。このような状況をふまえ、障がいのある人が自らの意思を尊重でき、学校生活や就労も含め、地域で自立した生活を送りやすい環境づくりを進める必要があります。

◎千歳市では近年、精神や知的な障がいのある人が増加傾向にあり、障がいのある人が抱える生活課題は多様化しています。このような状況に対応するため、障がいの種別によらず、身近で一元的な障がい福祉サービスを受けることができる環境が必要です。

◎市民アンケートによると、障がい者（児）の生活支援は比較的満足度が低く、重要度は高いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。今後も国の動向に合わせて、満足度向上のための取組を続けていくことが重要です。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市障がい者計画・第5期千歳市障がい福祉計画・第1期千歳市障がい児福祉計画	H30-R2
------	--	--------

#### 【千歳市障がい者計画・第5期千歳市障がい福祉計画・第1期千歳市障がい児福祉計画（H30.3）における策定のポイント】

- ・障がい者等の自己決定の尊重と意思決定の支援
- ・市町村を基本とした身近な実施主体と障がい種別によらない一元的な障がい福祉サービスの実施
- ・入所等から地域生活移行、地域生活の継続の支援、就労支援等の課題に対応したサービス提供体制の整備
- ・地域共生社会の実現に向けた取組

### b) 統計データ等

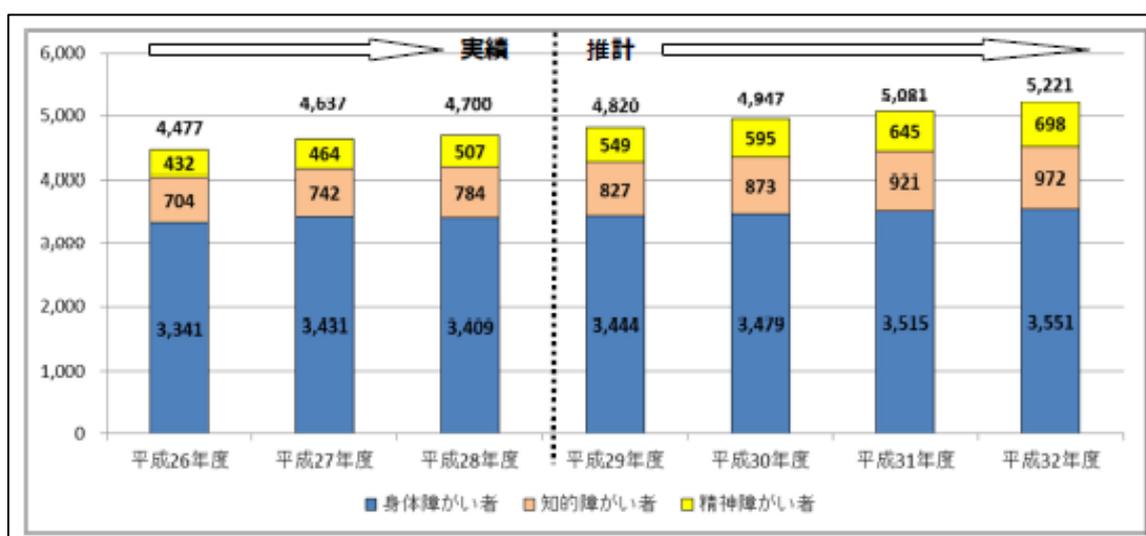


図 2-1-26 障がい者数の将来推計

千歳市障がい者計画・第5期千歳市障がい福祉計画・第1期千歳市障がい児福祉計画

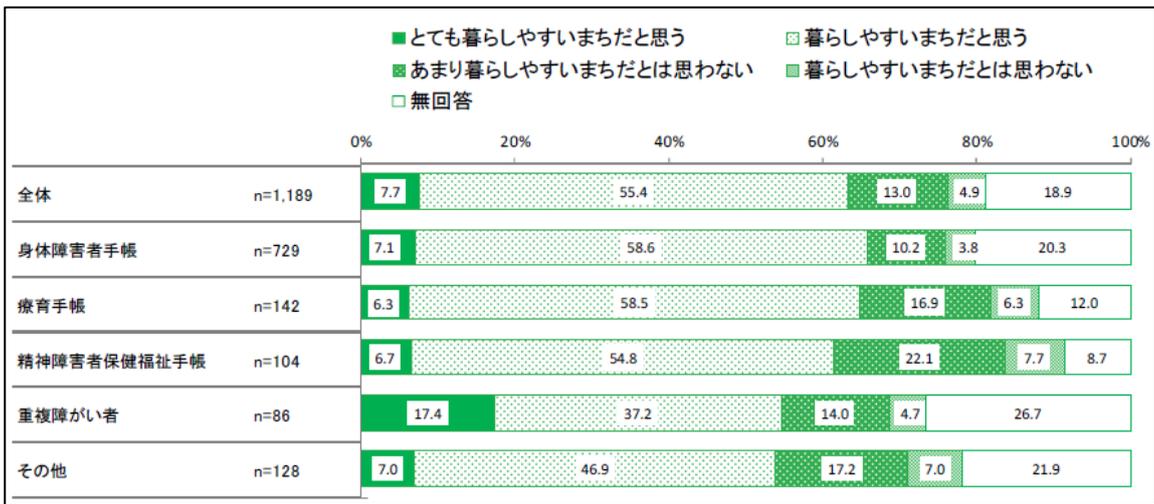


図 2-1-27 千歳市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思ふか

千歳市障がい者計画・第5期千歳市障がい福祉計画・第1期千歳市障がい児福祉計画

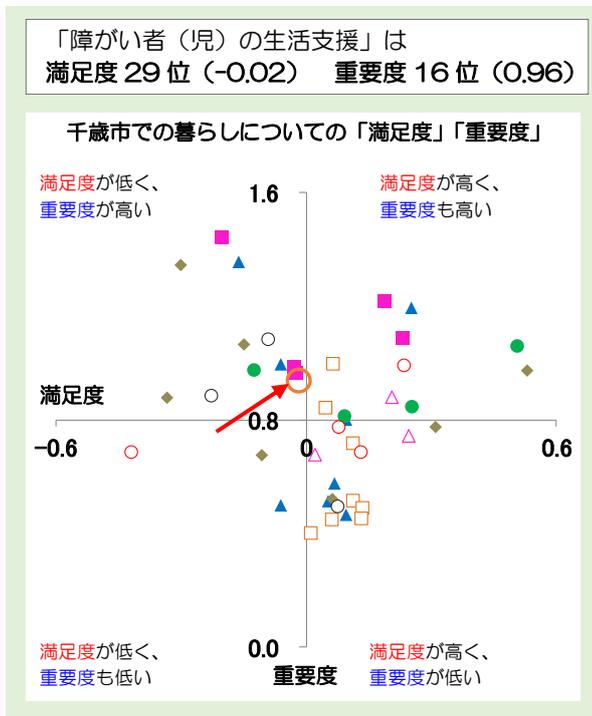


図 2-1-28 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

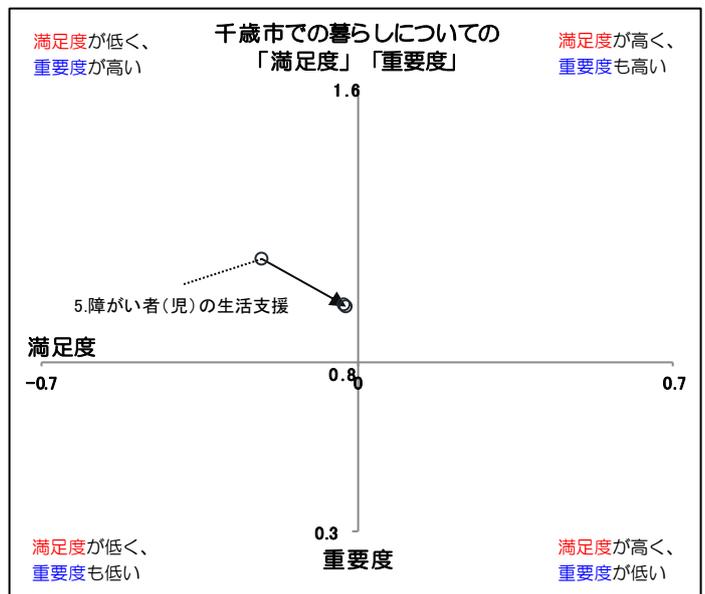


図 2-1-29 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・車イスで町の中を歩くときに、危険がとても多い。
- ・障がい者の自立支援について、当事者の意見が反映される体制づくりをしてほしい。

(6) 子育て支援の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 児童福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世帯の経済的負担を軽減するため、3歳未満の乳幼児を養育している世帯に対し、紙おむつ処理用のごみ袋を支給しました。また、市内に居住する小学生までの子どもを持つ保護者に医療費の一部を助成しました。</li> <li>・地域全体による子育て支援を進めるため、市内の店舗等の協力を得て、子育て家庭に対し商品割引等の特典サービスを提供しました。</li> <li>・妊婦及びその家族、子ども（概ね18歳まで）及び子育て家族を対象として、切れ目のない相談支援や子育てに関するアドバイスを行うため、各期に応じた支援プランを作成し、子育て支援サービスの利用を促しました。また、産前産後に関する来庁相談および家庭訪問による産後ケアサービスを提供しました。</li> <li>・家庭児童相談室を設置し、家庭内における養育などの問題に対し家庭児童相談員が専門的な対応を行いました。</li> <li>・要保護児童地域ネットワーク協議会と連携しながら、要保護児童等の早期発見や適切な対応に努めました。</li> <li>・保護者の病気などの理由により、家庭において児童の養育が一時的に困難な世帯を対象として、養護施設において短期間預かる取組を行いました。</li> <li>・「千歳市子育てガイド」の見直しを行うなど、子育て支援に係る情報提供に努めました。</li> <li>・市の多目的バスを活用し、子育て関連施設等の巡回見学を行いました。また、公立子育て支援センターで親子交流の機会を提供しました。</li> </ul>
(2) ひとり親家庭の支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとり親家庭が自立に必要な情報提供や、相談指導及び資金貸付等の経済的支援を行ったほか、就業支援の取組を行いました。</li> </ul>
(3) 地域子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子育て支援センター（児童館型7か所を含む）を拠点として、子育ての相談や親子同士の交流などの取組を進めました。</li> <li>・ちとせ子育てコンシェルジュを複数名配置し、子育て相談に応じるとともに、希望者の家庭に定期的な訪問支援を行いました。</li> <li>・子育て中の親子が参加できるイベントや子育て講座を開催しました。</li> </ul>
(4) 児童の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1年生から6年生までの留守家庭児童を対象とする学童クラブ事業を実施し、適切な生活と遊びの場を提供することで、健全な育成に努めました。また、北陽小学校区及び緑小学校区の児童増加に対応するため、専用施設を建設しました。</li> <li>・児童館において、18歳未満の子どもを対象とした各種行事を実施しました。また、児童の居場所づくりとして、学童クラブ待機児童対策とした「ランドセル来館事業」などの各種事業を実施しました。</li> <li>・学校施設を活用した児童の活動の場として、小学校の長期休み時に、学校の協力を得て、学童クラブを利用する児童が小学校の校庭やプールを使用しました。</li> </ul>
(5) 保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認可外保育所に対する運営支援を行いました。</li> <li>・全保育施設で延長保育を実施したほか、障がい児保育や一時預かり保育の拡充を行い、保育環境の充実に努めました。</li> <li>・ファミリーサポートセンター事業等と連携し、地域の中で助け合いながら子育てを支援できる体制の構築に努めました。</li> </ul>

## ②これからの課題

◎千歳市の人口は増加している一方で、全国や北海道の傾向と同様に少子化が進んでいる状況にあります。また、市民アンケートによると、子育ての環境や支援は比較的満足度が高く、重要度も高いと評価されており、満足度も上昇傾向となっていますが、関連計画において実施した既往調査では、子育てに対して不安や負担を感じる親が一定数いることを確認しています。今後も、妊娠から出産、子育てまで状況の変化に応じて必要な支援を受けることができる社会づくりが必要です。

◎女性の就労増加や核家族化等により保育ニーズが増加し、全国の都市部を中心に待機児童問題が生じています。千歳市においても待機児童は発生していないものの、保育ニーズは増加しており、平成31年10月から予定されている幼児教育・保育の無償化をふまえ、今後は、親の就労状況によらずすべての子どもが質の高い保育や教育を受けることができる環境づくりを進めていくことが重要です。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	第3期千歳地域福祉計画	H27-R1
	第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画	H27-R1

#### 【第3期千歳地域福祉計画（H27.3）における策定のポイント】

- ・ 社会の変化への対応（すべての世代がその能力に応じて相互に支えあう仕組みの構築）
- ・ 社会保障制度改革（家族相互及び国民相互の助け合いの実現を支援していくこと、社会保障の機能の充実と給付の重点化、運営の効率化などによる持続可能な制度の実現等）
- ・ 生活困窮者自立支援制度による既存制度の隙間を埋める施策（社会保険制度・労働保険制度と生活保護制度の中間にあって、生活困窮者の自立を支える機能を発揮する制度の導入）

#### 【第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画（H27.3）における策定のポイント】

- ・ 急速な少子化の進行、核家族化や高齢化、地域での人間関係の希薄化などにより、家庭や地域での子育て力が低下
- ・ 子ども・子育て支援新制度への対応

### b) 統計データ等

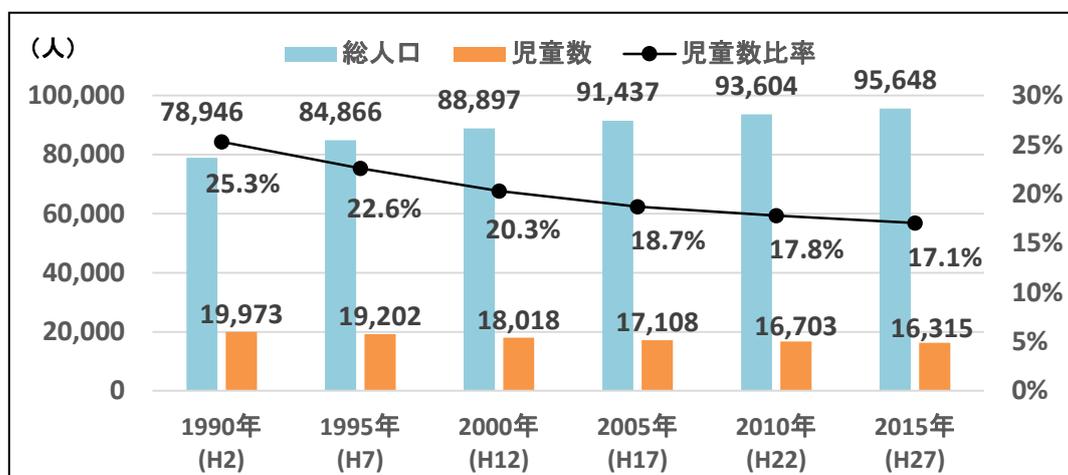


図 2-1-30 総人口と児童数（0～17歳）・児童数比率

国勢調査

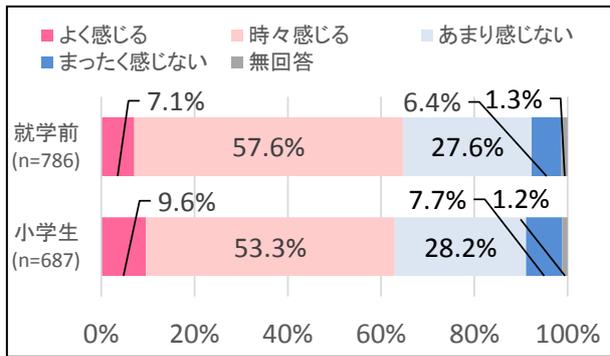


図 2-1-31 子育てをしていて感じること  
(子育てに不安や負担を感じる)  
千歳市子ども・子育て支援アンケート  
調査結果報告書【平成 26 年 3 月】

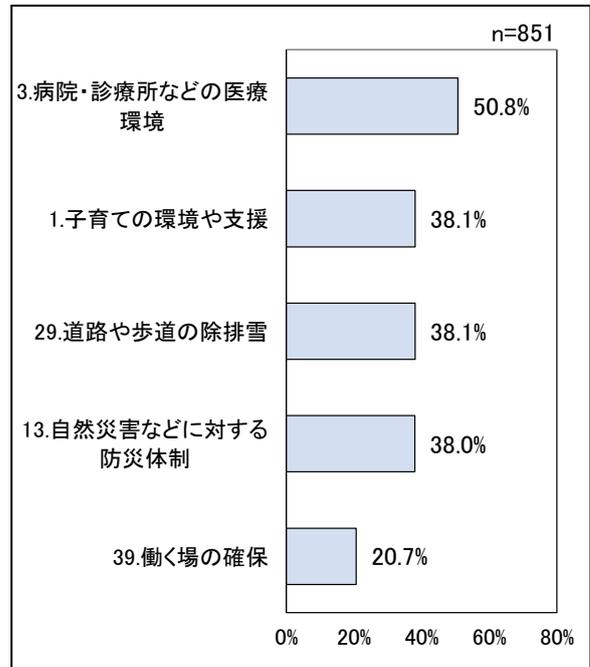


図 2-1-32 千歳市のまちづくりにおいて特に重要だと思う項目 (上位 5 項目を抜粋)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

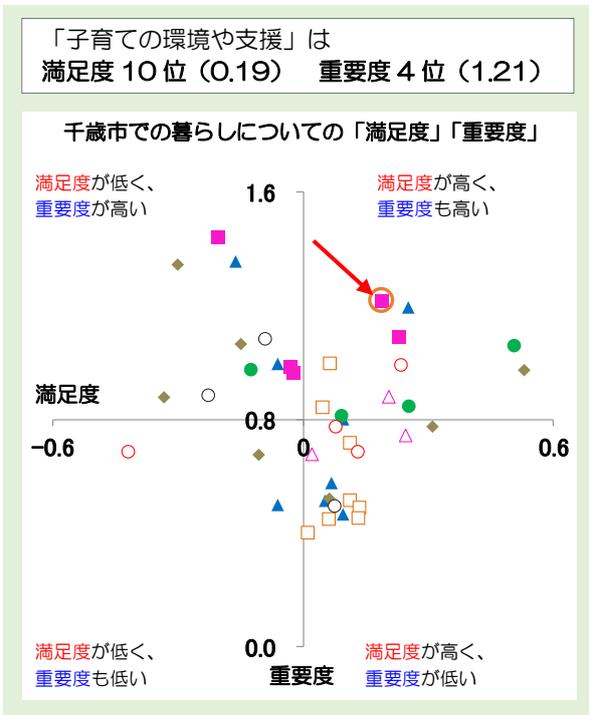


図 2-1-33 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

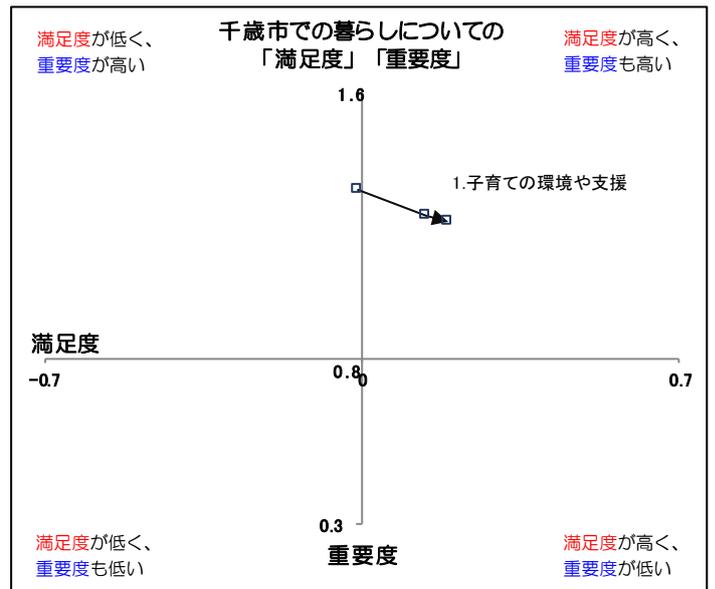


図 2-1-34 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・ 子供も多いまちなので、おむつ替えや授乳などができる環境を増やしてほしい。
- ・ 以前住んでいた土地では、支援センターにボランティアとして近くのお年寄りが子どもと遊びに来てくれており、良い世代交流だと感じた。千歳市にも同じような仕組みがあると良い。
- ・ 支援センターへ遊びに行ってもママ同士が話せるような感じになっていない。引っ越してきたばかりなので寂しい。
- ・ 情報発信をもっと充実するほか、ひとり親家庭の親が安心して、生活の様々なこと（子育て、保健、医療、車や家のメンテナンスなど）を相談できるような窓口がほしい。また、親同士で交流できる場がもっとあれば、日常生活でのストレスや不安も取り除けると思う。

(7) 市民生活の安定

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 低所得者の福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活保護システムの導入によるケース管理や、保護の開始、変更、廃止等にあたりケース診断会議を開催し、組織的に審査検討を行うなど、生活保護制度の適正な実施に努めました。</li> <li>生活保護者の自立を支援するため、各ケースワーカーによる就労支援と並行し、生活保護受給者等就労自立促進事業及び就労支援プログラムを実施しました。</li> <li>生活困窮者の生活相談を受け、個々の実情に応じた適切な助言を行うとともに、生活困窮者の自立支援プランの作成、就労支援など、生活困窮者自立支援事業の実施に努めました。</li> <li>ボランティアの協力のもと、「ちとせ学習チャレンジ塾」を開催し、生活困窮世帯の子どもに対する学習支援を行いました。</li> </ul>
(2) アイヌの人たちの福祉の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>アイヌの人たちの福祉の向上に寄与している千歳アイヌ協会の活動を支援しました。</li> <li>生活館に生活相談員や管理人を配置し、施設機能の充実に努めました。</li> <li>国や道の動向や制度改正など、アイヌに関する情報収集を行いました。</li> </ul>
(3) 国民年金制度の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>国民年金制度に関する各種相談を受け付けたほか、広報紙や窓口での資格取得時の説明を通じて保険料免除の周知を図りました。</li> </ul>
(4) 国民健康保険事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>疾病を早期に発見し、重症化を防ぐとともに被保険者の健康意識の高揚を図るため、特定健康診査を実施しました。また、がん検診等の検診費用の助成を行ったほか、健康まつり等の健康保持増進事業を実施しました。</li> <li>保険料の適正な賦課や、戸別督促及び電話督促等の実施を行い、収納率の向上に努めました。</li> </ul>
(5) 高齢者医療制度の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>加入時の説明や広報活動などにより、高齢者医療制度の普及・啓発に努めました。</li> <li>口座振替の実施を促したほか、督促告書の送付、納入訪問督促などを行い、後期高齢者医療保険料の収納率向上に努めました。</li> </ul>
(6) 消費生活の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 28 年度に消費生活相談室を消費生活センターに改め、相談員の身分の確立を図るなど相談体制の充実に取り組んだほか、悪質商法や生活物品の不当価格販売などの行為から消費者の保護に努めました。また、高度化・専門化する相談に対応するため、弁護士相談、法テラスへの紹介や道消費者センターなどとの連携を進めました。</li> <li>消費者教育を充実させるため、消費者まつりにおいて各種情報提供を実施しました。また、広報紙のほか、消費生活ホームページを新たに開設し、悪質商法やなりすまし詐欺防止などの啓発を実施しました。</li> <li>消費者保護に係る担い手育成のため、千歳消費者協会の支援を行いました。</li> </ul>
(7) 市民相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上のあらゆる相談に対応するため、法律相談や弁護士相談などの市民相談事業を行いました。</li> </ul>

## ②これからの課題

- ◎生活保護世帯を対象に、ケースワーカーなどが主体となって行ってきた就労支援等の取組により、生活保護の受給をやめ、自立する世帯はわずかながら増加傾向にあります。その一方、高齢者の受給世帯は増加傾向にあることから、今後も、世帯の実情や生活ニーズに応じた自立支援のほか、制度の普及・啓発に係る取組を続けていく必要があります。
- ◎アイヌの人たちに対しては、これまで住宅に係る資金貸付、生活相談員による相談対応、国や道の制度改正などに係る情報提供を行ってきました。今後もこれらの取組を継続し、安心して生活できる環境を作っていくことが重要です。
- ◎適切な滞納処分等の執行などにより、国民健康保険料収納率の向上を図っています。その一方で、医療技術の高度化などの影響により、被保険者1人あたりの医療費は増加傾向にあります。今後も医療費の適正化を図り、事業運営の健全化に努めていく必要があります。
- ◎誰もが安全で質の高い消費生活を送ることができるよう、消費生活センターなどを中心とした相談対応を進めてきました。市民アンケートによると、消費生活の情報提供、相談は比較的満足度が低く、重要度も低いと評価されており、重要度も低下傾向にあります。SNSの普及や消費生活のグローバル化の進展に伴い、消費者トラブルは多様化する傾向にあります。今後もこれらのトラブルから消費者を守るため、被害を未然に防ぐための取組を充実していく必要があります。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市高齢者保健福祉計画・第7期千歳市介護保険事業計画	H30-R2
	第3期千歳地域福祉計画	H27-R1

#### 【千歳市高齢者保健福祉計画・第7期千歳市介護保険事業計画（H30.3）における策定のポイント】

- ・地域包括ケアシステムの深化・推進及び介護保険制度の持続可能性確保

#### 【第3期千歳地域福祉計画（H27.3）における策定のポイント】

- ・社会の変化への対応（すべての世代がその能力に応じて相互に支えあう仕組みの構築）
- ・社会保障制度改革（家族相互及び国民相互の助け合いの実現を支援していくこと、社会保障の機能の充実と給付の重点化、運営の効率化などによる持続可能な制度の実現等）
- ・生活困窮者自立支援制度による既存制度の隙間を埋める施策（社会保険制度・労働保険制度と生活保護制度の中間にあって、生活困窮者の自立を支える機能を発揮する制度の導入）

### b) 統計データ等

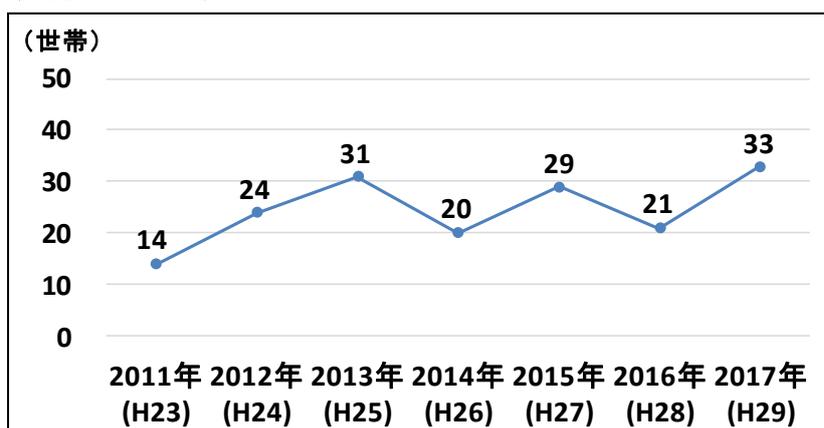


図 2-1-35 生活保護自立世帯数の推移

千歳市行政評価結果

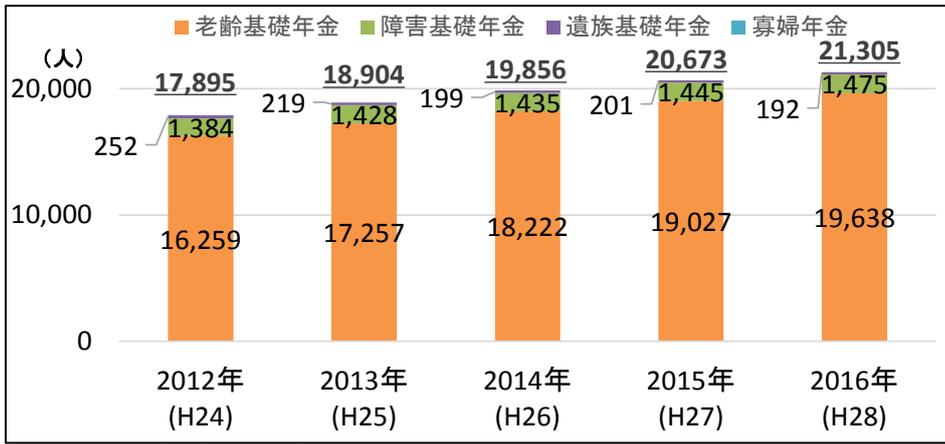


図 2-1-36 基礎年金受給者数（新法）の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

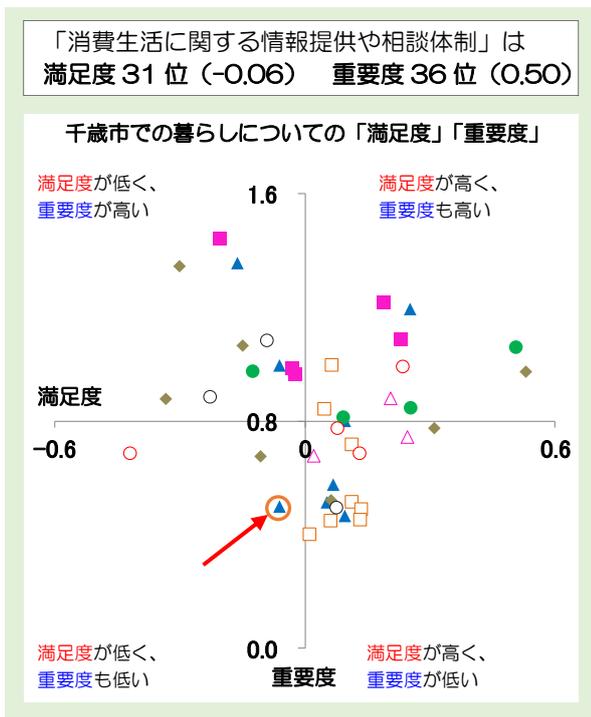


図 2-1-37 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

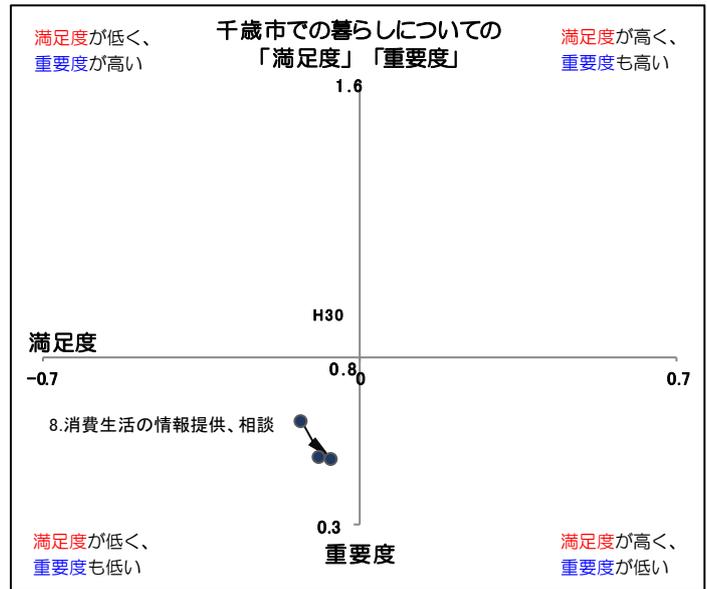


図 2-1-38 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(8) 男女共同参画社会の実現

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 男女共同参画の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の男女共同参画意識の醸成を図るため、ちとせ男女共同参画月間における街頭啓発やセミナー、パネル展、小学6年生を対象とした標語コンクールや学習資料の配布を行いました。</li> <li>・男女共同参画社会の実現を図るため、ちとせ男女平等推進会議を設置し、計画推進のための研究協議を行いました。また、ちとせ男女共同参画推進ねっと会議による情報交換や、月間事業を実施しました。</li> <li>・男女共同参画社会の形成に向けて、ちとせ男女共同参画推進スタッフによる情報交換やセミナー等の企画・運営を行ったほか、男女共同参画環境づくりセミナーを実施しました。また、市の附属機関等への女性参画拡大を図るとともに、父子健康手帳発行による男性の家庭生活への参画を促しました。</li> </ul>
(2) 女性の権利侵害の防止と問題解決への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みや問題を抱える女性の自立に向け、女性相談員を設置し、相談者への対応を行いました。また、DV被害者対応マニュアルに基づき、関係部署や警察、一時保護施設との連携による安全の確保と自立支援に努めました。</li> <li>・女性相談に関するパンフレットを公共施設等々に配置し周知を図りました。</li> </ul>

②これからの課題

◎市民アンケートによると、男女が等しく社会参加できる環境づくりは、比較的満足度が高く、重要度が低いと評価されていますが、満足度・重要度ともに上昇傾向にあります。

成熟型のより魅力ある都市を作っていくためには、男女が性別によらず個性と能力を十分に発揮できる環境を作っていくことが重要です。男女があらゆる分野で活躍できる社会を作るためには、男女共同参画意識の醸成を促進するとともに、女性が意思決定の場に参画しやすい機運を作り、様々な局面で女性の目線を取り入れていくことが重要です。

◎女性の社会参加について、千歳市内の女性の就業状況をみると、結婚等に伴う一時的な離職などが原因となり、20～30代の就業率が低い傾向にあります。一方、千歳市の既往調査では、子育て後に再び仕事をもちたいと考えている女性が一定数いることから、このような女性が仕事に就きやすい環境を整備していくことが必要です。

◎暴力は重大な人権侵害であり、被害者の多くは女性です。18歳以上の女性市民における相談者の割合は減少傾向ですが、配偶者等から暴力を受けるドメスティックバイオレンス（DV）の相談は増加傾向であるため、関連部署間や警察等との連携を強化し、これらの相談に適切に対応できる体制づくりを進めていくことが必要です。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	第3次ちとせ男女共同参画推進プラン	H29-R8
------	-------------------	--------

【第3次ちとせ男女共同参画推進プラン（H29.3）における策定のポイント】

- ・男女が対等なパートナーとして認めあい尊重し、支えあえる男女共同参画社会の実現（男女が共に支えあう意識づくり、家庭づくり、職場づくり、地域づくり等）

b) 統計データ等

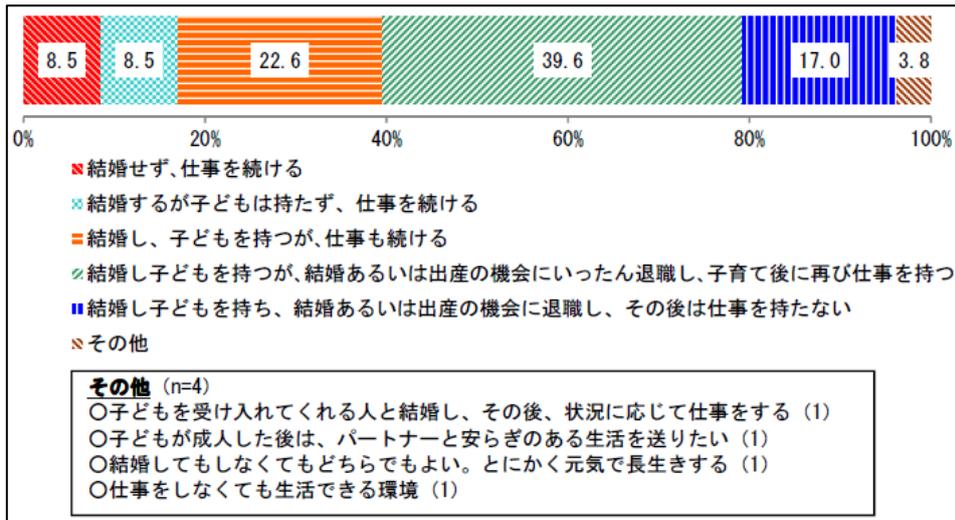


図 2-1-39 理想とする人生 平成 27 年 市民の結婚・出産・子育てに関する意識調査

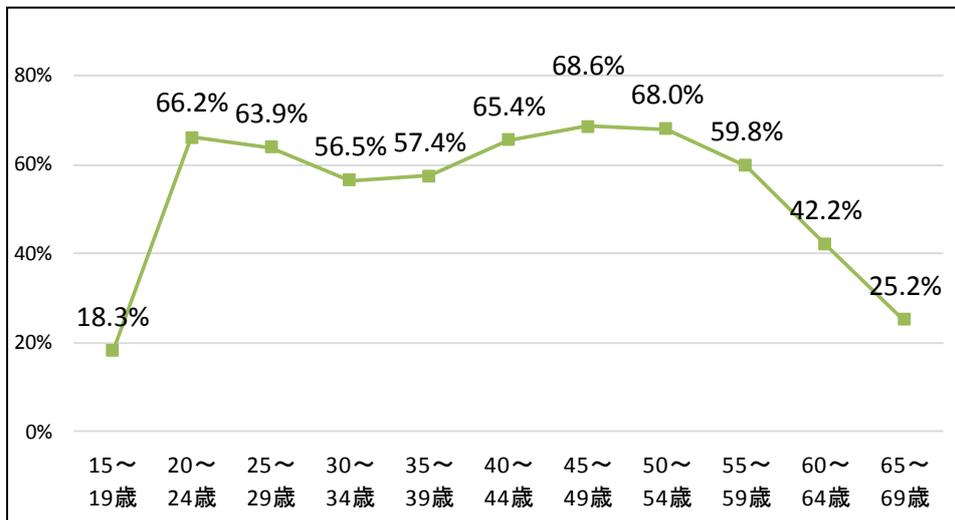


図 2-1-40 千歳市における女性の年代別就業率 平成 27 年 国勢調査

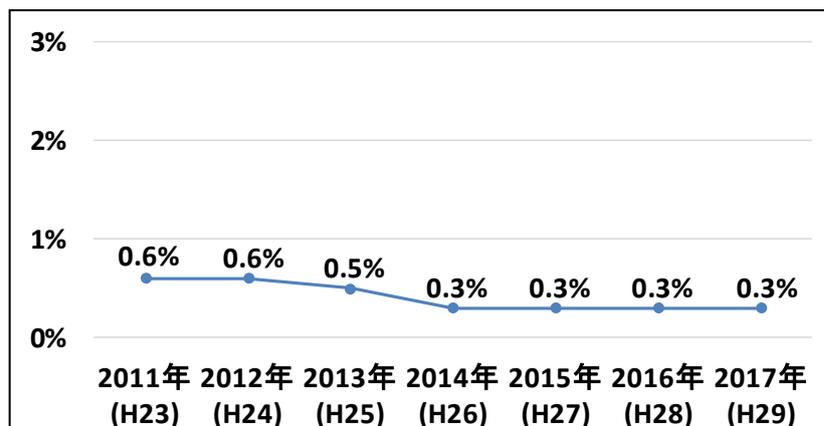


図 2-1-41 18 歳以上の女性市民における相談者の割合 千歳市行政評価結果

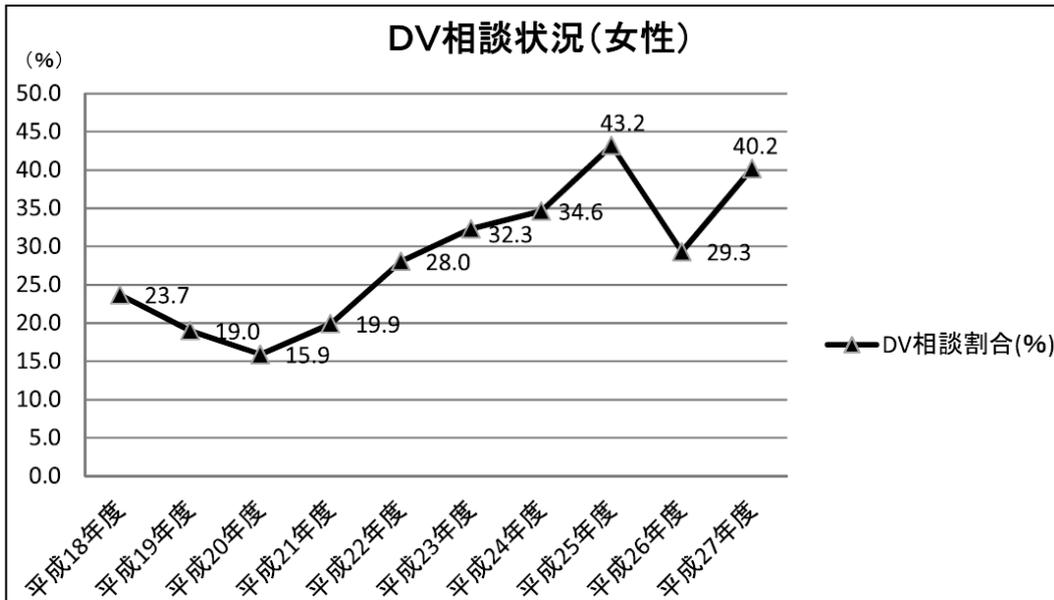


図 2-1-42 DV 相談状況 (女性)

資料：市民生活課

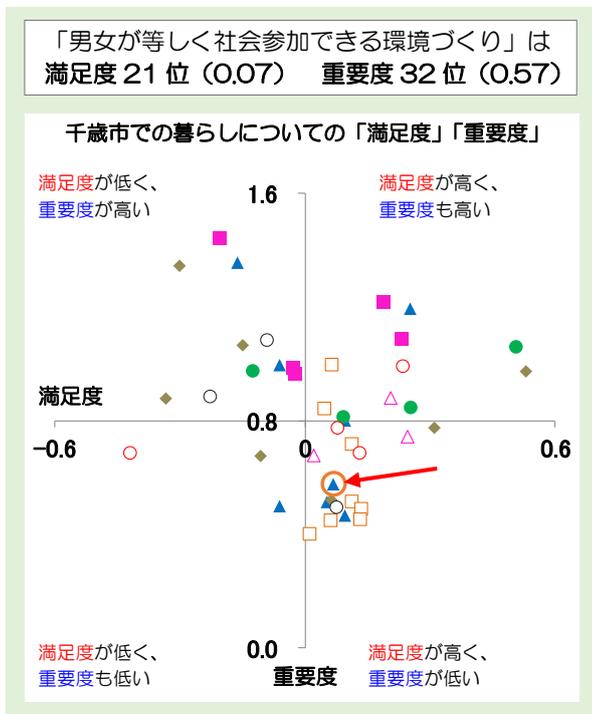


図 2-1-43 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

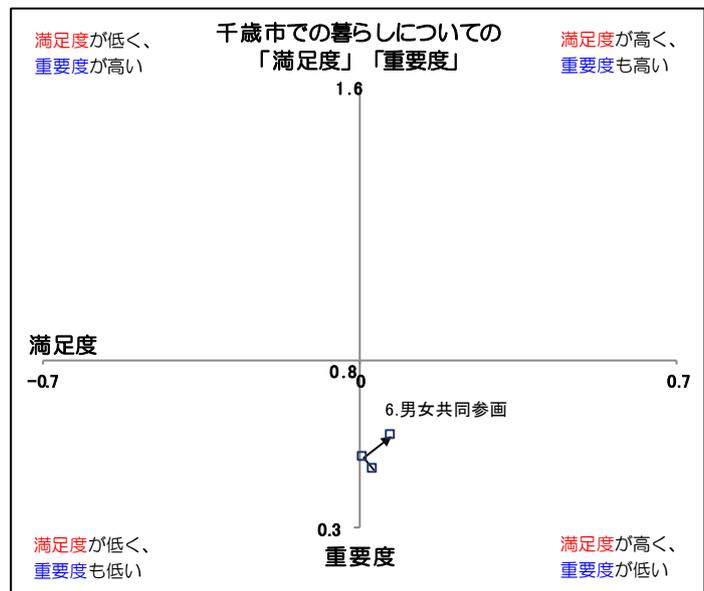


図 2-1-44 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(9) 心のふれあうコミュニティづくり

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 活力ある コミュニティ 組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会連合会の運営支援や町内会館の建設支援を行うなど、地域の自主活動の中心となる町内会活動の健全育成に努めました。</li> </ul>
(2) コミュニ ティ活動の促 進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民憲章の普及活動を行いコミュニティ意識の高揚に努めたほか、町内会等、地域コミュニティ団体の備品購入に係る助成等を行い、活動の活性化を図りました。</li> <li>・コミュニティ施設の機能を維持・向上するため、耐震改修やバリアフリー等の整備を進めました。また、人口動向等に応じた適正配置を図るため、新たなコミュニティ施設設置について検討を行いました。</li> </ul>
(3) 移住・定 住の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のホームページに「移住情報」ページを開設し、仕事、住まい、子育て等の情報を提供するとともに、首都圏等の移住相談会や電話等による移住相談の問合せに対応しました。</li> <li>・婚姻数や出生数の増加を目的に、婚活パーティー等を行いました。</li> <li>・安心して子どもを産み育てることのできる環境を作るため、不妊治療費の一部助成や父子健康手帳の発行、各種子育て支援イベントを開催したほか、子育て特典カード事業を推進しました。</li> <li>・働く場の拡大を図るため、国内企業対象の立地動向調査を実施し、調査結果に基づく積極的なPR活動等により企業誘致を推進しました。また、市の工業団地や住宅団地の分譲・維持管理を進めるとともに、住宅支援制度を紹介し、市内の物件を取り扱っている問い合わせ先を案内するなど、住宅に関する様々な相談にも対応しました。</li> <li>・既存の住宅ストックを有効に活用するため、「千歳市空き家・空き地情報」をホームページにより情報提供しました。</li> <li>・学生や若い世代が住みたくなる施策を検討するため、市民が主体となって運営する企画会議を設置し、ワークショップ等の実施により現状や事業効果について検討しました。</li> <li>・市内の交流人口を拡大するため、観光資源に関する情報発信を行い、物産の販売など各種イベントを実施しました。また、観光客等を市内に回遊させる仕組みを作るため、首都圏の観光プロモーションや観光展示会、商談会等において、千歳の魅力を広くPRしました。</li> </ul>

## ②これからの課題

- ◎地域コミュニティの重要な担い手である町内会の加入世帯数は、年々減少傾向にありましたが、近年は横ばい傾向になっています。また、町内会においては役員の高齢化などによる担い手不足も深刻な問題となっており、まちづくり団体アンケートにおいてもその様子が見られています。一方、市民アンケートによると、町内会活動などのコミュニティ活動は比較的満足度が高く重要度が低いと評価されていますが、地域活動やボランティアに参加したいと考えている学生も一定程度見られます。このような状況をふまえ、今後も引き続き町内会への加入促進の取組を進めるとともに、若者がまちづくりに参加しやすい仕組みを作り、新たな人材を発掘・育成していく必要があります。
- ◎まちづくり活動の拠点となる地域のコミュニティ施設について、公共施設等総合管理計画に基づき、地域のニーズをふまえながら計画的な修繕・改善などを進めていくことが重要です。また、新たに整備するコミュニティ施設については、地域の特性に応じ、必要となる機能の検討を進めていく必要があります。
- ◎千歳市では、令和2年度の人口97,000人を目指して人口増加の維持を図るための様々な取組を進め、平成30年4月に目標を達成しました。また、近年は転入超過の状況がみられるほか、市民アンケートにおいても多くの方が市内に住み続けたいと回答しています。このため、引き続き定住したいと思える環境づくりを進めるとともに、市外に居住する方や観光で本市を訪れる方にとって魅力あるまちづくりを進めていく必要があります。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	第3期千歳地域福祉計画	H27-R1
	千歳市住宅マスタープラン（改訂版）	H24-R3
	千歳市人口ビジョン・総合戦略	H27-R2

### 【第3期千歳地域福祉計画（H27.3）における策定のポイント】

- ・社会の変化への対応（すべての世代がその能力に応じて相互に支えあう仕組みの構築）
- ・社会保障制度改革（家族相互及び国民相互の助け合いの実現を支援していくこと、社会保障の機能の充実と給付の重点化、運営の効率化などによる持続可能な制度の実現等）
- ・生活困窮者自立支援制度による既存制度の隙間を埋める施策（社会保険制度・労働保険制度と生活保護制度の中間にあって、生活困窮者の自立を支える機能を発揮する制度の導入）

### b) 統計データ等

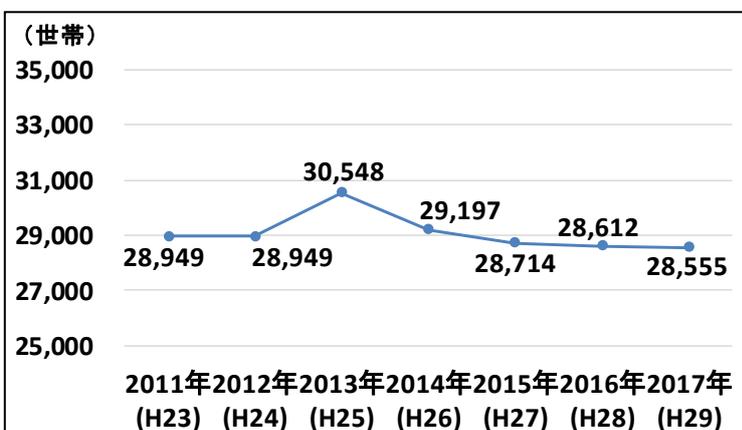


図 2-1-45 町内会加入世帯数の推移

千歳市行政評価結果

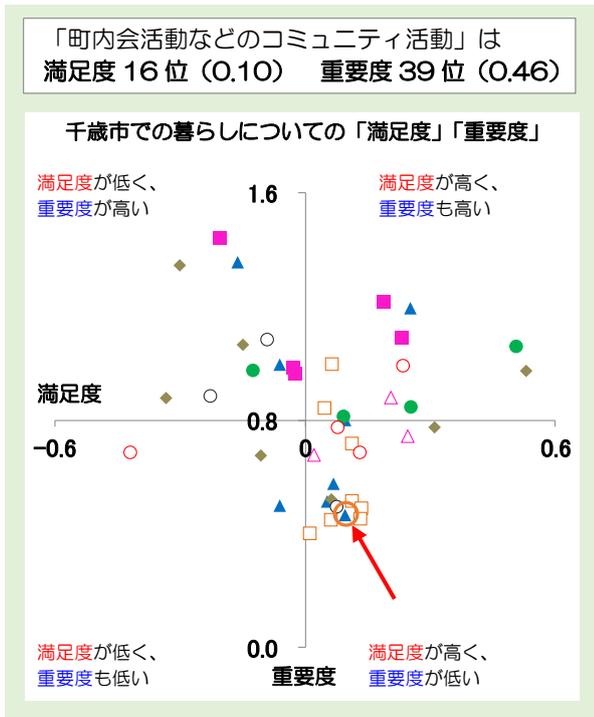


図 2-1-46 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

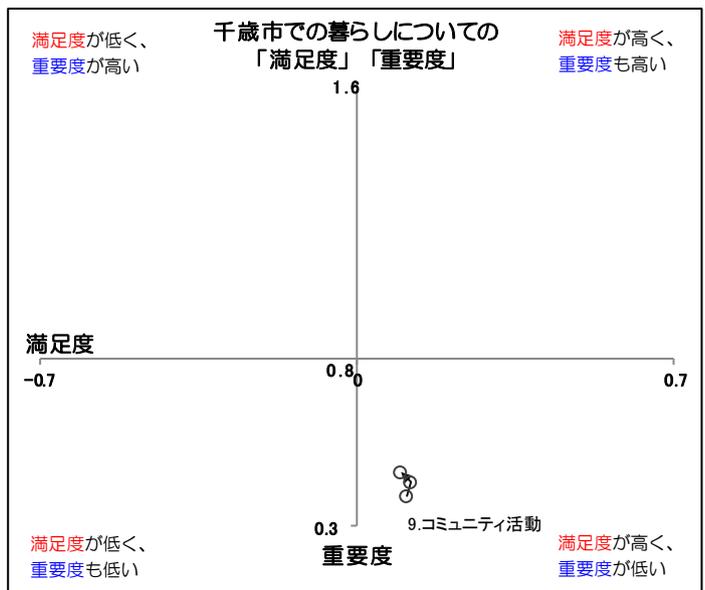


図 2-1-47 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

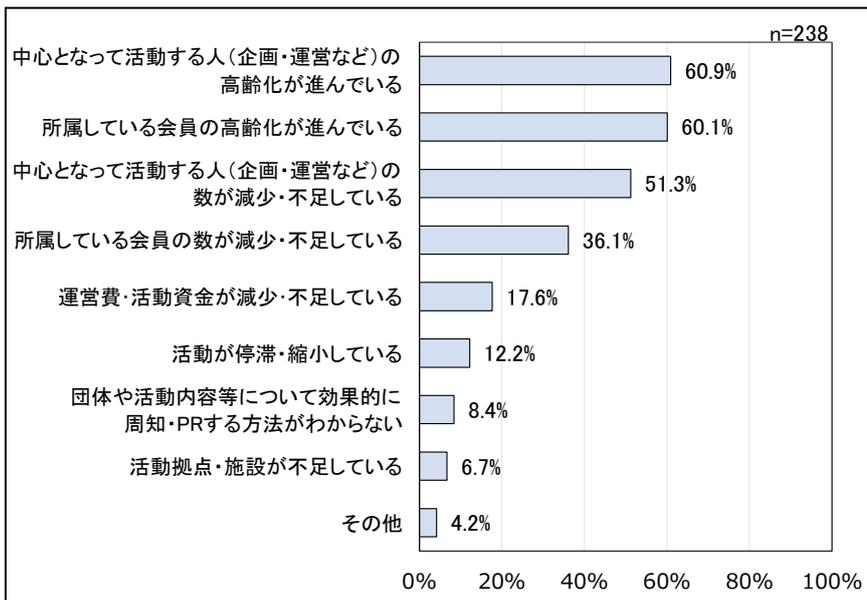


図 2-1-48 団体活動で困っていること  
平成 30 年 千歳市まちづくり団体アンケート

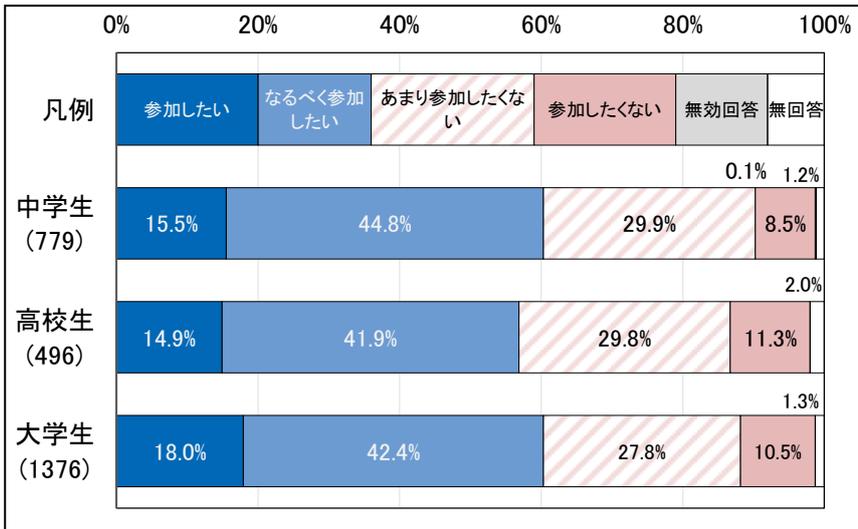


図 2-1-49 地域活動やボランティアへの参加意向  
平成 30 年 千歳市学生まちづくりアンケート

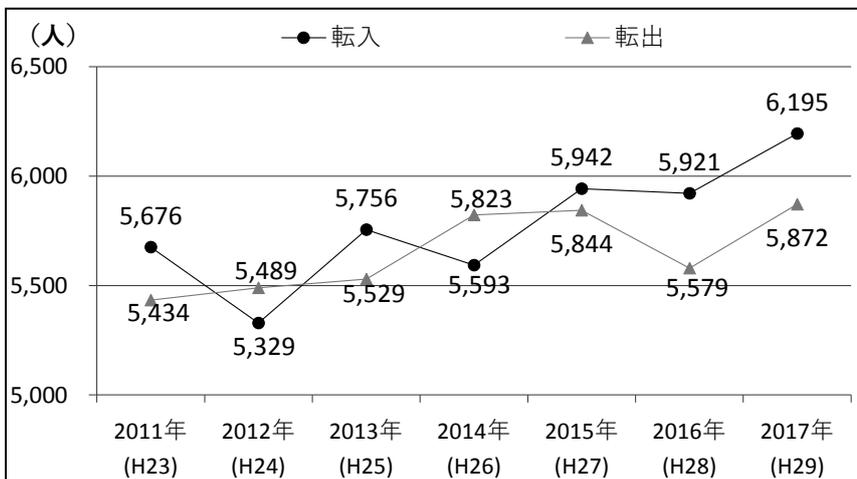


図 2-1-50 転出入者数の推移  
住民基本台帳

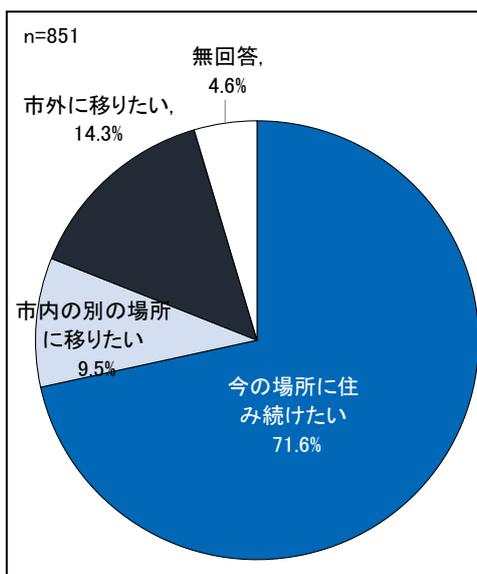


図 2-1-51 今住んでいる場所への定住意向  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

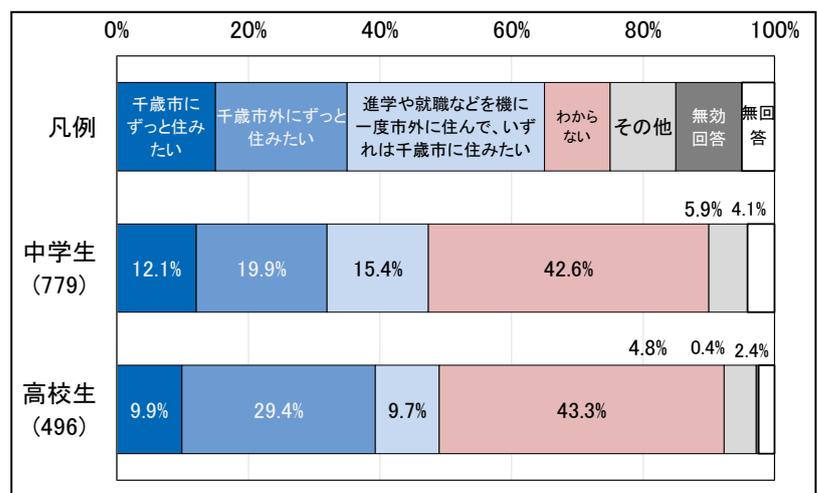


図 2-1-52 将来の定住意向  
平成 30 年 千歳市学生まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・市民が集える場所をもっと増やし、コミュニケーションをとれるようにしてはどうか。
- ・子供と高齢者が一緒になってつどえる場所があると良い。
- ・例えば、災害時は隣近所の単身世帯と声を掛け合う旨のアナウンスがあると良い。このようなところから近所づきあいをしていけば、より良いまちになると思う。
- ・町内会の役割を見直して、全世帯加入を目指すべきだと思う。町内回覧は何に使われているのか説明して、理解を得るべき。
- ・小中学校区程度のコミュニティの住民自治（生涯学習、青少年健全育成、福祉、健康づくり、防災など）によるまちづくりを進める必要がある。
- ・移住者増加に向け、雪の少ない街をアピールして、本州からの夏期間限定の居住者を誘地してはどうか。

#### 【大学生アンケート】

- ・居住環境が子育てに向いているということや、生活のしやすさ、空港が近いことなどをPRしてもらえると検討しやすい。
- ・住み替える際、近所の環境はとても大事だと思います。どのような人間関係なのか、どのような町内会なのかなどをリサーチしていただけるような支援があればありがたい。
- ・空き家や中古住宅、周辺地域の情報提供を充実させるなど、住宅を購入しやすい制度環境づくりを望みたい。
- ・住む場所、住むための予算などについて、市役所に相談できる環境があると良い。
- ・住み替え後の地域とのコミュニケーションについて、サポートがあると安心できる。

## 2-2. 人と地球にやさしい環境のまち

### (1) 地球環境保全の推進

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 低炭素社会形成の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮行動の啓発を行うため、国が実施している気候変動キャンペーン「Fun to share」や「COOL CHOICE」の普及啓発を実施しました。また、環境月間・環境イベントにおいて、エコドライブ等のパネル展やソーラークッカー等の展示を実施したほか、エコ通信（年5回発行）により、「ECO ちとせ」認定事業者の環境保全活動の情報発信を行いました。</li> <li>エネルギー管理のため、千歳市役所環境マネジメントシステム（エコアクション）により、省エネルギーと温室効果ガス削減の取組を行いました。なお、市民にも省エネに関する取組を進めてもらうため、電力や水道等の使用量を記録し、二酸化炭素の排出状況を把握する「千歳市環境モニター」を実施しました。</li> </ul>
(2) 環境にやさしいエネルギー活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー普及のための取組として、一般住宅における太陽光発電システムの設置補助を実施したほか、環境基本計画（第2次計画）に沿った新エネルギー導入推進のため、省エネルギー機器の設置等について補助を行いました。なお、この取組については、目標とする設置件数を達成し、一定程度の普及を図ることができたことから平成29年度をもって終了としております。また、環境関連行事で環境に配慮した自動車やエコドライブの普及啓発等を実施しました。</li> </ul>

#### ②これからの課題

- ◎地球温暖化をはじめとする地球環境問題は、人口増加や経済の発展に伴うエネルギー・食糧の大量消費や農用地の転換による森林減少など、人間活動が大きく影響しています。
- 千歳市では、家庭における太陽光発電システムの導入促進や公共施設のエネルギー消費の低減を推進するなど、低炭素化のための取組を進めており、市内の温室効果ガスの排出量は順調に減少を続けています。
- 市民アンケートによると、地球環境の保全に対する取組は比較的満足度が高く、重要度も高いと評価されており、満足度には上昇傾向が、重要度には低下傾向がみられます。
- 2015年（H27）のパリ協定採択や、それを受けた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されるなど、地球環境を取り巻く国際的な取組が大きく変化していくなか、今後も引き続き、市民、行政、事業者が連携して低炭素化社会の実現に向けた取組を進めていくことが重要です。
- ◎また、低炭素化社会の実現に向けては、省エネルギー化に加えて再生可能エネルギーの利用など、エネルギー転換を進めていくことも重要です。今後も引き続き、バイオマスや水素エネルギー等の新エネルギー導入に向けた検討を進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市環境基本計画	H23-R2
------	-----------	--------

b) 統計データ等

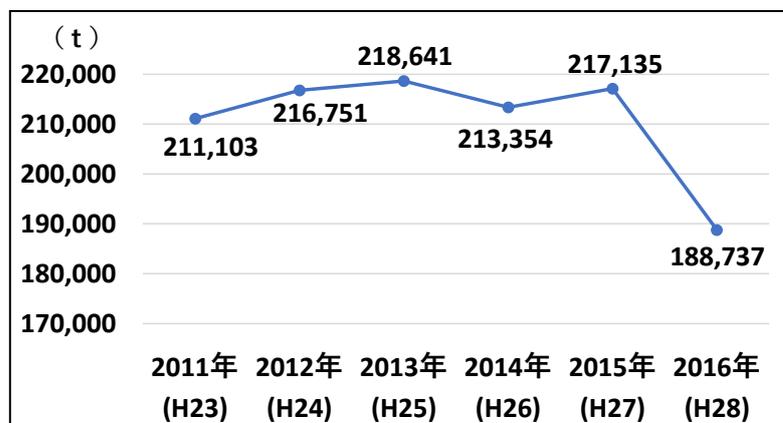


図 2-2-1 地域の温室効果ガスの排出量の推移 千歳市行政評価結果

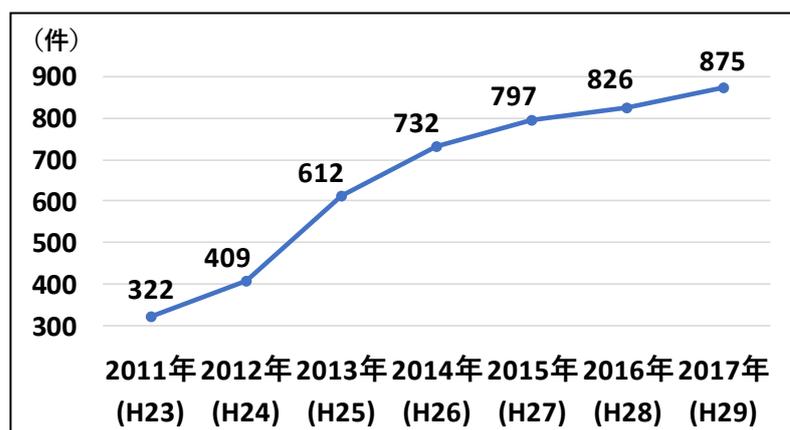


図 2-2-2 住宅用太陽光発電設備等設置件数（累計）の推移 千歳市行政評価結果

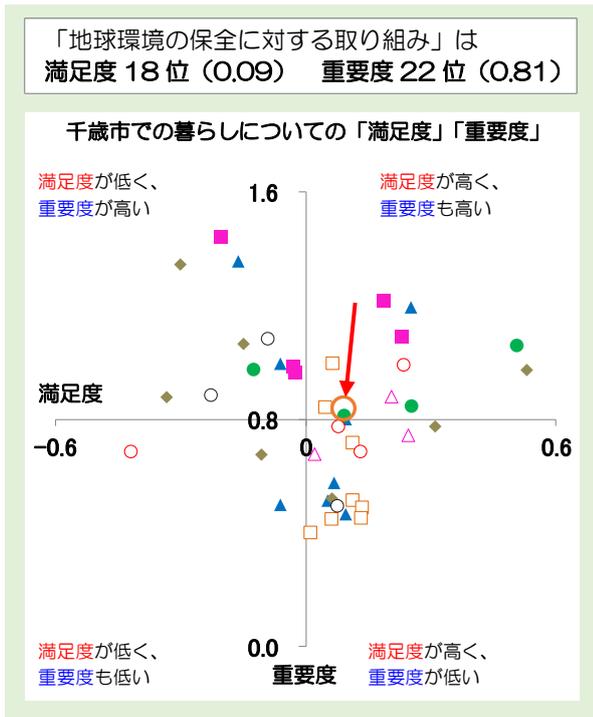


図 2-2-3 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

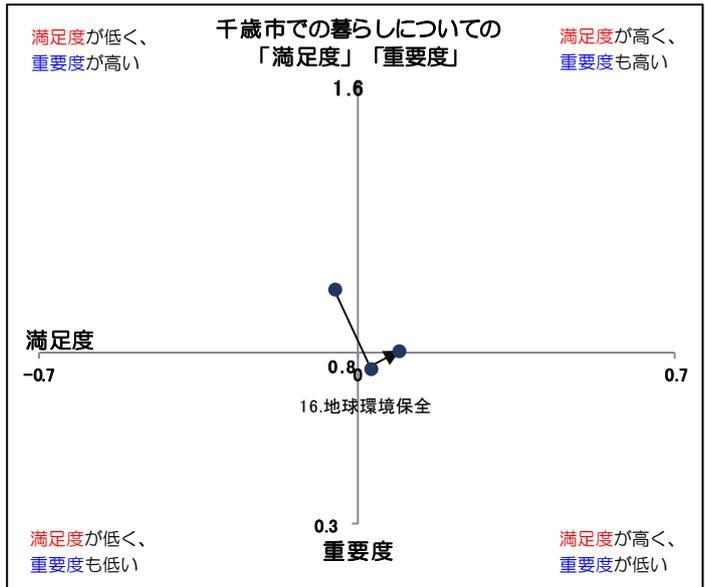


図 2-2-4 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(2) 環境保全行動の実践

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 環境学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全学習を推進するため、こども環境教室を年2回程度実施したほか、こども環境白書を発行し、市内の小学4年生全員に配布しました。また、小学3年生以上の児童生徒を対象とした環境学習を充実させるため、環境スクール制度に登録をしている児童等に対し、市が主催、共催する環境関連行事の情報提供を行うなど、将来の担い手育成の取組を進めました。</li> </ul>
(2) 環境保全における地域間交流等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民や事業者等の環境保全活動に関する理解を促すため、千歳市環境白書を発行しました。</li> <li>また、環境保全活動推進の一環として、千歳消費者協会が実施している使用済み割り箸、ペットボトルキャップの回収運動に協力し、本庁舎等に回収ボックスを設置したほか、6月の環境月間において千歳消費者協会・北海道環境財団と連携してパネル展を開催するなどの交流を図りました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎環境問題に対応するためには、現在の環境状況を把握し、環境保全の大切さの認識を深め、将来に引き継いでいく必要があります。千歳市ではこれまで、小学生を対象とした環境教室の実施や環境白書の配布等、将来を担うこどものための環境学習の取組を進めてきました。今後もこれらの取組を継続し、環境に関する知識の普及・啓発を図ることが重要です。
- ◎環境に関する知識をより一層深め、情報を効果的に周知・PRしていくためには、市内外を含めた幅広い主体が交流・連携できる仕組みが必要です。これまで、千歳消費者協会や北海道環境財団等の関連団体と連携した情報提供を進めてきたところですが、今後も継続して取り組んでいく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市環境基本計画	H23-R2
------	-----------	--------

b) 統計データ等

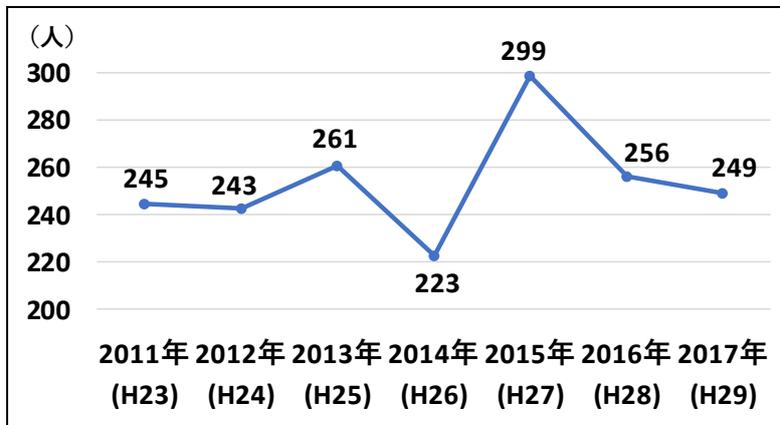


図 2-2-5 環境学習の延べ受講者数の推移

千歳市行政評価結果

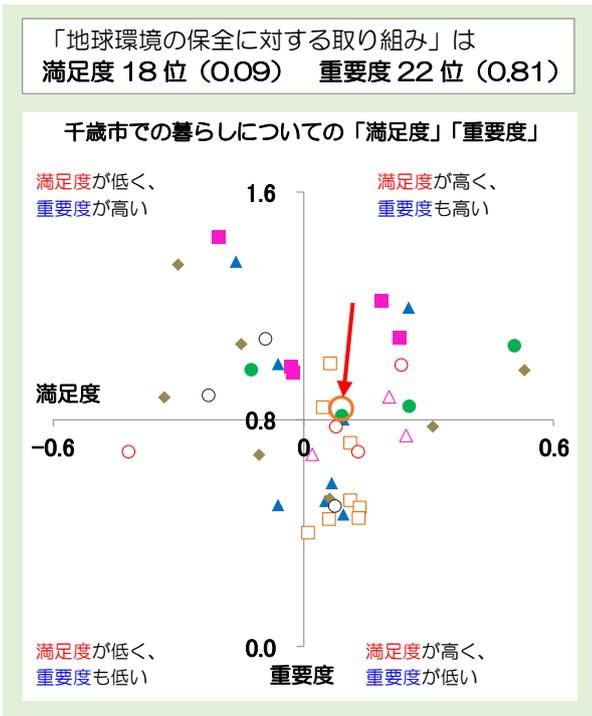


図 2-2-6 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (再掲)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

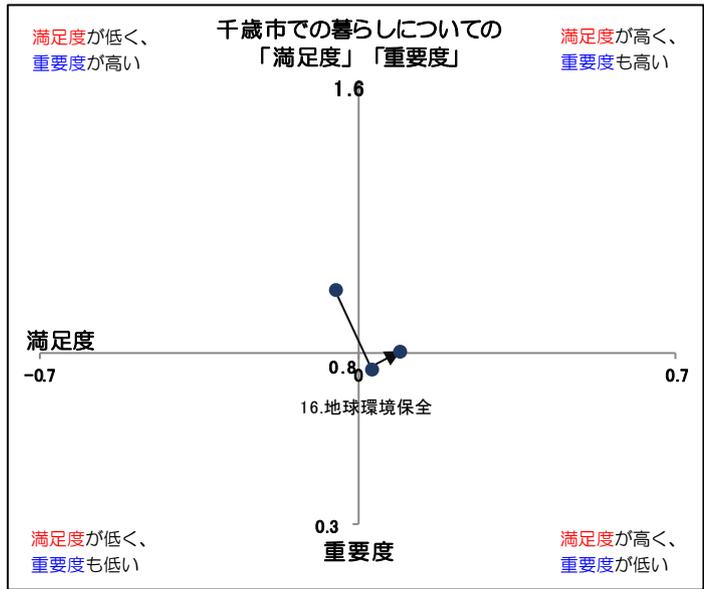


図 2-2-7 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較) (再掲)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【大学生アンケート】

- ・結構大きな都市なのに、自然が多いのもっと主張して良いと思う。自然に関わった活動がしたい。白鳥が鳴きながらV字で飛んでいるのを見て感動した。

(3) 自然環境の保全

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 自然環境保全対策の推進	・ 4～11 月は週 2 回、12～3 月は週 1 回、市街地及び支笏湖周辺の監視を実施したほか、必要に応じて啓発活動を実施しました。また、開発行為や林地開発に伴い、申請地における希少な動植物の生育や生息の有無を事前に調査し、保護に努めたほか、通報により現地に赴いて必要な措置を施すなどの対応を行いました。
(2) 自然環境保全意識の啓発	・ 自然に親しむマナーを周知し、自然の大切さを理解してもらうため、バードウォッチングや、支笏湖周辺の自然観察会、ママチ川遊びなどを実施しました。また、外来種の生息状況の把握に努め、ヒアリ等の対策研修を受講したほか、関係部所との連携を図り、必要時に対応できるよう協力関係を構築しました。

②これからの課題

◎千歳市は清澄な水をたたえる支笏湖や千歳川、緑豊かな森林など雄大な自然に恵まれ、多種多様な動植物が生息しています。しかし、土地利用の拡大や経済活動の進展、外来種の進入など、自然環境に影響を与える既往の事象に加え、近年の異常気象により、野生生物の生息環境の変化が進んでいます。このため、これまで行ってきた自然環境保全の取組を続けるとともに、環境の変化に対応できる取組を充実させていく必要があります。

◎体験型アクティビティやアウトドアキャンプなど、誰もが気軽に自然と親しむことのできるコンテンツは多様化しており、自然と親しむ機会が増加しています。その一方で、自然に対するモラルの欠如などにより、野生動植物の乱獲や傷病する動物が見られています。

市民アンケートによると、自然環境の保全は比較的満足度が高く、重要度も高いと評価されており、満足度には上昇傾向が、重要度には低下傾向がみられます。千歳市では、ホームページや環境白書等を用いて自然の仕組みや保全の重要性を周知していますが、これらの取組は今後も継続して進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市環境基本計画	H23-R2
------	-----------	--------

b) 統計データ等

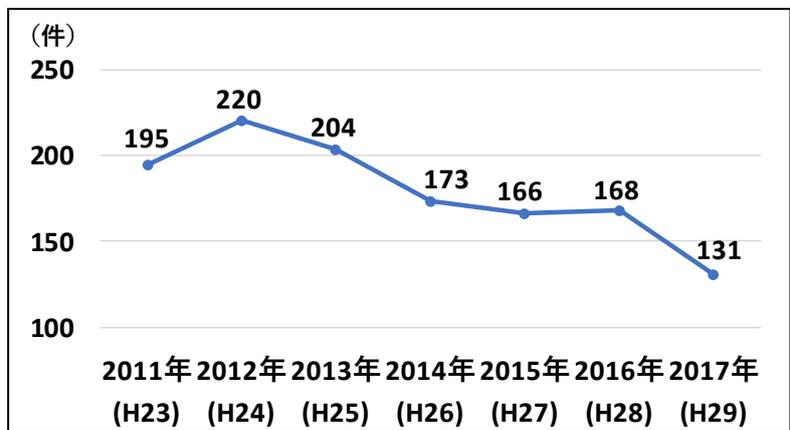


図 2-2-8 野生傷病鳥獣保護等件数の推移 千歳市行政評価結果

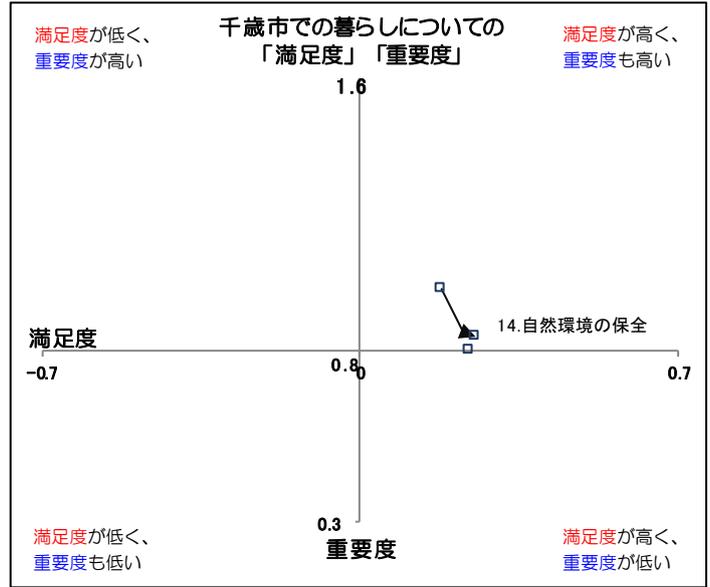
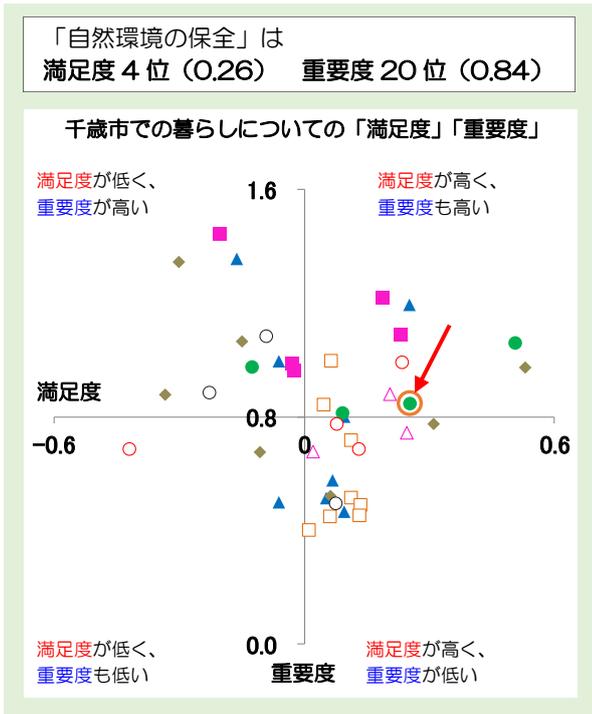


図 2-2-10 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

図 2-2-9 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みんなの声

#### 【市民アンケート】

- ・道外から移住してきて、千歳市で一番感じたことは空気や水のおいしさだった。
- ・千歳川は様々な生態系が観察でき、川沿いは市民にとってのオアシスだと思う。
- ・千歳川を基盤としたまちづくりができると良い（ここに行けば楽しめる、癒される、遊べる、食事ができる、釣りができるなど）。

(4) 環境保全対策の推進

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 環境監視及び測定体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭等の公害について、常時監視や定期監視のほか、必要に応じて臨時監視を行いました。また、これらの測定に対応するため、測定機器の更新などを行いました。</li> </ul>
(2) 環境保全に係る指導などの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定建設作業現場における周辺住民とのトラブル発生防止のため、地域環境の保全に係る配慮や住民への周知及び情報提供について指導を行いました。また、特定施設に係る各種届出について、市ホームページで周知するとともに、届出時には適切な指導を行いました。</li> <li>・市内外における複数の事業所と公害防止協定を締結し、職員や環境監視員により、定期的な立入検査などを実施しました。</li> <li>・千歳市ほか3市2町で構成する千歳川水系水質保全連絡会議において、千歳川の水質測定を実施するとともに、環境保全に関する情報交換を行いました。</li> <li>・PM2.5などの広範囲にわたる環境問題について、情報提供等を行いました。</li> <li>・近年、家庭や事業所のホームタンクからの灯油漏えい事故が散見されることから、事故時には土壌や地下水保全のため、処理について指導を行いました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎近年の環境問題は、典型7公害のほか都市型の近隣騒音など、生活環境問題や環境ホルモン等の特殊公害、アスベストと多岐に渡っています。千歳市では、これらの公害の未然防止を図るため、千歳市環境基本条例や千歳市公害防止条例に基づき、大気、水質、騒音、振動等の測定を行っています。今後も引き続き、計画的な測定を進めていくとともに、測定機器の整備や更新についても計画的に進めていく必要があります。
  - ◎産業活動を行う工場や事業所等の特定施設については、関係法令等に基づいた届出等の履行を促し、排出規制の遵守について指導を進めています。今後も指導等を継続し、法令遵守に努めていく必要があります。
- さらに、市民アンケートによると公害防止の取組は、比較的重要度が高く満足度が低いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。一方で、騒音・振動・悪臭などの公害は、今住んでいる場所から転居したい理由として上位に挙げられていることから、今後も市民ニーズの把握に努め、解決に向けた取組を進めていくことが求められています。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市環境基本計画	H23-R2
------	-----------	--------

b) 統計データ等

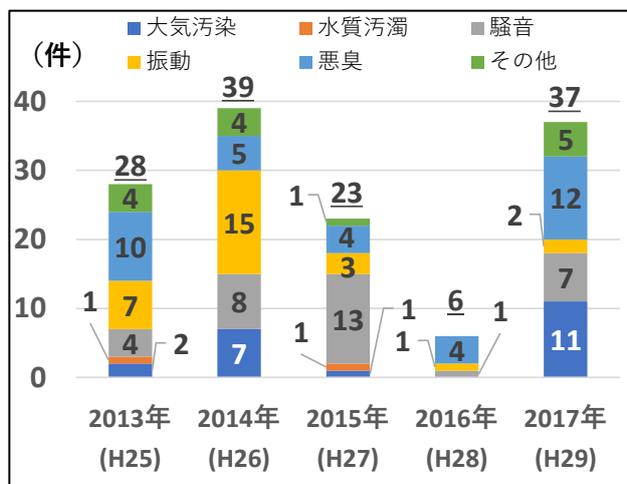


図 2-2-11 典型 7 公害分類による苦情件数の推移  
千歳市行政評価結果

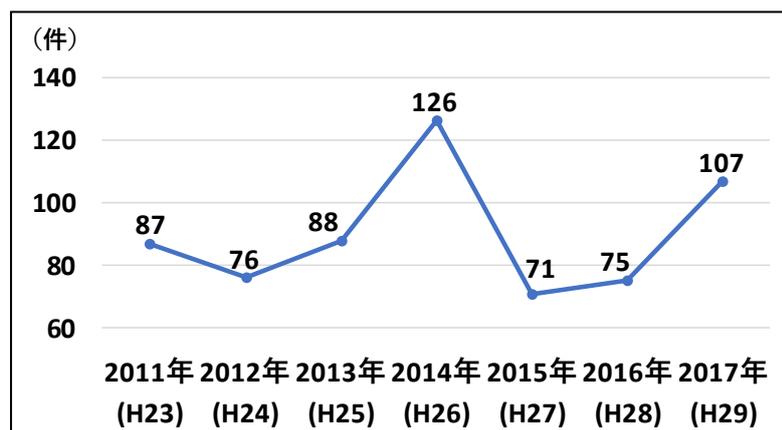


図 2-2-12 特定施設や特定建設作業の届出指導・啓発件数の推移  
千歳市行政評価結果

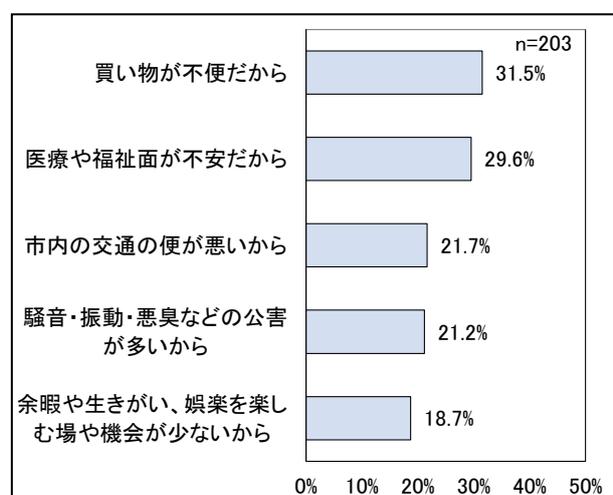


図 2-2-13 今住んでいる場所から移りたい理由（上位 5 項目を抜粋）  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

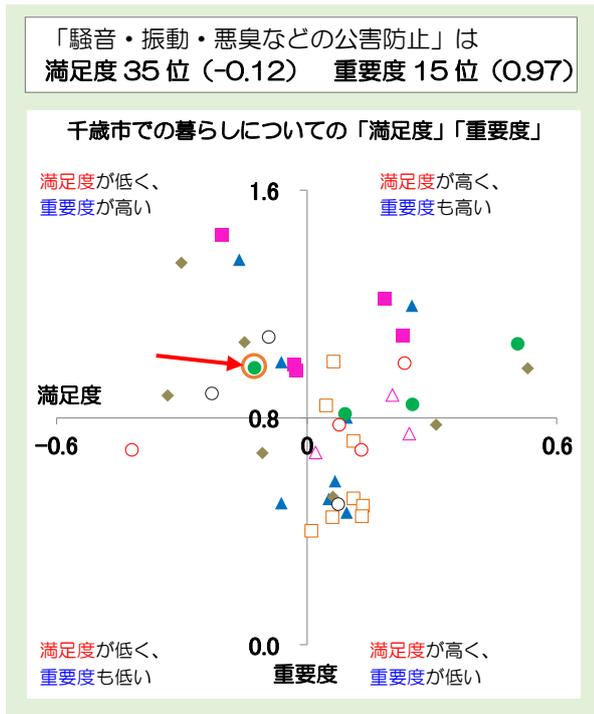


図 2-2-14 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

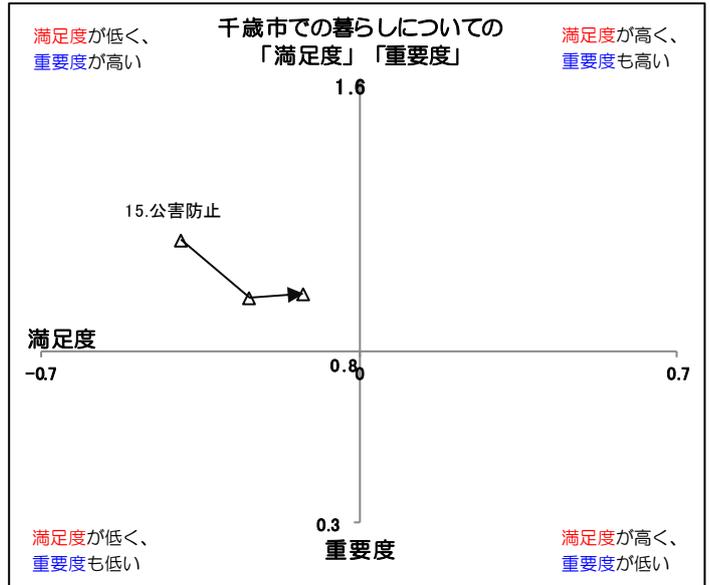


図 2-2-15 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・ ゴミ焼却所の周辺はにおいが強い。臭気測定を行い、適切に指導してほしい。

【中学生アンケート】

- ・ 下水道のにおいを改善してほしい。

【高校生アンケート】

- ・ たまに外が臭いので、何とかしてほしい。

(5) 廃棄物の減量化と収集処理の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) ごみの減量化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環型社会構築の推進のため、大型店舗の来店者に対して、ごみ発生抑制に係る啓発を行ったほか、リサイクルに関する資料・再生品の展示、マイバックの配布、アンケート調査等を行いました。</li> </ul>
(2) リサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再資源化の推進のため、4種資源物とプラスチック製容器包装の分別収集を行い、不適物を選別、除去した上で再商品化事業者へ引渡しを行っているほか、平成26年度から「使用済み小型家電の回収」を進めました。</li> <li>・リサイクル促進のため、町内会等の市民協力団体が資源回収登録業者との契約に基づき奨励金方式の集団資源回収を行っており、平成30年度からは「鉄くず」の回収品目を拡大するなど、取組の拡充を図りました。</li> </ul>
(3) ごみ収集の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみステーションの適正管理の推進のため、清掃指導員や千歳市適正ごみ処理推進員による巡視を実施しました。</li> </ul>
(4) ごみ処理体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の適正処理のため、有害ごみを処理可能な業者に委託し、安全な処理を行っています。また、搬入される廃棄物の適正な処理を行うため、設備の維持管理や更新等を適宜行いました。</li> <li>・廃棄物処理施設の適正な維持管理のため、各種法定排出基準を遵守し、安全で効率的な施設の運営を推進しました。</li> </ul>
(5) し尿収集・処理体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・し尿処理施設の適正な維持管理のため、迅速かつ適切に処理できるよう施設の管理運営を行いました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎循環型社会の構築については、家庭ごみの有料化等を含めた施策に基づき、ごみ減量化やリサイクルを推進していることから、家庭及び事業所から排出されるごみの搬入量は微減傾向にあります。今後、リサイクル目標の達成に向けて、市民・事業者・行政が連携・協働しながら、ごみの減量化と資源物の分別推進を図る必要があります。
- ◎ごみ処理施設については、焼却処理場、破碎処理場及びリサイクルセンターの中間処理施設と最終処分場があり、搬入されたごみや資源物を適正に処理しています。今後の施設の整備や運営に当たっては、広域的な連携や、環境面や安全面に配慮しつつ、効率的かつ安定的なごみ処理体制を構築していくため、現在、焼却処理場の建設を目指しており、その他の施設については、関係市町と協議・検討していく必要があります。
- ◎近年のし尿処理量については、下水道普及率及び水洗化率の向上に伴い、微増傾向にあります。引き続き、生活排水を適切に処理していく必要があります。
- ◎市民アンケートの結果では、ごみの収集やリサイクルに関する満足度は高く、上昇傾向に推移しており、重要度も同様に評価されています。これまでの取組を継続するとともに、市民にわかりやすい情報発信を行い、理解と協力が得られるよう取り組む必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市一般廃棄物処理基本計画～ごみ処理編～	H28-R12
	千歳市災害廃棄物処理計画	H28-
	千歳市環境基本計画	H23-R2
	千歳市一般廃棄物処理基本計画～生活排水処理編～	H23-R2

【千歳市一般廃棄物処理基本計画～ごみ処理編～（H28.3）における策定のポイント】

- ・生活利便性の向上によるごみの量的拡大や質の多様化と、それに伴うごみ処理の複雑化

【千歳市災害廃棄物処理計画（H28.5）における策定のポイント】

- ・国における「災害廃棄物対策指針」の策定による、災害廃棄物の適正処理

b) 統計データ等

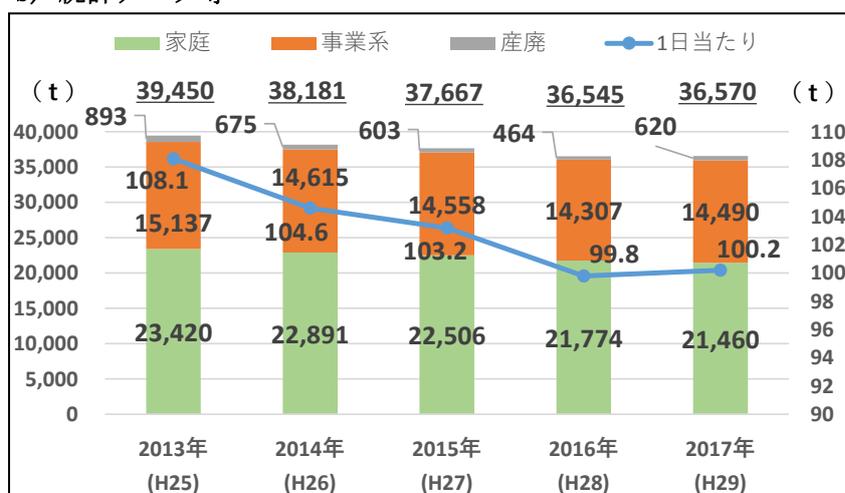


図 2-2-16 廃棄物処理実績の推移（各年度末現在）

要覧ちとせ 平成 30 年版

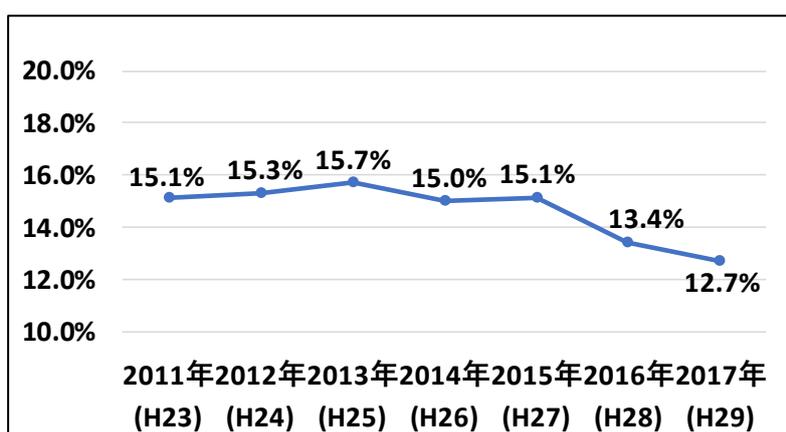


図 2-2-17 リサイクル率の推移

廃棄物処理事業概要

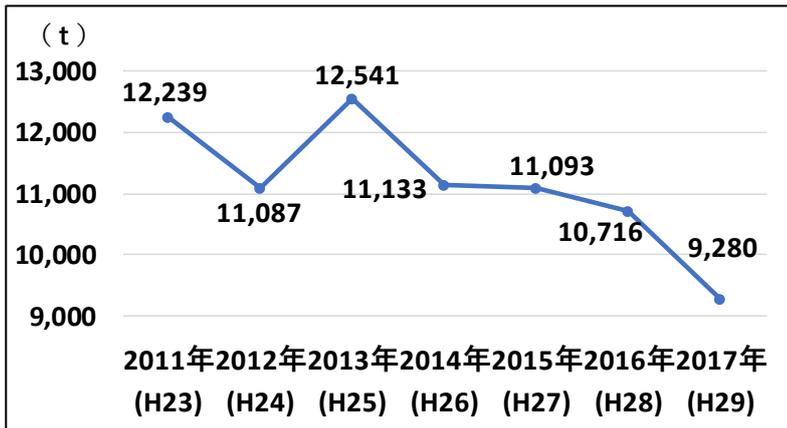


図 2-2-18 埋立処分量の推移 廃棄物処理事業概要

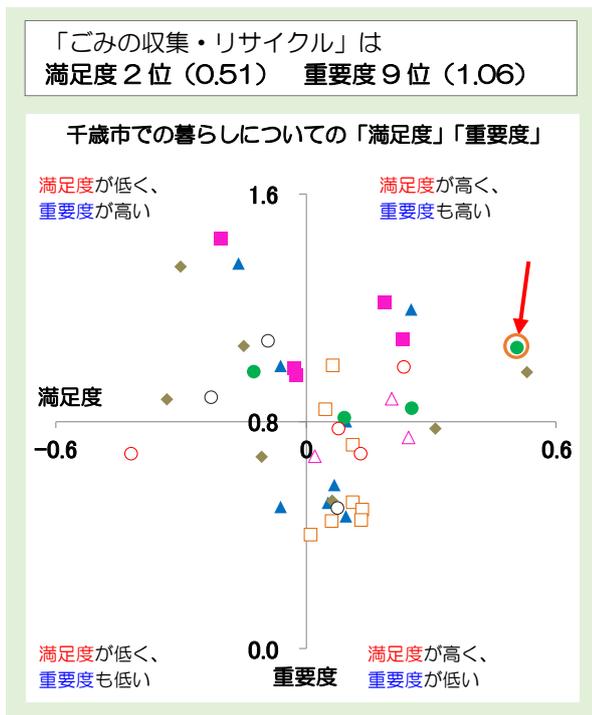


図 2-2-19 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

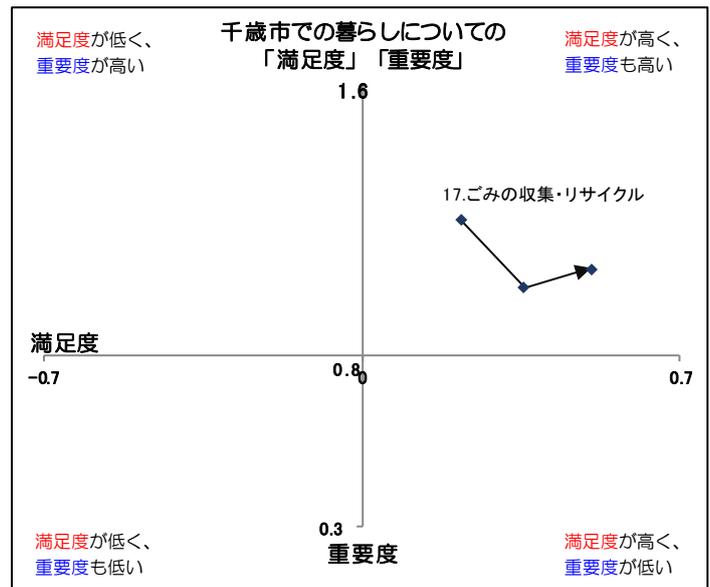


図 2-2-20 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・道路や花壇にごみのポイ捨てをする人がいるのでやめてほしい。ごみのないまちにしたい。

#### 【中学生アンケート】

- ・リサイクルをもっとした方がよい。
- ・最近、ごみ収集車が来る時に、ごみが箱の中でなく外に置いてあって、カラスにごみを荒らされています。もう少し箱を大きくした方がよいと思います。

#### 【大学生アンケート】

- ・ごみを捨てる曜日や分別がわかりにくい。情報が不足しているのではないかと感じる。
- ・紙(牛乳パック、新聞紙、チラシ等)などの回収について、千歳市のごみ収集のホームページを見ても、どこに持って行けばいいかわかりません。地図を提供したり、資源ごみと一緒に回収してくださると有り難いです。

(6) 生活環境衛生の向上

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 環境衛生の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の良好な生活環境を維持するため、町内会等によるボランティア清掃に対し、ごみ袋を提供するなどの支援を行いました。また、千歳川等の河川環境を守るため、清流と緑を守る市民の会が行う事業を支援しました。</li> <li>・千歳市空家等対策委員会事務局として、空家に対する苦情等の相談窓口をワンストップ化できるよう市内の連携を図ったほか、空き地管理が不適切な所有者に除草の指導を行うなどにより、住環境の維持に努めました。</li> <li>・霊園等の利便性向上を図るため、施設の改修や整備に取り組みました。</li> </ul>
(2) 愛がん動物飼育者への啓発・指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙やホームページにより適正な飼育に係る啓発を行ったほか、しつけ教室を開催し、飼育者の心がまえ等の浸透を図りました。また、住宅地を動物愛護モラル推進員が巡回し、飼育者に指導等を行うことにより、良好な環境の確保に努めました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎快適な生活環境を創出するためには身近な生活エリアの環境衛生の維持・向上が必要であり、防災や防犯の視点からも河川や空き地などの美化推進が求められています。これまで、町内会等の地域団体と協働し、美化活動を行ってきましたが、これらの取組は今後も継続していく必要があります。また、空き地の美化については、空家等対策の視点も考慮して進める必要があります。
- ◎ペットを飼う市民が増加していますが、一部の飼い主による不適切な飼育による問題が発生しており、しつけ教室の開催やモラル推進員の住宅地巡回等の取組を進めてきました。これらの取組により一定の成果が得られていますが、今後も継続していく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

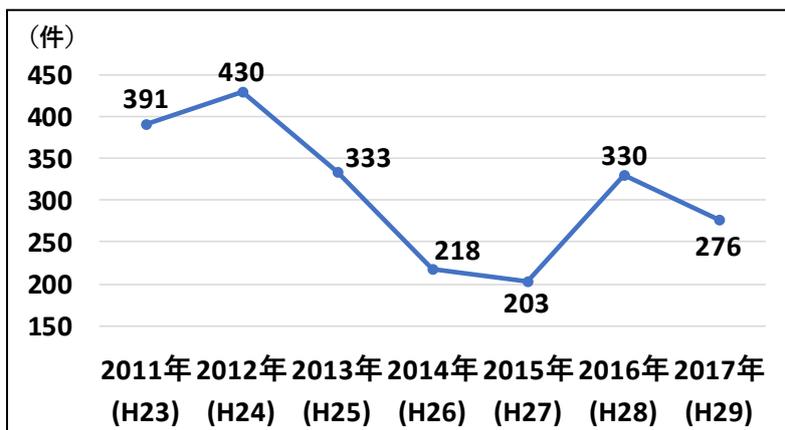


図 2-2-21 モラル推進員指導件数の推移 千歳市行政評価結果

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・ペットを放して散歩したり、排せつ物を捨てるなど、マナーが悪い人がいるので、改善してほしい。

#### 【中学生アンケート】

- ・地域で協力して定期的にごみ拾いするなど、ポイ捨てされたごみを少しでも減らせば街はもっと良くなると思います。特に公共施設などは、よくごみを見掛けるので重点的に行えば良いと思います。

#### 【大学生アンケート】

- ・特に駅付近の歩道などにごみが結構目立っている事が気になります。

(7) 快適に暮らせる下水道の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 公共下水道施設の充実	・下水道施設の地震対策や長寿命化を図るため、浄化センターの地震対策工事等を実施しました。また、公共用水域の水質改善と浸水防止のため、雨水滞水池の併用を開始したほか、合流式下水道の分流化実施や経済的で安定的なスラッジセンターにおける汚泥処理方式の検討を進めました。又、管渠により支笏湖畔地区を統合しました。
(2) 公共下水道認可区域外地区の生活排水処理の充実	・公共下水道認可区域外の住宅等で適正な生活排水処理を行うため、個別排水処理施設（合併処理浄化槽）の整備を推進しました。

②これからの課題

- ◎千歳市の下水道普及率は98.3%で道内でも高い普及率となっています。下水道整備は昭和30年代から開始し、現時点で施設の本格的な更新は当面必要ではありませんが、将来の更新経費の増大を見据え、長期的視点に立った安定的経営を図るため計画的に維持管理・更新を進めていく必要があります。
- ◎下水道処理区域外の地域では、今後も引き続き個別排水処理施設設置の必要性を周知するなど、普及に向けた取組を進めていく必要があります。
- ◎雨天時に公共用水域の水質に影響を与える合流式下水道の分流化は、その効果を踏まえながら、引き続き進めていく必要があります。
- ◎事業計画変更による未利用地の有効活用を検討する必要があります。
- ◎市民アンケートによると、上下水道の整備は、満足度、重要度ともに高いと評価されています。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市公共下水道基本計画	H25-R2
	千歳市環境基本計画	H23-R2

b) 統計データ等

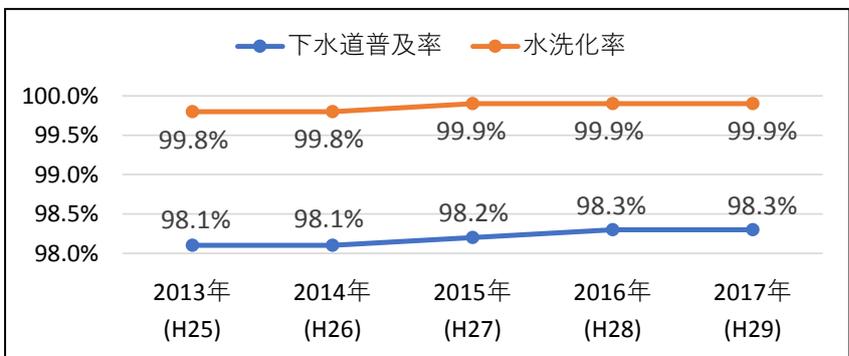


図 2-2-22 下水道普及と水洗化の推移（各年度末現在の数値）

要覧ちとせ 平成 30 年版

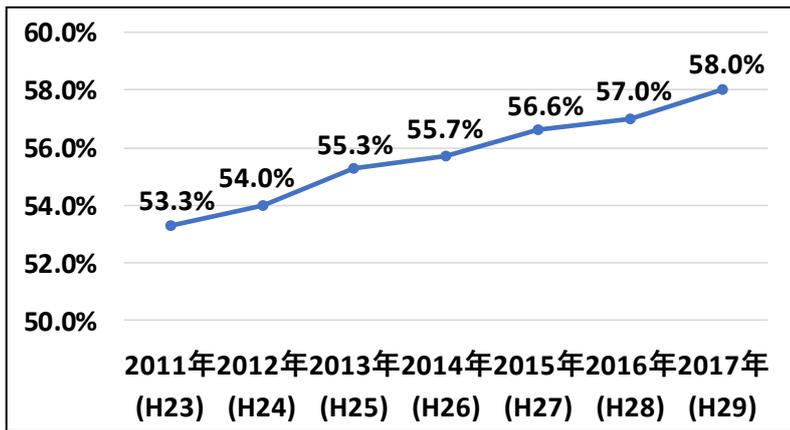


図 2-2-23 個別排水処理利用率の推移 千歳市行政評価結果

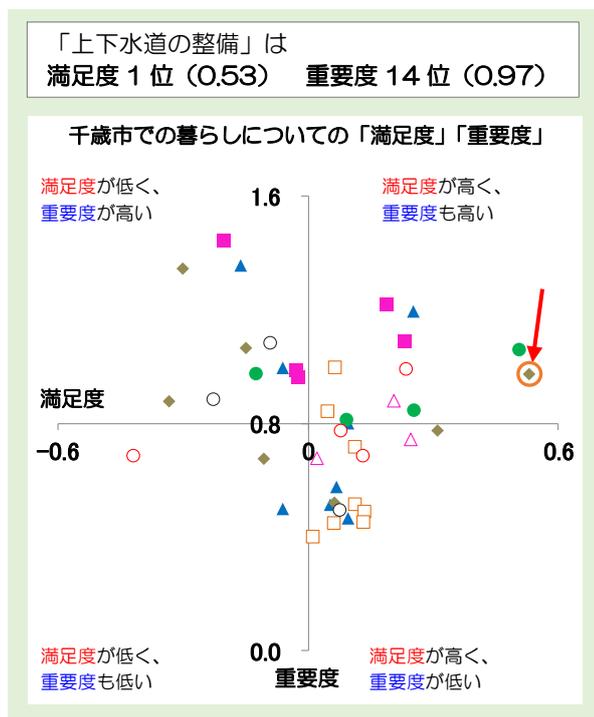


図 2-2-24 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

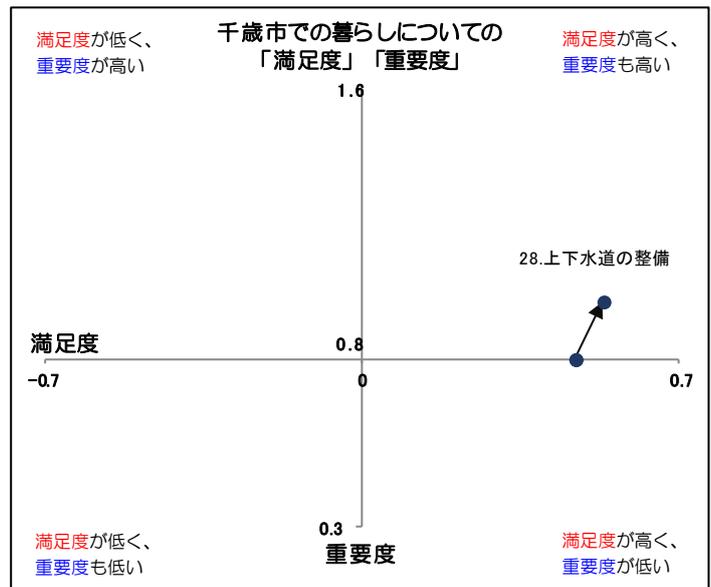


図 2-2-25 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【中学生アンケート】

- ・下水道のにおいを改善して欲しい。

## 2-3. 安全で安心して暮らせるまち

### (1) 防災対策の充実

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>より実践的な防災対策の充実を図るため、千歳市地域防災計画の見直しを行ったほか、千歳市総合防災訓練の実施、自主防災組織を結成している町内会に対し災害時使用資機材の貸与などを行いました。</li> <li>防災対応力の強化や情報提供の充実を図るため、防災行政無線の機能維持に係る取組を進めたほか、デジタル化に向けた整備の検討を進めました。また、災害時に必要な災害応急対策用品の整備や配備を進めました。</li> </ul>
(2) 災害時要配慮者の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の要配慮者に対する支援体制を維持するため、年2回、「災害時要配慮者名簿」及び「避難行動要支援者名簿」の更新を行いました。また、地域における避難体制の充実のため、随時、「避難行動要支援者プラン（個別計画）」の更新を行いました。</li> </ul>

#### ②これからの課題

◎昨年の北海道胆振東部地震をはじめ、東日本大震災や熊本地震など、大規模地震が頻発しています。また、このほかにも火山噴火や風水害、雪害など、私たちの身の回りでは様々な自然災害が起きており、自然災害のほかにも航空機事故や鉄道事故、さらには外国からの武力攻撃や大規模テロなどが起こる可能性もあります。

千歳市ではこれらの災害から市民の安全を守るため、地域防災計画の見直しなどの取組を進めてきましたが、市民アンケートでは防災体制の項目が比較的重要度が高く満足度は低いと評価されており、満足度は低下傾向に、重要度は上昇傾向にあります。今後も引き続き、防災対策を充実させていくことが必要です。

◎千歳市には陸上自衛隊東千歳駐屯地、北千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地、海上保安庁千歳航空基地が所在しており、日頃から緊急時の協力体制など良好な関係を築いています。

このような関係は今後も維持していく必要があるほか、有事の際に可能な限り被害を少なくするため、高齢者等の要配慮者や近年増加する外国人観光客への対策のほか、市民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という防災意識の醸成を促していくことが重要です。

◎東日本大震災では、避難所を運営する地域のリーダーの大部分が男性であり、女性や子どものニーズに十分な配慮がされていないなどの課題が見られました。このような背景から今後は、女性の視点に配慮した防災対策や災害対応も進めていく必要があります。

#### a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市職員非常用食糧等整備計画	H29-
	千歳市業務継続計画	H28-
	千歳市災害応急対策用品配備計画	H26-
	千歳市災害応急対策用品整備計画	H24-
	千歳市地域防災計画	H23-
	千歳市国民保護計画	H18-

b) 統計データ等

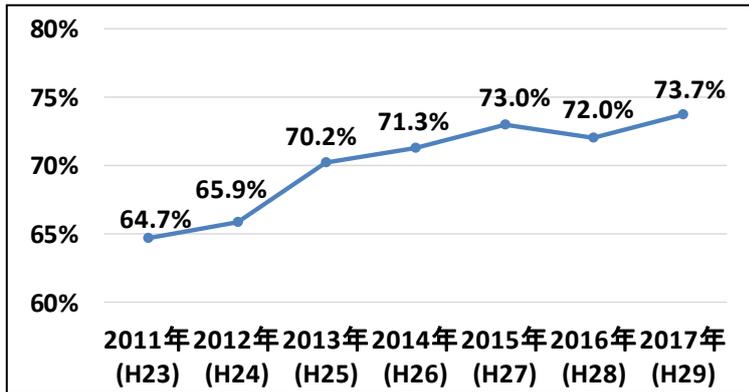


図 2-3-1 自主防災組織の結成率の推移 千歳市行政評価結果

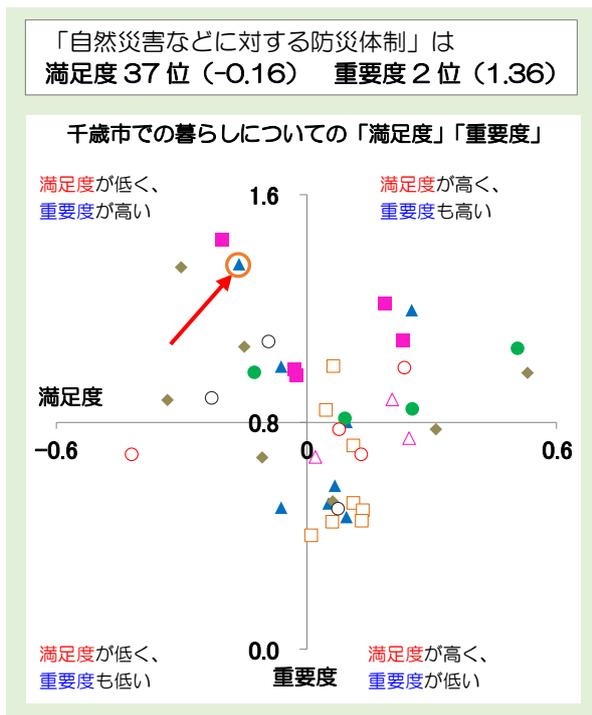


図 2-3-2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

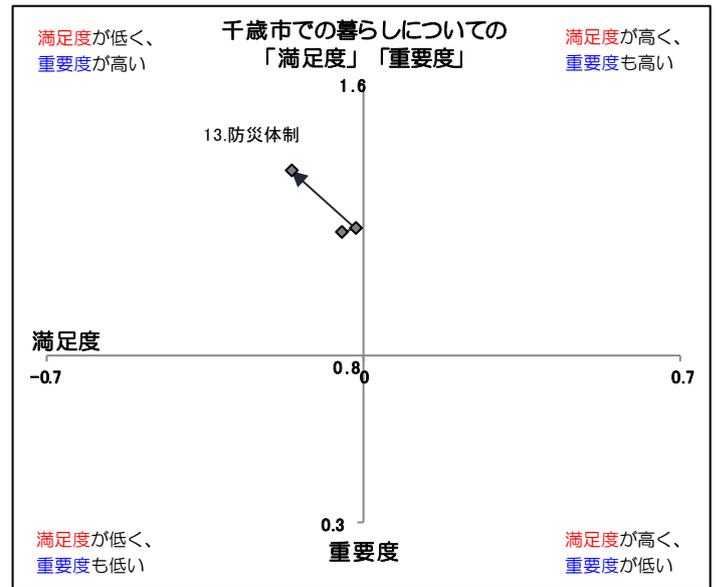


図 2-3-3 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

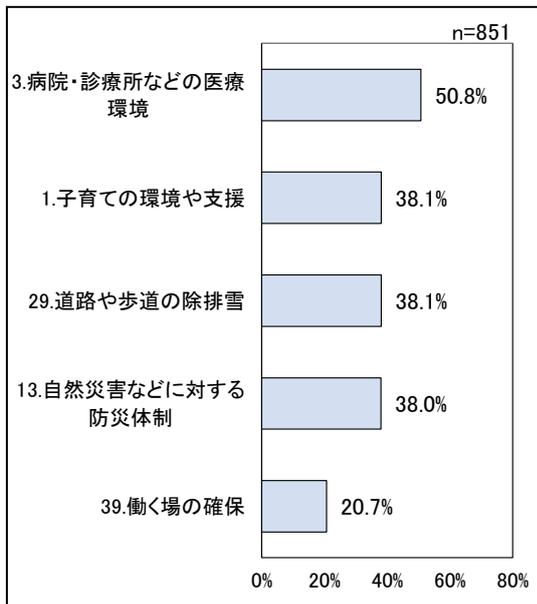


図 2-3-4 千歳市のまちづくりにおいて特に重要だと思う項目  
(上位 5 項目を抜粋)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・胆振東部地震の際、情報が入手できなくて困った。防災無線が聞こえにくかったので改善してほしい。また、無線で「くわしくは市のホームページで確認してください」とのことであったが、停電であったり、スマホがない高齢者には難しいと思った。
- ・災害時、SNSや町内会の回覧版、広報車などを活用したり、FMラジオを開局し、情報発信をしてはどうか。
- ・避難所がすぐわかるようにしてほしい。また、避難所では、食料やおむつ、充電設備などが不足していたと思う。
- ・冬期の災害に対する備えを重点的に取り組む必要がある。

#### 【中学生アンケート】

- ・防災放送（地震の時流れてる放送）が、とても聞きにくくてわかりません。
- ・災害時の時に使える自動販売機を増やした方が良い。

#### 【高校生アンケート】

- ・地震の時、停電になって電波も悪く、何も情報が入ってこなかったのが、防災放送で知らせて欲しかった。学校が休みなどはわかっているの、他の情報が知りたかった。
- ・防災無線が聞きにくい。

#### 【大学生アンケート】

- ・先日、避難場所等が載っている冊子がポストに入っていたが、あれは良いと思う。

(2) 交通安全の推進

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 交通安全対策の充実	・「人優先」の交通安全思想に基づいた啓発を行うため、4期40日の交通安全運動を行ったほか、市民自らが安全な交通行動を実践できるように、幼児、児童、高齢者等向けの交通安全教室や出前講座等を実施しました。
(2) 交通安全環境の整備	・交通安全環境の充実を図るため、郊外部の道路における視線誘導標の設置や、自転車駐輪場の管理委託などを通じて、適正な利用指導を行いました。

②これからの課題

- ◎千歳市は、北海道縦貫自動車道や北海道横断自動車道をはじめ、国道、道道など多くの幹線道路があり交通量が多い地域です。幹線道路や生活道路など、交通事故はどこでも発生する可能性があるため、交通安全対策については、地域や学校、交通安全関係機関・団体と連携・協力しながら全市的に進めていく必要があります。  
また、交通安全を推進するために設置された案内標識等の交通安全施設についても、計画的な維持管理を進めていく必要があります。
- ◎悲惨な交通事故を防止するため、1962年（S37）に「交通安全都市」宣言を行って以来、全市民が一致協力して交通安全運動に取り組んでいます。交通安全運動や交通安全教室などの取組により、近年の交通事故発生件数は減少していますが、近年は微増傾向にあります。市民アンケートによると、交通安全への取り組みは比較的満足度が高く、重要度は高いと評価されており、今後も高齢化の進展や外国人観光客の増加など、近年の社会情勢も考慮した交通事故防止の取組を、継続的に進める必要があります。
- ◎近年、健康志向の高まりや環境負荷低減などの視点から、国では自転車の積極的な利用を推進しています。今後も適正な自転車利用に向けた情報提供や啓発活動に取り組む必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	第10次千歳市交通安全計画	H28-R2
------	---------------	--------

b) 統計データ等

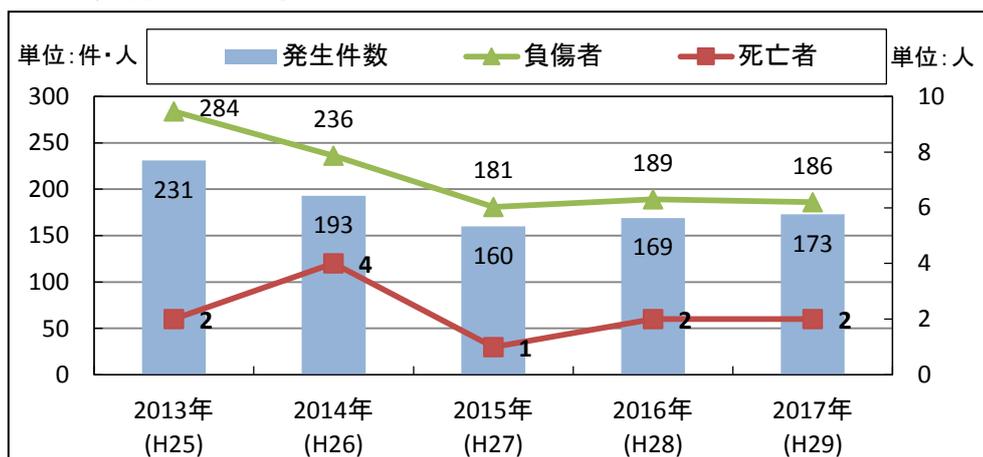


図 2-3-5 交通事故発生件数・負傷者・死亡者数の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

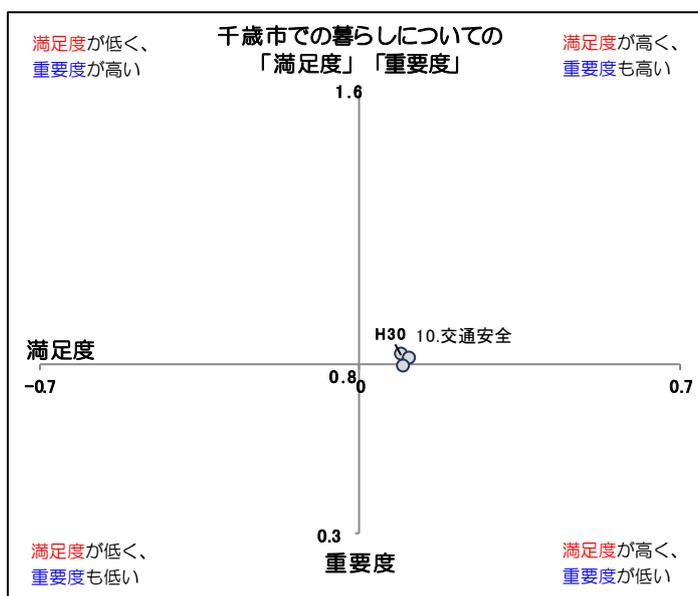
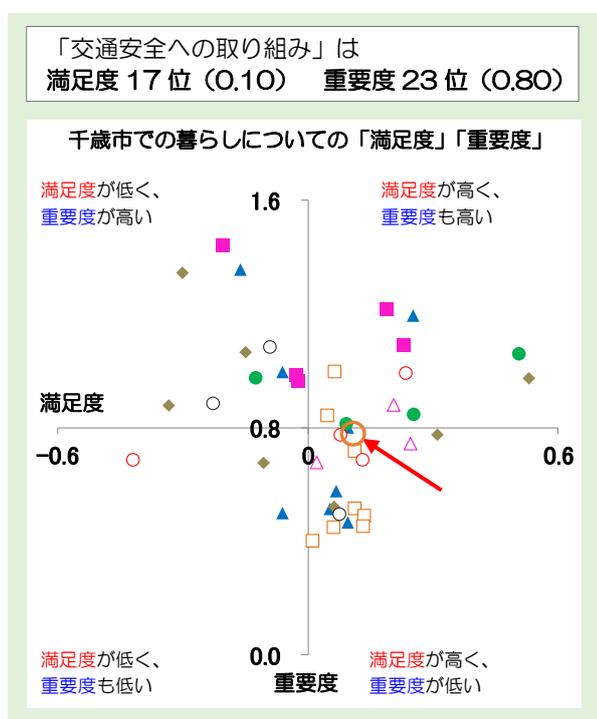


図 2-3-7 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

図 2-3-6 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

・高齢者の自動車免許返納 (75 歳以上) の対応が雑だと思う。今のままでは、免許返納は少なくなり、高齢者による交通事故は増加すると思う。

【中学生アンケート】

・最近自転車と自動車の事故が続いているので何か対策が欲しい。

【大学生アンケート】

・交通事故 (特に車の追突) があまりにも多過ぎる為、交通整理 (見通しの悪い道路などに対して) の改善やドライバーの安全運転をもっと呼び掛けてほしい。

(3) 防犯対策の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 防犯対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防犯性を高めるため、町内会が管理する防犯灯の電気料金のほか、町内会が実施する防犯灯の設置・移設・撤去等に係る費用の一部を助成しました。また、千歳防犯協会補助金を交付し、団体によって自主防犯パトロールや防犯に関する啓発チラシなどの配布等を行いました。</li> <li>千歳市暴力追放運動推進協議会補助金を交付し、関係機関と連携した暴力追放に関する啓発活動を進めました。</li> <li>市民が安全で安心して暮らせるよう、防犯・交通団体などと連携し、防犯・交通安全対策活動を進めたほか、千歳警察署や北海道警察本部に対して交番設置要望などを行いました。</li> </ul>

②これからの課題

◎千歳市では1988年（S63）に「暴力追放・防犯都市」宣言を行い、犯罪のない明るいまちづくりを推進しており、犯罪発生件数は減少傾向にあります。一方、地域コミュニティの希薄化やインターネットの普及によるサイバー犯罪等犯罪種別の多様化により、市民が犯罪にあう機会は増加しています。

また、市民アンケートによると、地域での防犯対策は比較的満足度が低く、重要度が高いと評価されています。今後も、多様な主体の連携により犯罪にあいにくい地域づくりを進めていく必要があるほか、多様化する犯罪に的確に対応できる体制を構築していくことが重要です。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

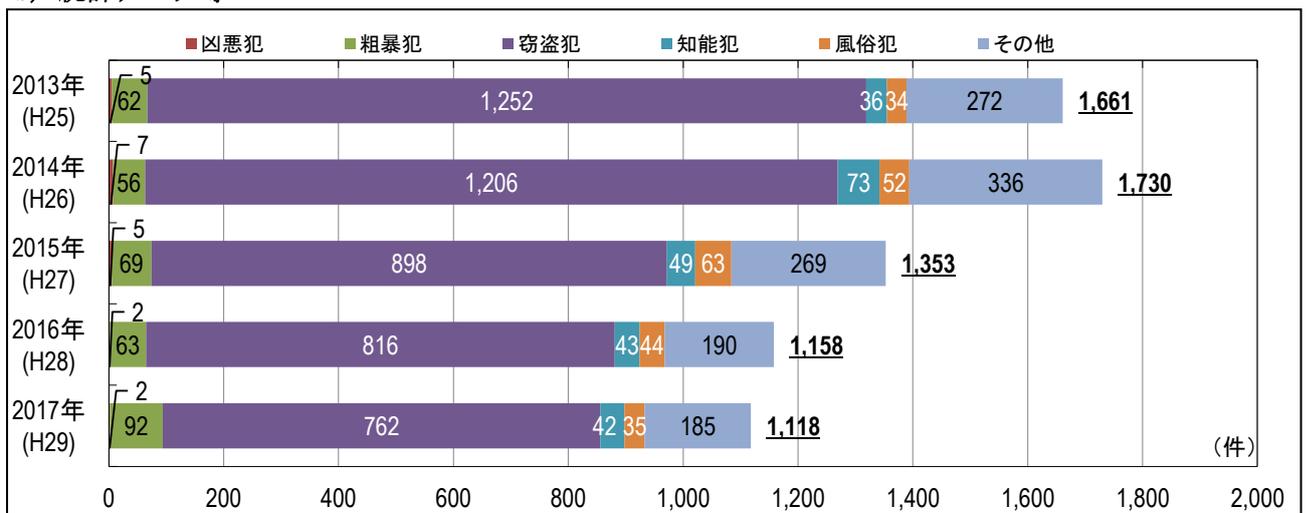


図 2-3-8 千歳警察署管内刑法犯罪発生件数の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

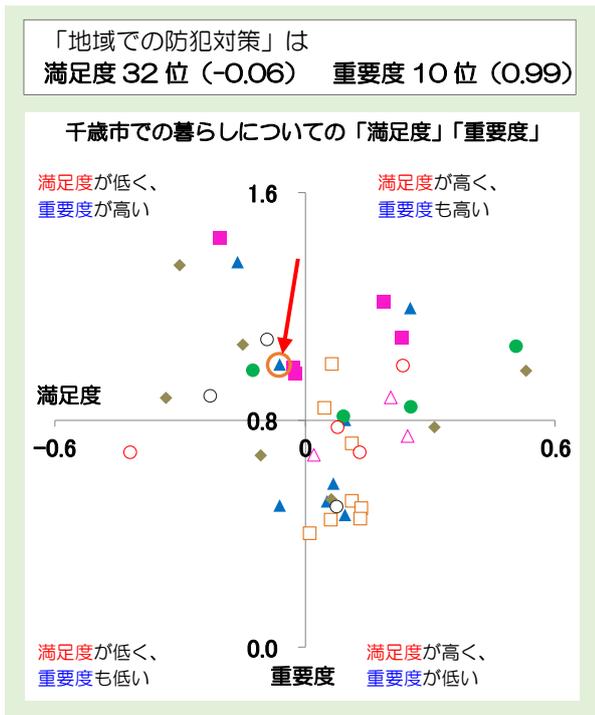


図 2-3-9 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

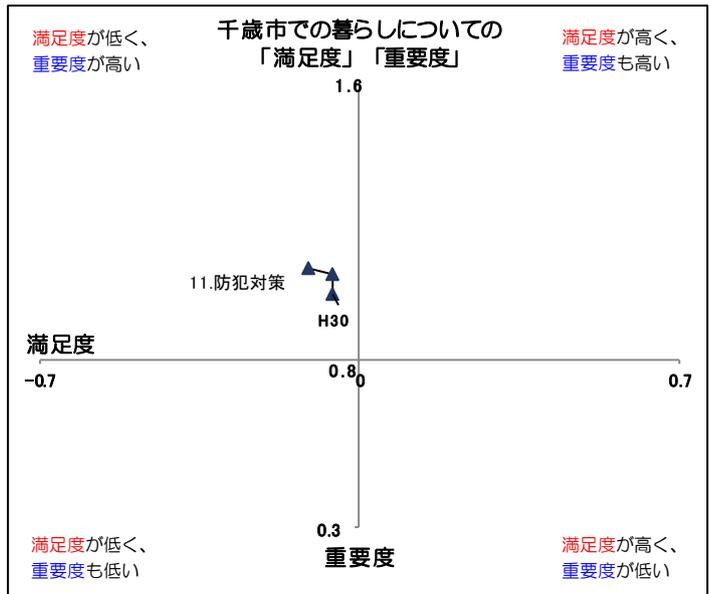


図 2-3-10 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みんなの声

#### 【市民アンケート】

- ・今の千歳は、全国的に考えてみても治安が良い方だと感じる。
- ・不審者への対策を強化してほしい。

#### 【中学生アンケート】

- ・部活帰りは外が真っ暗で不審者も多いので、街灯を明るく、または多くして欲しいです。

#### 【高校生アンケート】

- ・変な奴が多いから怖い。

#### 【大学生アンケート】

- ・住宅街に近くなるほど暗く、学校のある所でも街灯が少ないと思うため、増やすべき。学生、女性などの安全の配慮としてやるべきだと思う。
- ・街灯が切れている事が多く、暗くて危ないので、取り換えをしっかりと行って欲しい。

(4) 消防・救急体制の強化

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 消防・救急基盤の高度化	・消防・救急基盤を充実させるため、消防総合庁舎の改修工事を行ったほか、はしご付消防自動車や消防携帯無線機、空気呼吸器用面体、支援車、救急資機材、消火栓等の更新を進めました。
(2) 消防・救急組織の充実強化	・職員の教育訓練の取組として、消防学校等への派遣、各種免許・資格の取得、各種研修・訓練の参加を進めました。
(3) 火災予防の推進	・火災予防思想の普及を図るため、消防協力団体と連携した火災予防運動を展開しました。また、建築同意や消防用設備の設置届出、危険物施設の許認可において、法令を遵守させるための指導等を行いました。

②これからの課題

- ◎千歳市の消防組織は1本部1消防署5出張所と1団本部8分団で構成され、24時間体制で災害に備えるとともに、北海道広域消防相互応援協定に基づいた応援体制を整えていますが、中高層化する建築物の火災をはじめ、交通の要衝として航空機事故、鉄道事故及び高速道路における衝突事故、大震災や大雨などの自然災害が想定されます。一方、一部の消防施設や消防車両には著しい劣化が見られています。今後も、複雑多様化する災害に対応できるよう、計画的な維持管理を進め、災害対応力の強化を図る必要があります。
- ◎救急出動件数は増加傾向であり、迅速かつ的確に対応するための救急隊員を計画的に育成していく必要があります。
- ◎千歳市では、住宅火災を防ぐために防火指導や住宅用火災警報器の設置を促しています。市内の火災発生件数は概ね減少傾向ですが、毎年複数の火災が発生しています。市民アンケートによると、消防・救急体制は比較的満足度が高く、重要度も高いと評価されており、満足度も上昇傾向にあります。今後も、一般家庭へ住宅用火災警報器設置の普及・啓発や、予防に係る広報活動により市民の防火に対する意識づくりを進め、地域ぐるみの防火体制を作っていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市消防関連施設個別計画	H29-R8
------	---------------	--------

b) 統計データ等

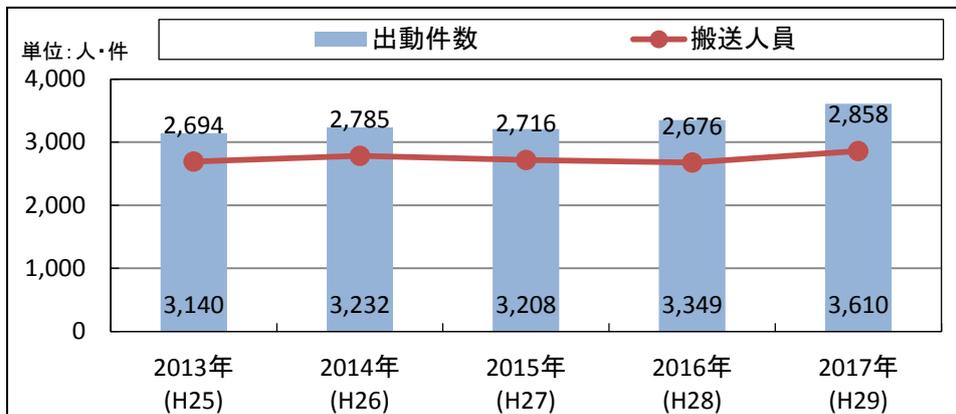


図 2-3-11 救急出動件数と搬送人員の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

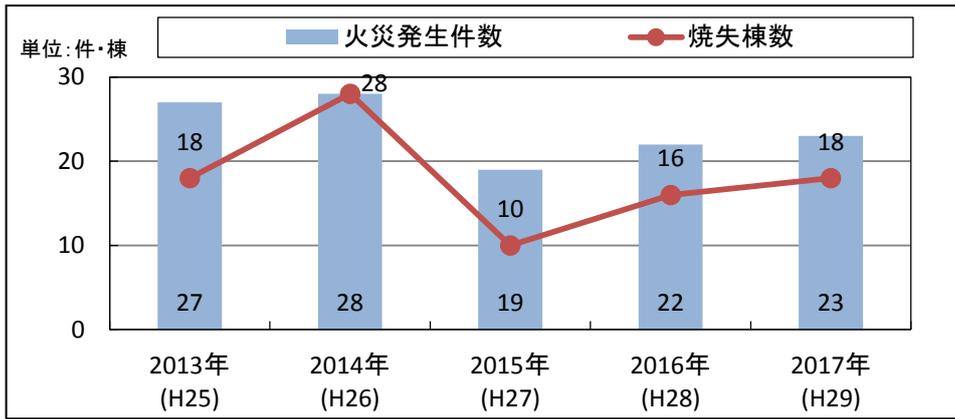


図 2-3-12 火災発生件数と焼失棟数の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

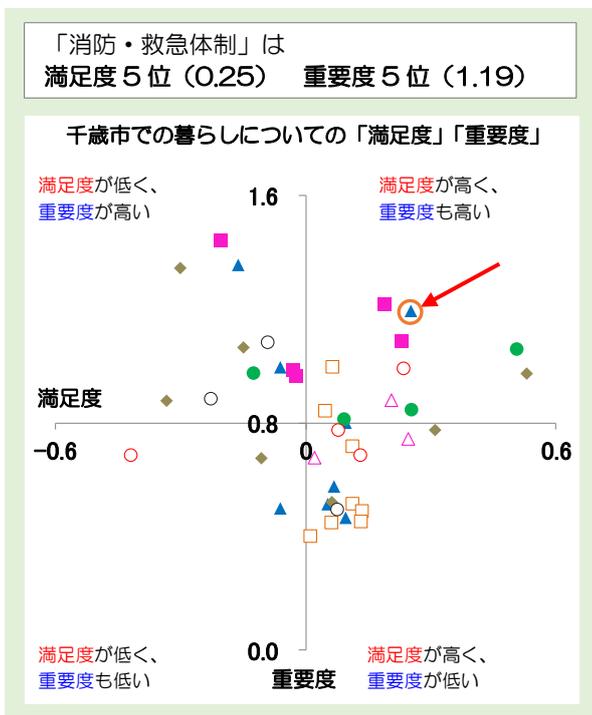


図 2-3-13 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

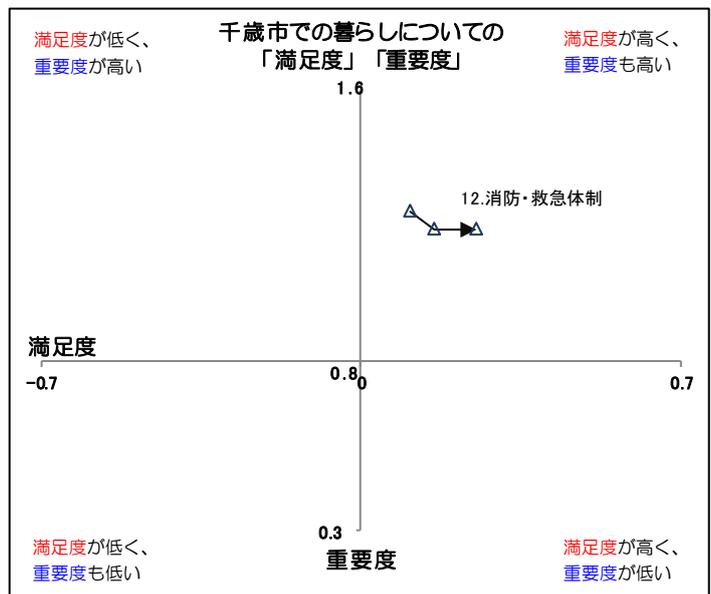


図 2-3-14 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(5) 住宅環境の整備

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 住宅対策の充実	・長く住み続けることのできる質の高い住宅の供給を進めるため、住宅マスタープラン（改訂版）に基づき、千歳商工会議所への補助によるプレミアムリフォーム券を発行しました。
(2) 公営住宅の整備	・予防保全の視点に基づく計画的な維持管理を進めるため、公営住宅等長寿命化計画の見直しを行いました。また、当該計画に基づき各種改善事業を進めたほか、日常点検や附帯設備の保守点検等の各種点検を行い、計画的な修繕事業を進めました。
(3) 耐震・耐久性に優れた家づくりの促進	・老朽化した住宅の安全性を高めるため、木造住宅の耐震診断及び耐震改修を行う市民に対し補助制度の周知を行ったほか、市の職員による無料の耐震診断を実施しました。また、千歳市主催の行事において耐震診断、耐震改修の普及啓発を行いました。
(4) 省エネルギーや人にやさしい住まいづくりの促進	・環境にやさしい質の高い住宅を供給するため、省エネルギー型住宅の建築をはじめ様々な相談に対応する窓口の設置を行いました。また、誰もが暮らしやすい住まいづくりを進めるため、法律に基づいた指導・相談業務のほか、バリアフリー化やユニバーサルデザインに関する情報提供を行いました。

②これからの課題

◎平成 23 年度（2011 年度）に改訂した総合的な住宅行政の指針である住宅マスタープランに基づき、今日まで住まいづくり・まちづくりについて、市民、事業者及び行政のそれぞれの特性を生かした役割分担と連携により取り組んできました。長期優良住宅の認定を受けた良質な住宅ストックが増加傾向である一方、少子高齢化の進展やライフスタイルの多様化など社会情勢が変化中、全国的にも空き家が増加しており、社会的な問題となっています。

今後は、これらの空き家問題に的確に対応していく必要があるほか、リフォームの推進などにより既存ストックを有効に活用できる仕組みを充実させていくことが重要です。

◎公営住宅については、平成 28 年度に国の長寿命化計画に係る策定指針が改定され、これまでの長寿命化型の維持管理に係る取組に加え、より計画的な修繕の実施など、予防保全型の維持管理の考え方が強化されました。今後ますます老朽化が進む公営住宅について、公共施設等総合管理計画とも連携し、より効率的・計画的な維持管理を進めていく必要があります。

また、市民アンケート結果によると、公営住宅環境の整備は比較的満足度が高く、重要度が低いと評価されていますが、引き続き、住宅確保に配慮を要する世帯に対応する必要があることから、民間住宅との連携を図りながら、住宅セーフティネットの役割を果たしていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市耐震改修促進計画	H29-R2
	千歳市公営住宅等長寿命化計画	H25-R4
	千歳市住宅マスタープラン（改訂版）	H24-R3

b) 統計データ等

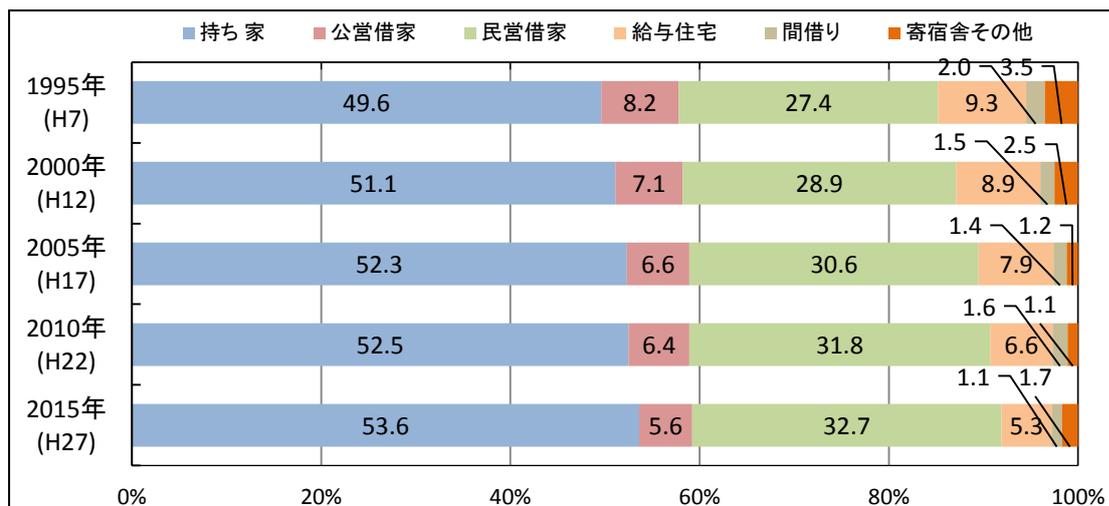


図 2-3-15 住宅所有形態別世帯構成比の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

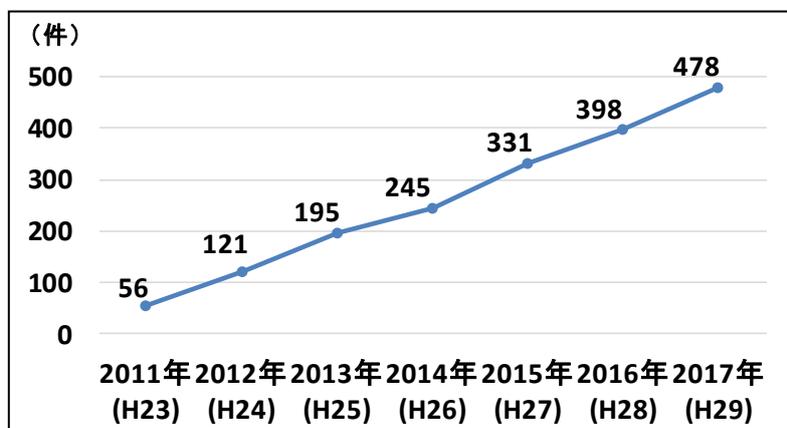


図 2-3-16 長期優良住宅等件数の推移

千歳市行政評価結果

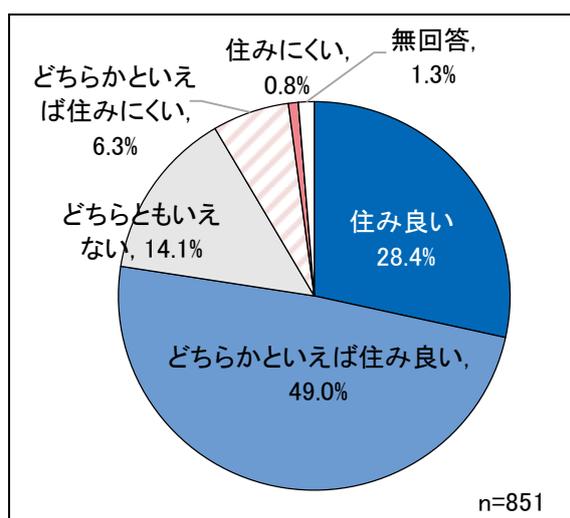


図 2-3-17 現在の千歳市の住みごころ

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

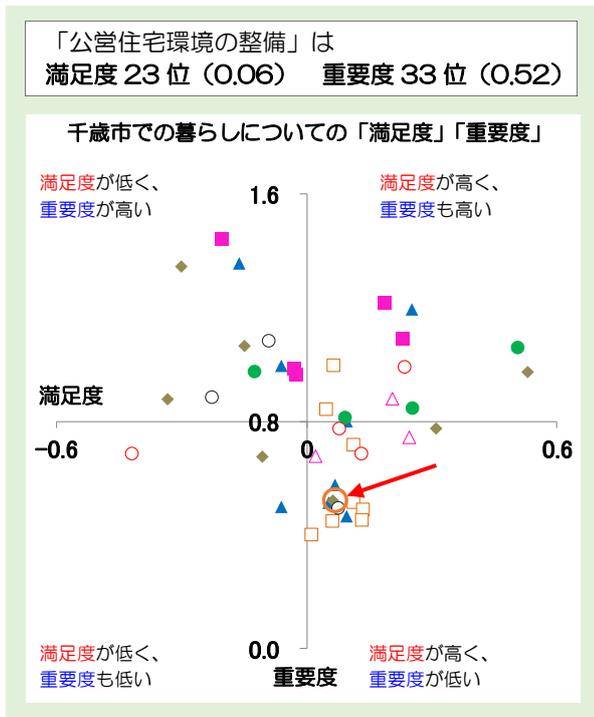


図 2-3-18 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

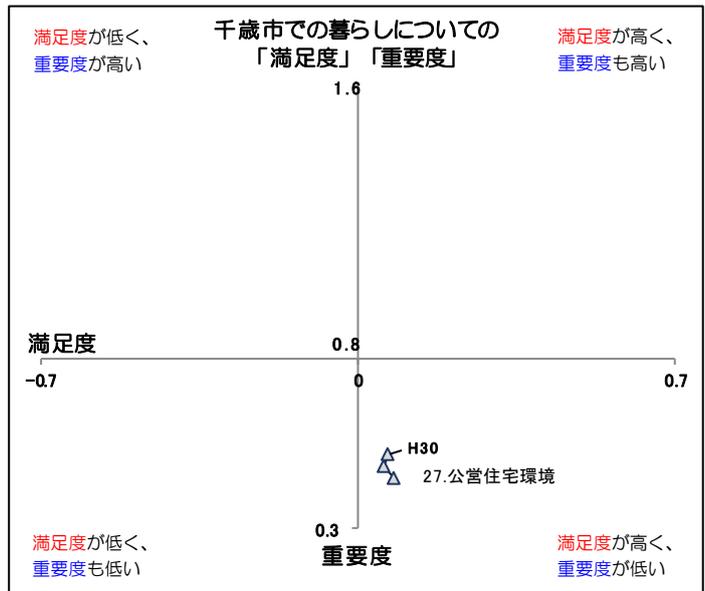


図 2-3-19 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・若者、高齢者がともに助け合うことができる世帯型住宅の建設が必要だと思う。

#### 【大学生アンケート】

- ・学生向けの賃貸アパートが少ないように思う。社会人が入ってしまうと、学生が入れる借家が少なくなってしまう。私が恵庭に家を借りたのはそのせいである。

(6) 快適・安全な冬の都市環境づくり

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 雪に強い生活環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的・効果的な除排雪体制を維持するため、除雪車両及び人員の確保に努めました。</li> <li>・雪に強い生活環境を形成するため、防雪柵設置工事を行ったほか、降雪状況に応じた道路の除排雪作業、凍結防止剤の散布及び凍結抑制舗装の実施など、冬期道路交通の確保に努めました。また、冬期間における生活環境向上のための方策を検討することを目的とした「除雪連絡会議」を発足するとともに、地域特有の除雪に関する課題の改善策を地域の代表者と除雪業者、市の三者で検討する「除雪地域懇談会」を実施しました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎雪国にとって除排雪は、暮らしや経済の根幹に関わる重要な課題となっています。近年、記録的な大雪も報じられており、このような非常事態にも柔軟に対応できるよう、作業員の確保や除雪機械の準備等、より充実した出動態勢を整備していく必要があります。
- ◎温暖化などの影響により降雪状況も変化しつつある一方、近年は少子高齢化が進み、雪対策への市民ニーズも多様化しています。パートナーシップ除雪排雪支援制度の利用促進などにより、きめ細やかな除排雪が行われる地域を作っていく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、道路や歩道の除排雪は比較的満足度が低く、重要度が高いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。今後も、住民ニーズの把握に努めつつ、満足度向上のための方策を検討していくことが重要です。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

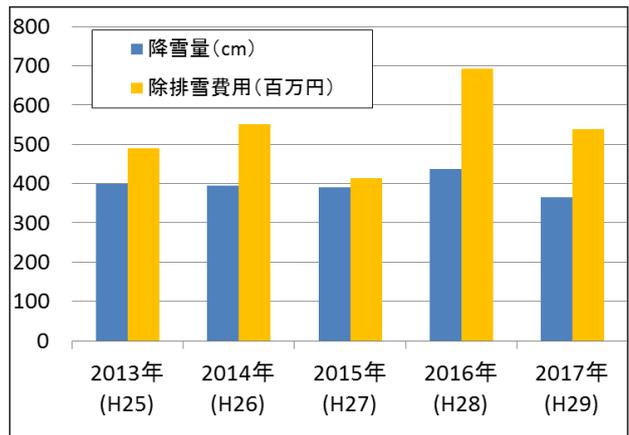
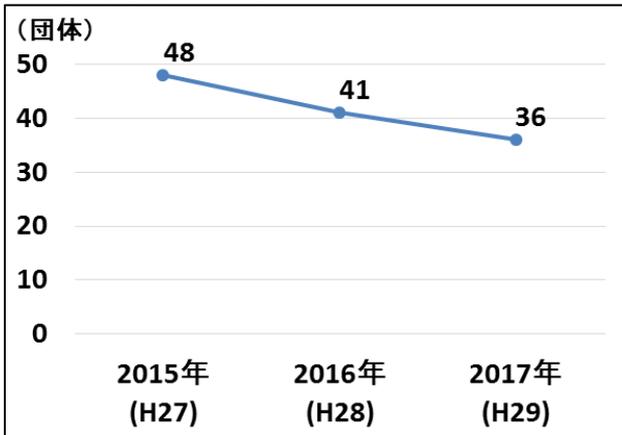


図 2-3-20 パートナーシップ除雪排雪支援制度の申込団体数の推移

図 2-3-21 降雪量と除排雪費用の推移

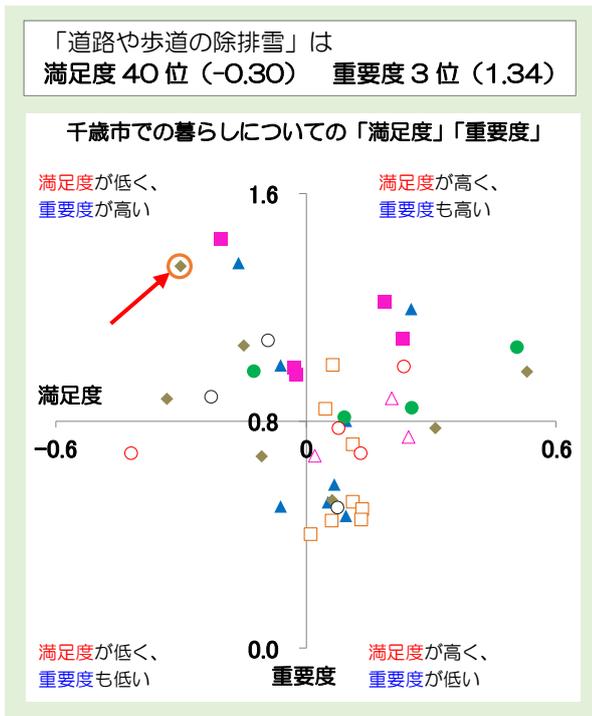


図 2-3-22 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

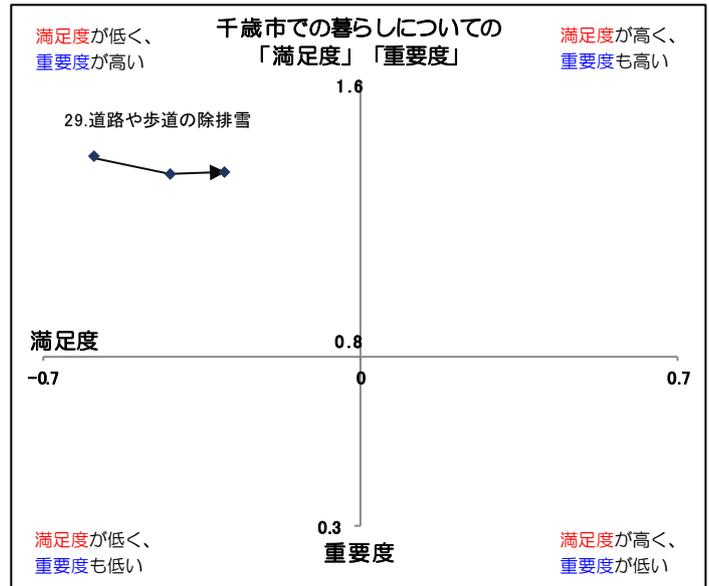


図 2-3-23 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・冬期間、信号機の無い交差点は道路脇にたまった雪で確認しにくく危険である。
- ・雪の処理に困ることがあり、積雪地としては雪捨て場（住宅地を除雪する車が雪を寄せて集める場所）の確保が必要だと思う。

【中学生アンケート】

- ・ごみ拾いボランティアは当たり前だけど、雪かきボランティアをした方がいいと思う。

【高校生アンケート】

- ・冬になるととても滑りやすく危ないと思った。転んでなかなか前に進めないので、滑り止めをして欲しいです。

【大学生アンケート】

- ・除雪や、歩道や道路の氷を割る作業を積極的に実施して欲しい。

(7) 安心して暮らせる川づくりの推進

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 治水事業の推進	・安全で災害に強い社会基盤を作るため、河川事業促進に係る取組を行ったほか、関係機関と連携を図りながら治水・河川協議を行いました。 また、洪水時などに河川本来の機能を発揮できるように、日常的なパトロールのほか、河川敷地の草刈などを行いました。

②これからの課題

◎河川は人々の生活を支え、潤いと安らぎを与えてくれますが、近年増加している大雨などにより、氾濫を起こす危険性もあります。千歳川流域は広範囲にわたって低平地が分布していることから、石狩川の水位が高くなると洪水が発生しやすい状況になっています。安全性を高めるための治水事業に係る指標である河川整備率は上昇傾向ですが、市民の安全を守るため、適切に河川整備事業を続けていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

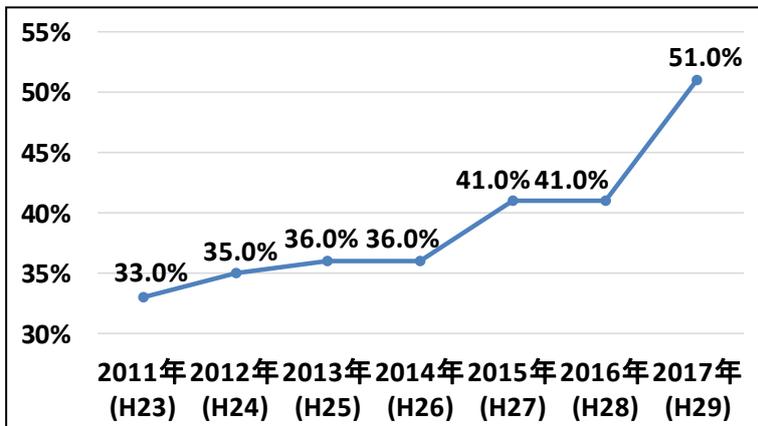


図 2-3-24 河川整備率の推移

千歳市行政評価結果

c) みなさんの声

【中学生アンケート】

- ・川が綺麗だから汚さないようにすることが必要。
- ・川や川周辺のごみ拾いをまちづくりの為にした方が良いと思います。

(8) 防衛施設周辺の諸障害対策の推進

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 航空機騒音対策・移転跡地活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市は国に対して、休日や早朝・深夜の飛行訓練等の自粛を要請するとともに、生活環境の改善・向上のため、住宅防音工事助成制度などの基準の緩和や制度拡大等について、要望活動を継続的に実施しています。また、移転跡地については、国から土地の使用許可を受け、スポーツ広場や多目的広場、町内会が管理する花壇用地などとして、有効活用を図っています。</li> </ul>
(2) 防衛施設周辺対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市は国に対して、新規事業の採択や事業予算の確保、また、施設整備に係る制度の改善や拡充などの要望活動を行っています。また、市民ニーズや必要性・優先度に加え、将来に発生する管理費等の負担も考慮しながら、各種補助事業を実施しています。</li> <li>装軌車等が通行するC経路では、経年劣化や、装軌車の通行により損傷した耐キタアスファルトの改修を計画的に行い、障害の解消を図っています。</li> <li>在日米軍再編の訓練移転の実施にあたっては、庁内会議や「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に伴う調整会議」(市内関係団体)を開催し、関係者の情報共有を図ったほか、新聞折込みによる広報紙の配布や市のホームページに情報を掲載するなど、広く市民周知を図るとともに、市民の安全・安心対策等に関する協定の遵守を国に要請しました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎千歳市には、陸上自衛隊東千歳駐屯地や北千歳駐屯地、また、航空自衛隊千歳基地の陸・空の第一線部隊が所在し、広大な面積に全国有数の防衛施設が配置されています。このことから、防衛施設の運用に起因する住民の苦情は毎年一定数寄せられており、国に対してその対応を要請してきました。今後も急激な環境の改善を見込むことは難しいことから、諸障害を緩和し住民が快適に暮らすことができるよう、国への要望を続けていく必要があります。
- ◎装軌車等の走行による舗装の劣化、航空機の飛行によるテレビの受信障害など、防衛施設周辺の住環境を良好に維持していくため、計画的な施設整備を続けていく必要があります。
- ◎在日米軍再編に係る訓練移転について、訓練計画の市民等への情報提供や、市民の安全・安心の確保、更には地域振興策の実施などに引き続き取り組む必要があります。
- ◎市民アンケートによると騒音・振動・悪臭などの公害防止は、比較的重要度が高く満足度が低いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。防衛施設に起因した諸障害の緩和策については、今後も市民ニーズの把握に努め、長期的な解決に向けた取組を進めていくことが求められています。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

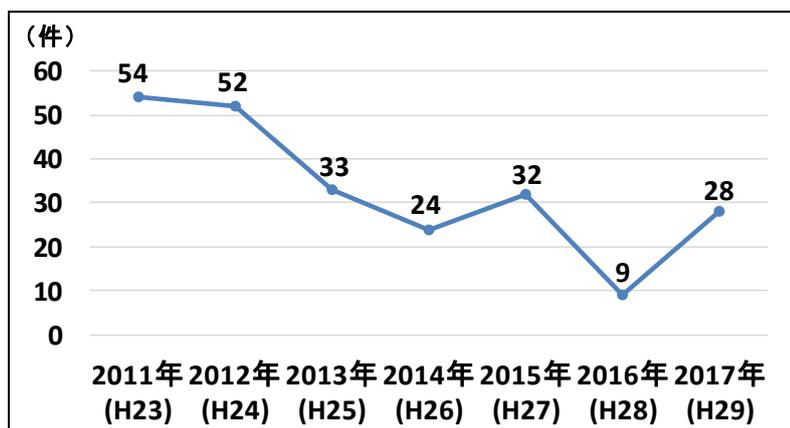


図 2-3-25 国へ苦情等への対応を要請した件数の推移  
千歳市行政評価結果

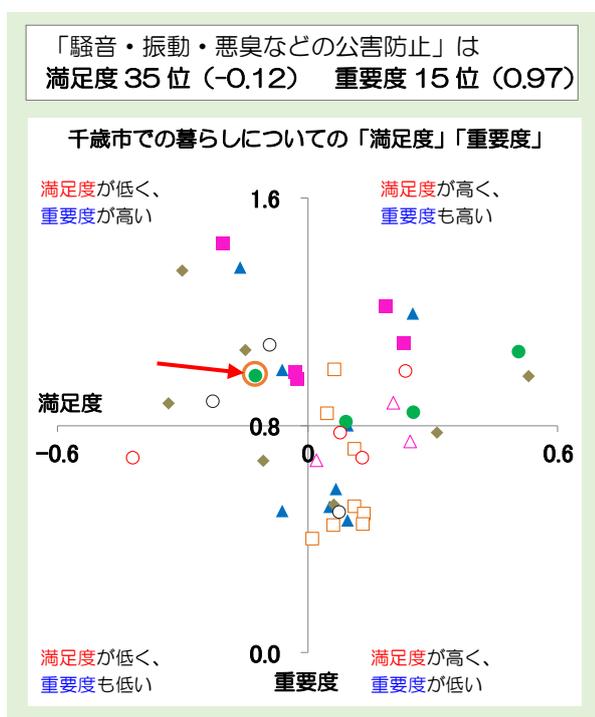


図 2-3-26 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (再掲)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

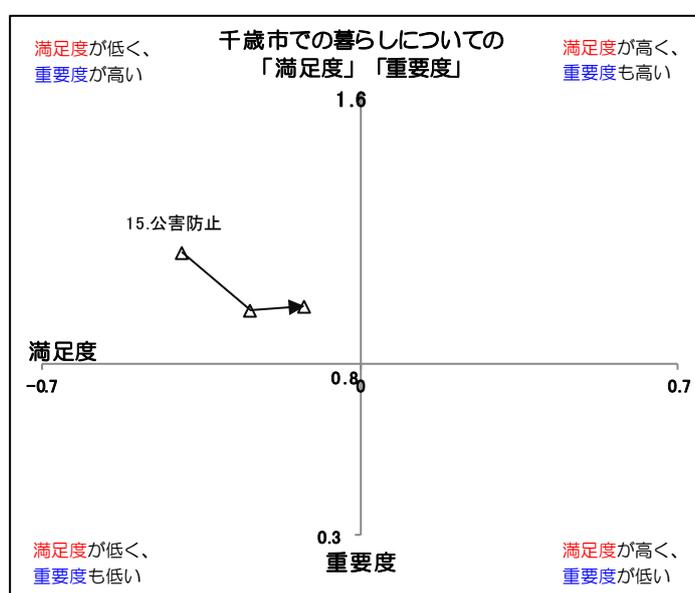


図 2-3-27 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較) (再掲)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

・米軍や自衛隊の騒音により活動に支障をきたすことがある。対策を強化してほしい。

【中学生アンケート】

・仕方ないと思うが、ヘリや航空機の音がかなりうるさい。大砲のような音も、家がきしむのが分かるほどの大きさでとてもうるさい。

【高校生アンケート】

・自衛隊の飛行機がうるさい。

【大学生アンケート】

・飛行機、戦闘機の騒音をなるべく静かにしてほしい。  
・空港や自衛隊基地があるので、ある程度の騒音は仕方ないと思う。

(9) 安全で安定的な水の供給

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 水道給水の充実	・安全でおいしい水道水を供給し続けるための施策目標を定めた「千歳市水道ビジョン」を策定し、これを踏まえた水道アセットマネジメントを運用方針として、施設の更新を実施しました。

②これからの課題

- ◎水道は市民生活、工場などの生産活動に欠くことのできない重要なインフラであり、将来にわたり適切に維持していくことが必要です。
- ◎この先も市民から信頼される水道を維持するため、水道ビジョンなどに基づき、良好な水質の維持、管路の更新、耐震化など料金改定による財源確保を図りながら計画的に各種取組を行い、経営基盤の強化を進めていくことが重要です。
- ◎市民アンケートによると、上下水道の整備は、満足度、重要度ともに高いと評価されています。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市水道ビジョン	H28-R7
	千歳市水道事業計画（第6期拡張事業）	H17-

【千歳市水道ビジョン（H28.6）における策定のポイント】

- ・人口減少社会に伴う水需要の変化への対応
- ・施設の老朽化や災害対策への対応

b) 統計データ等

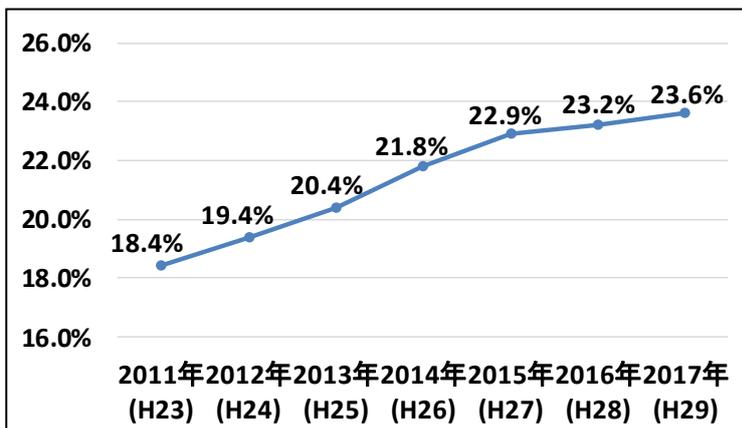


図 2-3-28 送・配水管の耐震化率の推移 千歳市行政評価結果

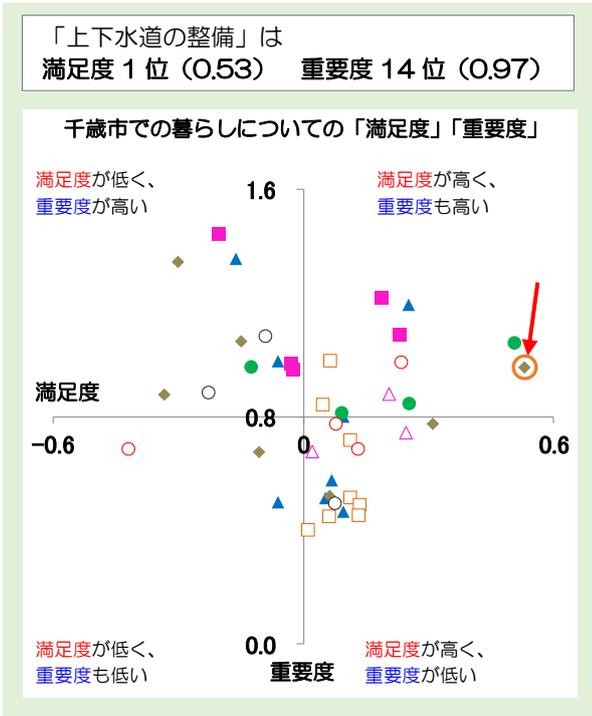


図 2-3-29 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (再掲)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

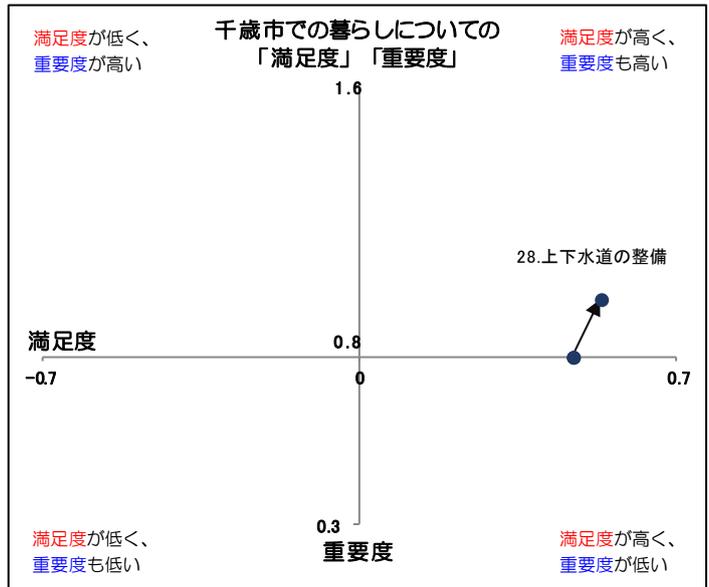


図 2-3-30 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較) (再掲)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

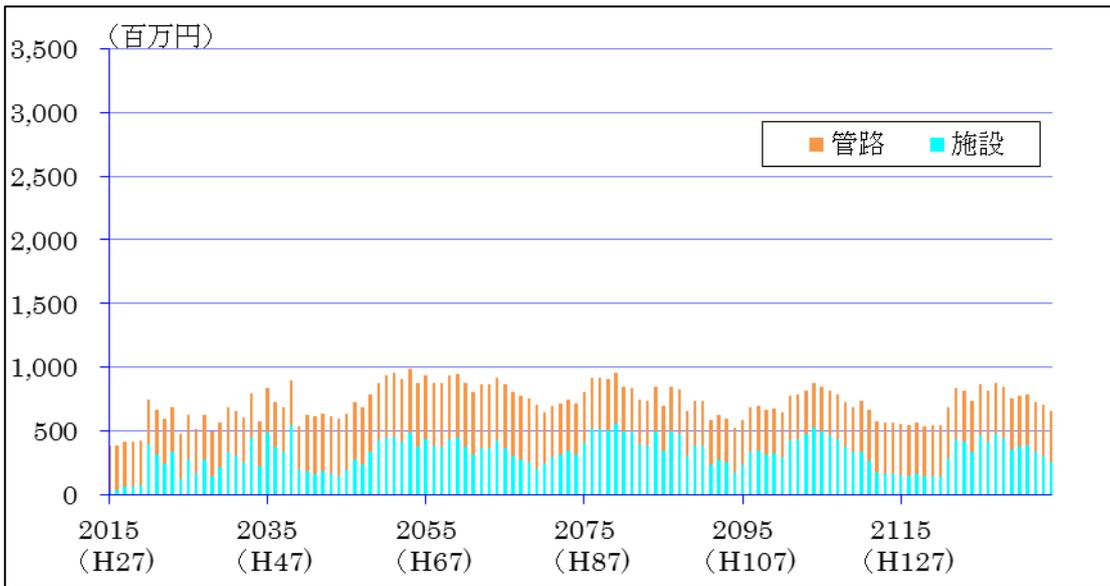


図 2-3-31 上水道施設・管路の更新費用の見通し (平準化後) 水道施設更新実施計画

c) みんなの声

【市民アンケート】

・災害時に停電になり、水道が出ないのが大変だった。

【中学生アンケート】

・千歳市に住んで、水がとても美味しいと感じました。

## 2-4. 学びの意欲と豊かな心を育む教育文化のまち

### (1) 生涯学習のまちづくり

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 学びあえる仕組みづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の地域課題や生活課題に対する自主的な学習活動を支援するため、千歳学出前講座や各種情報提供を行いました。また、人づくり、まちづくりなどにつながる市民の学ぶ意欲の向上のため、学びの成果を交流する生涯学習フォーラム事業などを行いました。</li> <li>・生涯学習活動の普及啓発のため、生涯学習まちづくりフェスティバルを開催するなど、市民主体のまちづくり活動を支援しました。</li> </ul>
(2) 市民活動の活性化とネットワーク体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や団体の交流を通じたまちづくり活動を行うセンター機能として、市民活動交流センターを設置し、情報提供や活動相談などを通じて市民の活動を支援しました。</li> </ul>
(3) 未来の社会を担う人づくりのための機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が自らの資格や技能などを地域活動で生かす仕組み・体制づくりや子どもたちが安全に育つ安心な活動場所の確保のため、学校支援地域本部事業や放課後子ども教室推進事業を実施しました。</li> </ul>

#### ②これからの課題

- ◎急速な社会の変化と個々のライフスタイルの多様化に伴い、市民の生活課題は時代とともに変化しています。市民アンケートによると、生涯学習の情報や機会の提供は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されていますが、今住んでいる場所から移りたい理由として、余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないことが上位に挙げられています。市民一人ひとりが、自己の生きがいや充実のため、生涯にわたって学習し課題に取り組み、学んだ成果を地域で生かせる環境づくりを推進する必要があります。
- ◎生涯学習をまちづくりの視点から推進していくため、市民活動を支援し、人材や団体の育成とそれらを結ぶ横の連携を促していくことが必要です。また、都市化の進展にともなう地域コミュニティの希薄化などに起因し、学校と地域の繋がりがより重要なものとなっています。学校内外の活動に地域の人材を活用した取組を推進し、今後も、学校と地域が繋がることのできる仕組みを充実させていくことが必要です。

#### a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市生涯学習基本計画	H23-R2
------	-------------	--------

b) 統計データ等

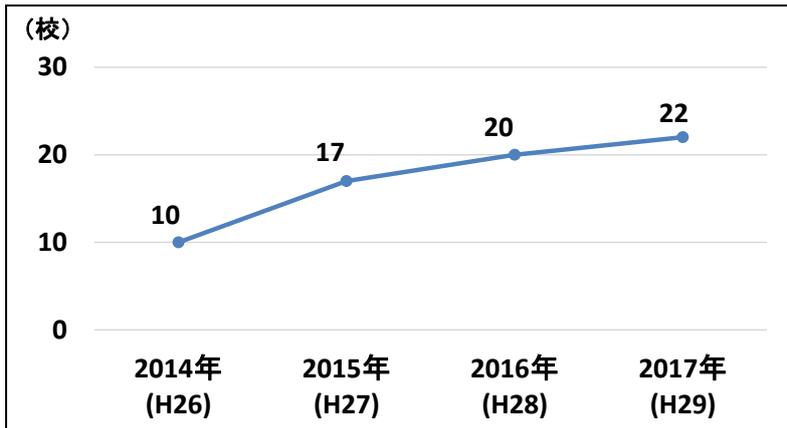


図 2-4-1 学校内外の活動に地域の人材を活用した取組を行っている学校数の推移  
千歳市行政評価結果

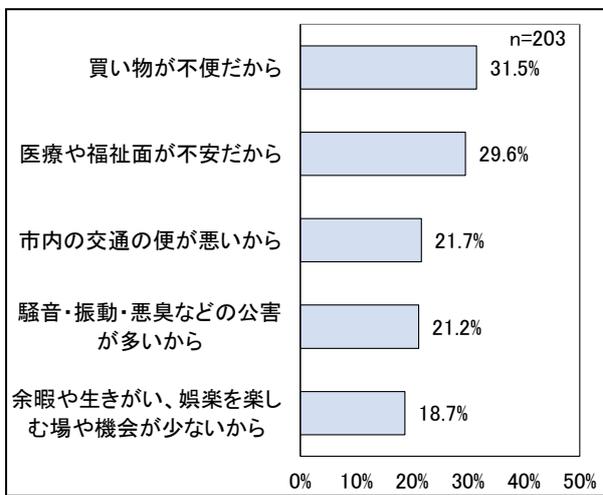


図 2-4-2 今住んでいる場所から移りたい理由  
(上位 5 項目を抜粋) ※再掲

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

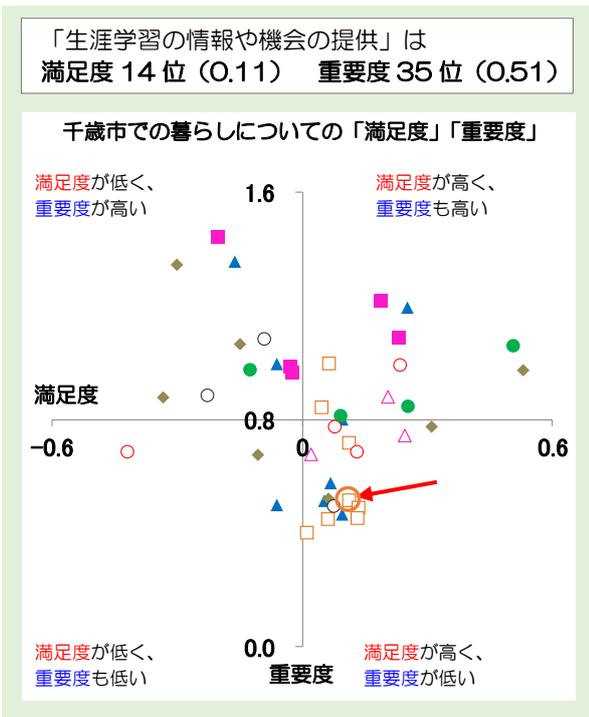


図 2-4-3 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

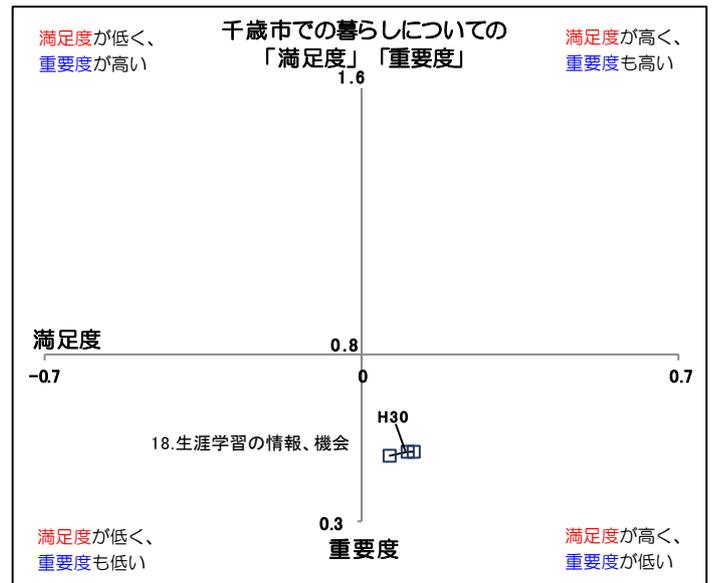


図 2-4-4 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・人は資源であり、教育に投資し優秀な人材を育てる工夫が必要だと思う。
- ・市役所が生涯学習を推進してきても、住民自らがやろうとすることが少ないためなかなか定着しないのと思う。

(2) 幼稚園教育の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 幼稚園教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援機能を充実させるため、保護者の経済的負担を軽減するための就園奨励費補助金を交付するなど、2歳児を中心として幼児の子育て施設への受入れに関する取組を進めました。また、幼稚園の運営改善を図るため、燃料費・光熱水費の一部を支援したほか、心身障がい児を就園させた幼稚園の支援を行いました。</li> <li>・教職員の人材育成を進めるため、幼稚園連合会が行う教員研修会に対する支援を行いました。</li> <li>・幼稚園と小学校の連携を強化するため、幼児と児童の相互交流学習や、教員間での年長児の引継ぎを行いました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていくため、2015年(H27)に子ども・子育て支援新制度がスタートしました。少子化や核家族化の進展などにより、多様化する子育てニーズに対応できる幼児教育を進めていくほか、小学校教育へのスムーズな移行を進めていく必要があります。  
また、幼稚園への就園率は減少傾向にあるため、引き続き、就園率向上に向けた取組を進めていく必要があります。
- ◎近年の経済情勢や男女共同参画社会の意識の広がりにより、共働き家庭や社会参加を希望する家庭が増加する傾向が見られます。また、国では平成31年10月から幼児教育を無償化することを決定されました。このため、保育ニーズはより一層増加するものと考えられ、受け入れ体制の充実に向けた検討を進めていく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、子育て環境や支援は、比較的重要度が高く、満足度も高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。今後も、さらなる満足度向上に向けた取組を継続していく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市障がい者計画・第5期千歳市障がい福祉計画・第1期千歳市障がい児福祉計画	H30-R2
	第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画	H27-R1

【第1期千歳市子ども・子育て支援事業計画(H27.3)における策定のポイント】

- ・核家族化の進行や都市化の進展、就労環境等の変化による子どもと家庭を取り巻く環境の変化への対応

b) 統計データ等



図 2-4-5 幼稚園園児数と就園率の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

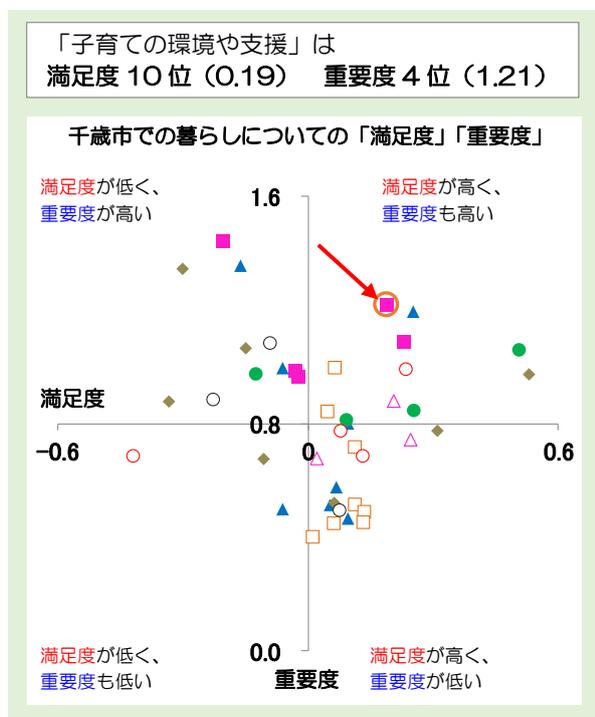


図 2-4-6 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (再掲)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

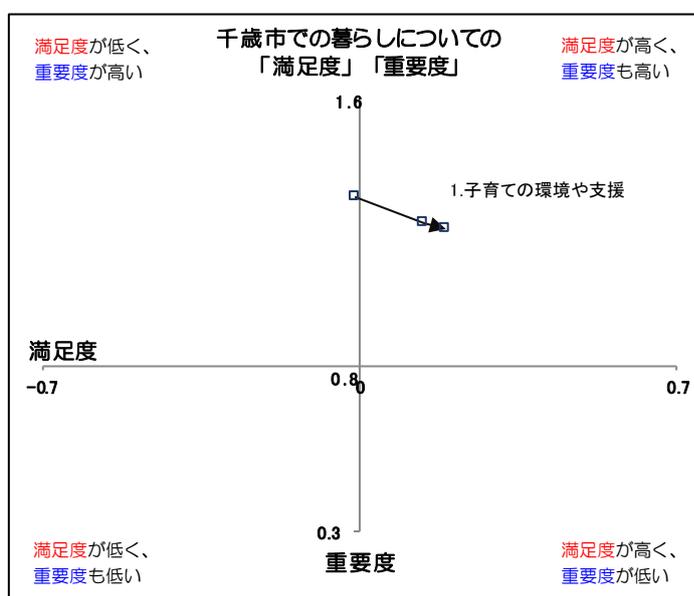


図 2-4-7 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較) (再掲)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(3) 小中学校教育の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 快適な学校環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化の進展に対応した学習環境の充実を図るため、小中学校の全普通教室及び特別教室に電子黒板等のICT機器の整備を進めるとともに、さらに有効な活用を図るためデジタル教科書を導入しました。</li> <li>・読書環境の充実を図るため、小中学校に配置している学校司書を増員したほか、国が定める学校図書館の標準冊数の維持などに取り組みました。</li> <li>・安全・安心な教育環境を確保するため、小中学校の耐震化工事を行ったほか、校舎・講堂の外壁及び屋根の改修やトイレの洋式化、屋内運動場の非構造部材の耐震化工事を進めました。</li> <li>・環境学習の一環として、小中学校において、省エネルギー等に関する取組を進めました。</li> <li>・児童がより良い教育環境で学校生活を送ることができるよう、教育環境を改善するため、北陽小学校の児童増に対応した校舎整備を行ったほか、北陽小学校分離校の新設を決定しました。</li> </ul>
(2) 教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ごとの特色ある教育活動を進めるため、アクティブスクール活動に対する支援を行いました。また、学習指導要領に基づいた教育課程を円滑に進めるため、全小中学校の教育課程の審査などを進めました。</li> <li>・家庭教育や地域教育との連携を図るため、科技大が運営する電子学習システムの活用を進めました。また、千歳科学技術大学の学生による長期休業中の学習サポート事業を行ったほか、市のPTA連合会と連携し、子どもたちが家庭で規則正しい生活習慣を身に着けるための「千歳市家庭生活宣言」の取組を進めました。</li> <li>また、各小中学校において、朝読書等の取組や食に関する指導を行いました。</li> <li>・小中学生の学力向上を図るため、市内小中学校から選任した委員により、学力向上施策の研究を行いました。また、児童生徒の外国語能力の向上を図るため、ALTによる小学校中高学年、中学校における外国語授業の支援を実施したほか、小学校低学年においては、外国語市民講師の派遣等を行いました。</li> <li>・幼稚園から大学までの各過程における協力体制を作るため、小学校と中学校が連携した共通課題への取組を推進したほか、幼稚園や保育所と、子どもの成長に関する情報交換等を行い、小学校へ円滑に接続できるよう取り組みました。</li> <li>・義務教育9年間を見通した系統的な教育活動や小中学校の円滑な接続を目指す取組を通して、子ども一人ひとりの学力・体力の向上と人間形成を図ることを目的として、小中連携・一貫教育の導入に向けた取組を開始しました。</li> <li>・校外活動の際のバス等の借り上げや、文化活動、体育活動の全道・全国大会出場に対する支援を行うなど、文化・体育活動の支援を行いました。</li> </ul>

<p>(3) 安全・安心な教育環境の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内の衛生状況を保つため、学校環境衛生基準に基づく学校環境の安全確認を行いました。また、学校医による健康診断などにより、児童生徒の健康状態を確認しました。</li> <li>・全ての子どもが望んだ教育を受けることができるよう、経済的な理由で就学が困難な家庭に対して、就学援助費や特別支援教育就学奨励費等の支給を行いました。また、遠距離通学及び特別支援学級の児童生徒に関し、安全な通学手段の確保のため、スクールバスを運行しました。</li> <li>・登下校時における子どもの安全を確保するため、ボランティアの見守り隊員による立哨巡回を行い、110番の家の確保に努めたほか、学校ホームページ等による不審者に係る情報提供を行いました。また、通学路の安全対策のため、通学路交通安全対策専門部会を設置し、通学路の安全点検などを実施しました。</li> </ul>
<p>(4) 特別支援教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と就学相談を行い、適切な就学先の確保に努めました。また、児童生徒ヘルパーや、特別支援教育支援員の配置を進めました。</li> <li>・「個別の指導計画」等の作成や専門家チームによる巡回教育相談の実施により、一人ひとりのニーズに合った特別支援教育の充実に努めました。</li> </ul>
<p>(5) 学校を支える組織の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼される学校づくりを進めるため、市内全小中学校に学校評議員を配置し、保護者アンケートを実施しました。</li> <li>・学校と地域が力を合わせ、それぞれの立場で主体的に地域の子どもの成長を支えていく学校づくりを進めることを目的として、各小中学校にコミュニティ・スクールを導入する取組を推進しました。</li> <li>・千歳市教育振興会、千歳市校長会、千歳市教頭会の活動を支援し、教職員の資質向上を促しました。</li> </ul>
<p>(6) 教育相談・指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケート等にていじめ問題の解消に向けた対応を行い、いじめシンポジウムで、いじめの未然防止に向けた啓発を行いました。さらに、いじめ問題等対策連絡協議会やいじめ問題専門委員会を開催し、関係機関の連携強化に努めました。</li> <li>・不登校児童生徒の教育相談や学校復帰を支援するため、適応指導教室を運営しました。また、児童の悩みや不安、ストレス解消を図るため、小学校に相談員を配置しました。</li> <li>・児童生徒や教職員の悩みを解消するため、臨床心理士による児童生徒・保護者・教員等に対する教育相談を行いました。</li> </ul>
<p>(7) 学校給食の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食実施基準に基づき、児童生徒の健康の増進等を考え、栄養バランスを考慮した献立を作成し、安全安心な給食を提供しました。</li> <li>・学校給食衛生管理基準に適した運営ができるよう、衛生管理責任者と調理委託業者が連携しながら、調理場内の衛生管理と、使用する各設備の日常的な保守点検を行い、学校給食センターの正常な稼働に取り組みました。</li> <li>・各設備の日常的な保守点検や整備を行い、現施設の正常な稼働に取り組みむとともに、新たな学校給食センターの整備に向けて、施設の整備方針や整備手法等の検討を行いました。</li> </ul>

## ②これからの課題

- ◎小中学生の学力向上に向け、学校教育における学力向上策の検討を進めるのはもちろんのこと、家庭教育など、校外の学習環境や機会も充実させていく必要があります。また、多様化する教育ニーズなどにより、教師の長時間労働が常態化するなど、教育現場の負担が増加しています。今後も、学校長や各教職員における問題解決能力など、資質や指導力を向上していくことが必要ですが、同時に、教員の働き方改革を進め、負担軽減策を実施していく必要があります。
- ◎情報化社会の進展に対応し、令和2年度から新たな学習指導要領の全面实施により、学校教育においてもさらなるICTの活用が求められます。教育に有効なICT機器の導入を進めていくとともに、運用方法の検討やそれに対応できる人材の確保などを進めていく必要があります。
- ◎学校施設長寿命化計画の策定などにより、中長期的な視点で具体的な維持管理手法を定めていく必要があります。
- ◎児童生徒を取り巻く環境の変化とともに、問題行動も多様化し複雑化しています。いじめや不登校等は初期対応が重要であり、未然防止に加え早期発見、早期対応が必要です。また、児童生徒の登下校中に不審者による「声かけ」や「付きまとい」などが発生しています。発生件数は減少傾向ですが、引き続き、子どもたちが安全に安心して登下校できる環境づくりが求められています。
- ◎障がいのある児童生徒への教育については、個々の障がいに応じた指導や施設の充実など、安心して学習できる環境づくりが必要です。また、市民アンケートによると、障がいのある児童などの教育環境について、比較的満足度が高く、重要度も高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。今後も、障がいのある子どものニーズを的確に把握するなどにより、満足度向上に向けた取組を進めていく必要があります。
- ◎学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の成長と健康を支える上で、重要な役割を果たしています。子どもたちがバランスのとれた栄養豊かで、おいしい食事をとることができる環境をより充実させていく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、小・中学校の教育環境について、比較的満足度が高く、重要度も高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。今後も、学習環境の充実に向けた取組や、多様化する学習ニーズへの対応を進め、満足度向上に努める必要があります。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	ICT環境整備計画	H30-R4
	千歳市学校教育基本計画	H26-R2
	千歳市子どもの読書活動推進計画（第2次） ちとせっ子読書プラン	H26-R2

### 【ICT環境整備計画（H30.10）における策定のポイント】

- ・新学習指導要領を見据えたICT環境の整備

b) 統計データ等

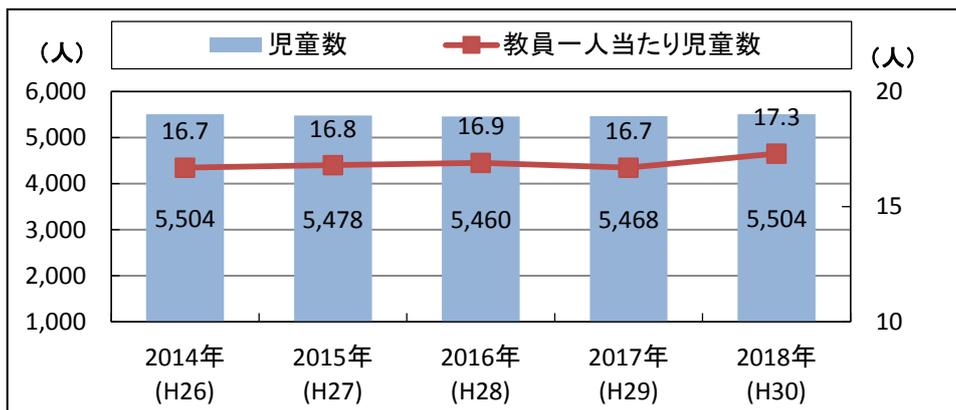


図 2-4-8 小学校児童数と教員一人当たり児童数の推移 要覧ちとせ 平成 30 年版

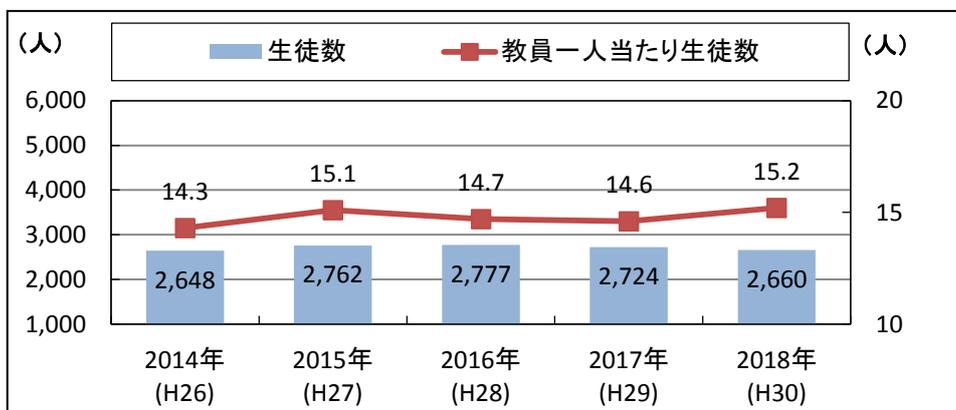


図 2-4-9 中学校生徒数と教員一人当たり生徒数の推移 要覧ちとせ 平成 30 年版

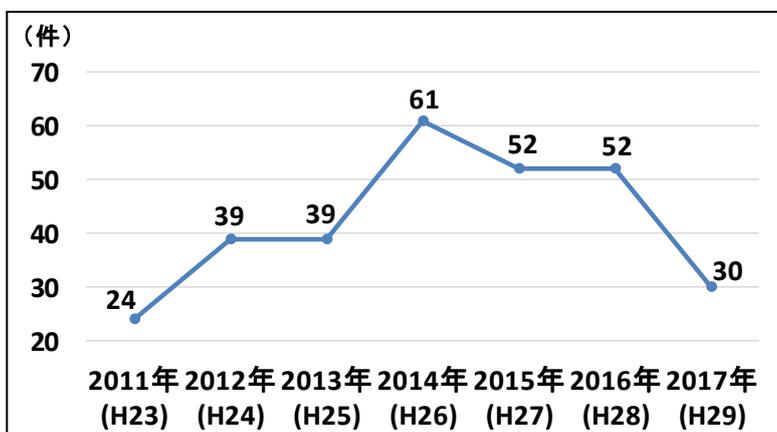


図 2-4-10 不審者・事件等発生件数の推移 千歳市行政評価結果

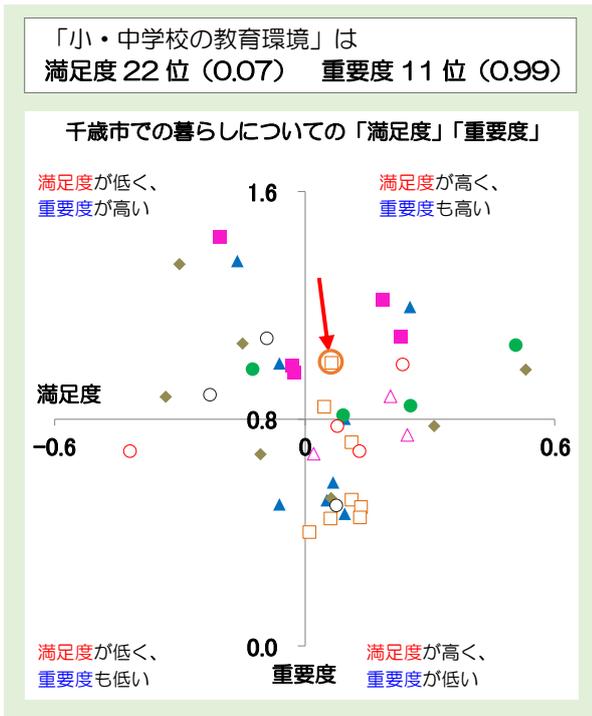


図 2-4-11 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

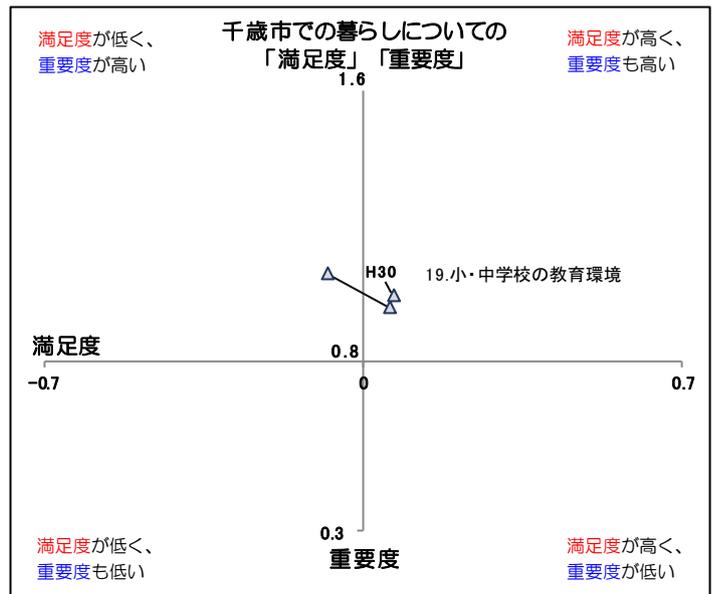


図 2-4-12 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

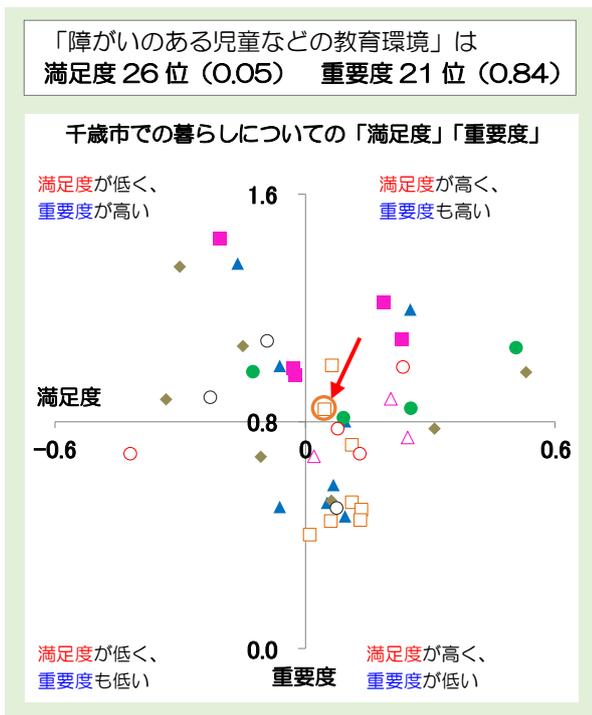


図 2-4-13 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

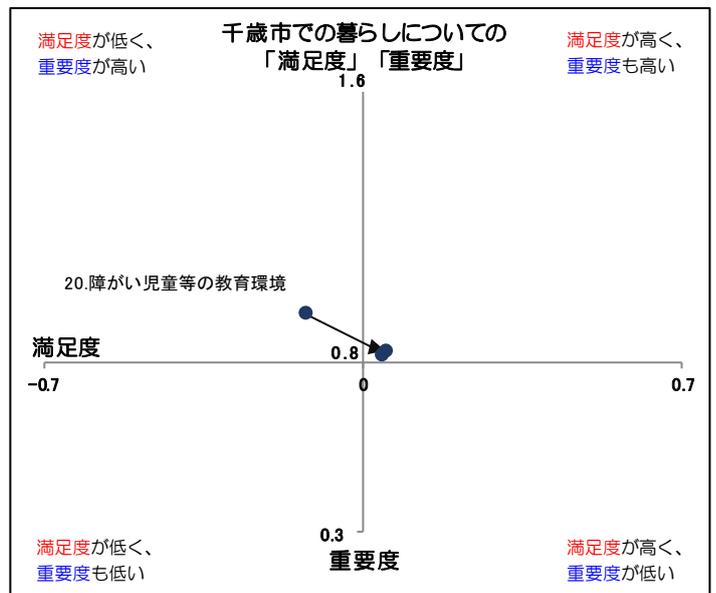


図 2-4-14 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・千歳の小中学校でも不登校の子どもが増えており、その対応があまりにも残念である。教師それぞれの意見対応ではなく、何に一番重きを置くかを考え、子どもの目線に立って同じ方向をみた対応をしてほしい。学校に来ない子どもを責めるのではなく、寄り添い、多くの手段があることを子どもや親に伝えてほしい。
- ・北陽小学校は児童数が増えており、一日も早く学校を作ってほしい。勇舞中学校についても対応してほしい。
- ・小中学生の学力の向上のため、親の認識から変えていく必要があると思う。
- ・教育現場においてICT機器が多くあり大変進んでいると思うが、教師用の教科書は学年に1つで不便で授業づくりが行いにくい。

#### 【中学生アンケート】

- ・学校の校舎が古いので、少し快適になって欲しい（新しい学校との差が大きい為）。
- ・気軽に行けて居場所になるようなフリースクールをもっと作ってほしい。

#### 【高校生アンケート】

- ・市内の小中学校の給食が酷い。給食センターを新しくするべき。

(4) 高等学校教育の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 教育機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石狩管内公立高等学校配置計画地域別検討協議会に参加し、人口推移等を考慮した適正な高等学校等の配置などを検討しました。</li> <li>・給付型奨学金制度を拡充したほか、奨学基金への寄付募集の促進を行い、経済的な理由で修学が困難な生徒・学生の支援を行いました。</li> </ul>

②これからの課題

◎千歳市には2校の高等学校と1校の高等特別支援学校がありますが、生徒数は年々減少している傾向にあります。また、近年の社会情勢の影響により、奨学金の給付希望者は増加傾向にあります。今後も、経済状況によらず、向学心のある生徒・学生が確実に修学できる環境を作っていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市学校教育基本計画	H26-R2
------	-------------	--------

b) 統計データ等

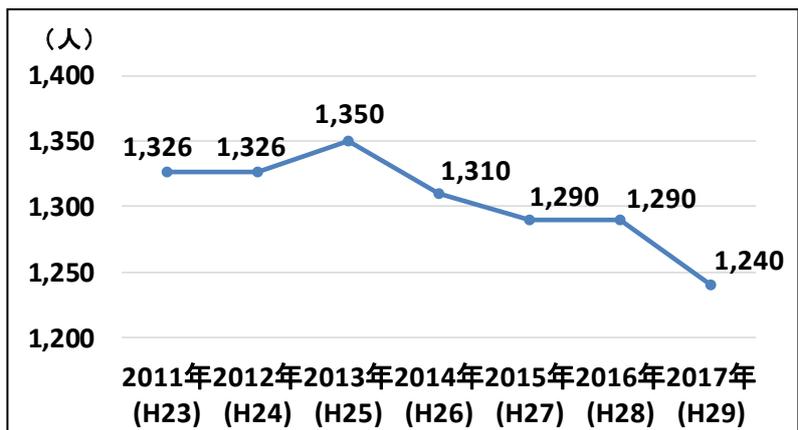


図 2-4-15 市内の高等学校等及び高等教育機関の入学定員の推移  
千歳市行政評価結果

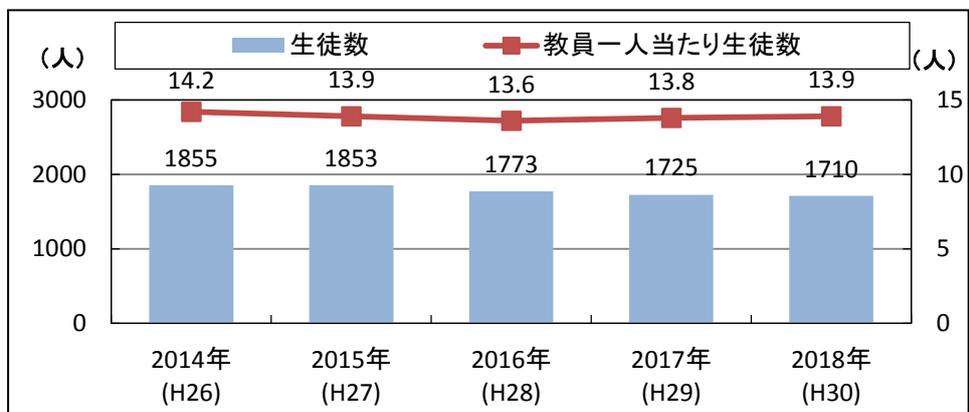


図 2-4-16 高等学校・高等支援学校の生徒数の推移  
要覧ちとせ 平成 30 年版

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・中高一貫校の進学率の高い学校を早急に作るべきだと思う。

#### 【高校生アンケート】

- ・冬場がすごく寒いので、暖房をもう少し入れてほしい。

#### 【大学生アンケート】

- ・千歳科学技術大学の学部、学科を増やすなど、充実して欲しい。公立化後に支障をもたらす。
- ・コワーキングスペースのようなものを増やすべき。Wi-Fi や電源を充実させて、利用料は月 500 円程。高校生以上を主なターゲットにする。一部の大学生は教えたがりなので、高校生に勉強を教えられるような場を作るべき。

(5) 社会教育の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 学習機会の充実	・地域課題や国際問題など、市民ニーズに応じた学習機会や高齢者の学習機会を充実させるため、市民教養セミナーや英会話教室、千歳高星大学や千歳市若返り学園などの学習の場を設けました。
(2) 家庭教育の充実	・家庭の教育力を向上させるため、ママさん教室やすこやか子育て講座、家庭教育セミナーや男性の子育て講座などを行いました。
(3) 社会教育施設の充実	・社会教育施設の機能を充実させるため、公民館において会議用テーブルやスタッピングチェアなどの更新を行ったほか、市立図書館では蔵書の入れ替えや閲覧用いすの更新などを行いました。

②これからの課題

◎ライフスタイルの多様化に伴い、生涯学習のニーズも多様化が進んでいます。千歳市では、市民教養セミナーや子育て講座など多様な学習機会を提供しており、今後も、市民の学習ニーズや地域社会の発展につながる学習機会の提供に努める必要があります。

◎市内の教育施設の利用状況は概ね横ばい傾向ですが、市立図書館や公民館などの社会教育施設は老朽化が進んでいます。今後は、公共施設等総合管理計画の推進により長期的な視点で管理運営を進める必要があるほか、個別施設計画を策定し、計画的かつ効果的な維持管理を実施する必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市子どもの読書活動推進計画（第2次） ちとせっ子読書プラン	H26-R2
	千歳市生涯学習基本計画	H23-R2

b) 統計データ等

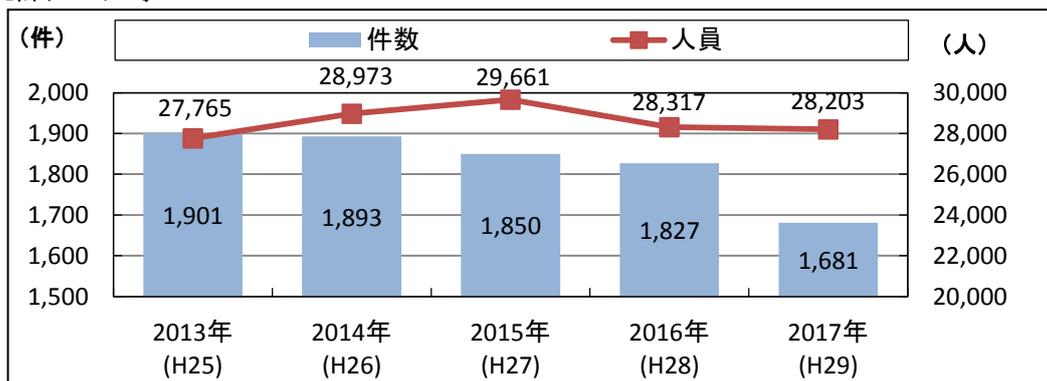


図 2-4-17 公民館の利用件数と人員の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

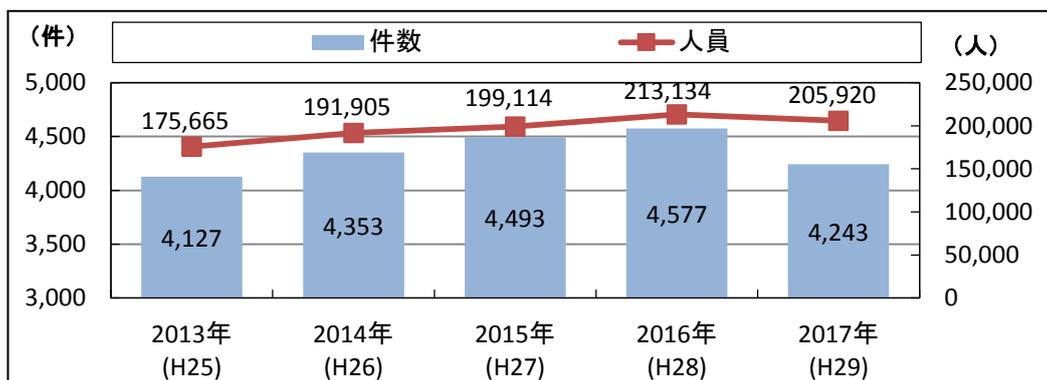


図 2-4-18 北ガス文化ホール（千歳市民文化センター）の利用件数と人員の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

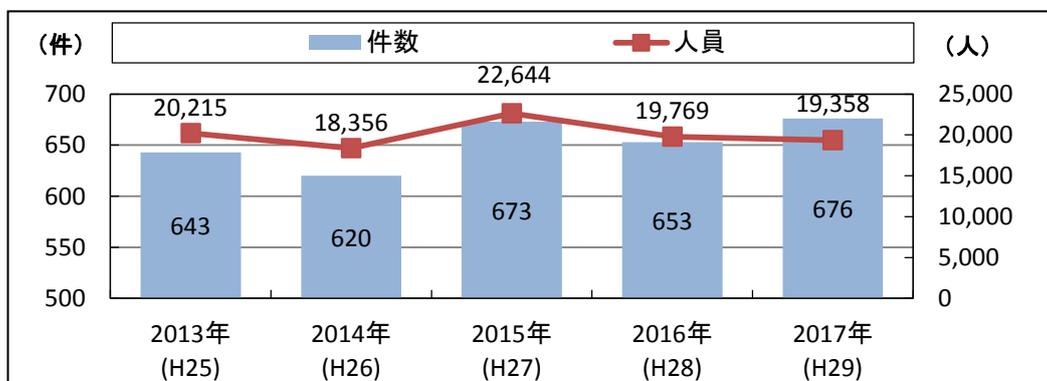


図 2-4-19 市民ギャラリーの利用件数と人員の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

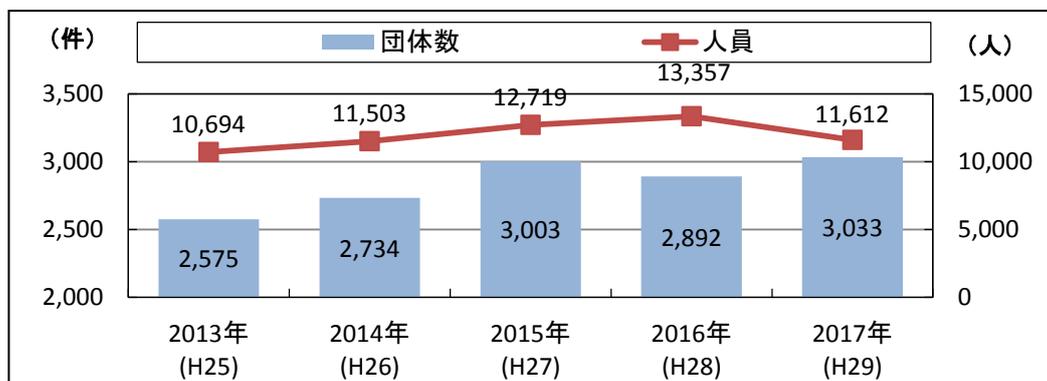


図 2-4-20 千歳市民活動交流センター「ミナクール」の利用件数と人員の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

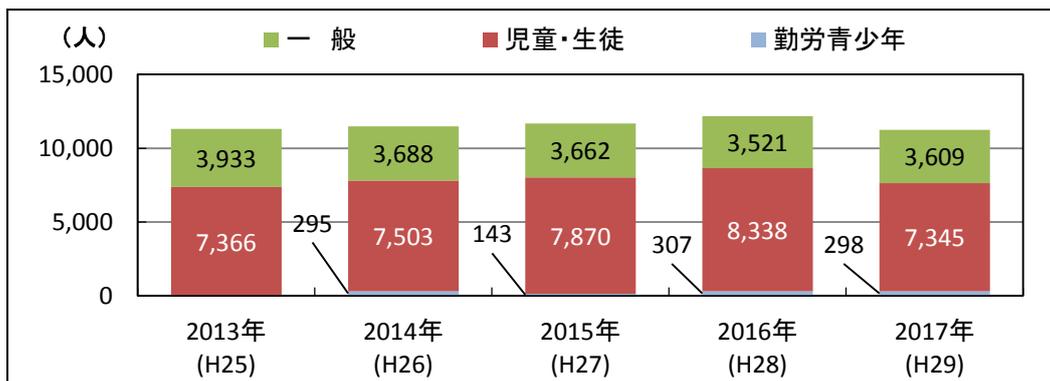


図 2-4-21 青少年会館の入館者数の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

c) みんなの声

**【市民アンケート】**

- ・図書館をまちライブラリーのようにして魅力を向上してほしい。

**【高校生アンケート】**

- ・駅から近い所に図書館が欲しい。
- ・勉強が出来る施設を増やして欲しい。

**【大学生アンケート】**

- ・図書館の本が古い。
- ・勉強を出来る環境がもっとあったらいいなと思いました。まちライブラリーや図書館だけではテスト時期に大変混雑するので、あと1ヵ所ほどそのような場所があると嬉しい。

(6) 市民文化の創造

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 文化鑑賞 機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の文化鑑賞の機会を充実させるため、北ガス文化ホール（千歳市民文化センター）におけるコンサート・演劇・寄席等や、市民ギャラリーにおける絵画展などを実施するとともに、ホームページや北ガス文化ホールだよりの発行等により、文化鑑賞に関する情報提供を行いました。</li> <li>舞台床等設備の修繕や更新のほか、備品の購入等により、施設の利便性向上とともに適正な維持管理を進めました。</li> </ul>
(2) 文化活動 の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術文化活動を支える活動を支援するため、補助金を交付するなど文化関係団体が主体的に行う活動への支援を行いました。</li> <li>市民の主体的な芸術文化活動を促進するため、千歳市民文化表彰贈呈事業やフレンドリーコンサートを実施しました。</li> </ul>

②これからの課題

◎市民アンケートによると、芸術・文化活動の促進について、比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されていますが、市民が豊かな心を持ち潤いのある生活を送るために、芸術文化の果たす役割は高いものがあります。個人や団体が自主的・主体的に芸術・文化活動を行いやすい環境を作るとともに、相互に高め合い向上していくことができる仕組みを充実していく必要があります。

◎北ガス文化ホール（市民文化センター）や市民ギャラリーは、指定管理者が管理運営を行っており、民間の事業者の発想により、コンサートなどの魅力的な自主文化事業等を企画し、実施しています。利用者数は概ね横ばい傾向となっていますが、今後もより魅力ある事業の展開を進め、市民に良好な文化鑑賞機会を提供できるよう、施設の効果的な管理運営を進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市生涯学習基本計画	H23-R2
------	-------------	--------

b) 統計データ等

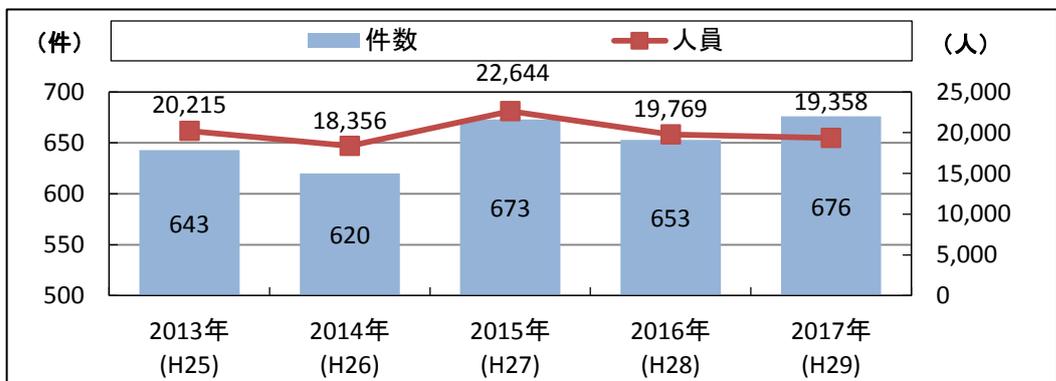


図 2-4-22 市民ギャラリーの利用件数と人員の推移 (再掲)

要覧ちとせ 平成 30 年版

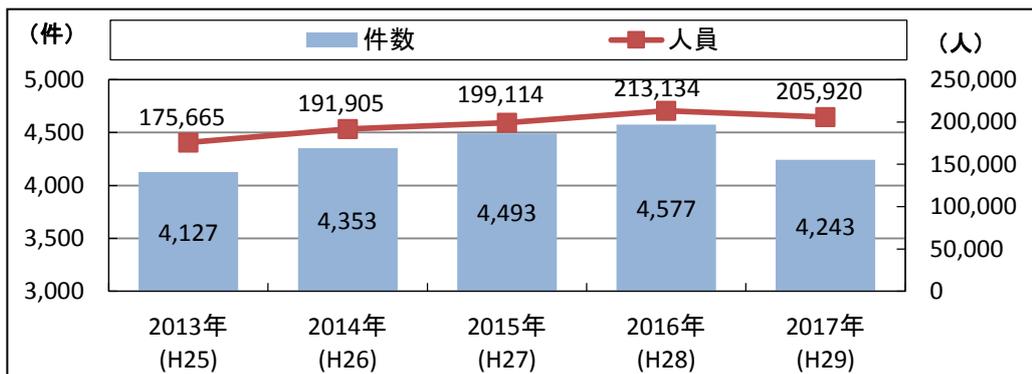


図 2-4-23 北ガス文化ホールの利用件数と人員の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

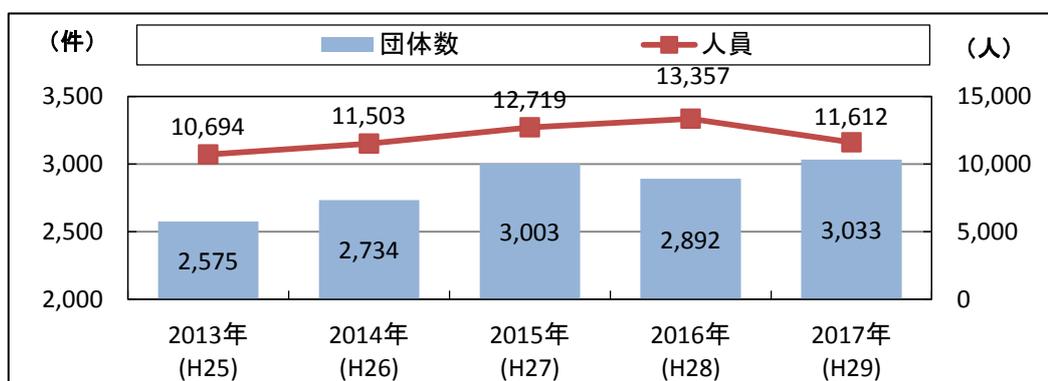


図 2-4-24 千歳市民活動交流センター「ミナクール」の利用件数と人員の推移 (再掲)

要覧ちとせ 平成 30 年版

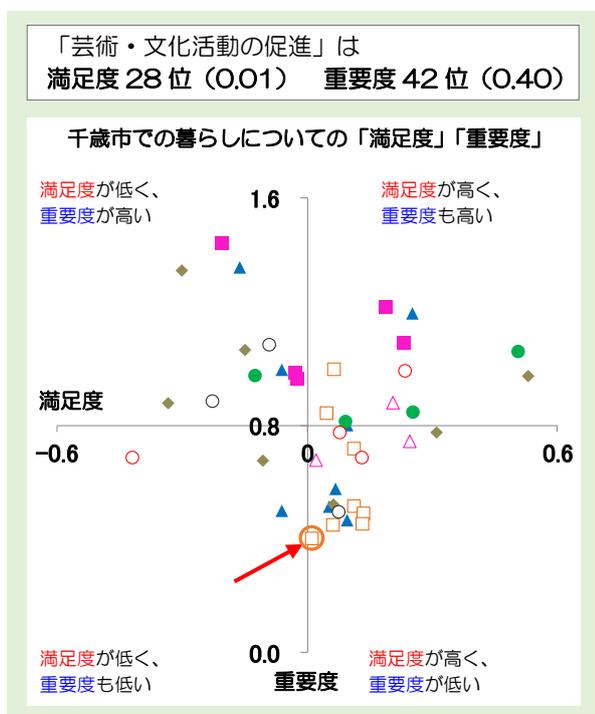


図 2-4-25 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

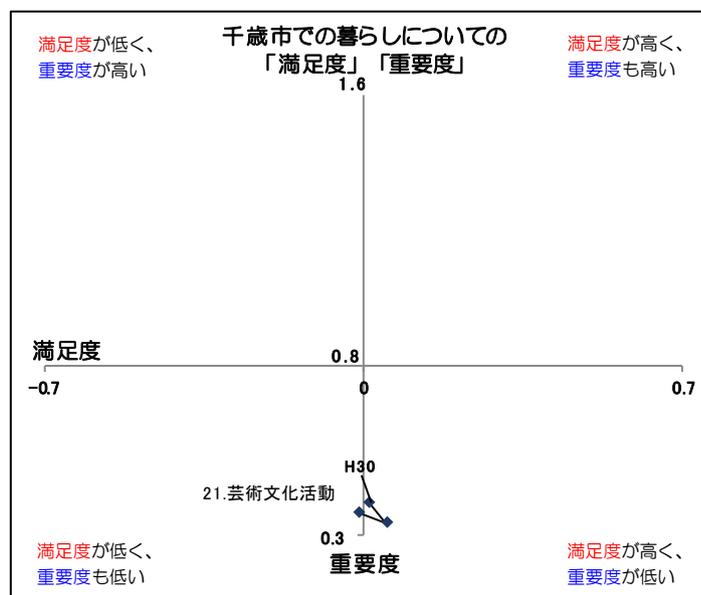


図 2-4-26 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

**【市民アンケート】**

- ・ 空港や工場が多く、就職や転勤で移住してくる人が多いと思うので、これらの人々の交流の場として、市民ミュージカルや合唱団などがあると良いと思う。
- ・ 童謡唱歌の集い・心の名作の紹介サークルができれば喜んで参加したい。

**【大学生アンケート】**

- ・ 将棋が出来る施設（または大会）を作って欲しい。

(7) 文化財の保護と活用

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 文化財の保護と保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財に係る保護・保存の取組として、埋蔵文化財包蔵地及び可能性地の照会や事前協議等に対応したほか、周知資料の作成を行いました。また、キウス周堤墓群の世界文化遺産登録を目指し、縄文遺跡群世界遺産登録推進会議が実施する事業への参加や周知・啓蒙活動に取り組みました。</li> <li>・市指定有形文化財を埋蔵文化財センターで適切に保管しました。</li> </ul>
(2) 郷土資料の公開と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「縄文文化」体験学習会や各種公開講座を開催し、市民が郷土資料に触れる機会の充実に努めました。</li> <li>・埋蔵文化財センターにおける常設展示や企画展のほか、美々貝塚保存施設の一般公開等を行い、文化財の普及啓発を行いました。</li> <li>・キウス周堤墓群史跡指定地外隣接地で、遺跡範囲を知るための保存目的調査などを実施しました。</li> </ul>
(3) 伝統文化の保存と継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土芸能やアイヌ文化の保存と継承を支援するため、関連団体の活動を支援しました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎千歳市には、多様な自然や文化財が残されています。これらは、千歳市を培ってきたかけがえない資産や遺産であることから、千歳市では毎年複数回の文化財パトロールを実施しているほか、文化財に関する学習会や公開講座等の取組を行っています。今後もこのような取組を続けることで文化財を守り伝えるとともに、市民に積極的に公開し、千歳らしいまちづくりに活用していくことが必要です。
- ◎千歳市には「キウス周堤墓群」などに代表される埋蔵文化財をはじめ、自然史資料や開拓資料などが数多くあります。一方、空港・鉄道・道路が集中する交通の要衝である千歳市は、今後も社会的基盤の整備や地域の開発が予想され、文化財の保護と保存が必要になります。また、国指定史跡キウス周堤墓群は「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産となったことから、世界文化遺産の登録に向けた取組を引き続き進めていくとともに、適正に保存し、活用を図っていくことが必要です。
- ◎千歳市には、アイヌ文化や開拓期以降からの伝統文化があります。今日まで地域の積極的な活動により保存と継承が図られていますが、若い世代の後継者育成などをはじめ、多くの市民が関心を持ち理解を深める活動の充実が必要です。
- ◎市民アンケートによると、文化財や史跡の伝承保存について、比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されています。今後も文化財の重要性などについて普及啓発を進めるとともに、講演会や催事等の充実を図るなどの取組を進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市生涯学習基本計画	H23-R2
------	-------------	--------

b) 統計データ等

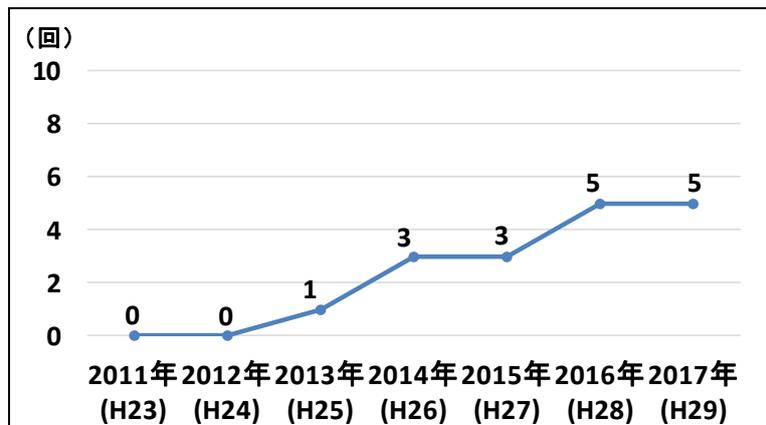


図 2-4-27 文化財パトロールの実施回数の推移 千歳市行政評価結果

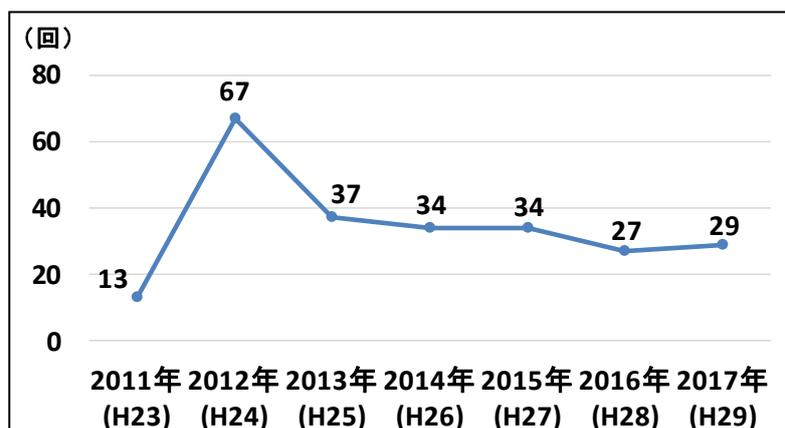


図 2-4-28 体験学習、企画展、講演会、出前講座などの開催数の推移 千歳市行政評価結果

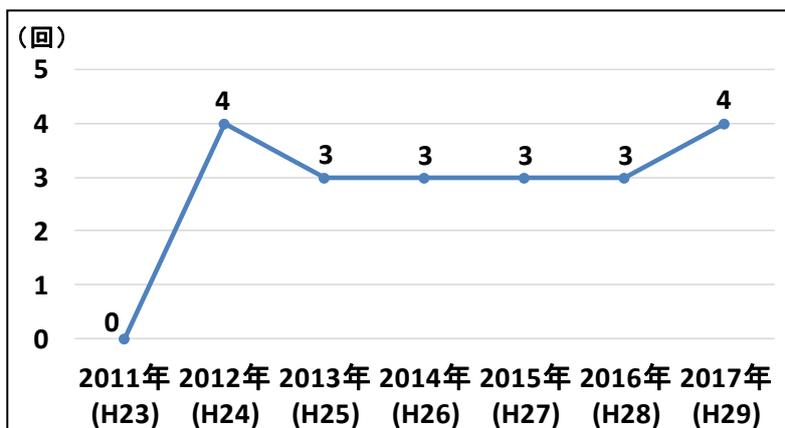


図 2-4-29 伝統文化に関する講演会や公演などの実施回数の推移 千歳市行政評価結果

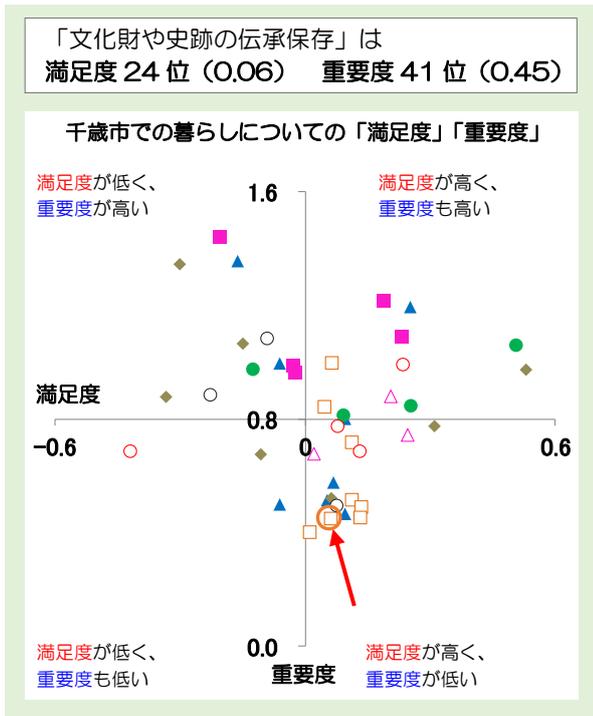


図 2-4-30 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

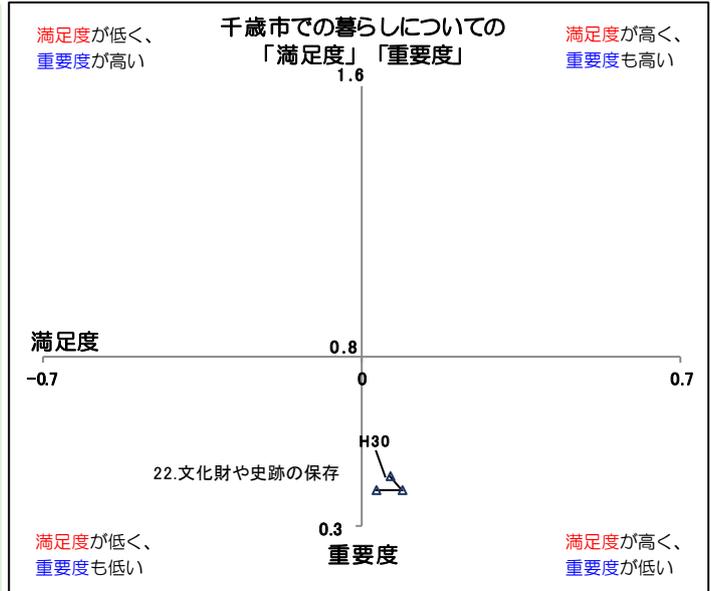


図 2-4-31 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・千歳の文化や歴史について、子どもや、少しでも興味を持った人が知ることができる環境づくりが重要だと思う。
- ・千歳の人々が持っている史実を生かした文化の醸成が必要だと思う。そのために、掘り起こし千歳、千歳再発見などの市民プロジェクトを立ち上げることも面白そうだ。
- ・郷土を見直すために、郷土資料館の創設や図書館における郷土コーナーの充実化が重要だという認識が、現状の千歳においては希薄だと思う。

(8) 生涯スポーツの推進

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 生涯スポーツの啓発と普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民のスポーツ活動を促進するため、学校体育施設の開放、千歳学出前講座の実施のほか、市及び体育協会のホームページや広報紙、地域情報紙などでスポーツに関する情報提供を行いました。また、千歳市スポーツ賞を贈呈し、市民のスポーツ意識の啓発を図りました。</li> <li>交流会においてニュースポーツの紹介などを行ったほか、スポーツ推進委員及びスポーツ指導員を配置し、市民や団体が行うスポーツやレクリエーションの実技指導などを行いました。</li> </ul>
(2) スポーツ施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育施設、学校プール、温水プール等の修繕を行い、市民が安心して利用できる施設機能の維持に努めました。また、体育施設と温水プールについては指定管理者による管理を実施し、住民サービスの向上と経費の節減等を図りました。</li> <li>小中学校の地域開放に係る取組の一環として、学校体育館や校庭を学校教育に支障のない範囲で開放しました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎休日の増加や高齢化の進展に伴い、自由時間を活用し、精神的な豊かさを追求するライフスタイルへの意識が高まっています。市や補助団体が開催するスポーツ事業の定員に対する充足率は高い数値を維持し、スポーツ施設の利用者数も横ばい傾向です。また、2020年東京オリンピックでは、スケートボードやスポーツクライミングなどが新種目として追加されるなど、スポーツ種別は多様化を続けています。
- ◎市民アンケートによると、スポーツ活動の推進は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されています。今後も、健康や生きがいなどの視点からスポーツ活動の重要性を啓発するとともに、ますます多様化する市民のニーズに対応したスポーツ環境の充実を図り、誰もがスポーツに親しみやすい環境を作っていく必要があります。
- ◎スポーツ・レクリエーション系の施設は、比較的新しい施設が多い一方、昭和に建設された古いものも一定数見られ、施設の利用者満足度は低下傾向にあります。今後もバリアフリー化、機能性の向上などニーズの多様化、高度化に対応した整備を進めるとともに、施設の利便性や有効性の向上を図り、市民に一層親しまれる運営管理を進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市生涯学習基本計画	H23-R2
------	-------------	--------

b) 統計データ等

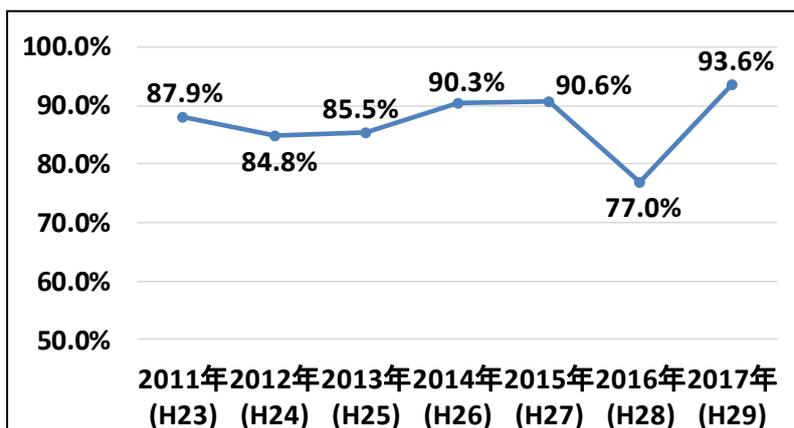


図 2-4-32 市及び補助団体等が開催するスポーツ事業の定員等に対する参加者割合の推移  
千歳市行政評価結果

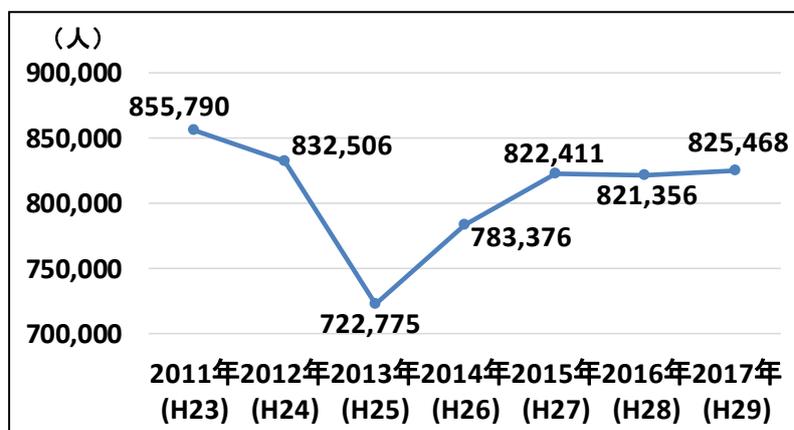


図 2-4-33 市内のスポーツ施設（74 か所）の延べ利用者数の推移  
千歳市行政評価結果

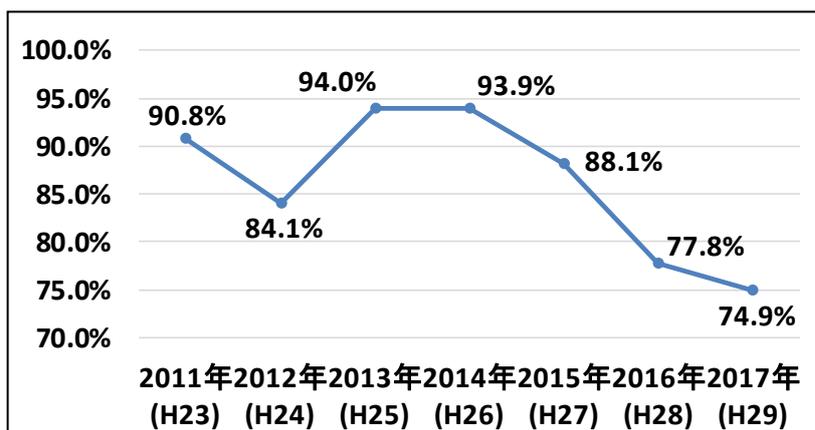


図 2-4-34 スポーツ施設に関する利用者満足度の推移  
千歳市行政評価結果

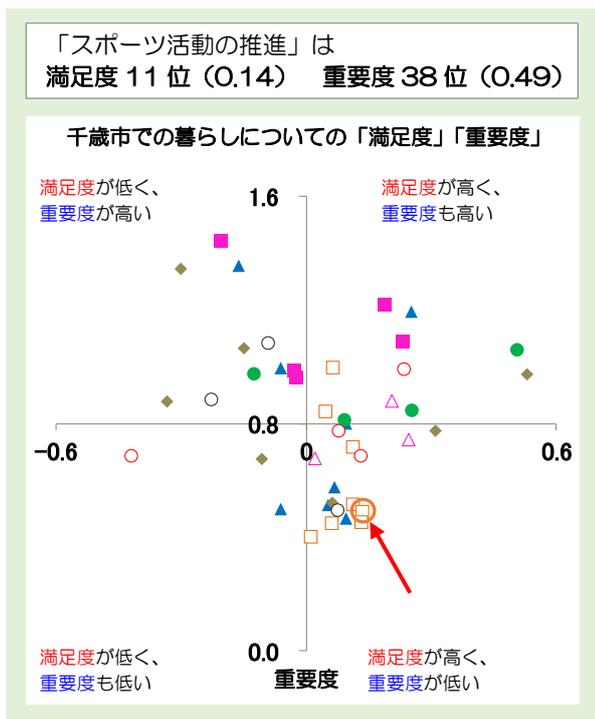


図 2-4-35 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

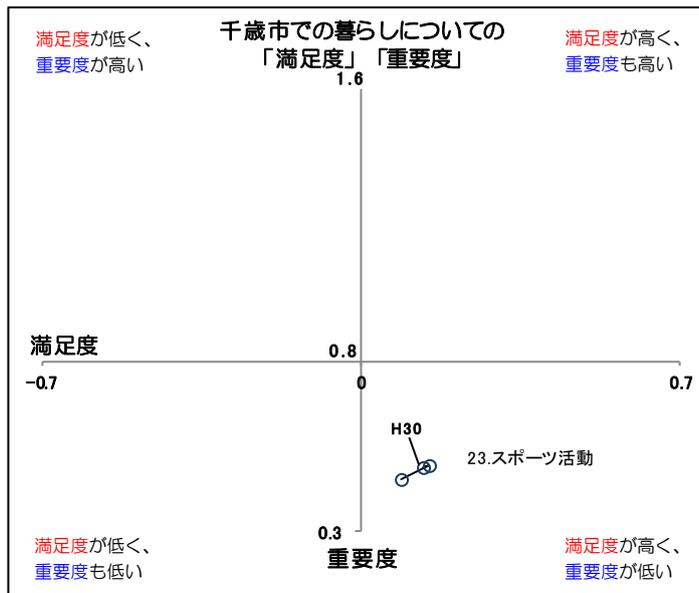


図 2-4-36 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・スポーツがもっと盛り上がりしてほしい。
- ・スポーツフェスタなど、健康増進という付加価値をつけて既存施設を有効に活用してほしい。
- ・涼しい環境と空港を生かし、スポーツ都市を目指す。トレーニングに対応したまちづくりで人を呼び込むのが良いと思う。
- ・小さな子どもと一緒に参加できる、ママのためのスポーツがあると良いと思う。

【中学生アンケート】

- ・スケートボードのパークを作って欲しい。
- ・子供も行けるトレーニング場が欲しい。

【大学生アンケート】

- ・トレーニングジムがない事や、アスレチックがない事などが欠点だと思う。もっと体を動かす環境を整えなければならないと思う。
- ・若者向け等のスポーツアトラクション施設があればいいと思う。

(9) 青少年の健全な育成

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 青少年健全育成活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年育成推進員の委嘱や青少年関係団体の育成と活動支援などにより、地域や関連団体と連携した健全育成活動を進めました。</li> <li>・子どもたちの地域文化の理解や科学探究活動の充実を図るため、チャレンジ教室などを行いました。</li> </ul>
(2) 青少年の非行防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の非行防止のための街頭巡回指導、早朝・夜間指導などの各種指導のほか、有害図書類の販売店、夜間における興行場などの調査・指導を行い、青少年に有害な環境の浄化に努めました。</li> <li>・非行防止に関する普及啓発のため、各関係機関との情報交換を行ったほか、青少年健全育成行事等においてパンフレット等の配布を行いました。</li> <li>・スマートフォンやインターネットの利用を中心とした青少年の情報モラル向上のため、小中学校や北海道委託業者によるネットパトロールのほか、講演会・研修会の開催やパンフレット等の配布を行いました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎青少年期においては、人格を尊重しあうなど良好な人間関係をつくる方法や未来を開く創造力を養うことが求められています。このため、学校教育のほかに地域社会での様々な体験や多くの人たちとの交流を積み重ねていく必要があります。
- ◎今日、青少年を取り巻く社会環境は、少子化、情報化の進展やスマートフォンの普及などにより大きく変化しており、家庭、地域の教育力の低下、出会い系サイトや悪質商法サイトなどの有害な情報の氾濫、ソーシャルネットワーキングサービスを介した犯罪被害などが大きな問題となっています。千歳市では、青少年指導センターによる定期的な巡回を行っており、指導件数は減少傾向です。今後も引き続き、青少年が犯罪に巻き込まれないための取組を充実させていく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、青少年の健全育成は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価され、満足度は上昇傾向にあります。今後も、千歳市の未来を担う青少年の健全育成の重要性を啓発するとともに、健全育成活動や非行防止の取組を充実し、満足度を高めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市生涯学習基本計画	H23-R2
------	-------------	--------

b) 統計データ等

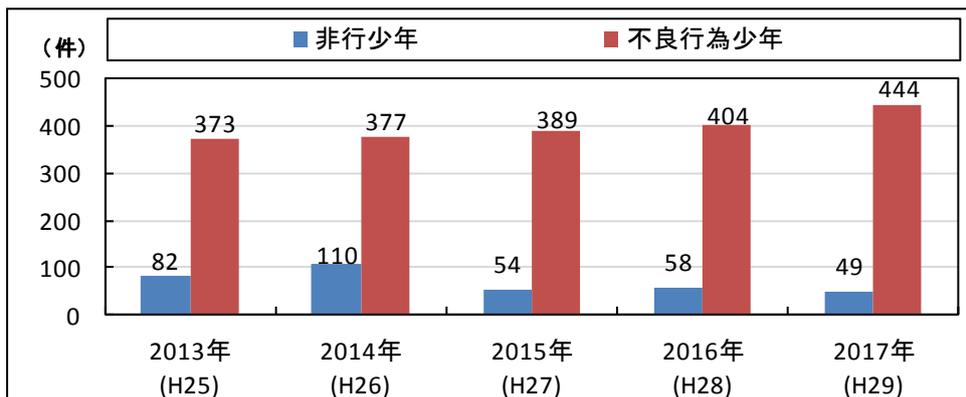


図 2-4-37 非行少年等の推移（千歳警察署管内（千歳市・恵庭市）の件数）

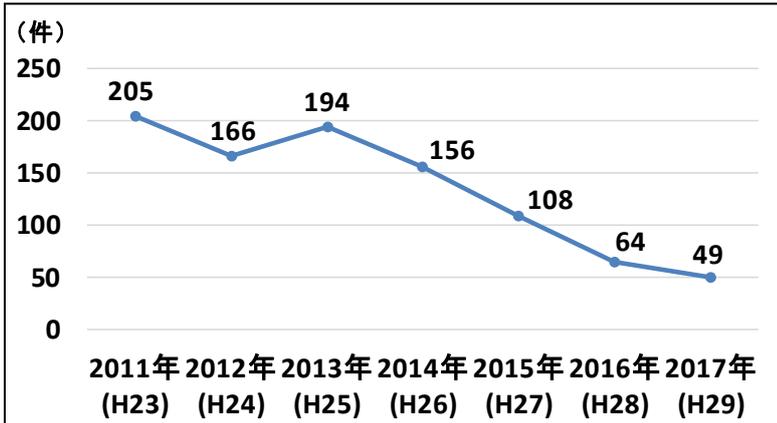


図 2-4-38 青少年指導件数の推移 千歳市行政評価結果

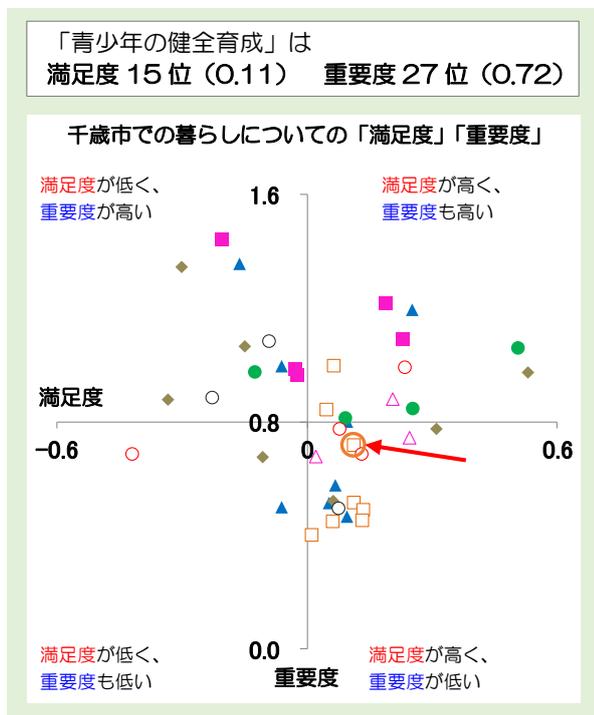


図 2-4-39 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

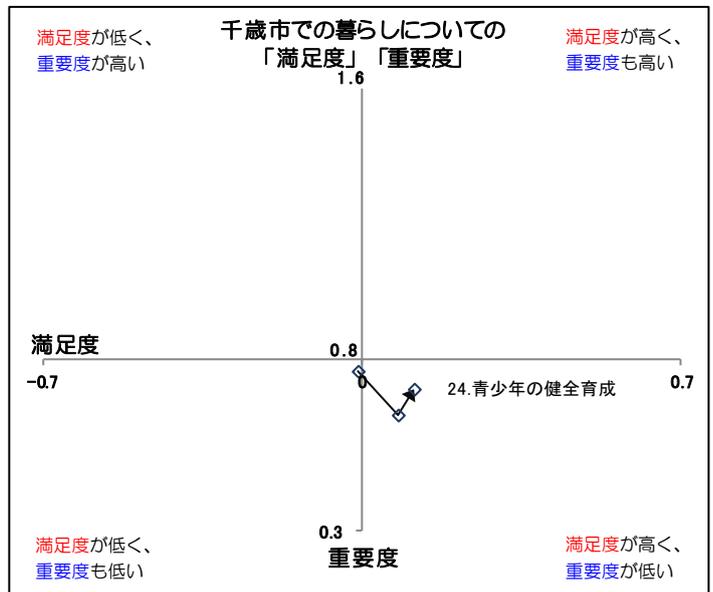


図 2-4-40 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(10) 多様な地域間交流の推進

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 人と地域が育む国際交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳市内における外国人の行動や生活の利便性向上を図るため、公共施設の新設や更新の際に、外国語表記を推進しました。また、通訳やホストファミリー等について、広報紙やホームページ等を活用した登録者の拡大に取り組み、受け入れ態勢の強化を図りました。</li> <li>・市民や団体が行う国際交流に関する行事に対して、参加や助成金交付等の支援を行いました。</li> <li>・国際交流応援情報紙「エール」を隔月で発行し、市内の国際交流に関する一元的な情報提供を行ったほか、市民参加やボランティア活動が可能である等、市民に有益な国際会議について情報を収集し、開催の可能性を検討しました。</li> <li>・各種の国際交流事業を通じて、通訳ボランティアと協力・連携し、市民ネットワークの構築に努めました。</li> </ul>
(2) 人と地域が育む姉妹都市交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹都市との学校間交流やスポーツ交流など様々な交流事業に対し、助成金や人的支援を通して、相互交流の促進を図りました。</li> <li>・姉妹都市からの訪問団来訪に際して、行事への参加や交流会の開催などにより、市民交流の促進を図りました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎国際空港がある千歳市では外国人の来訪も多く、国際定期路線の拡大や空港周辺地域における土地利用の推進などにより、今後も来訪機会が増大するものと予想されます。様々な分野において国際的な交流活動が日常化している今日、国際化に対応できる人材づくりを推進していくことが必要です。
- ◎多面的な国際交流を推進していくためには、行政のみならず、市民、市民活動団体、事業者、学校など市民の参画が不可欠です。千歳市では市民が参加・連携する幅広い交流活動の展開や国際協力を進める市民活動を支援しており、交流事業の参加者数は増加の兆しが見られています。今後もこれらの支援を続け、世界に開かれた国際交流都市として魅力あるまちづくりを進めていく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、国際交流・都市間交流は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されています。空港を有し、今後も多くの外国人が訪れる可能性のある千歳市において、国際交流は観光や商業などの分野からみても重要な要素の1つです。今後も引き続き、国際交流の必要性などについて啓発していく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市生涯学習基本計画	H23-R2
------	-------------	--------

b) 統計データ等

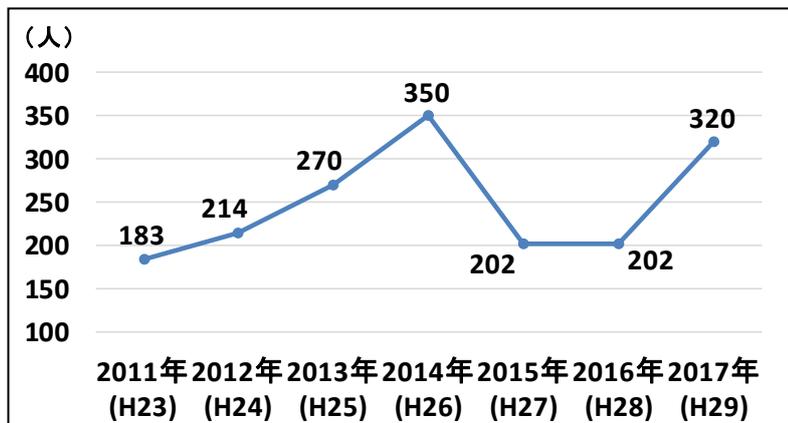


図 2-4-41 姉妹都市交流事業の延べ参加者数の推移

千歳市行政評価結果

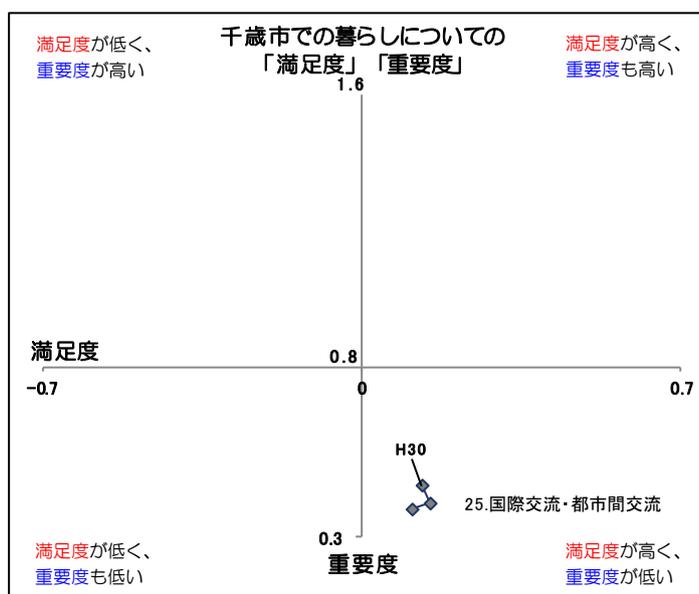
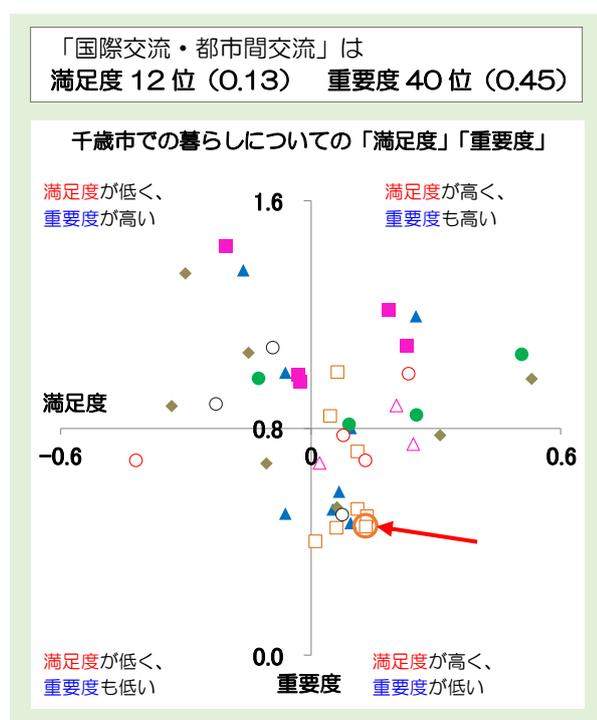


図 2-4-43 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

図 2-4-42 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・訪日外国人に対する案内が施設内にしかないため、外国人向けの道路標識の整備を行ってほしい。
- ・姉妹都市や友好親善都市との交流についてもっと積極的に行い、市民に伝えていく必要がある。
- ・空港があるので、国際化を進めるため、外国語教育の場を市民に提供してほしい。
- ・千歳の将来のことを考えると、これからは国の内外を問わず広く世界から若者が集まってきて、新たな発想と熱意で世界に飛躍する産業を育てていくまちとなしてほしい。

## 2-5. 活力ある産業拠点のまち

### (1) 農業の振興

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 農業経営の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営の合理化や規模拡大を図るため、(公財)道央農業振興公社で実施している農地利用集積円滑化事業の支援及び「人・農地プラン」の作成による農用地利用の集積の円滑化を行いました。</li> <li>・農業経営の安定化や体質強化を図るため、農業用機械等の導入を支援しました。</li> <li>・農畜産物の販売促進や特産品の普及を目的とした「ちとせ農業まつり」等の農業者による交流事業に対し、農業振興条例に基づく助成を実施しました。</li> <li>・農業経営の強化を図る取組に対し、農業振興条例に基づく助成・融資等の実施のほか、酪農ヘルパー組合の活動への支援を行いました。</li> <li>・市営牧場の運営維持及び適正管理、粗飼料を自給するための機械の整備や施設改修等を実施しました。</li> <li>・台風 21 号及び北海道胆振東部地震により農業被害を受けた被災農業者に対して、農業用施設・機械の再建・修繕等の支援を実施しました。</li> </ul>
(2) 農業の担い手の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営基盤強化促進法に基づき、意欲ある農業者が自らの経営を計画的に改善するために作成する「農業経営改善計画」を関係機関と審査し、認定農業者の確保を図りました。</li> <li>・地域農業の活性化を図るため、(公財)道央農業振興公社の運営を支援し、同公社が実施する各種研修会について、農業者への周知等を図りました。</li> <li>・(公財)道央農業振興公社が実施する認定農業者育成支援、農地保有合理化事業、新規就農者受入、各種研修会の開催などの事業を継続するため、同公社の運営を支援し、市域を超えた広域的な取組を促進しました。</li> <li>・農用地区域からの除外又は用途区分の変更を行うことにより、農用地利用計画に沿った土地利用を図りました。</li> </ul>
(3) 環境と調和した農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学肥料、農薬の5割以上の低減に加えて、環境保全効果の高い取組(緑肥対策等)を実施する農業者団体に対して助成を行いました。</li> <li>・家畜ふん尿を適正に管理するため、施設整備に係る費用の一部を助成しました。</li> <li>・農業用廃資材の適正処理を進めるため、JA道央青年部による農業用廃材の回収等を進めました。また、市やJA等によって構成される千歳市農業用廃プラスチック適正処理対策協議会を通じて、農業用廃プラスチックの適正処理の促進を図りました。</li> </ul>
(4) 都市と農村の交流促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千産千消マップの作成配付、千産千消マップツアー及び修学旅行生の農業体験受入などを実施するグリーン・ツーリズム連絡協議会の活動への支援を通じ、グリーン・ツーリズムを促進しました。</li> <li>・こ～まの里収穫祭、食と農の交流会など、各種イベント・直売活動を支援し、千産千消を推進しました。</li> <li>・食と農の交流会などのグリーン・ツーリズム連絡協議会のイベントの外、商工会議所や司厨士協会など他団体が主催する各種イベントにも参加し、千歳の農産物加工品の販売促進に努めました。</li> <li>・グリーン・ツーリズム連絡協議会による研修会などを通じ、協議会会員のスキルアップを図るとともに、活動の浸透による会員の増加を図りました。</li> </ul>

## ②これからの課題

◎千歳市は、農業基盤整備や農地の利用集積をもとに大規模経営と近代化を進め、小麦、大豆、てん菜などの畑作物のほか、様々な種類の野菜、果実などを生産しているとともに、畜産も盛んに行われている石狩管内随一の農業生産地域となっています。

市民アンケートによると、農業の振興は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価され、満足度は上昇傾向にあります。一方、農業生産を支える農業者の高齢化も進んでおり、農家戸数は減少しているほか、国際的には、TPP11や日欧EPAが発効されるなど、国内農業への影響が懸念されています。

このような状況のもと、JA等の関係機関と連携し、次世代を担う農業者の育成・確保や農業用機械・施設の導入などによる「経営基盤の強化」や収益力の向上を図る「経営安定対策」の取組を進め、農業経営の安定確保を図ることが重要です。

◎食の安心・安全に対する消費者ニーズが高まり、食育の観点からもグリーン・ツーリズムの活動が注目される中、市内では直売所や観光農園、農業体験の取組を行っており、農業まつりなどへの参加者数は増加傾向にあります。一方、参加者を受け入れる農業者については、高齢化が進むなどの状況が見られており、担い手は十分とはいえない状況にあります。

今後もグリーン・ツーリズムの取組を充実させていくため、担い手の確保等、体制の充実に向けた取組を進めていく必要があります。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳農業振興地域整備計画	H30-概ね10年
	農村滞在型余暇活動機能整備計画(市町村計画)	H30-R2
	千歳市農業振興計画(第3次)	H23-R2

### 【農村滞在型余暇活動機能整備計画(H30.4)における策定のポイント】

- ・農村における観光ニーズの高まりへの対応(特色ある農村滞在型余暇活動「千歳型グリーン・ツーリズム」の確立)

### b) 統計データ等

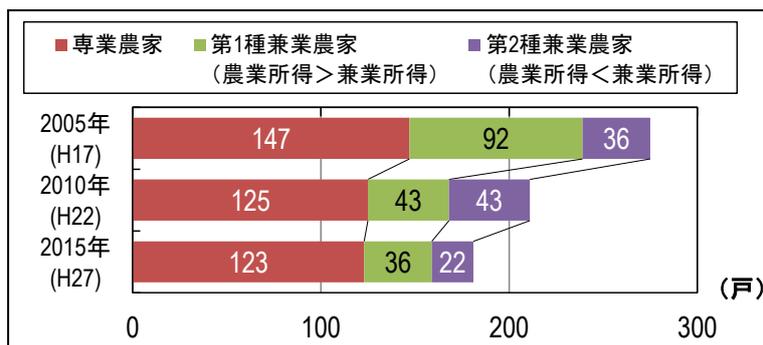


図 2-5-1 専業・兼業別農家戸数の推移 要覧ちとせ 平成30年版

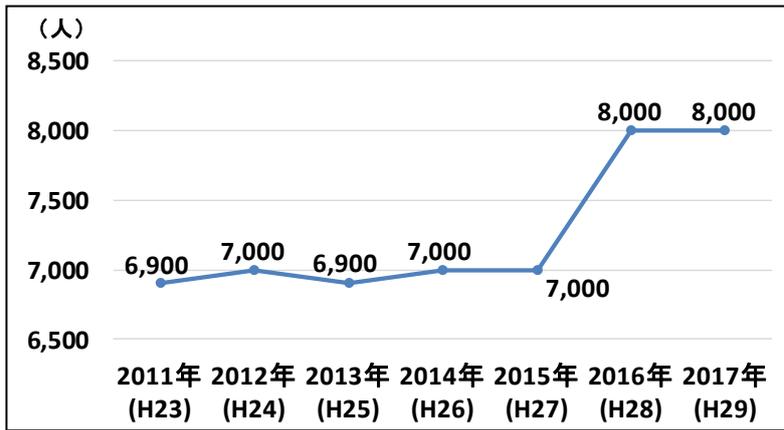


図 2-5-2 農業まつりなどへの参加者数の推移 千歳市行政評価結果

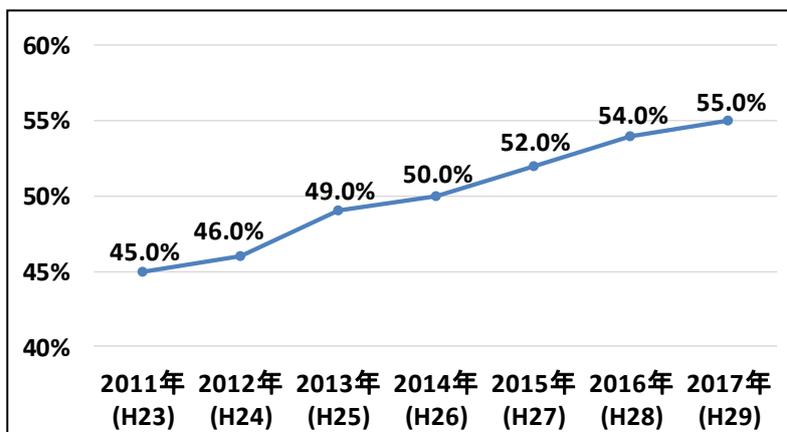


図 2-5-3 エコファーマー認定農家割合の推移 千歳市行政評価結果

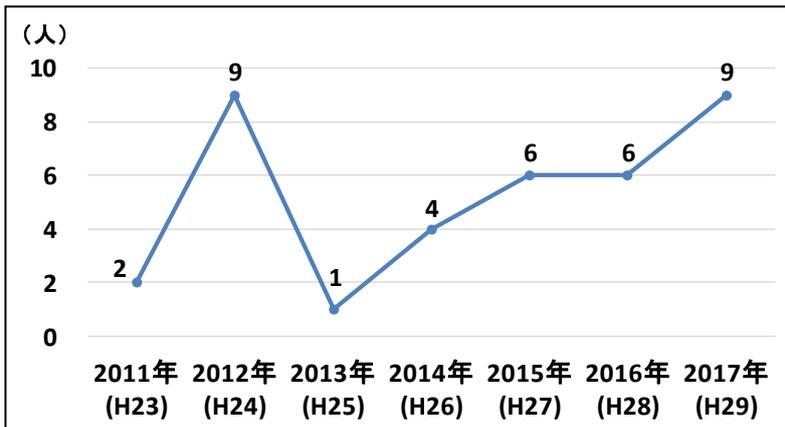


図 2-5-4 新規就農研修者数の推移 千歳市行政評価結果

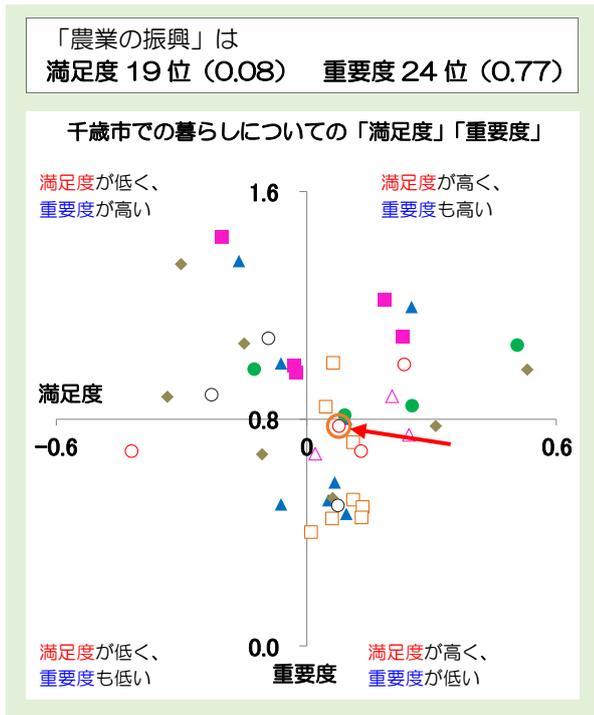


図 2-5-5 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

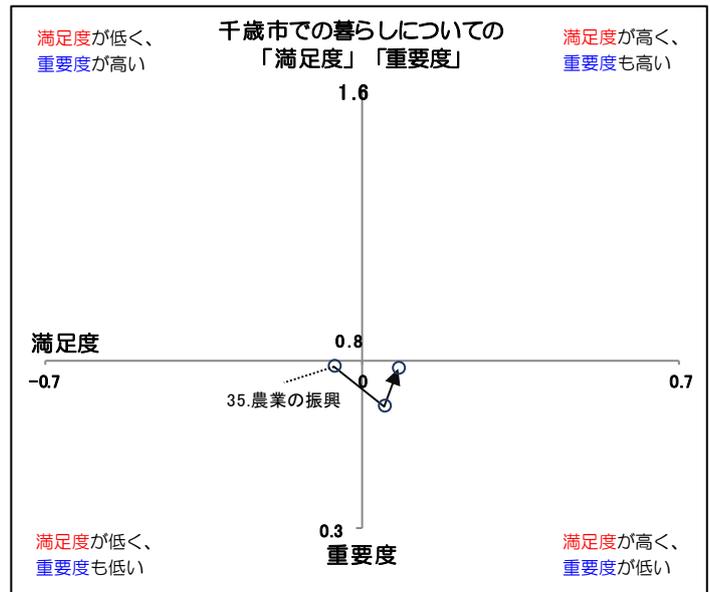


図 2-5-6 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・ 農家さんが頑張れるような道の駅にしてほしい、
- ・ 農業がもっと盛り上がってほしい。

(2) 優良農地の確保

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 生産性の高い土地基盤整備の推進	・農業用水の安定供給を図るため、国営道央用水地区土地改良事業を進めました。
(2) 農業用施設の適正管理による災害防止	・農業用排水路施設の機能維持のため、市有掘削機により、各排水路の土砂の除去・草刈を行いました。また、排水機場の機器点検を実施し、早期の機器修繕を行い、設備機器の機能維持に努めたほか、老朽化が進む施設の目視点検等を行い、施設の適正な維持管理に努めました。 ・耕地防風林の下草刈り、除間伐や見回りを行いました。

②これからの課題

- ◎国内の平成 29 年度の食糧自給率は 38% (カロリーベース) であり、先進国の中では極めて低い状況となっています。限られた国土の中で耕作地を拡大することは難しく、単位面積あたりの生産性が高い土地基盤の整備を進めていくことが重要です。
- ◎千歳市が管理する農業用施設は過去に土地改良事業で整備したものです。施設の老朽化や経年変化による機能低下、破損などが生じています。施設点検・確認による適切な維持管理のほか、計画的な設備の更新を行い、施設の長寿命化を図るとともに、災害に強い施設としていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳農業振興地域整備計画	H30-概ね 10 年
	千歳市農業振興計画 (第 3 次)	H23-R2

b) 統計データ等

該当データなし

(3) 林業の振興

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 森林の整備と保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民有林整備の推進を図るため、森林事業者に対する造林経費の助成を実施しました。</li> <li>・民有林の保全を図るため、千歳市森林組合の活動に対する助成を行いました。</li> <li>・森林作業員の育成・確保のため、森林作業員に対する奨励金の支給を実施しました。</li> </ul>

②これからの課題

◎千歳市は、森林面積の大部分が国有林となっており、林業を行うことができる市有林や民有林はごく一部です。そのような中で森林法に基づいた各種施策を推進していますが、民有林にあっては、長期にわたり木材価格が低迷する一方で林業施業費は増大しており、除間伐などの施業が難しくなっています。

今後、施業面積を増加させるためには小規模森林所有者も視野に入れていく必要があります、森林整備事業の重要性について、よりきめ細やかな普及啓発を進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市森林整備計画	H30-R9
------	-----------	--------

【千歳市森林整備計画（H30.3）における策定のポイント】

- ・生物多様性の保全や地球温暖化の防止に果たす役割のほか、近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化も考慮しつつ、適正な森林施業の実施や保安林等の保全により、健全な森林資源の維持造成を推進

b) 統計データ等

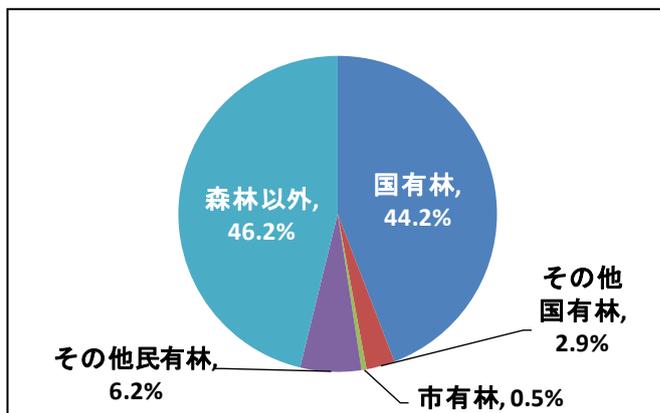


図 2-5-7 総面積に占める森林面積と所有区分の内訳

要覧ちとせ 平成 30 年版

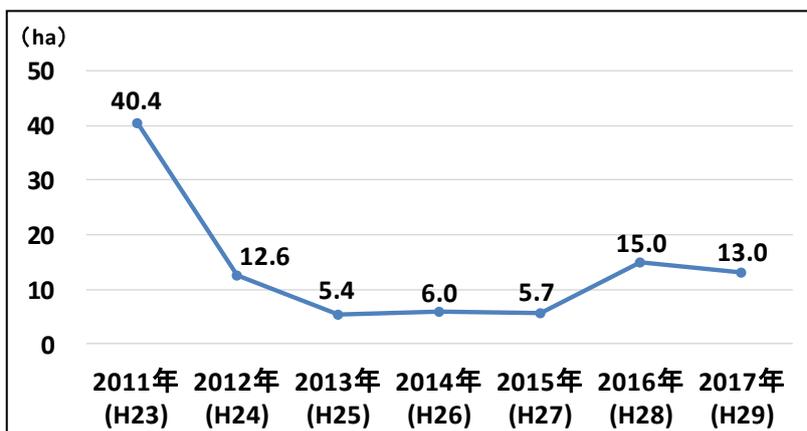


図 2-5-8 植栽・間伐面積の推移

千歳市行政評価結果

(4) 内水面漁業の振興

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) ヒメマス資源の保護・増殖	<ul style="list-style-type: none"> <li>支笏湖ヒメマスふ化場運営事業や支笏湖ヒメマス標識放流事業などを進め、ヒメマスの増殖と安定した供給体制の確立に努めました。</li> <li>漁業取締り事業や支笏湖ヒメマス釣魚対策事業などを進め、法律に基づく各種規制の遵守や釣りのマナーなどについて、関係機関などと連携した取締りや周知・啓発を促進しました。</li> <li>資源調査や魚類相調査などを進め、専門機関や支笏湖漁業協同組合などと連携し、ヒメマス資源の回復状況の把握に努めました。</li> <li>ヒメマスの資源保護と増殖の効率化、防疫対策の充実を図るため、導水管の整備工事を行うとともに、防波堤整備の実施設計及び下部工事を行いました。</li> </ul>
(2) 内水面漁業の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>支笏湖産ヒメマスの観光資源としての活用を検討するため、地域特産品やブランド化の検討を行い、支笏湖漁業協同組合において、そのブランド名を「支笏湖チップ」に決定し、市内イベントで「支笏湖チップ」を販売したほか、PRを行いました。</li> </ul>

②これからの課題

◎支笏湖のヒメマスは、明治27年に原産の阿寒湖から移殖されて以来、増殖のために継続してふ化放流事業に取り組んでおり、平成8年にはサケとともに千歳市の魚に指定されるなど、重要な観光資源の1つになっています。一方、ヒメマスの資源量は、昭和50年代後半から減少しており、市ではヒメマス保護振興事業に取り組んでいます。当該事業により一定の成果を得ていますが、全盛期の資源量には至っていません。今後も、ヒメマス資源のより一層の回復に向けて当該事業を継続するとともに、ふ化場整備など、良好な生育環境の確保に向けた取組を進めていく必要があります。また、「支笏湖チップ」のブランド化について、「支笏湖チップ」を活用した新たな商品開発や、効果的なPR、地域団体商標登録後の展開が課題となっています。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

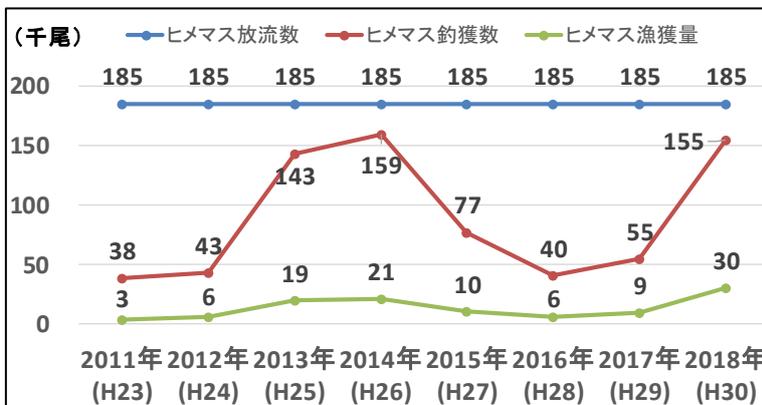


図 2-5-9 ヒメマス放流数、釣獲数、漁獲量の推移 千歳市行政評価結果

(5) 工業の振興

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 企業誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業投資意欲の実情把握等を行うため、アンケート調査を実施しました。また、企業誘致推進協議会などと連携し、誘致活動を実施しました。</li> <li>・インターネットや新聞などに広告を掲載するとともに、首都圏や中部圏で開催される産業展示会に出展しました。</li> <li>・関東、関西、中部方面を中心に企業訪問を行い、当市の立地環境の特性や優位性をアピールしました。</li> <li>・事業用定期借地権設定契約による土地リース制度や長期割賦支払制度を周知したほか、空き工場等の情報提供を行い、初期投資を軽減する取組を進めました。</li> </ul>
(2) 立地企業等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地企業のうち、対象要件を満たす設備投資等を実施した企業に対し助成を行いました。</li> <li>・立地企業の訪問や工業関連団体の行事等に積極的に参加し、情報交換などを行ったほか、工業団体と市の意見交換会や企業視察会等を実施しました。</li> <li>・立地企業に対し、各種支援や企業活動に有益な情報等の周知や情報提供を行うとともに、照会や相談等に迅速に対応するなど、フォローアップに取り組みました。また、企業間連携を促すため、Web版立地企業ガイドの運用管理を行いました。</li> <li>・「千歳アルカディア・プラザ」の機能を活用し、産業政策等の情報提供、立地企業の交流及び産学官連携の促進を図りました。</li> </ul>

②これからの課題

◎千歳市は、国際空港である新千歳空港と、高速道路、鉄道などが結節する北海道の一大交通拠点となっています。また、台風・落雷などの自然災害が少なく、北海道胆振東部地震においても、安定した地盤により道路や公共施設にはほとんど被害がないなどリスク分散の適地としての条件も整っていることから、これらの優位性を生かした企業誘致を進めており、立地企業件数、従業員数ともに増加の傾向がみられています。一方、市民アンケートによると、企業誘致や企業活動の支援は比較的満足度が高く、重要度が低いと評価され、満足度は上昇傾向にありますが、企業からは担い手不足や生産性向上、コスト削減などに関する相談が増えている様子も見られます。企業活動の充実は、まちの活力を維持・向上させるためにも重要な要素であることから、今後も積極的に企業ニーズを把握し、社会情勢の変化に対応できる支援制度の検討を進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

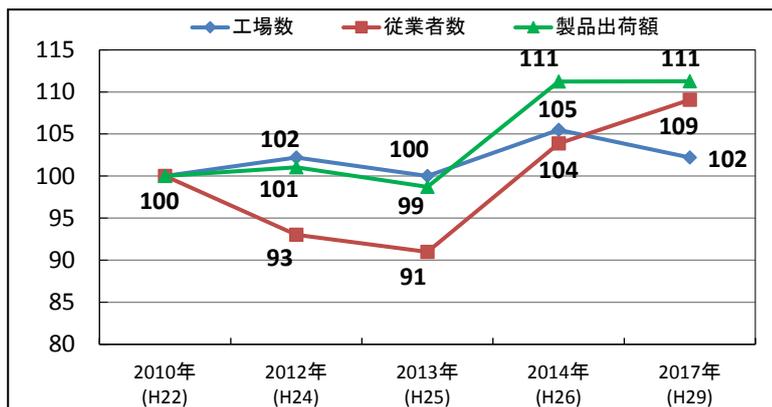


図 2-5-10 工場数、従業者数、出荷額の推移 (平成 22 年度を 100 とした場合の指数)

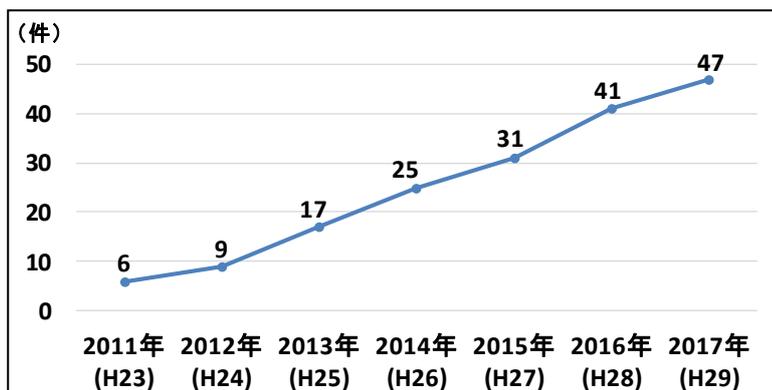


図 2-5-11 立地企業件数 (累計) の推移

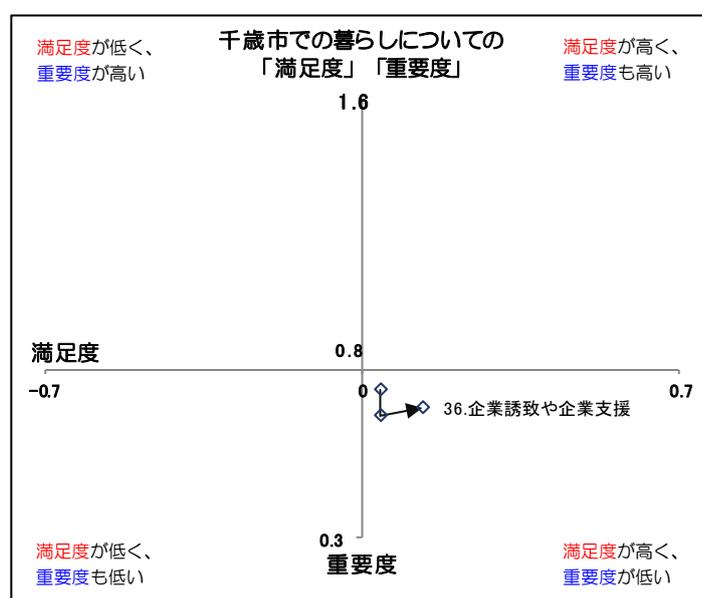
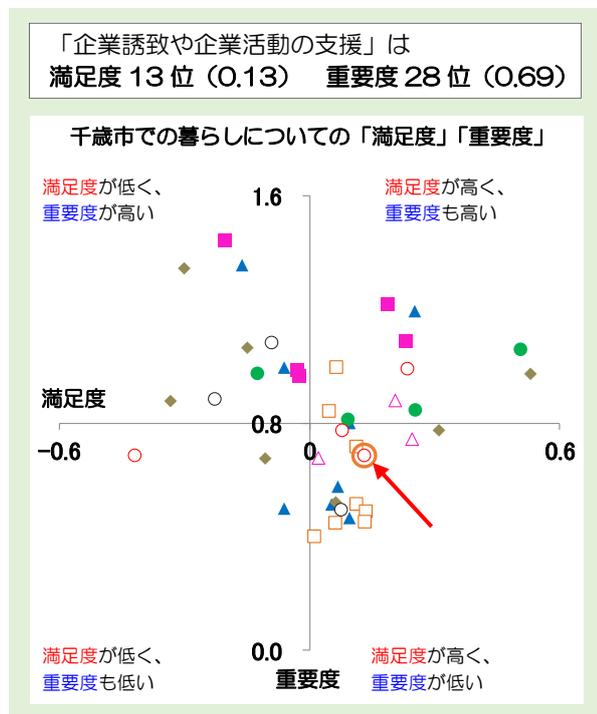


図 2-5-13 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

図 2-5-12 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(6) 高度技術産業の集積

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 光科学技術の研究開発拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホトニクスバレープロジェクトを推進するに当たり、その中核組織であるPWC（NPO法人ホトニクスワールドコンソーシアム）の活動を支援し、産学官連携を推進するため、PWC事務局の運営を行いました。</li> <li>・研究開発及び産学官連携を推進するため、千歳科学技術大学とともに展示会に参加したほか、研究集会等への参加や先進地視察を実施しました。</li> </ul>
(2) 高度技術産業集積地域の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道央産業振興財団の助成事業等について、市内企業への情報提供などを行いました。当該財団に採択された事業が製品化され、バスロケーションシステムとして市内活用が図られるほか、各企業において販路開拓に取り組んでいます。</li> <li>・道央産業振興財団の新技术・新製品開発助成事業（研究開発事業）、製品開発支援事業が複数採択されたほか、国のものづくり補助金に採択されるなどにより、研究開発等が推進されました。</li> </ul>

②これからの課題

◎産業における国際化の進展や情報技術の急速な発達により、国際間の技術競争はますます激化しています。千歳市では千歳科学技術大学やPWCなどを核に、光科学技術を発端として、産学官連携による研究開発を推進してきました。

市民アンケートによると、光科学技術などの高度技術産業の振興は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されていますが、千歳科学技術大学は平成31年4月から公立大学法人となることから、これまで以上に、千歳市における知の拠点として、地域と共生し、産業・経済の発展に寄与することが期待されます。

このことから、今後もより一層、産学官共同研究を促進するとともに、企業の開発活動を支援し高度技術産業の集積を促進するなど、千歳市の競争力を高めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

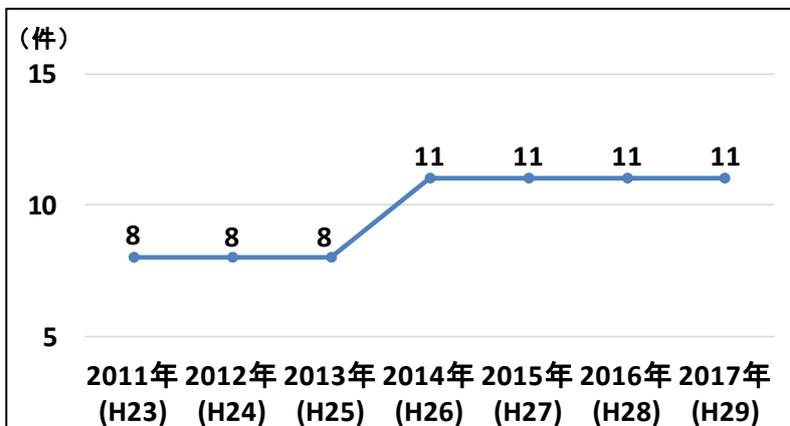


図 2-5-14 光科学技術研究開発件数の推移 千歳市行政評価結果

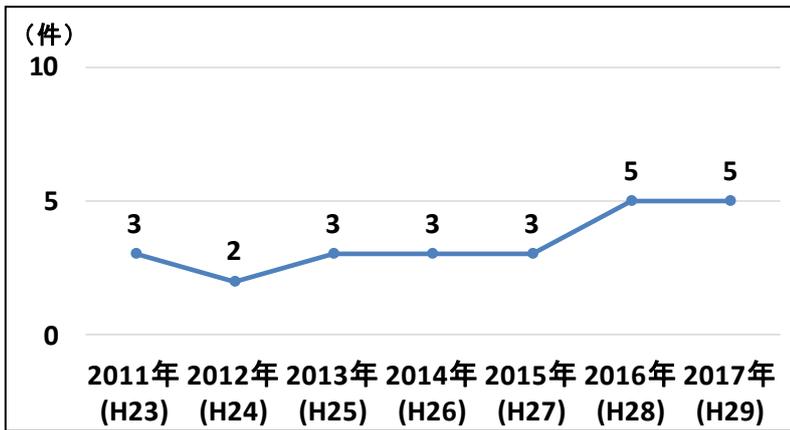


図 2-5-15 高度技術研究開発数の推移 千歳市行政評価結果

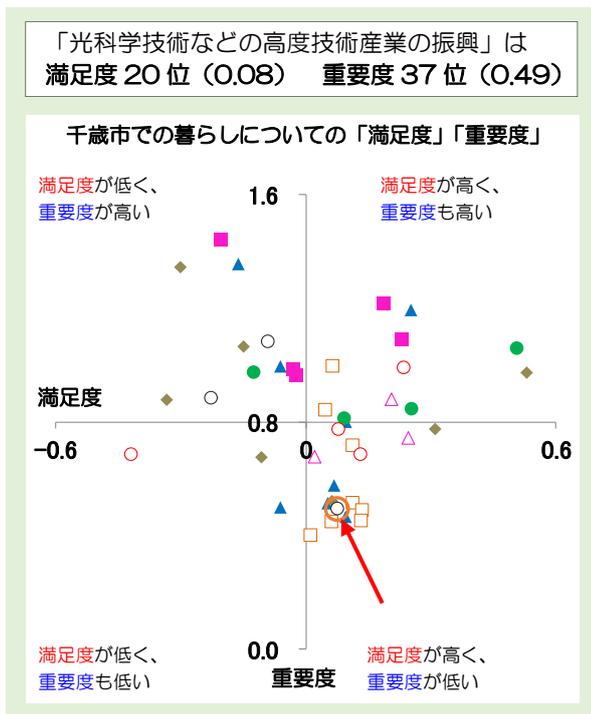


図 2-5-16 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

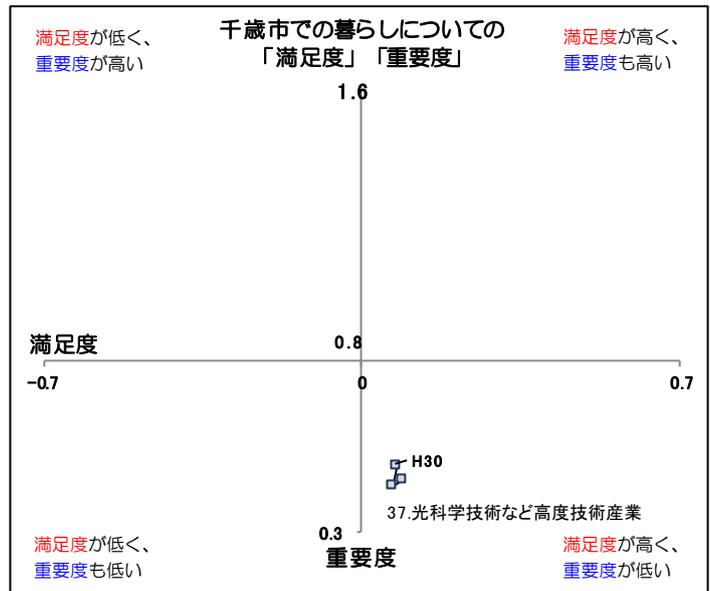


図 2-5-17 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

(7) 商業の振興

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 商業機能の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代を担うリーダーや後継者の育成を図るため、「商店街育成事業」を行いました。</li> <li>・商店街の活性化に向けた「にぎわい創出事業(ちとせ商店街クリスマスセール、ニューサンロード商店街ふゆまつり等)」や、「来街者歓迎事業」を実施し、地域ニーズに対応できる商店街づくりを支援しました。</li> </ul>
(2) 中小企業の経営支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業の経営安定化を進めるため、市内の中小企業者が経営相談などを行う窓口として、商工会議所内に設置された中小企業相談所の円滑な運営等を支援しました。</li> <li>・中小企業に対する支援として、融資のあっせん制度を設けているほか、当該融資に係る保証料の助成を行うとともに、市内金融機関と経済・経営に関する情報交換を行いました。</li> </ul>
(3) 魅力ある地域特産品の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品の販路拡大等による地域経済の活性化を図るため、道内生産高1位の卵を活用した新商品の発掘やPRを目的とするイベントなどを実施しました。</li> <li>・「さっぽろオータムフェスト」に出店し、市内事業者とともに地場産品 PR 等を行うことにより、これらの消費拡大を図りました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎車社会の定着やネットショッピングの拡大等による消費者の購買形態の変化のほか、居住地区の拡大に伴う日常の買い物環境の分散等により、かつての中心市街地の賑わいが低下して久しい状況です。しかしながら、「まちの顔」としての役割は、依然として中心市街地に期待されているところであり、引き続き、地域特性をいかした商店街づくりを進めていく必要があります。近年は、「まちゼミ」の開催などによる個店としての魅力発信や、商店街による新しい集客イベントの実施など、消費者にとって魅力のある取組を進めています。今後も、コト消費など新たな価値観に対応したサービスの提供を実施するなど、インバウンドを中心とした観光客だけでなく、市民にとっての非日常的な消費や体験を促すことにより、商店街等における回遊性の向上を図り、さらなる中心市街地の活性化を進めることが重要です。
- ◎市内中心部に広がる居住地区においては、中規模の商業施設が分布しており、日常の買い物環境については、市民アンケートにおける満足度も比較的高く、重要度も高いと評価されており、満足度・重要度とも上昇傾向にあります。今住んでいる場所から移りたい理由として買い物の不便さが上位に挙げられています。今後は高齢化の進展等に伴い不便を感じる市民が増加することも念頭に、日常の買い物環境を維持するだけでなく、都市計画や公共交通などの分野と連携し、さらに利便性の高い買い物環境を作っていくことが必要です。
- ◎国内においては、中小企業者をはじめとした事業者の減少が深刻化しており、起業を促進する政策が進められています。市内においても今後の事業者減少が懸念される中、起業を目指す市民の健全な事業活動のための知識習得や、起業に対する機運醸成を図ることにより、長期的に事業者数を維持することが大切です。また、廃業増加の背景の一つとして、いわゆる後継ぎがないことによる黒字廃業を余儀なくされる事業者も多く、市内においてもこれら事業承継に関する諸問題について状況の把握、分析を進め、必要な支援を実施することにより、健全で活発な産業構造を維持する必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	第2期千歳市商業振興プラン	H28-H32
------	---------------	---------

【第2期千歳市商業振興プラン（H28.3）における策定のポイント】

- ・技術革新に伴う情報化の浸透や少子高齢化などに起因して多様化する消費者ニーズへの対応

b) 統計データ等

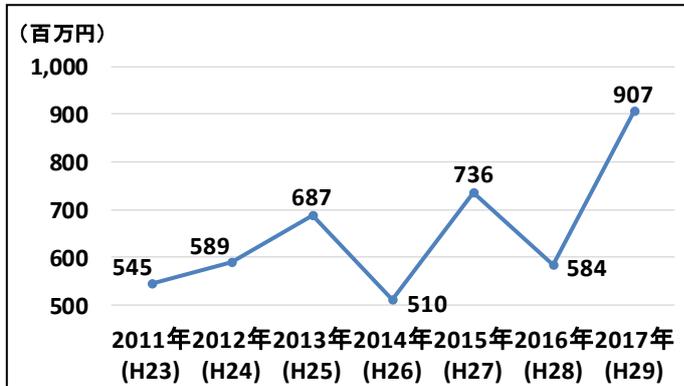


図 2-5-18 中小企業振興融資の利用実績額の推移

千歳市行政評価結果

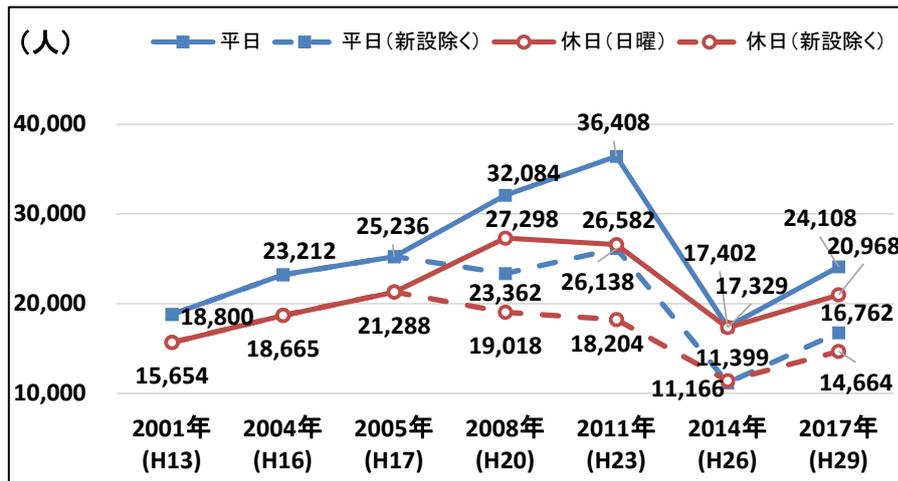


図 2-5-19 中心市街地における通行量の推移 (平日・休日別/9:00~21:00)

中心商店街通行量調査結果

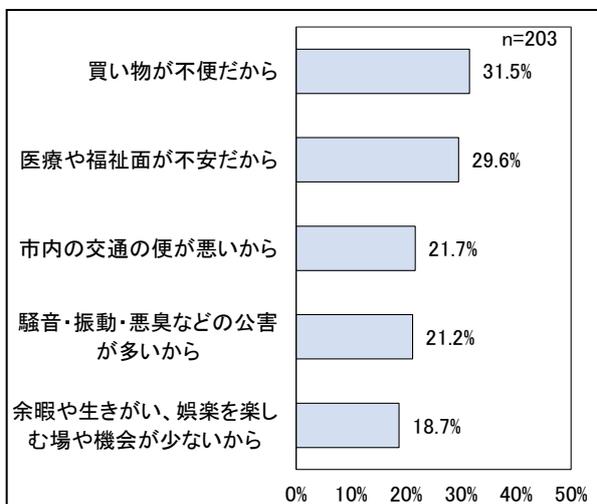


図 2-5-20 今住んでいる場所から移りたい理由 (上位5項目を抜粋) (再掲)

平成30年 千歳市民まちづくりアンケート

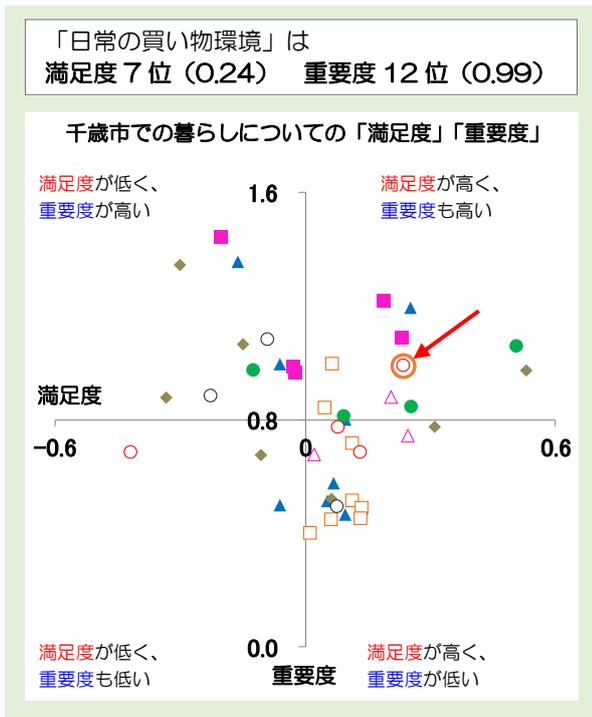


図 2-5-21 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

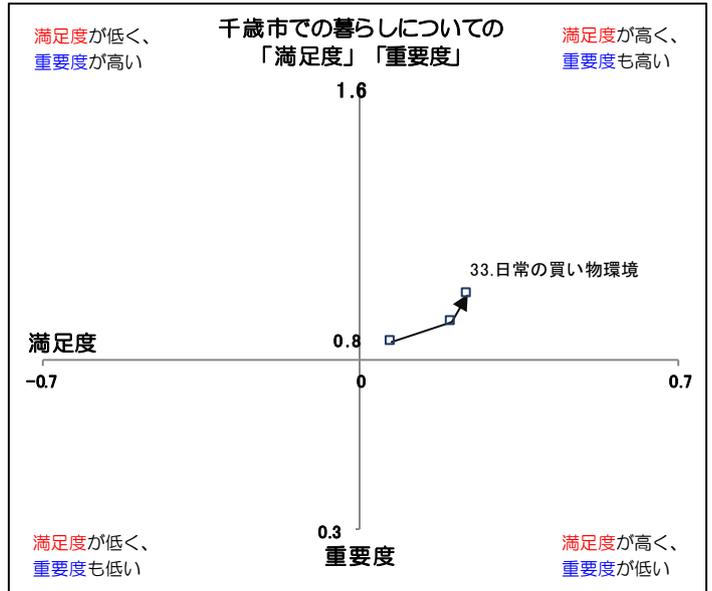


図 2-5-22 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・ニューサンロードが淋しい感じなのでもったいないと思う。
- ・商店街の活気を取り戻したい。
- ・レラに買い物に行きたいが、冬の寒さが厳しいため、屋内のショッピングセンターに行ってしまう。
- ・年々人口が増加している割には安いスーパーや大きな商業施設はなく追いついていないと感じる。
- ・行きたいと思えるような買い物、遊べる施設が少ないと思う。
- ・市外で買い物をしている人が多くいるようだ。苫小牧の道の駅では、品質が良い野菜などの食品が販売されており、そこを利用している千歳市民をよく見かける。

【中学生アンケート】

- ・服を買おうとした時にお店が少ない。もっと色んなメーカーのお店が欲しい。
- ・千歳市に楽しい商業施設が少なくつまらない。

【高校生アンケート】

- ・もっと栄えるようにショッピングモールや飲食店を作るべき。

【大学生アンケート】

- ・駅周辺にはスーパーや専門店、生の食品を扱う店が少なく、イオンはあるが、扱う品が専門性に乏しく値段が高い。
- ・南千歳駅周辺はレラくらいなので、ホテルなどがあっても良いかと思う。
- ・娯楽施設やイベントが少ない。
- ・住むには困らないと思うが、娯楽や買い物をするのには大変不便。
- ・千歳の居酒屋や飲食店など、札幌にひけを取らないくらい美味しい所も沢山あると思います。もっと宣伝すれば「千歳に美味しいお店が沢山ある」となって、人もたくさん来るのではと思う。
- ・若年層に向けた施設が少なすぎる。

(8) 流通機能の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 集荷・物流機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産物部を再開したほか施設設備の更新を行うなど、生鮮食料品の集荷機能の充実、安定的な物流機能の確保に努めました。</li> <li>・市場の活性化を進めるため、市場関係者で構成する市場拡大戦略会議を設置し、地域情報誌や市ホームページでの買受人募集、市場の日の実施などの市場取扱量の増加につながる事業や、一般開放事業として「千歳市場感謝祭」の開催、地域情報紙への市場に関する紹介記事の定期的な掲載など、市民への市場理解を促進する施策を展開しました。</li> </ul>

②これからの課題

◎千歳市公設地方卸売市場は、千歳市及びその周辺地域の消費者に生鮮食料品等を迅速かつ効率的に提供するとともに、生産者に対しては安定的な販路を提供し、小売業者に対しては安定的な仕入れの場を提供する流通拠点施設としての機能を担っています。

しかし、全国的には、少子高齢化の進行などにより、生鮮食料品の需要が減少傾向にあるほか、量販店等の産地との直接取引、インターネットによる直接取引が増加する傾向にあり、卸売市場を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

取引形態の多様化に対応した市場運営のほか、市場を身近に感じていただくための一般開放事業などを行い、生産者と消費者を結ぶパイプ役として市場が有する集荷、物流機能を維持していく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等

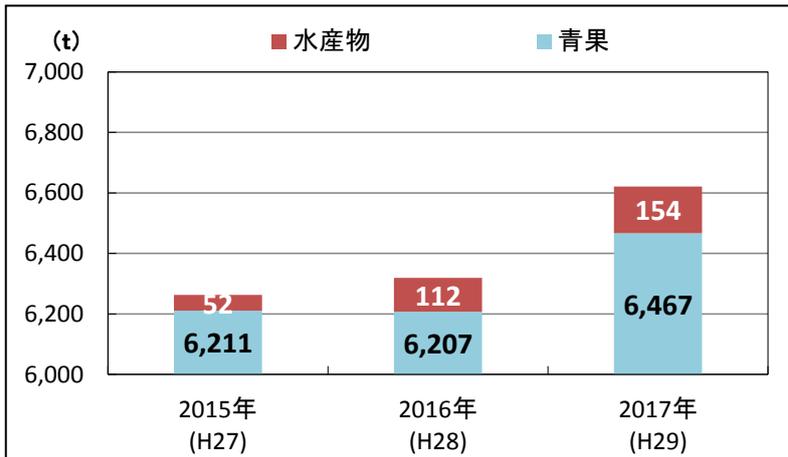


図 2-5-23 公設地方卸売市場における青果・水産物取扱いの推移 要覧ちとせ 平成 30 年版

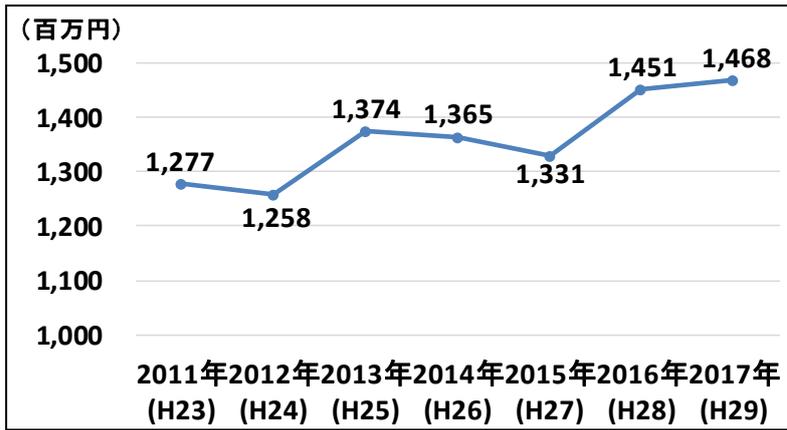


図 2-5-24 青果取扱売上高の推移

千歳市行政評価結果

(9) 観光の振興

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 観光都市としての魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・ さっぽろ広域観光圏推進協議会において、「北海道じゃらん」に委託して管内の周遊ドライブルートの紹介を行ったほか、首都圏の旅行会社への訪問等、広報活動も実施しました。</li><li>・ 支笏湖地区の観光資源としての機能を維持するため、既存泉源設備のメンテナンス等を実施したほか、美笛キャンプ場の管理運営等を行い、観光客の滞在時間拡大を図りました。</li><li>・ 平成 27 年 8 月にリニューアルした道の駅サーモンパーク千歳について、年間を通じた集客につながるよう、リニューアルした水族館と共催イベント等を実施しました。</li><li>・ スカイ・ビア&amp;YOSAKOI 祭、千歳・支笏湖氷濤まつりなど、四季を活かしたイベントの開催を支援しました。</li><li>・ 全国で開催される「北海道の物産と観光展」に参加し、特産品の販路拡大と観光PRを展開しました。</li><li>・ 支笏湖周辺の清掃活動等を行う(財)自然公園財団や支笏湖ビジターセンターに対し助成を行うとともに、周辺の自然環境や支笏湖温泉を満喫できる観光客向けツアーなどの企画を行いました。</li></ul>
(2) 観光客の満足度を高める受入れ環境の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 観光ボランティアの育成も見据え行っているちとせ・まち魅力検定について、検定項目の充実を図りました。</li><li>・ 外国人や国内の個人・小グループの旅行者が安心して観光できるよう、支笏湖観光案内所の運営を支援したほか、日本語、英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、タイ語の観光パンフレットを作成しました。</li><li>・ 外国人観光客の受入環境の整備を目的に「動態調査」を実施しました。</li><li>・ 千歳駅周辺及び支笏湖温泉地区に公衆無線 LAN(公共 Wi-Fi)を整備しました。</li><li>・ 千歳市観光振興計画に基づき効果的に事業を推進するため、千歳商工会議所及び千歳観光連盟と協力してちとせ観光振興懇話会を設置したほか、市内の観光事業者等で構成する千歳の観光を考える会において、情報共有を図るとともに、誘客に向けた取組を実施しました。</li></ul>
(3) 観光客誘致宣伝活動の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 観光ホームページを随時更新することで情報発信を図るとともに、インスタグラムや観光PR動画を活用した情報発信を行いました。</li><li>・ 日本語、韓国語、タイ語の観光ガイドを作成したほか、著名な旅行雑誌や札幌市で配布されるフリーペーパーに千歳の記事を掲載しました。</li><li>・ 首都圏向けのPRや旅行商品の企画を行う札幌広域圏組合やさっぽろ広域観光圏推進協議会と連携し、圏域の魅力づくりに取り組みました。</li></ul>

## ②これからの課題

- ◎情報化や少子高齢化の進展、環境意識の高まり、観光のグローバル化による外国人観光客の増加など、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、ライフスタイルなどの変化が影響して旅行形態や観光客のニーズも多様化しています。近年は、韓国、台湾、中国などアジア圏を中心に北海道を訪れる外国人観光客が増加しており、市内においても観光入込客数は増加傾向にあります。また、新千歳空港国際線ターミナルビルの供用など国際機能の強化により、更に多くの外国人観光客の来道が予想されます。一方、市民アンケートによると、観光都市としての魅力づくりは比較的満足度が低く、重要度が高いと評価されており、満足度は上昇傾向にあります。今後も、多様化する観光ニーズや外国人観光客に対応できる環境整備の充実に努めていく必要があります。
- ◎市内には、支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖地域をはじめ、体験農場や市街地のアウトレットモール、道の駅サーモンパーク千歳、施設見学できる工場、四季や地域の魅力を発信する各種イベントなど、様々な観光資源・施設が存在しています。
- 一方、市内における観光客の大部分が日帰り客となっている状況がみられており、今後もこれらの観光資源を有効に活用し、市内の回遊性向上を図っていく必要があります。
- また、支笏湖地域など、千歳市の特徴的な自然環境を体験できる環境づくりを進めていくことも重要です。

### a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市観光振興計画（改定版）	H23-R2
------	----------------	--------

#### 【千歳市観光振興計画（改定版）（H28.3）における策定のポイント】

- ・新千歳空港の乗降客数増加や外国人観光客の増加に伴う観光ニーズの変化への対応
- ・スポーツ合宿やグリーン・ツーリズム等、交流人口拡大のための新たな取組

### b) 統計データ等

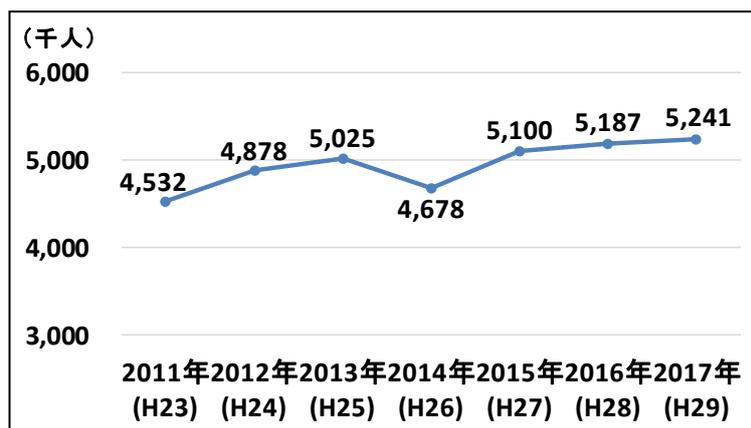


図 2-5-25 観光入込客数の推移

千歳市行政評価結果

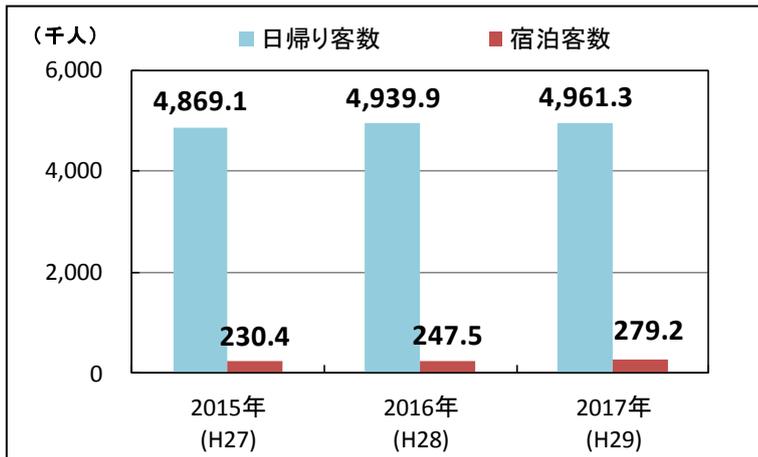


図 2-5-26 市内における日帰り客と宿泊客数の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

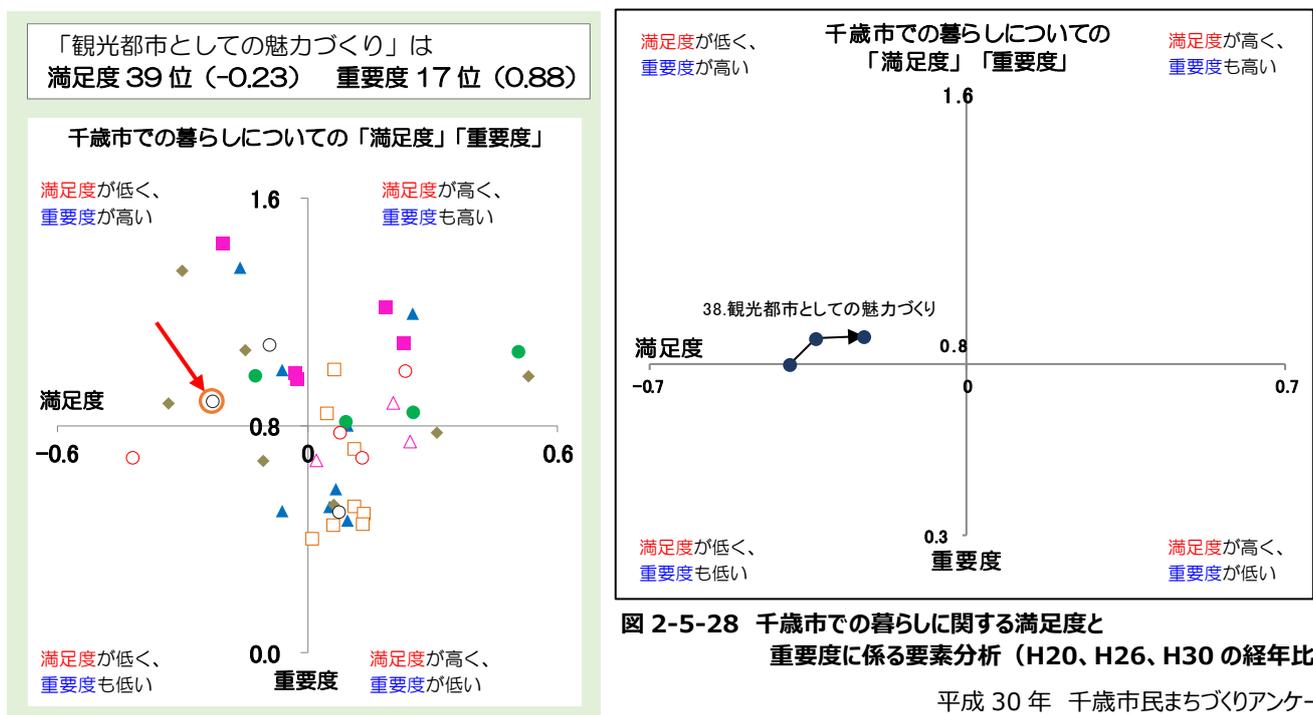


図 2-5-27 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

図 2-5-28 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・ 空港から他の観光地に流れてしまい、通り道だけになってしまっているのではないかと思います。
- ・ 道内の他の市町村に比べて観光資源が少ないと思う。自宅にお客が来ても案内する場所が少ない。
- ・ ホテルが増えて観光客が多くなってきたので、名物や名所を作ると良い。
- ・ 外国人宿泊が多いが、夜に食事を楽しめる所がない。

#### 【高校生アンケート】

- ・ 観光客が千歳に泊まって楽しめるようなまちづくりをお願いします。

#### 【大学生アンケート】

- ・ せっかく来た観光客にお金を使ってもらうことができていないので、発展ができていないのではないかと。

(10) 雇用の安定

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 雇用対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊退職者の就労支援を行うため、自衛隊定年退職者援護連絡協議会に参加し、誘致企業情報や求人情報を提供しました。</li> <li>・U I J ターン希望者や地元の求職者の就職活動を支援するため、写真や社員コメントなどによる企業の魅力発信や採用情報掲載に加え、観光情報や生活環境等を市のホームページで紹介する「ちとせの仕事」を運営しました。</li> <li>・雇用情報センターにおいて、求人情報の提供や労働相談を行うほか、ハローワーク等との連携により、市内の事業所に対し、正社員採用に関する要請を行いました。</li> <li>・高齢者就業機会確保事業を実施するシルバー人材センターを支援しました。</li> <li>・季節労働者の冬期間の雇用の場を確保するため、除雪業務の委託を行うなど、季節労働者の通年雇用促進に向けた取組を行いました。</li> <li>・学生や若年求職者の就労意識等の形成・向上を図るとともに、地元企業の人材確保や女性等の就業促進を目的として、就職支援セミナーや地元就職・人材確保支援事業を実施したほか、各種移住相談会に出展しました。</li> <li>・職業能力の開発、技能後継者の育成を行う千歳市職業訓練協会の活動を支援しました。</li> <li>・技能士の資質向上、技能後継者の育成指導等を行う千歳市技能士会の活動を支援したほか、技能を通じ産業発展に貢献した方の表彰を行いました。</li> </ul>
(2) 勤労者福祉の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤労者の生活の安定と福祉の向上を図るため、生活資金の貸付制度を実施しました。勤労者への福利厚生事業を実施する団体への助成を行いました。</li> <li>・石狩地域雇用ネットワーク会議などに参加し、労働環境の向上等に係る課題について情報交換を行いました。また、在職及び離職者からの労働時間や雇用保険などに関する相談業務を行いました。</li> </ul>

②これからの課題

◎国内の経済状況における回復基調にともない、正規就業者の採用増や賃金の上昇など、雇用情勢は改善傾向にありますが、その一方で、技能技術者の減少や求職者の希望業種・職種の偏りなどから、一部の業種において人手不足が見られています。

市民アンケートによると、働く場の確保は比較的満足度が低く重要度は高いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。一方で、学生においては就職が近づくにつれて、千歳市で働きたいと思う回答者が少なくなる傾向が見られています。

今後も、企業の人材確保に向けた採用活動の支援やU I J ターン希望者、潜在労働力として期待されている子育て中の女性を含めた求職者等の就職活動の支援を継続していく必要があります。また、勤労者が健康で安心して働くことのできる環境づくりを進めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	なし
------	----

b) 統計データ等



図 2-5-29 新規求人数と就職件数の推移

要覧ちとせ 平成 30 年版

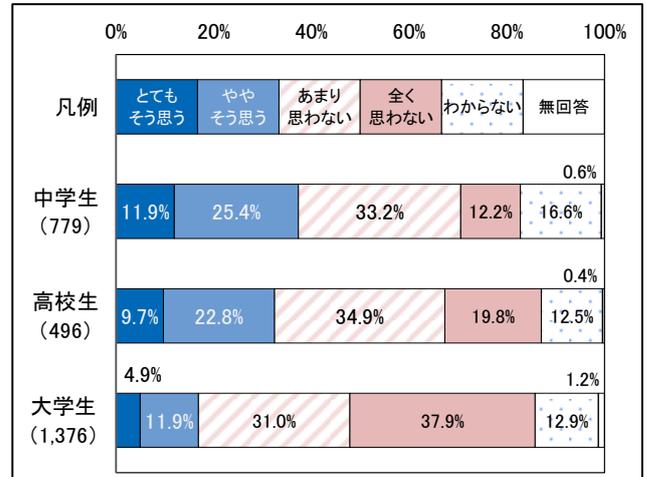


図 2-5-30 千歳市で働きたいと思うか

平成 30 年 千歳市学生まちづくりアンケート

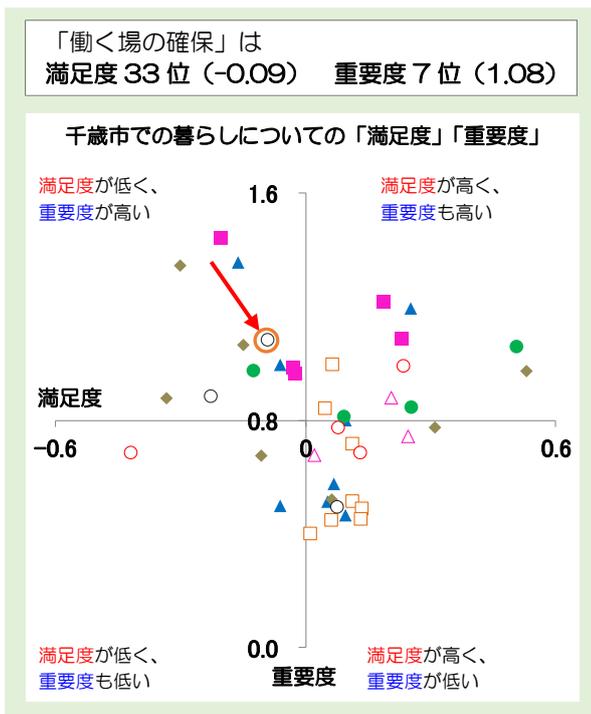


図 2-5-31 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

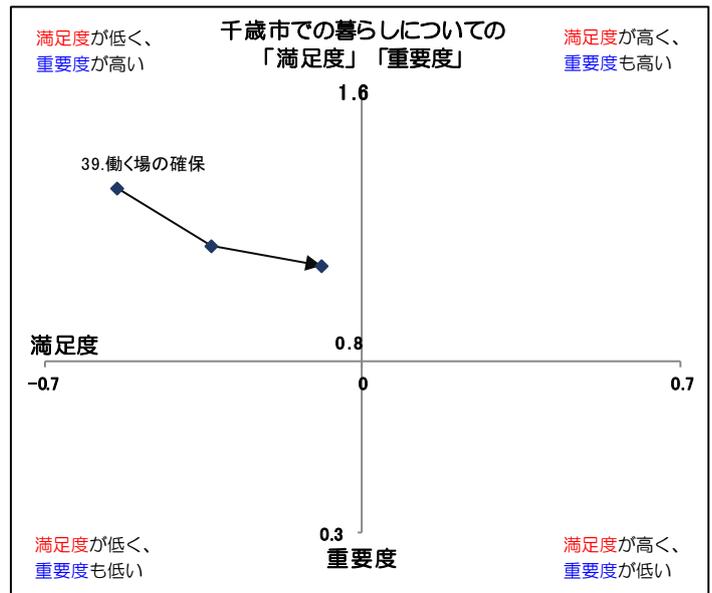


図 2-5-32 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・子供達が千歳に残って働きたいと思うような環境作りを進めた方が良いと思う。
- ・シニア層の労働を最大限に活用する企画があると良い。
- ・市内で勤務していたが、出産を機に退職をせざるを得なかった。産休や育休が取りやすい環境が民間にはまだないと感じる。
- ・労働人口の減少が見込まれるため、障がいの有無や年齢に関わらず働くことのできる環境の整備が進むことを願う。

## 2-6. 都市機能が充実したまち

### (1) 魅力ある市街地の形成

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 成熟した市街地の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンパクトで成熟した市街地形成を進めるため、第2期都市計画マスタープランに基づき、建築行為等と都市計画の適合について、審査、指導を行いました。また、開発許可等の宅地造成について、良質な宅地供給が行われるよう適切な指導に努めました。</li> </ul>
(2) 総合的な都市景観の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民協働による都市景観づくりをすすめるため、ジュニア景観士講座や花いっぱいコンクールを行ったほか、違反広告物の簡易除去を進めました。また、景観情報に関するホームページの充実やパンフレットの配布を行いました。</li> </ul>
(3) 中心市街地のにぎわい再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地の未利用地を有効活用するため、いずみ団地跡地売払いに係る企画提案及び売買契約に基づく土地利用の指導を行いました。</li> <li>中心市街地の魅力向上のため、千歳駅周辺交通バリアフリー地区整備事業や空き店舗利用促進事業のほか、ちとせ商店街クリスマスセール、セガサミーカップウェルカム&amp;ちとせ商店街かんしゃ de BINGO などのにぎわい創出に係る各種事業を実施しました。</li> </ul>

#### ②これからの課題

◎千歳市は豊かな自然に恵まれ、空・陸交通の要衝として発展しており、それに伴う人口増加に合わせた計画的な市街地の整備を進めてきました。市民アンケートによると、市街地の整備やまちの景観向上について、比較的満足度が低く、重要度も低いと評価されており、5年間の取組についても変わらないと答えた回答者が半数程度となっています。今後も、まちづくりに関する市民ニーズの把握に努め、低未利用地や空き店舗の有効活用のほか、景観形成に関する啓発などに取り組み、より魅力ある都市づくりを進めていく必要があります。

◎中心市街地は、行政、文化、商業サービスなどの施設が集積し、市民が生活、活動、交流する「まちの顔」ですが、廃業や撤退する事業者が目立つなど、賑わいが低下しています。また、市民アンケートによると、中心市街地のにぎわいづくりは比較的満足度が低く、重要度も低いと評価されていますが、満足度は上昇傾向にあります。国においてはコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市づくりが進められているところであり、「まちの顔」となる中心市街地の魅力を向上させることは、居住に関する満足度を高めるうえでも重要な要素の1つです。将来に渡って発展を続けられるまちとしていくために、中心市街地の魅力向上について引き続き取り組んでいく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市第2期都市計画マスタープラン	H24-R3
	千歳市都市景観形成基本計画 (ちとせ都市景観ガイドライン)	H14-
	千歳市都市景観形成基本計画 (ちとせ都市景観ガイドプラン)	H12-

b) 統計データ等

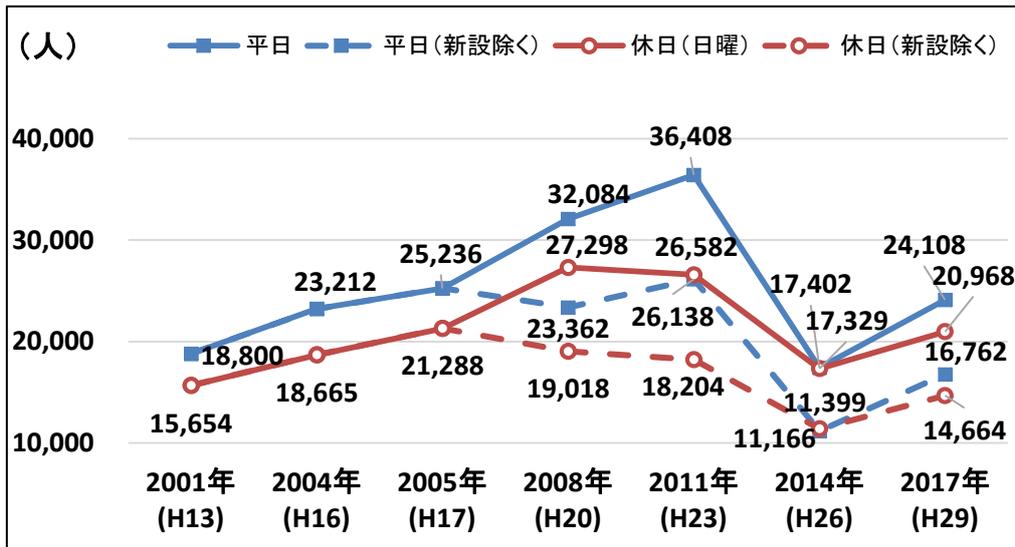


図 2-6-1 中心市街地における通行量の推移 (平日・休日別/9:00~21:00)

中心商店街通行量調査結果

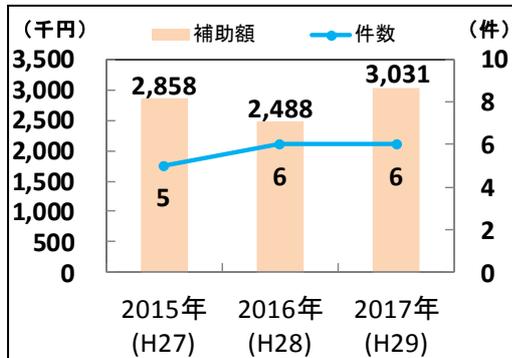


図 2-6-2 空き店舗利用促進事業実績数の推移  
千歳市行政評価結果

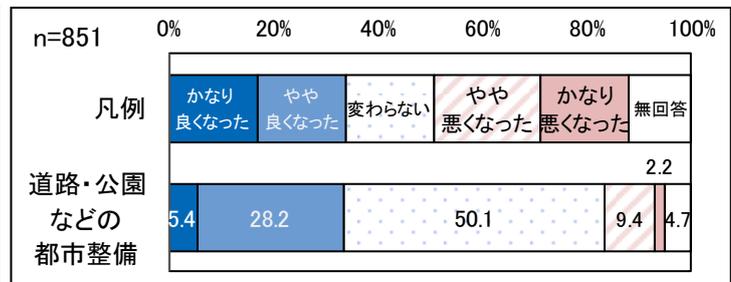


図 2-6-3 5年間の取組の評価

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

「市街地の整備やまちの景観の向上」は  
満足度 34 位 (-0.10) 重要度 31 位 (0.67)

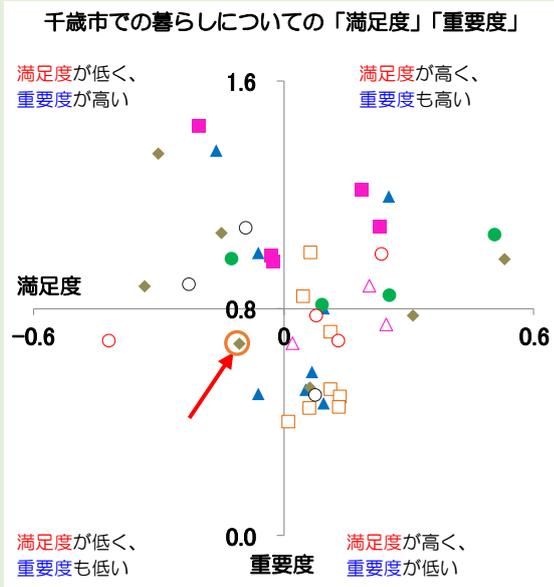


図 2-6-4 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

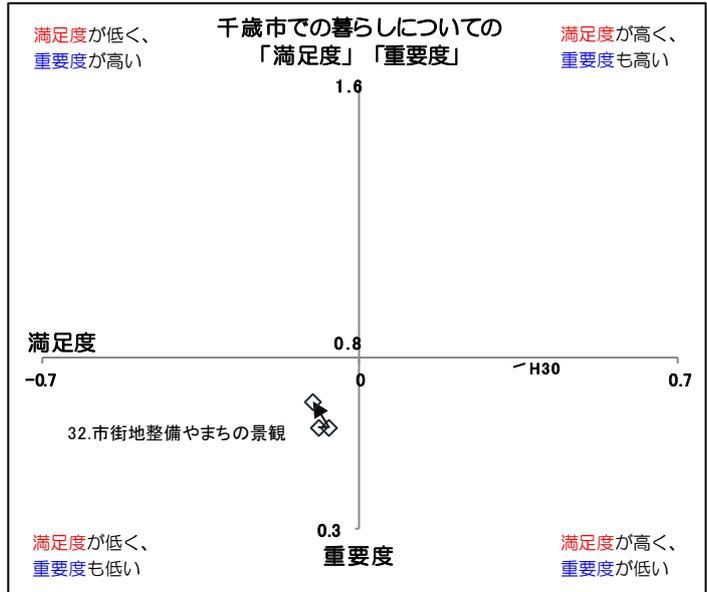


図 2-6-5 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

「中心市街地のにぎわいづくり」は  
満足度 42 位 (-0.42) 重要度 29 位 (0.68)

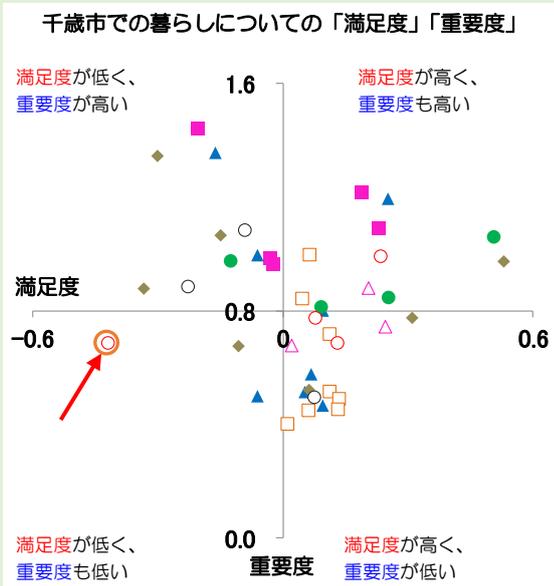


図 2-6-6 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

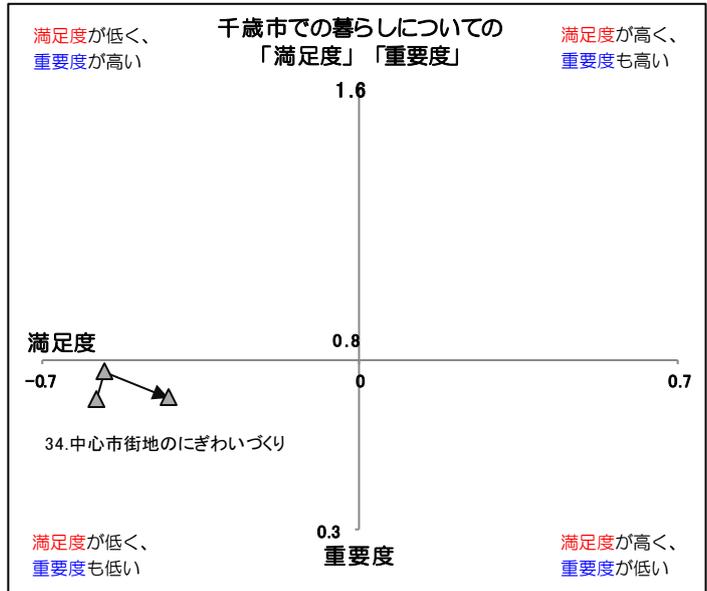


図 2-6-7 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・ 中心市街地はさびれた雰囲気があり、遊びに行こうと思うような場所がない。
- ・ 学生たちが多くいるはずなのだが、街にはいない。もっと若者たちが楽しく過ごしやすい活気のある場所を作るべきだと思う。
- ・ まちが活性化する様な商店街や公園等の施設の充実や人が集まるイベント等も沢山行くと良いと思う。
- ・ 空き家、空き店舗、空き地を放置せず活用して欲しい。

#### 【中学生アンケート】

- ・ 「まちなみ探検隊」という企画を続けて欲しい（大切な事だから続けて欲しい）。

#### 【大学生アンケート】

- ・ 千歳駅の東西で発展の差が大きいと感じる。
- ・ 千歳駅周辺に何も無い。
- ・ この20年近くで人の流れが大きく変わっている。タウンプラザや、駅前の人の流れが私の小さい頃より活気がない状態となっている。

(2) 空港を核としたまちづくりの推進

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 新千歳空港の機能充実の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新千歳空港の国際拠点空港化を目指すため、関係機関を通じた国際路線誘致活動などを実施しました。また、空港の利便性を高めるため、所管官庁である国土交通省などに対し、市単独及び関係団体を通じて、新千歳空港の整備促進要望を実施したほか、基本施設整備に要する経費の一部を負担しました。</li> <li>・公益財団法人新千歳空港周辺環境整備財団を通じて 24 時間運用航路直下の住民に対する住宅防音対策や、地域振興対策を実施しました。</li> </ul>
(2) 新千歳空港を核とした地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空港を核としたまちづくりへの理解を深めるため、千歳航空協会などの活動を支援するとともに、献花式の共同開催を行い、空港の歴史を再確認し、当時の村民の偉業を顕彰しました。</li> <li>・空港が所在する千歳市、苫小牧市及び周辺市町を含めた 3 市 3 町で組織する「千歳・苫小牧地方拠点都市地域整備推進協議会」の事務局として、空港機能を活用した高次都市機能・産業機能等の集積を促進するための取組を行いました。</li> </ul>

②これからの課題

- ◎新千歳空港では近年、外国人観光客の増加を背景に国際線の乗降客数が急増しており、航空路線数も増加傾向にあります。国は、2020 年からの運用を目標に新千歳空港の民間委託を進めているところであり、今後も利便性の高い空港としていくため、施設整備のほか、空港から目的地までの移動手段の充実、環境配慮や周辺住民の理解促進に関する取組を進めていく必要があります。
- ◎今後も、新千歳空港の機能を最大限に活用し、空港に関連した多様な産業の集積や、地域経済の活性化、定住人口の増加を図る取組を推進するなど、空港を核としたまちづくりを進めていく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、今の場所に住みたいと思う理由について、空港があるからと答えた回答者が上位になっていることから、定住の視点からも空港がある地域特性を活かしたまちづくりを進めていくことが重要です。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画	H28-R7
------	--------------------	--------

b) 統計データ等

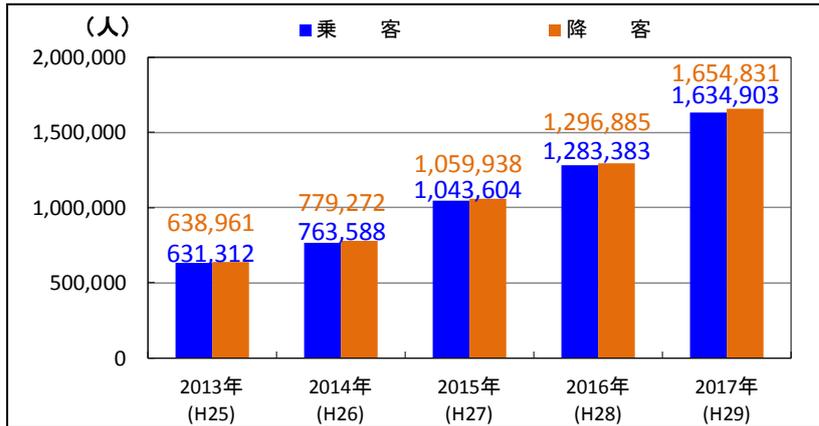


図 2-6-8 新千歳空港乗降客数の推移 (国際線のみ)

要覧ちとせ 平成 30 年版

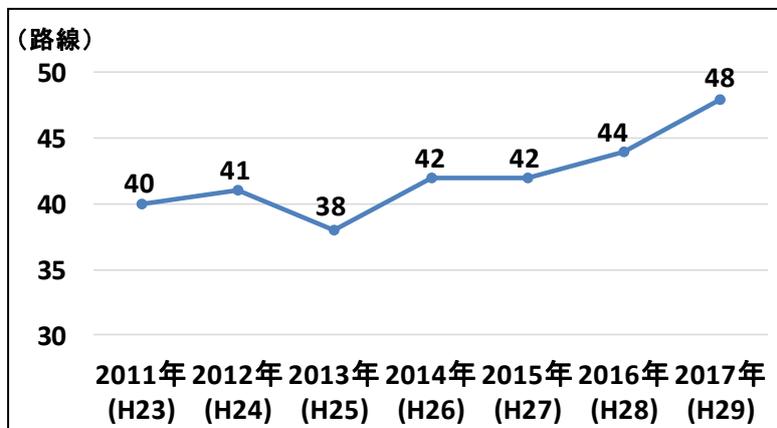


図 2-6-9 新千歳空港に就航する国内・国際定期路線数

千歳市行政評価結果

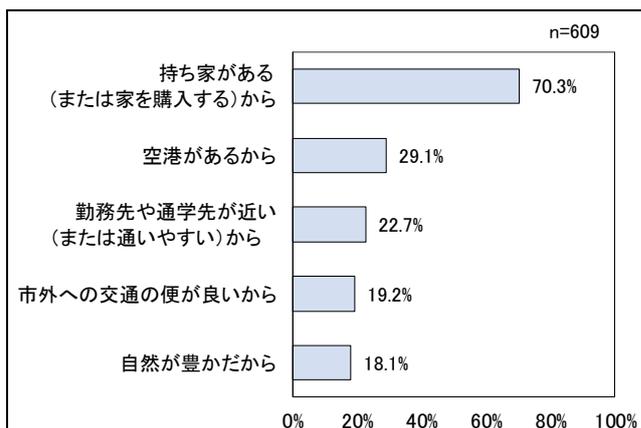


図 2-6-10 今の場所に住み続けたいと思う理由 (上位 5 項目を抜粋)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・空港及び空港周辺をもっと美しく、きれいにして多くの人々が訪れるように深刻に考えるべきだ。
- ・新千歳空港の利用時、千歳市民還元が欲しい。たとえば、J R ・バス半額、駐車料金半額利用の為の市民バスを発行するなど。
- ・空港内に色々な施設が出来ているが駐車場代が高くて中々利用しにくい市民もいると思う。利用しやすくしてほしい。
- ・せっかく空港があるのに、飛行機の発着を見学出来る集客施設がない。南千歳駅周辺に道の駅のような施設があると集客になると思う。

#### 【中学生アンケート】

- ・千歳市は空港もあり、とても便利な町だなと感じます。

#### 【高校生アンケート】

- ・せっかく空港があるので、もっと買い物など出来る所を作るとまちにお金も入り、賑やかになると思います。

#### 【大学生アンケート】

- ・新千歳空港により行きやすいように、歩道や自転車道を整備して頂けると有り難い。
- ・空港が近くにあり、快速エアポートには多くの外国人観光客が乗っている。それを踏まえて、千歳駅付近に国際的な施設を作ってもいいのではないか。

### (3) 道路体系の整備

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 広域道路網の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域道路網の整備は、地域間の産業・流通・観光における連携強化の基盤となるものであり、千歳市の発展、ひいては北海道の発展に欠くことのできないものであることから、平成 25 年度に供用開始した新千歳空港インターチェンジのほか、道央圏連絡道路などの国道や道道の整備促進に係る要請・要望・調整を実施しました。</li> </ul>
(2) 安全で快適な市道の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民生活の安定や地域産業の発展に資するとともに、より多くの人々が移動しやすいゆとりある道路環境を確保するため、都市計画道路の幅員の変更や、歩道のバリアフリー化、生活道路の改良などを進めました。</li> <li>・道路交通の安全確保を図るため、道路施設の総点検を行い、千歳市道路維持修繕計画等を作成し、橋梁を初めとする道路施設の修繕・改修・更新を実施しました。また、日常的な道路パトロールにより、舗装の補修を行うとともに、街路灯の LED 化などを実施しました。</li> </ul>

#### ②これからの課題

◎千歳市は、新千歳空港を核として鉄道、道路が機能的に連結し、北海道や国の内外を結ぶ交通拠点都市として発展を続けています。今後も、新千歳空港と道内主要都市を結ぶ交通結節機能を有し、地域間の産業・流通・観光における連携強化の基盤となる、広域道路網の早期完成及び早期事業化に向け、要望活動等を継続して取り組む必要があります。

◎市民アンケートによると、道路の整備に対する重要度は上昇傾向にあるものの、満足度は低いと評価されています。千歳市が管理する道路では、昭和 50 年代前半から本格的に整備を進めてきましたが、現在、平均的な耐用年数とされる 20 年を経過する道路が大部分となっており、今後は、老朽化により改良が必要となる道路がさらに増加していきます。将来的には、道路の維持管理費の増加が懸念されており、安定した市民生活や災害時の安全性を確保するため、定期的を実施する道路の路面性状調査や橋梁、街路灯など道路施設の点検結果を基に、計画的な改修及び更新を行い、安全で信頼できる道路施設の保全体制を構築するとともに、日常的に道路パトロールを行い、舗装の補修を実施するなど、適切な維持管理に努め、道路の安全性や信頼性を確保することが重要です。

また、交通機能の充実を図り、安定した地域社会を形成するため、将来交通量などに基づく、都市計画道路等の見直しに取り組むとともに、高齢者や障がい者など誰もが安全に安心して移動できる、ユニバーサルデザインの視点に立った道路整備を進めていくことが重要です。

#### a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市生活道路路面調査結果	H30-R2
	千歳市道路維持修繕計画	H26-R2
	千歳市橋梁耐震補強計画	H26-R4
	千歳市橋梁長寿命化修繕計画	H26-R5

b) 統計データ等



図 2-6-11 千歳インターチェンジ出入車両の推移  
要覧ちとせ 平成 30 年版

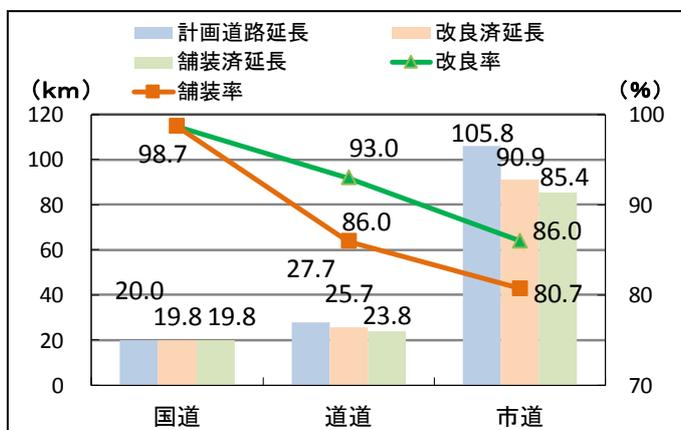


図 2-6-12 都市計画道路種別整備状況  
要覧ちとせ 平成 30 年版

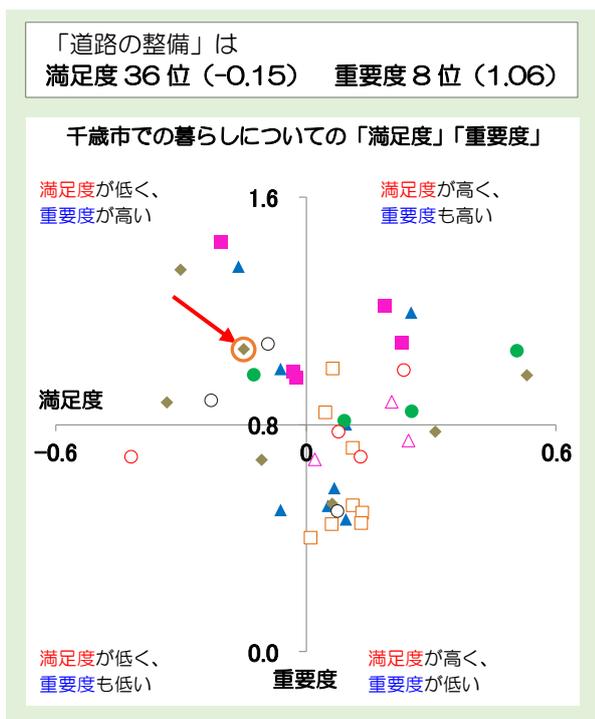


図 2-6-13 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

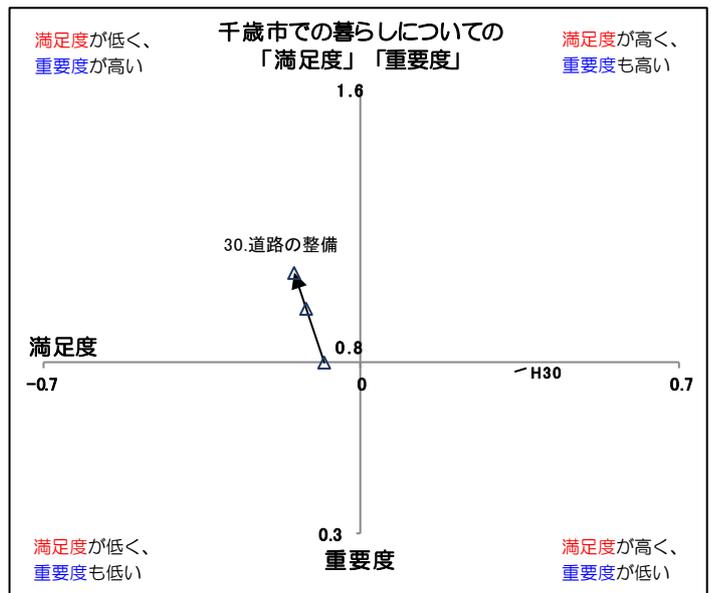


図 2-6-14 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・市道などの雑草・道路陥没の早期修復が必要だと思う。
- ・雨が降ると水はけが悪く歩行者が大変な道路がある。雨の降る時に調査して補修してほしい。
- ・1車線なのか2車線なのかわかりにくい道路や、直進レーンなのか右折レーンなのかもわからないところがある。太い道路の右折車線を新設するだけで、事故は大幅に減ると思う。
- ・道路も公園も沢山出来ている中、これからは数を増やすだけでなく整備をして、長持ちをさせるよう取り組んでほしい。
- ・駅前や36号線のように、他の道路についても歩道を自転車と人を分離するようマークや色分けをしてほしい。

#### 【中学生アンケート】

- ・泉沢向陽台から街中へ行く道路を増やして欲しい。
- ・道路がデコボコだから道を綺麗にして欲しい。

#### 【大学生アンケート】

- ・道路の白線がない所や、アスファルトが割れていて道路の状態が悪い所、車の交通量が多いのに歩道の幅が狭い所などがあるので、快適に運転が出来ない。

(4) 公共交通の充実

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 公共交通の機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスを将来にわたり維持するため、平成 28 年 10 月に全市的なバス路線の再編を行い、路線の見直しをはじめ、新たな運賃制度や路線バスの位置がリアルタイムでわかるバスロケーションシステムを導入しました。</li> <li>・千歳科学技術大学と連携し、バスガイドや乗り場案内を作成するなど、路線バスの利便性向上と利用促進に努めています。</li> <li>・千歳駅の交通結節機能強化と利便性向上を図るため、千歳市地域公共交通活性化協議会やえきまち空間ワークショップ、駅利用者等の意見を踏まえ、千歳駅前広場再整備基本計画の策定を進めています。</li> </ul>

②これからの課題

◎市民の身近な公共交通機関である路線バスは、自家用車の普及などにより利用者が減少していたことから、平成 28 年 10 月に全市的なバス路線の再編を行いました。

これにより、路線バスの利用者数は増加しており、市民アンケートにおいて重要度が高いと評価されているバスの利用のしやすさについても、満足度は上昇しています。

路線バスは、市民生活の足として欠かすことのできない交通手段であることから、今後も地域や社会のニーズに応じた交通ネットワークの充実を図るため、路線バスを維持するための取組を続ける必要があります。

また、JR 千歳駅の駅前広場についても、交通結節機能の強化と利便性の向上に向け、引き続き、再整備に向けた検討を進めていきます。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市交通戦略プラン	H28-R7
	千歳駅周辺交通バリアフリー基本構想	H14-

【千歳市交通戦略プラン（H28.3）における策定のポイント】

- ・過度な自動車利用に起因する公共交通の衰退や中心市街地の空洞化、交通事故の発生等、深刻化するまちづくりの課題への対応
- ・自動車依存社会を見直し、利便性の高い交通ネットワークの再構築

b) 統計データ等

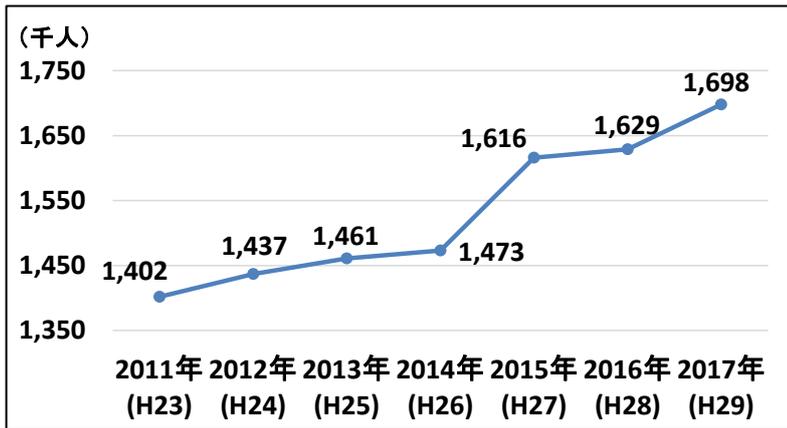


図 2-6-15 市内路線バスの延べ利用者数の推移 千歳市行政評価結果

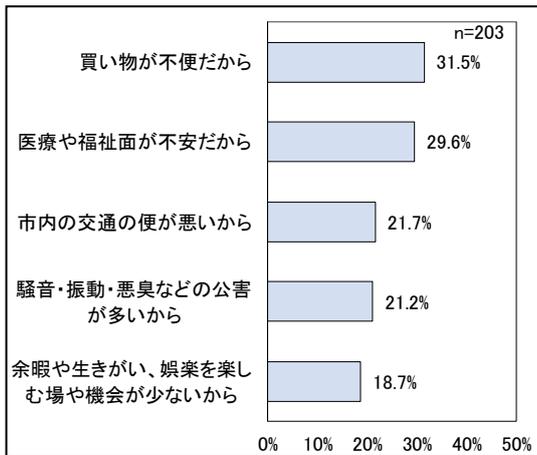


図 2-6-16 今住んでいる場所から移りたい理由 (上位 5 項目を抜粋) 平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

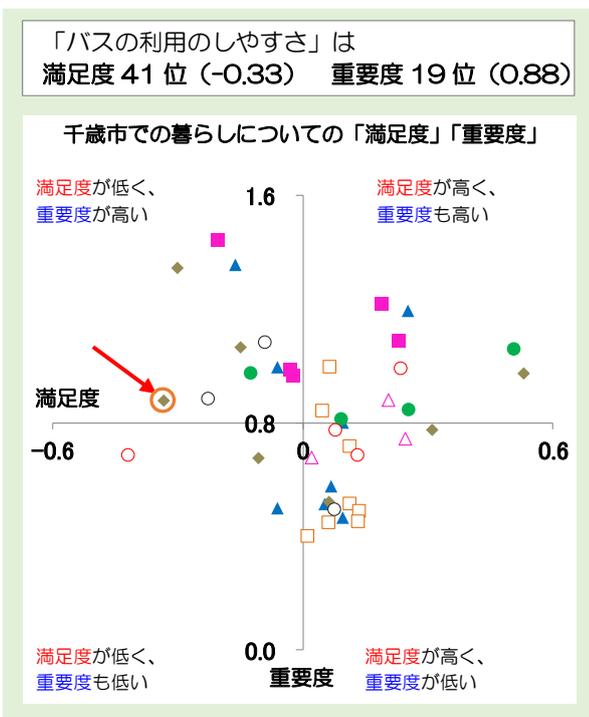


図 2-6-17 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

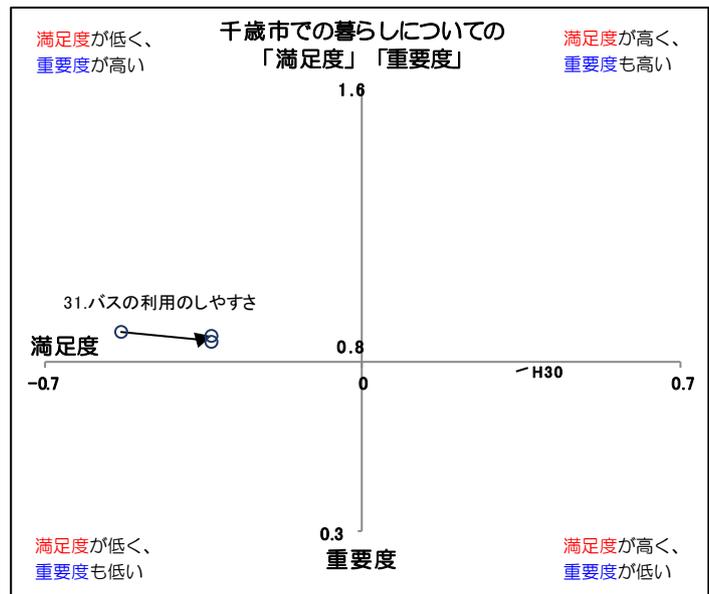


図 2-6-18 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較) 平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

### c) みなさんの声

#### 【市民アンケート】

- ・バスの時刻表やバス停がわかりにくい。ホームページや案内をもっと見やすく、わかりやすくしてほしい。
- ・市民病院と駅でうまく乗り継ぎができるダイヤを検討してほしい。
- ・千歳駅バス停、ロータリーを安全に歩行者が、バス通路を横切らなくても、遠回りしなくても1階部分を移動できる様にして欲しい。
- ・高齢者の行動がスムーズにできるよう、市街地の公共交通機関の運行を充実させてほしい。

#### 【高校生アンケート】

- ・高架より北側（あずさ方面）についてなのですが、ニュータウン等で人口が増えているのですが、駅からも遠く、バスの本数も少ないので不便に感じる事があります。バスの本数、路線を増やす等の対策の検討をお願いします。

#### 【大学生アンケート】

- ・特定の地域（千歳駅～空港）以外の交通機関が非常に少なく移動が不便である。バスなどの更なる充実が、地域の発展や交流人口の増加に必要不可欠だと考える。
- ・千歳市内を運行するバス会社への交通系 IC カード（Kitaca、Suica、Pasma 等）の導入を進めてほしい。
- ・千歳駅の駐輪場を駅裏にも作って欲しい。または、駅表からも入りやすい工夫をして欲しい。

## (5) 緑地の保全及び緑化の推進

### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 公園緑地の保全と整備	・良好な都市環境を維持するとともに、地域住民の生活環境の向上やより多くの人に安全で安心な公園利用を提供するため、計画的な公園緑地の保全・整備を進めました。
(2) 参加と協働による緑化の推進	・市民参加による緑化の取組として、花いっぱいコンクールや花と緑のフェスタ、園芸教室などを行いました。 ・市民協働による公園緑地の維持管理を行うため、市内における複数の公園広場等について、町内会等に公園緑地の管理を委託しました。

### ②これからの課題

- ◎千歳市では、公園緑地の保全や整備など総合的に緑づくりを進めており、都市公園 208 か所、面積 421.3ha を保有しています（平成 30 年 4 月 1 日）。公園や緑地は、数、面積ともに増加傾向にありますが、都市化の進展に伴い、市街地やその周辺の緑地に保全が求められています。これまでの公園緑地の整備により、街区公園については概ね整備が完了しており、今後は、既存の公園緑地が更新時期を迎え、大規模な修繕や更新費用が集中して発生することが見込まれることから、中長期的な視点で計画的に更新を進めるとともに、多種多様で膨大な数の公園施設の管理には、予防保全型の維持管理への転換が必要です。
- このことから、専門技術者による定期的な点検などにより計画的に施設を維持管理し、公園利用者の安全を確保するとともに、更新の際には、市民ニーズの把握に努め、誰もが楽しめる安全で安心な公園整備を進めていくことが求められています。
- ◎まちの魅力を向上させるため、市内においては花いっぱいコンクールのほか、緑化振興事業などを実施し、まちの緑化を進めています。これらの取組は今後も継続していく必要がありますが、一部、参加者の減少などの状況も見られています。今後も、緑豊かで魅力的なまちを作っていくために、緑化思想の普及・啓発を進めるとともに、担い手の育成などに取り組んでいく必要があります。
- ◎市民アンケートによると、公園や緑地の整備は比較的満足度が高く、重要度は低いと評価されています。これまでの取組を今後も継続するとともに、市街地の魅力向上や環境負荷低減などの観点からみた公園・緑地整備の重要性について、市民の理解を深めていく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市公園施設等更新計画	H30-R9
	千歳市緑の基本計画	H18-R7

【千歳市公園施設等更新計画（H30.8）における策定のポイント】

- ・ 公共施設等総合管理計画に基づく中長期的な視点を持った予防保全型維持管理への転換

b) 統計データ等

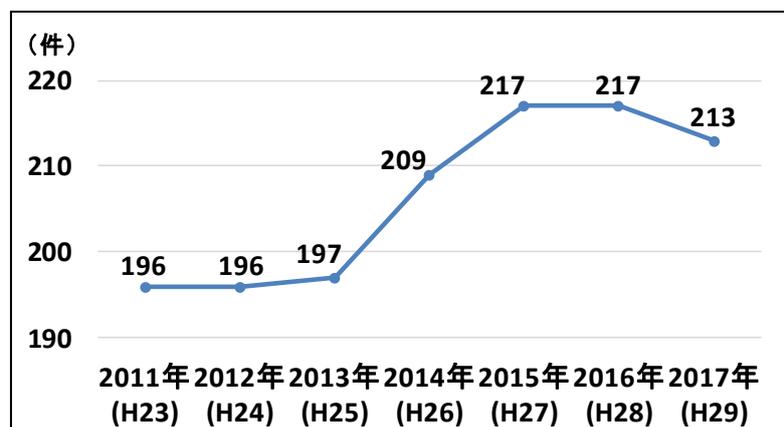


図 2-6-19 花いっぱいコンクールに参加した団体、個人、企業等の件数の推移 千歳市行政評価結果

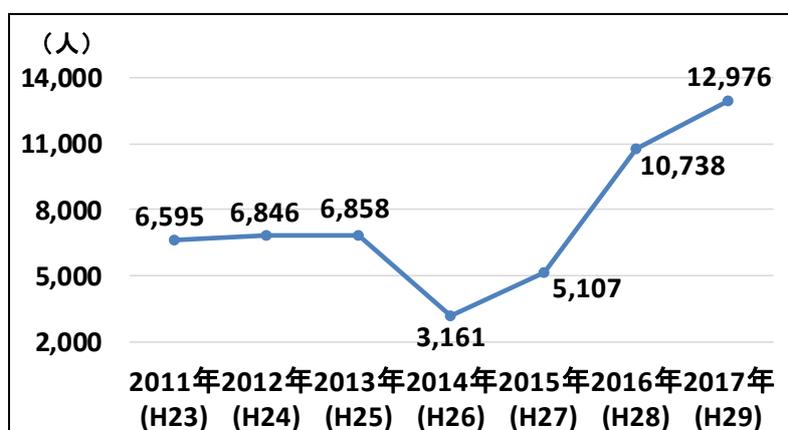


図 2-6-20 緑化振興事業の延べ参加者数（花いっぱいコンクール除く）の推移 千歳市行政評価結果

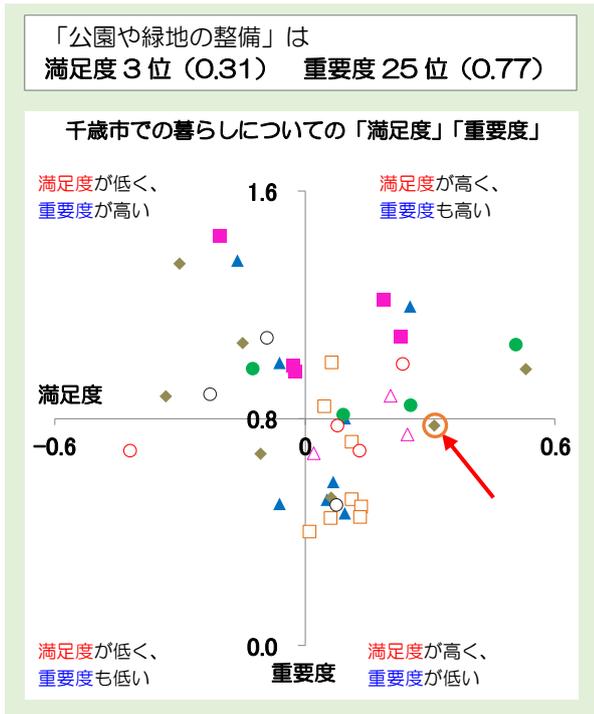


図 2-6-21 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

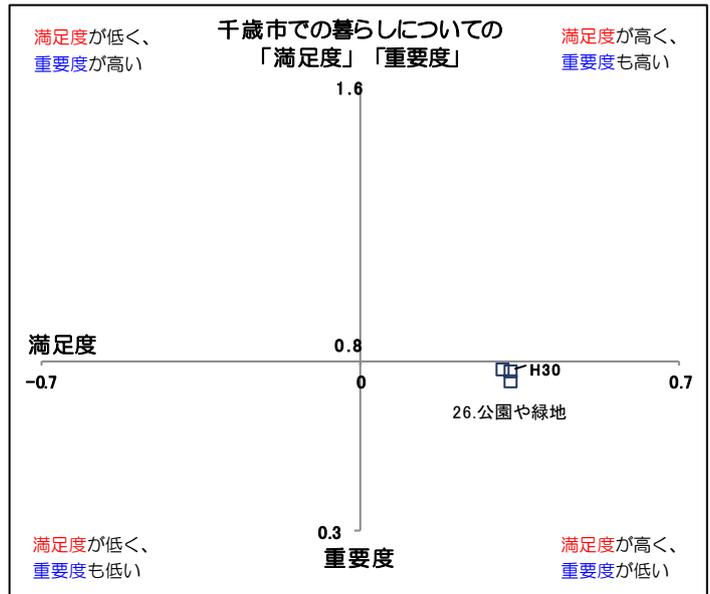


図 2-6-22 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・公園整備を昔のようにきちんとしてほしい。

【高校生アンケート】

- ・街路樹の枝がはみ出ている危険な所がある。

【大学生アンケート】

- ・公園などのベンチを綺麗にしてもらいたい。

## 2-7. 市民協働による自主自立の行政運営

### (1) みんなで進めるまちづくり

#### ①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 市民協働によるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民協働の理念を伝え、行政活動への市民等の積極的な参加を促すため、「市民提案型」協働事業のほか、「市提案型」協働事業、市民協働プロモーション事業、市民協働サポート事業などの各種事業に取り組みました。</li> <li>市民、市民活動団体、事業者がまちづくりに関わりやすい環境を作るため、メールマガジンの配信や市民参加手続の実施、広報ちとせ特集記事掲載などに取り組みました。</li> <li>市民協働の担い手となる人材を育成するため、市民協働職員研修や市民協働推進会議の開催などのほか、市民が「地域づくり」や「ひとづくり」のために行う事業に対して支援するひと・まちづくり助成事業などに取り組みました。</li> </ul>
(2) 広報広聴の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に市政情報を提供するため、「広報ちとせ」と「市民カレンダー」を発行して各戸に配布するとともに、ホームページに掲載しました。</li> <li>市民意見を行政運営に的確に反映するため、市長への手紙や市長へのポスト等の取組を進めました。</li> <li>広報広聴モニターとして20名を委嘱し、市民の市政への関心を高めるよう取り組みました。</li> </ul>
(3) 開かれた行政の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>市政について説明する責任を果たし、開かれた行政の推進を図るため、『要覧ちとせ』の発行などにより積極的に行政情報を公開しました。</li> <li>公文書の適正管理として、ファイリングシステムによる公文書の画一的な管理と文書の收受、発送、印刷等の一元管理を行いました。</li> </ul>
(4) 自衛隊との共存共栄	<ul style="list-style-type: none"> <li>自衛隊との連携や交流を図るため、自衛隊各種行事への参加や千歳地方防衛協会等の団体事務局支援等を行いました。また、自衛隊の体制維持や強化を目指し、政府や防衛省等に対する要望活動を実施しました。</li> </ul>

#### ②これからの課題

- ◎地域主権型社会の確立に向けて自治体への権限移譲などが進められる中、特性ある住みよい地域を実現するために、市民の自主的な活動に基づくまちづくりの重要性が高まっています。千歳市では、まちづくりにおける行政や市民、事業者などの役割分担のほか、市民がまちづくりに参加しやすい仕組みづくりなど、住民自治の確立に向けた取組を進めてきました。一方、市民アンケートでは、行政活動（まちづくり）に関心がある市民の割合は高いものの、意見を提言する機会への参加意欲は低い状況にあります。今後も更なる住民自治を推進するためには、まちづくりに関する情報提供の充実や人材育成のほか、まちづくりに関わる機会の充実などに取り組み、より行政と市民が協働しやすい仕組みを作っていく必要があります。
- ◎千歳市は半世紀以上にわたり、自衛隊と共存共栄を図りながらまちづくりを進めてきました。千歳市に所在する自衛隊は、北方の防衛を担っているとともに、地域防災の任務などを通じて市民生活を守る大きな存在となっており、市財政はもとより地域経済の活性化、教育文化の振興などにも大きく寄与しています。一方で、近年、北海道では自衛官の削減が進められ、千歳市においても自衛隊員の充足率が減少傾向となっており、体制の維持が困難な状況がみられます。今後も引き続き隊員の充足率向上などに取り組みむとともに、国の動向に対応した新編部隊の誘致等、体制の強化に繋がる取組もあわせて進めていくことが必要です。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	市民協働行動計画	H30-H30
------	----------	---------

b) 統計データ等

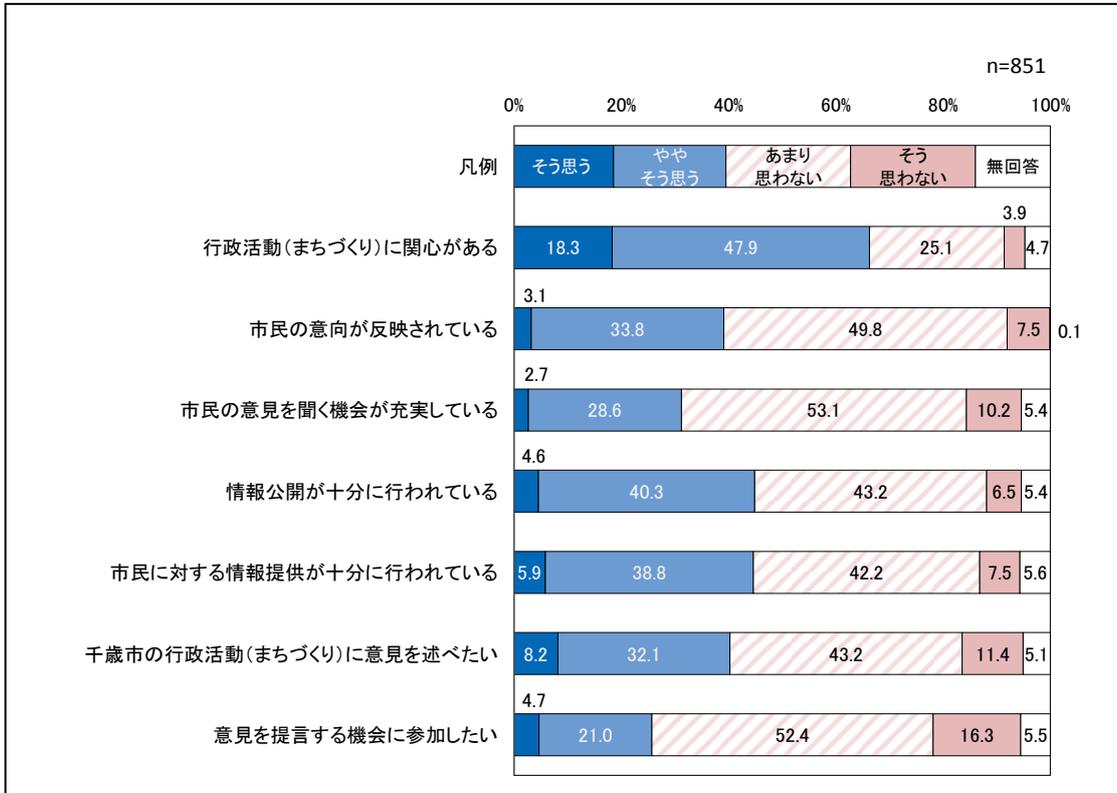


図 2-7-1 行政活動(まちづくり)や市民参加の評価・意向

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

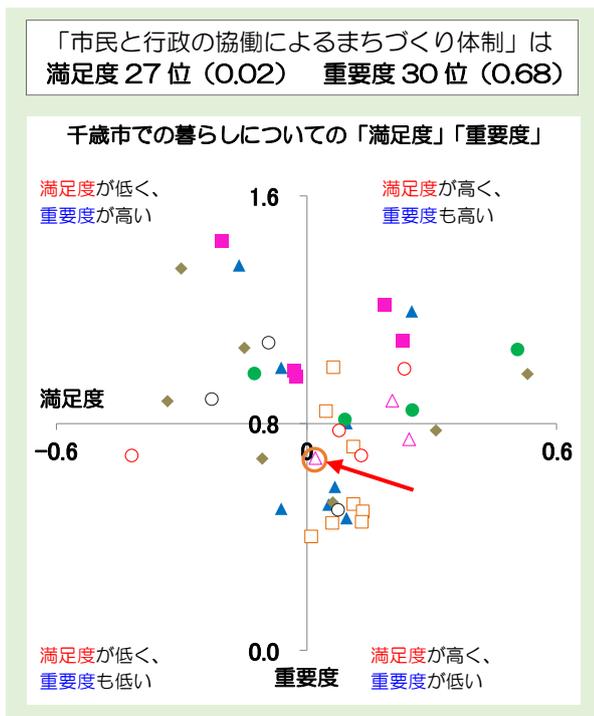


図 2-7-2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

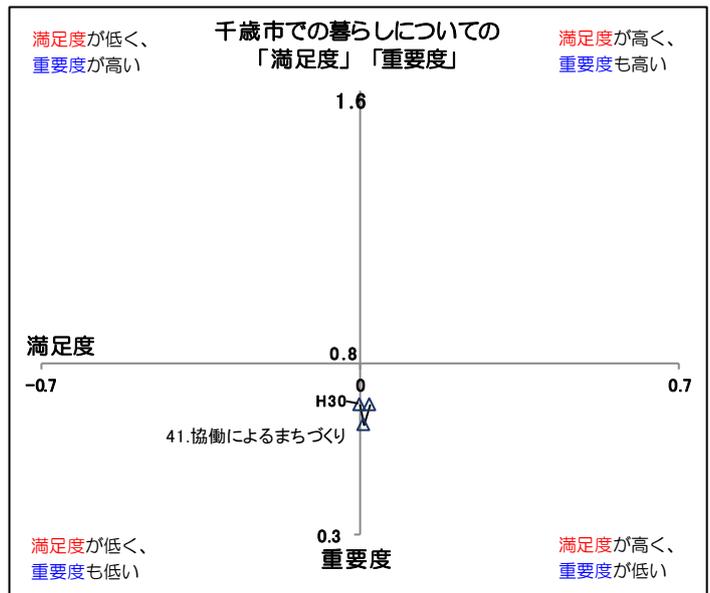


図 2-7-3 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

「広報紙やホームページなどの情報提供」は  
満足度 6 位 (0.25) 重要度 26 位 (0.74)

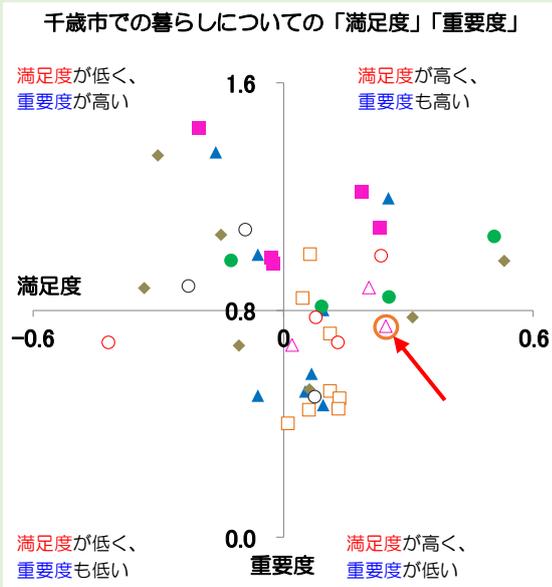


図 2-7-4 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

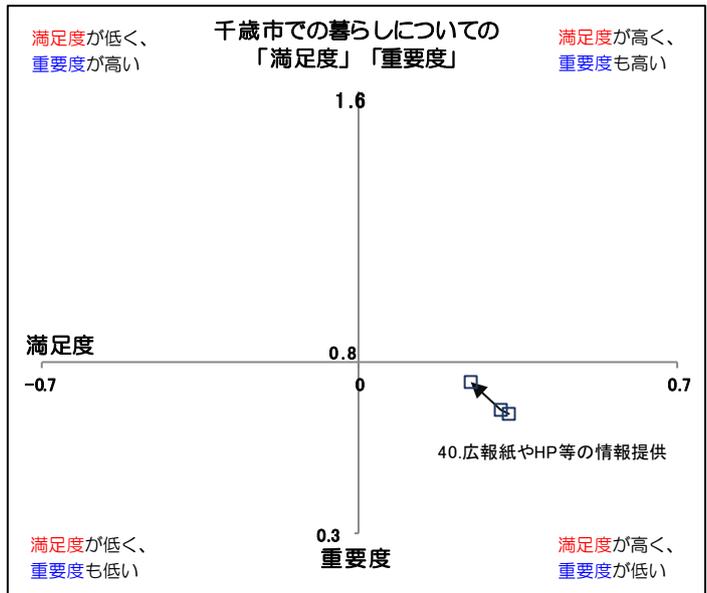


図 2-7-5 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)  
平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート



図 2-7-6 千歳市における自衛隊の隊員数(概算)の推移  
千歳市と基地

c) みなさんの声

【市民アンケート】

- ・インターネットでの情報発信を重視しすぎだと思う。高齢者のことも考慮してほしい。
- ・老若男女、障がいの有無、国籍など問わず、様々な立場の市民の意見を参考にしてほしい。
- ・まちづくりに関わる人が固定されており、また、会議への参加は普通の市民には負担が大きいと思う。
- ・市の各部署の担当者は苦勞していると思う。市民も市民協働のもと努力し、協力的に参加し、より良い千歳市の発展のために頑張りたいものだ。

【大学生アンケート】

- ・地域との繋がりが浅い印象なので、交流会やボランティア活動がより広がるよう働き掛けるとよい。
- ・同じアパートやマンションごとでおしゃべりの場があるとよい。災害時にも有利。相談出来ると様々な考えが生まれる。

(2) 自主自立の行財政システムの確立

①これまでの取組

施策	取組状況
(1) 効率的で質の高い行政運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策や事務事業の質を高めるため、事務事業評価や施策評価のほか、市民による行政評価制度である「市民行政アセス」に取り組みました。また、行政サービスの効率化や質の向上を図るため、窓口業務の民間委託を検討しました。</li> <li>・職員の資質向上を図るため、各種研修を実施したほか、様々な行政課題に的確に対応できる体制を作るため、組織の簡素合理化や定員管理の適正化に取り組みました。</li> <li>・安全安心な公共施設の供給を図るため、駐車場整備のほか、本庁舎の改修、第2庁舎の建設工事などを進めました。</li> </ul>
(2) 健全な財政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収支バランスを維持するための予算編成に取り組んだほか、財政標準化計画に定めた目標達成のため、財政規律の徹底を図り、公債費の抑制、基金残高の確保に努めました。</li> </ul>
(3) 電子自治体の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な行政情報システムを構築するため、総合行政システムの更新を行いました。また、住民サービスの利便性を高めるため、子育て部門の手続きに係る電子申請システムの運用を開始しました。</li> <li>・情報セキュリティ機能を強化するため、通信機器の更新や冗長化、ネットワークセキュリティ強化システム機器の導入を行いました。</li> </ul>
(4) 広域行政の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域的で効果的な事業を推進するため、石狩地方開発促進期成会の構成機関として、国や北海道に対し地域開発促進に係る要望活動を実施したほか、札幌広域圏組合の構成機関として、首都圏向けシティプロモーションやジュニアコンサート事業など、圏域市町村にまたがる共同ソフト事業を実施しました。</li> </ul>

②これからの課題

◎近年の地方財政状況は、人口減少・高齢社会の進展などにより、一層厳しさを増す状況にあります。また、地方分権が推進される中、地方への税源移譲が図られていますが、その一方で行政サービスに対する市民ニーズが多様化・複雑化しており、十分なサービスを提供することが困難な状況も見られています。市民まちづくりアンケート結果では、窓口対応やサービス提供について比較的満足度が高く、重要度も高いと評価され、満足度は上昇傾向にあります。今後も、近隣自治体との連携による広域的な行政ネットワークの形成をはじめ、ICT技術の活用を積極的に進めるなどにより、さらなる行政運営の効率化や適正化に努める必要があります。

◎本庁舎をはじめとして公用施設の老朽化が進んでおり、今後30年間に必要となる施設の更新費用が更新に充当可能と見込まれる額を上回ることが予測されています。2019年(平成31年)に市役所第2庁舎が完成したところですが、今後も持続的な発展ができる行政運営を目指し、その他の公共施設についても公共施設等総合管理計画に基づく計画的な維持管理を進めていく必要があります。また、市民サービスの水準を維持していくため、公共施設等の配置・規模の最適化を行い、施設更新等の費用の抑制について検討していく必要があります。

a) 関連計画の策定状況

関連計画	千歳市行政改革基本方針	H28-
	千歳市本庁舎周辺再整備基本計画	H29-
	千歳市公共施設等総合管理計画	H29-H58
	第3次札幌ふるさと市町村圏計画	H20-R1

b) 統計データ等

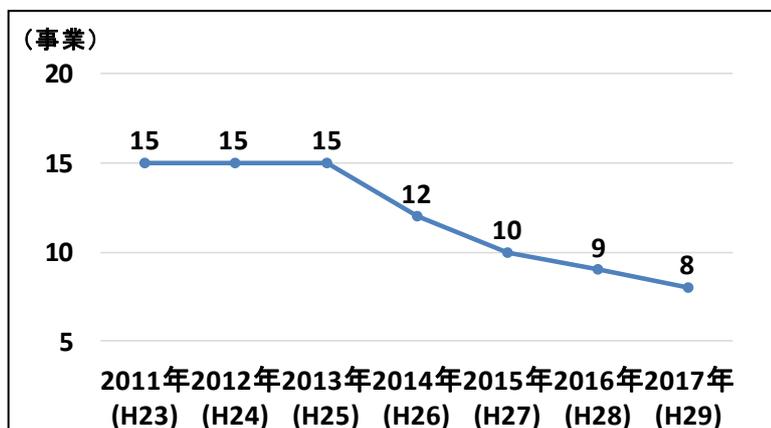


図 2-7-7 広域事務事業数の推移

千歳市行政評価結果

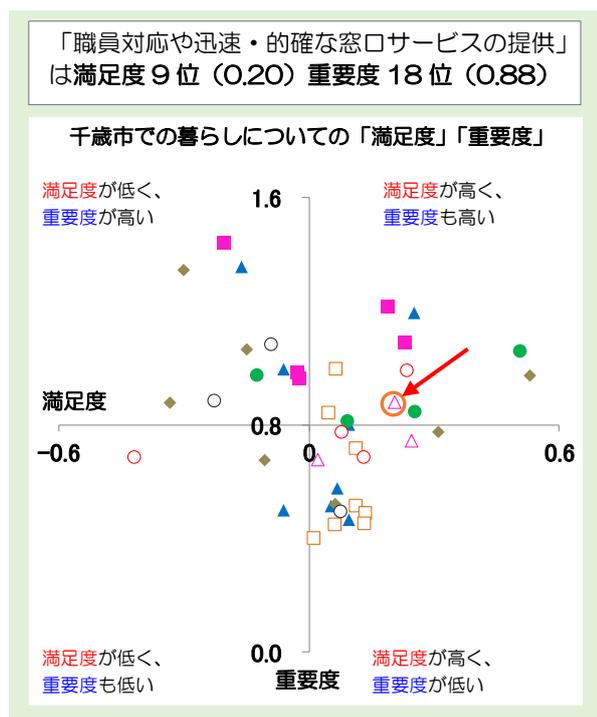


図 2-7-8 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

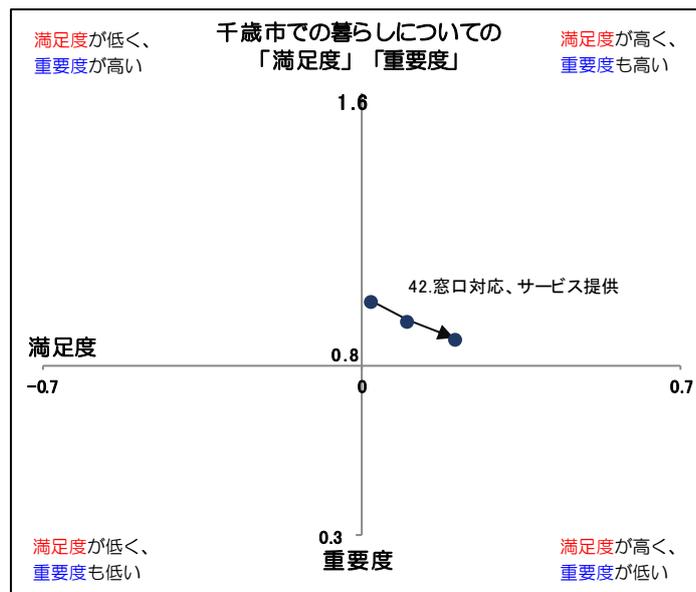


図 2-7-9 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (H20、H26、H30 の経年比較)

平成 30 年 千歳市民まちづくりアンケート

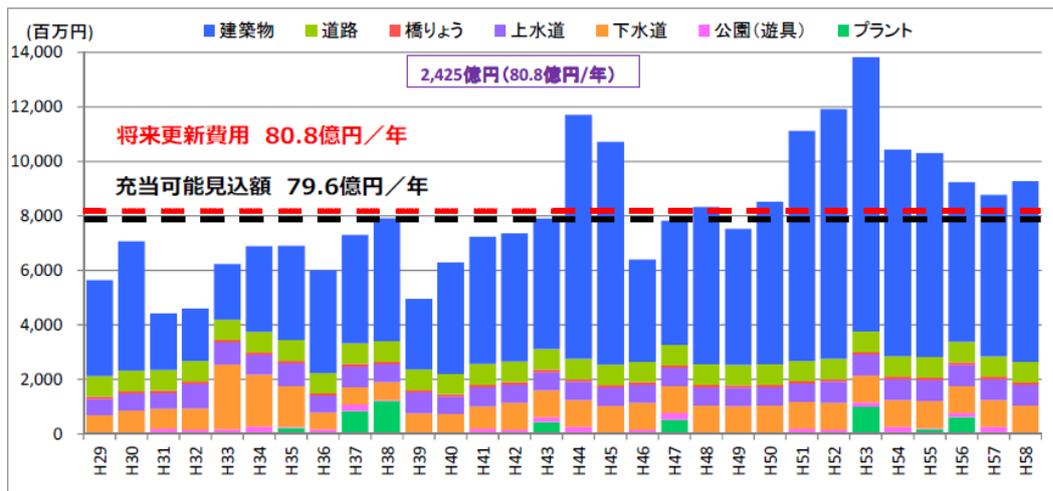


図 2-7-10 公共施設等における将来更新費用

公共施設等総合管理計画

c) みんなの声

【市民アンケート】

- ・行政の効率化や災害時の連携など、近隣自治体との連携が必要だと思う。

---

## 3 地区編

---

住民基本台帳や各種アンケート結果等を用いて、地区ごとの現状や課題を整理しています。

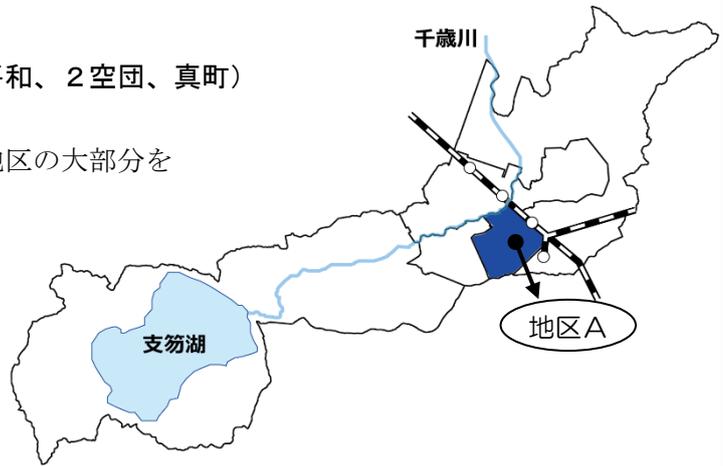
地区の分類は、総論編で用いた6分類（地区A～地区F）としています。

### 3-1. 地区A

(東雲町、朝日町、本町、真々地、平和、2空団、真町)

#### ①地区の状況

地区Aは新千歳空港に隣接しており、地区の大部分を航空自衛隊千歳基地が占めています。市役所周辺の中心市街地も一部含まれているほか、アメニティ交流拠点である青葉公園のある地区です。



#### ②地区の課題

◎地区Aの人口は概ね横ばい傾向ですが、近年は概ね転入超過が続いています。また、千歳市全体と比べて高齢化率は低くなっていますが、年少人口の比率が減少傾向にあります。

◎市民アンケートについて全体結果と比較すると、地区Aは30歳未満の若く、居住年数の短い回答者が多い傾向にあります。また、千歳市での暮らしに関する満足度と重要度については、「ボランティア活動支援」「国際交流・都市間交流」「公園や緑地」「広報紙やHP等の情報提供」「協働によるまちづくり」の満足度が高くなっており、重要度では、「子育て環境、支援」が特に高くなって一方、「バスの利用しやすさ」は重要度が低くなっています。

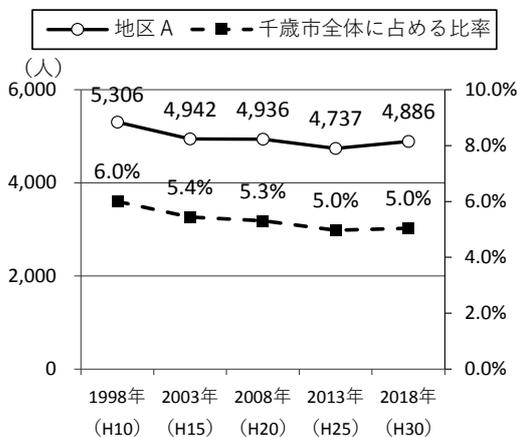
また、住み良いと感じている方や市内での定住意向を持っている方の割合は比較的低くなっており、約3割の方が市外に移りたいと考えています。

今の場所に住み続けたい理由について、上位の項目は概ね全体結果と同様となっていますが、「持ち家がある（または家を購入する）から」と回答した方の割合が低くなっています。

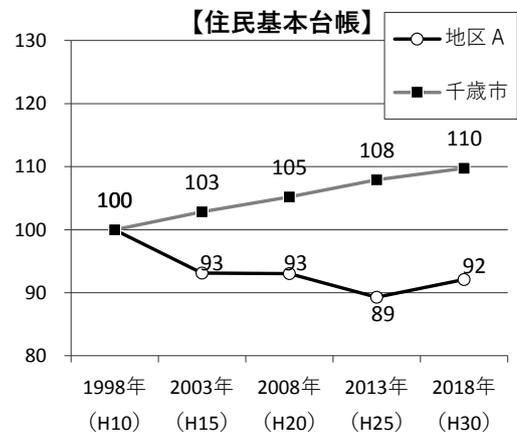
また、今の場所から移りたい理由では、「持ち家がある（または家を購入する）から」が全体と比べて特に高くなっているほか、「騒音・振動・悪臭などの公害が多いから」も高くなっています。

#### a) 統計データ

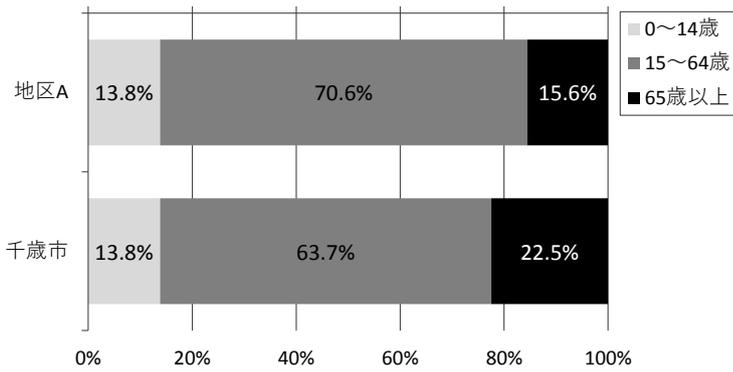
地区A人口の推移【住民基本台帳】



地区A人口増減指数(1998年=100)

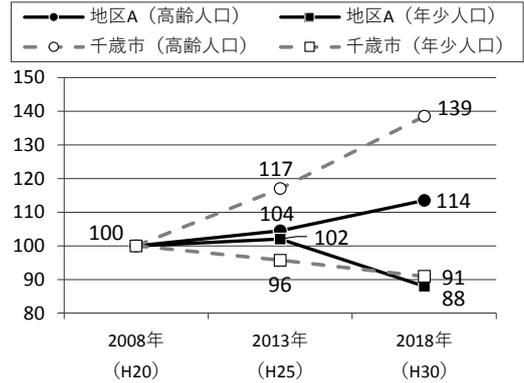


年齢3区分別人口構成比（2018年）【住民基本台帳】



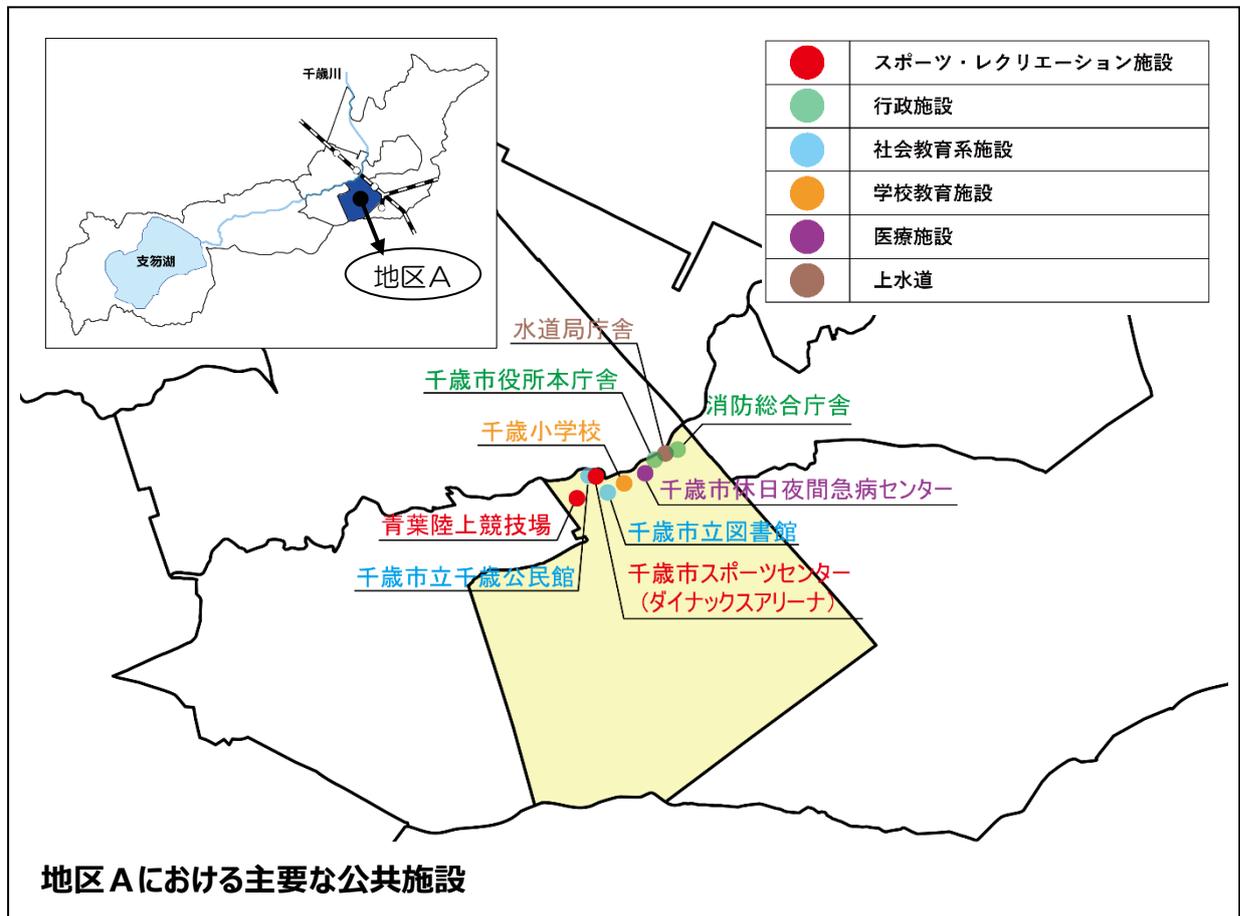
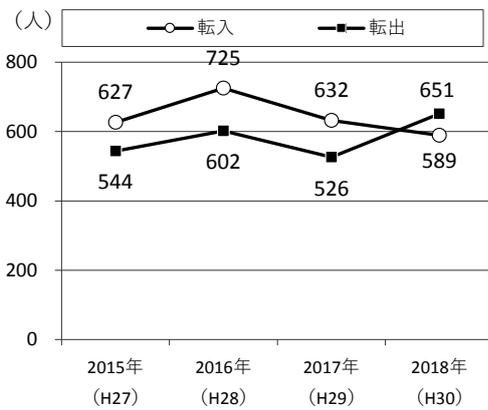
高齢・年少人口比率の増減指数

（2008年=100）【住民基本台帳】



地区A転出入者数の推移

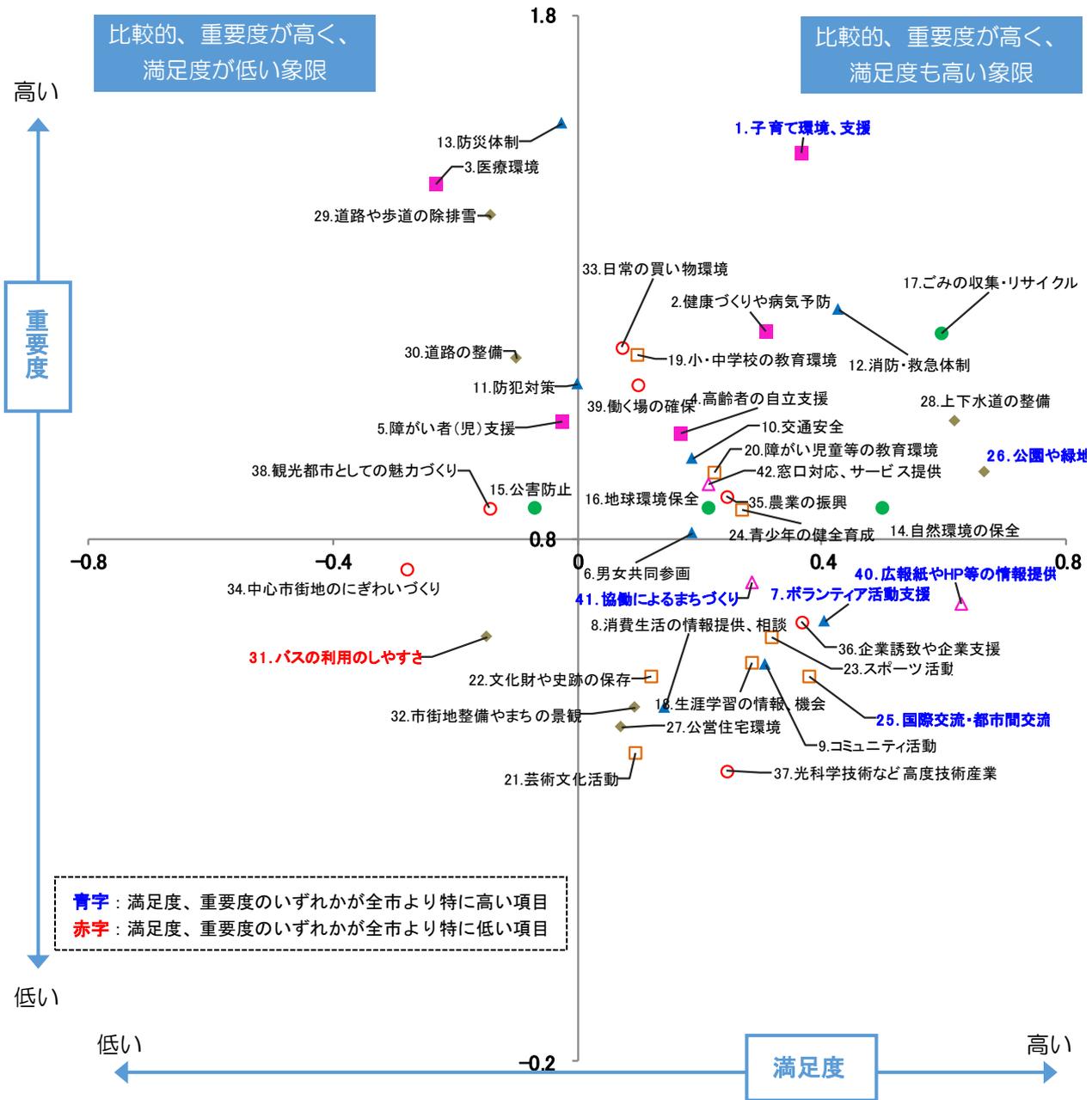
【住民基本台帳】



b) 市民アンケート結果

問2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (CSポートフォリオ\_地区A)

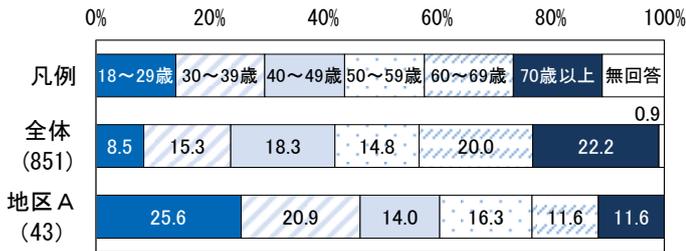
※全市のグラフはP194参照



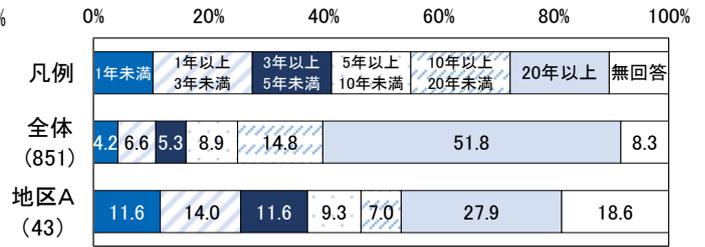
[分野の凡例]

■ 保健・医療・福祉について	▲ 生活環境や安全・安心について
● 環境保全について	□ 教育・スポーツ・文化・国際交流について
◆ 都市環境や都市基盤の整備について	○ 産業の振興について
△ 市民参加や市民協働について	

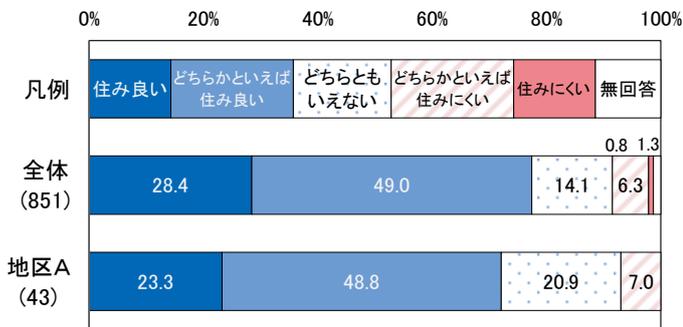
【問1】(イ) 年齢<属性別：居住地>



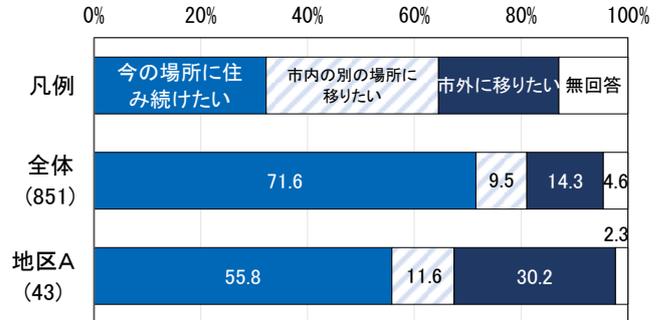
【問1】(工) 居住年数<属性別：居住地>



【問3】現在の千歳市の住みごころ<属性別：居住地>



【問4(1)】定住意向<属性別：居住地>



【問4-(2)】今の場所に住み続けたい理由(上位5項目)

千歳市 (n=609)		地区A (n=24)	
項目	回答割合	項目	回答割合
持ち家がある(または家を購入する)から	70.3%	持ち家がある(または家を購入する)から	33.3%
空港があるから	29.1%	市外への交通の便が良いから	25.0%
勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	22.7%	空港があるから	25.0%
市外への交通の便が良いから	19.2%	勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	20.8%
自然が豊かだから	18.1%	自分にあう仕事(職場)があるから	20.8%

【問4-(3)】今の場所から移りたい理由(上位5項目)

千歳市 (n=203)		地区A (n=18)	
項目	回答割合	項目	回答割合
買い物が不便	31.5%	買い物が不便	33.3%
医療や福祉面が不安だから	29.6%	騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	33.3%
市内の交通の便が悪いから	21.7%	持ち家がある(または家を購入する)から	27.8%
騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	21.2%	余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	27.8%
余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	18.7%	実家(または家族や親戚)のそばに住みたいから	16.7%
-	-	千歳市外が生まれ故郷だから	16.7%
-	-	市外への交通の便が悪いから	16.7%

### 3-2. 地区B

(若草、白樺、里美、柏陽、泉沢、文京、福住)

#### ①地区の状況

中心市街地の南側に位置する地区Bは、低層住宅地を主体とした閑静な住宅地と、緑豊かな工業団地で形成されています。

また、「北海道千歳リハビリテーション学院」や、「日本航空専門学校」、アメニティ交流拠点である泉沢自然の森がある地区です。



#### ②地区の課題

◎地区Bの人口は2003年をピークに緩やかに減少しており、転入者と転出者の数は概ね同程度で推移していましたが、2018年は転入超過となっています。また、千歳市全体と比べて高齢化率が高く、高齢人口比率の増加と年少人口比率の減少が特に顕著な地区です。

◎市民アンケートについて全市の状況と比較すると、地区Bは60歳以上の比較的高齢で居住年数の長い回答者が多い傾向にあります。また、千歳市での暮らしに関する満足度と重要度については、「公害防止」「小・中学校の教育環境」の満足度が高くなっていますが、「日常の買い物環境」に関する満足度は特に低くなっています。

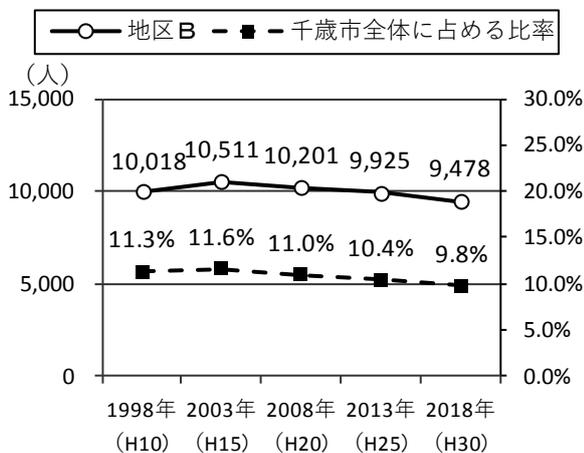
住みごこちに関する評価は全市と同じ傾向になっていますが、今の場所への定住意向はやや低く、市内の別の場所に移りたいと回答した方の割合が比較的高くなっています。

今の場所に住み続けたい理由について、上位の項目は概ね全体結果と同様となっていますが、「自然が豊かだから」「住宅環境が良いから」が全体と比べて高くなっています。

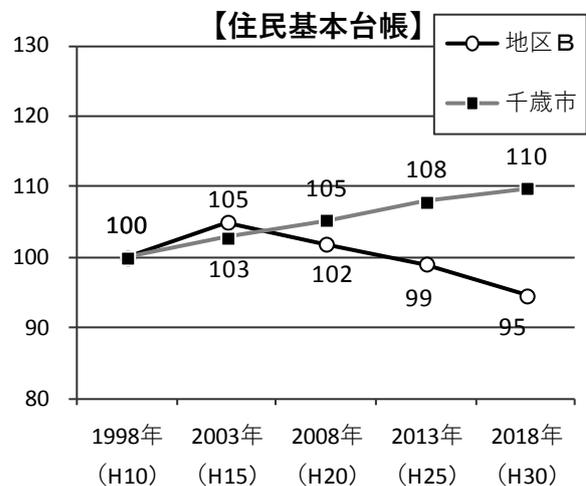
また、今の場所から移りたい理由では、「買い物が不便」「市内の交通の便が悪いから」と答えた方の割合が全体と比べて特に高くなっているほか、「医療や福祉面が不安だから」も高くなっています。

#### a) 統計データ

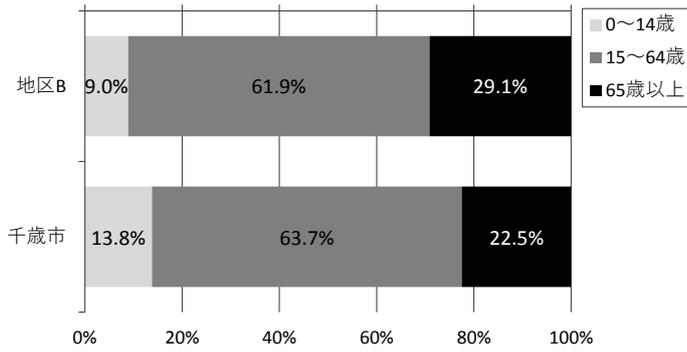
地区B人口の推移【住民基本台帳】



地区B人口増減指数 (1998年=100)

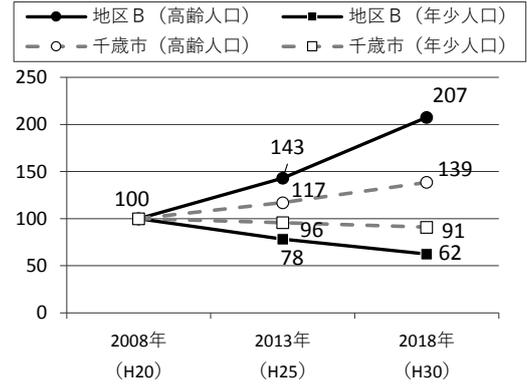


年齢3区分別人口構成比（2018年）【住民基本台帳】



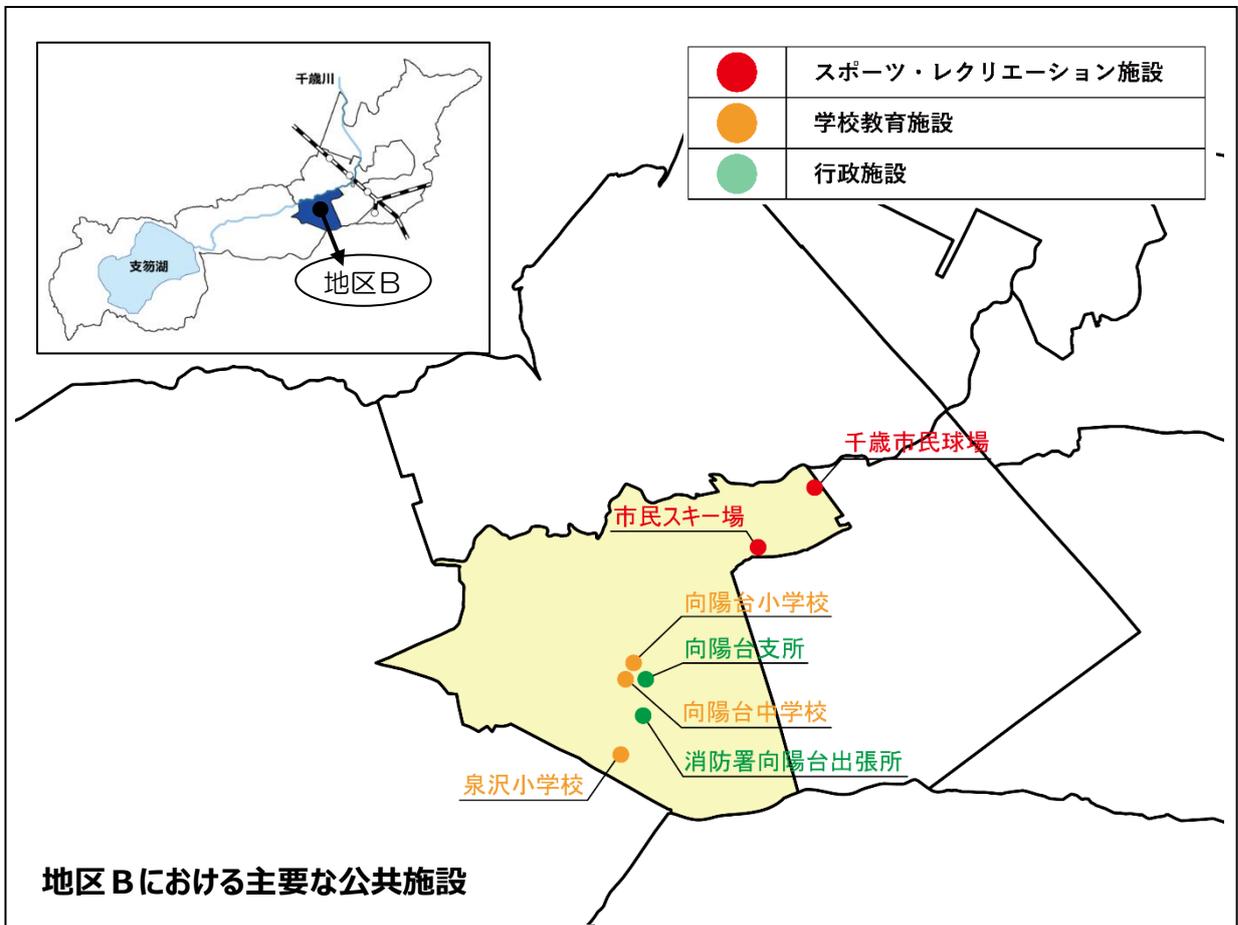
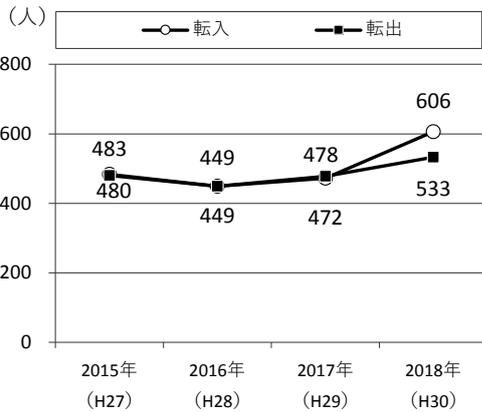
高齢・年少人口比率の増減指数

（2008年=100）【住民基本台帳】



地区B転出入者数の推移

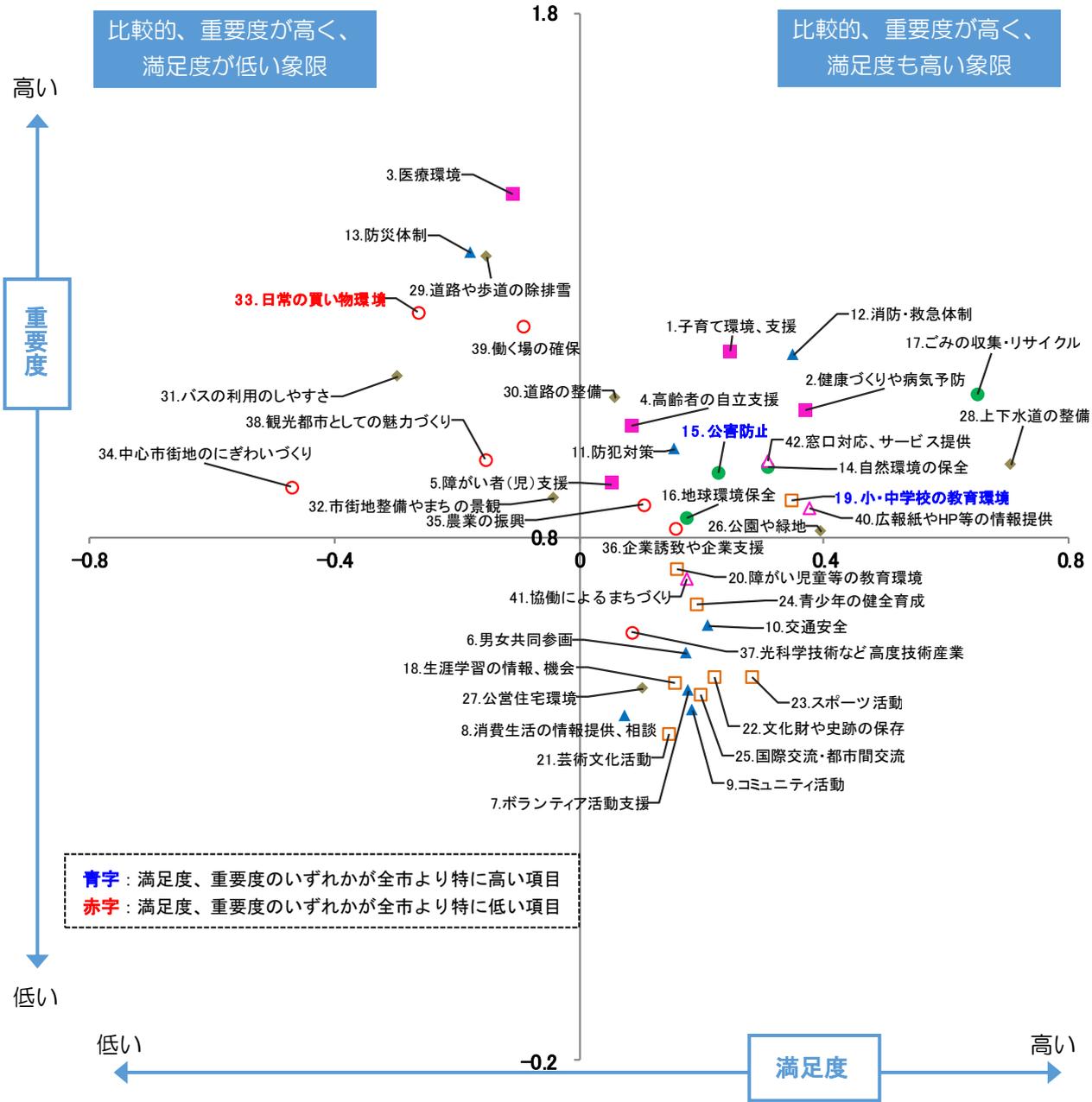
【住民基本台帳】



b) 市民アンケート結果

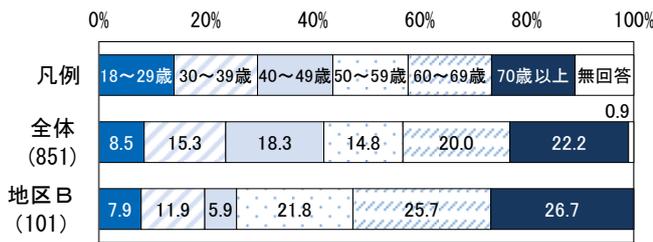
問2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (CS ポートフォリオ\_地区B)

※全市のグラフは P194 参照

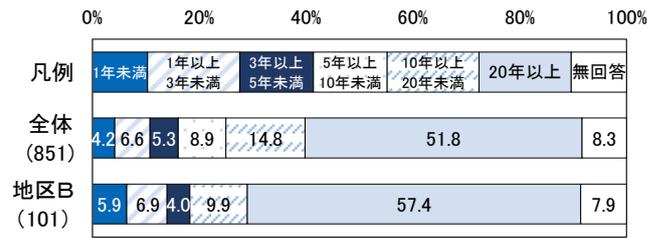


- [分野の凡例]
- 保健・医療・福祉について
  - ▲ 生活環境や安全・安心について
  - 環境保全について
  - 教育・スポーツ・文化・国際交流について
  - ◆ 都市環境や都市基盤の整備について
  - 産業の振興について
  - △ 市民参加や市民協働について

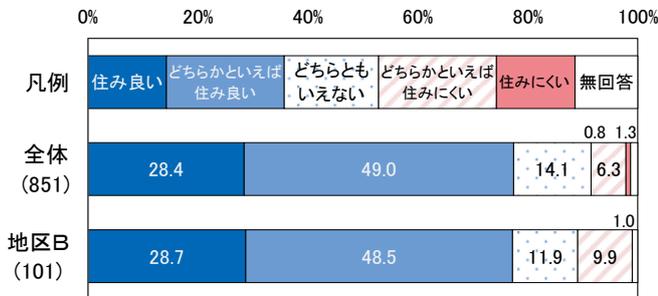
【問1】(イ) 年齢<属性別：居住地>



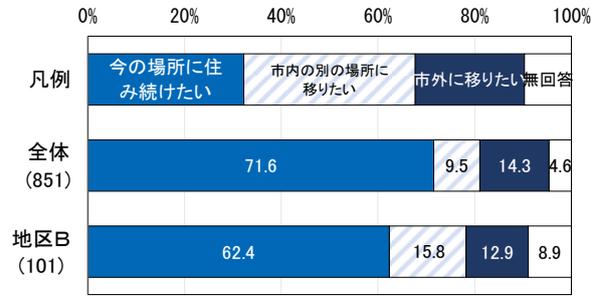
【問1】(工) 居住年数<属性別：居住地>



【問3】現在の千歳市の住みごころ<属性別：居住地>



【問4(1)】定住意向<属性別：居住地>



【問4-(2)】今の場所に住み続けたい理由(上位5項目)

千歳市 (n=609)		地区B (n=63)	
項目	回答割合	項目	回答割合
持ち家がある(または家を購入する)から	70.3%	持ち家がある(または家を購入する)から	77.8%
空港があるから	29.1%	自然が豊かだから	44.4%
勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	22.7%	空港があるから	31.7%
市外への交通の便が良いから	19.2%	住宅環境が良いから	27.0%
自然が豊かだから	18.1%	勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	15.9%

【問4-(3)】今の場所から移りたい理由(上位5項目)

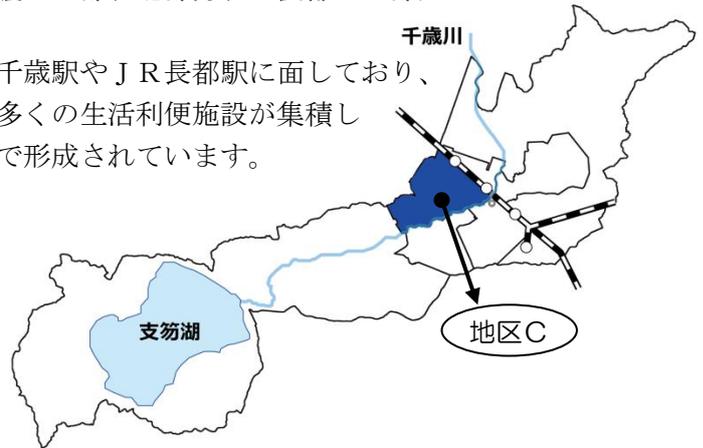
千歳市 (n=203)		地区B (n=29)	
項目	回答割合	項目	回答割合
買い物が不便	31.5%	買い物が不便	69.0%
医療や福祉面が不安だから	29.6%	市内の交通の便が悪いから	55.2%
市内の交通の便が悪いから	21.7%	医療や福祉面が不安だから	44.8%
騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	21.2%	勤務先や通学先が遠い(または通いにくい)から	13.8%
余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	18.7%	千歳市外が生まれ故郷だから	10.3%
-	-	市外への交通の便が悪いから	10.3%
-	-	余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	10.3%

### 3-3. 地区C

(錦町、春日町、緑町、大和、桂木、蘭越、新星、清水町、幸町、千代田町、栄町、北栄、新富、信濃、富士、北斗、自由が丘、桜木、北信濃の一部、北部隊、上長都の一部)

#### ①地区の状況

中心市街地の西側に位置する地区Cは、JR千歳駅やJR長都駅に面しており、JR千歳駅周辺には商業施設や業務施設など、多くの生活利便施設が集積しています。また、JR長都駅周辺は、工業団地で形成されています。

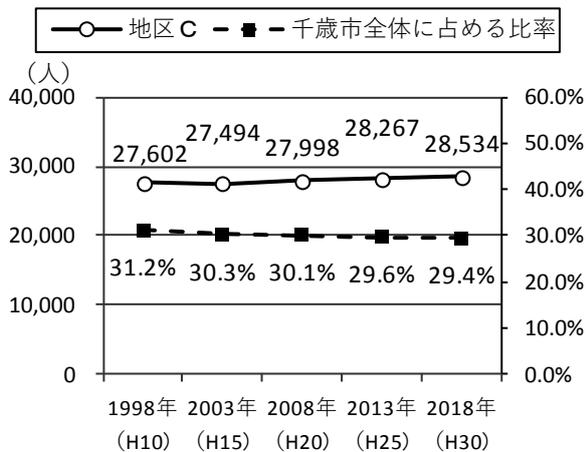


#### ②地区の課題

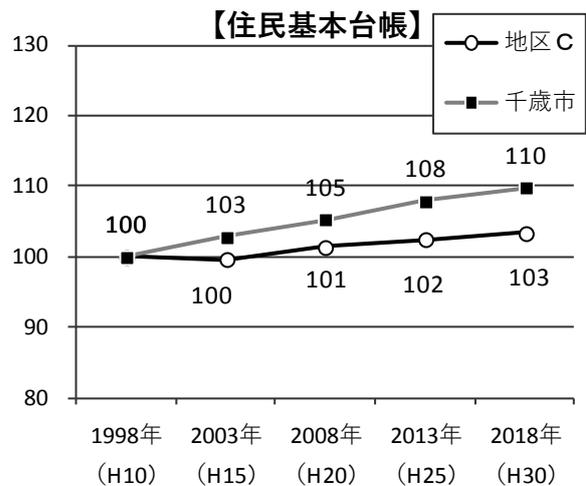
- ◎地区Cの人口は2003年から緩やかに増加しており、転入者と転出者の数は概ね同程度で推移しています。また、千歳市全体と比べて高齢化率は高く、年少人口の比率も減少傾向にあります。
- ◎市民アンケートについて全市の状況と比較すると、地区Cは回答者の属性や暮らしに関する満足度と重要度、住みごころ、定住意向のいずれも全市と同様の傾向がみられます。また、今の場所に住み続けたい理由も概ね全体結果と同じ傾向となっていますが、「持ち家がある（または家を購入する）から」が、全市と比較してやや低くなっています。今の場所から移りたい理由では、「実家（または家族や親せき）のそばに住みたいから」「千歳市外が生まれ故郷だから」など、地縁に関する項目が上位となっているほか、「買い物が不便」「医療や福祉面が不安だから」と回答する方の割合が全体と比べて低くなっています。

#### a) 統計データ

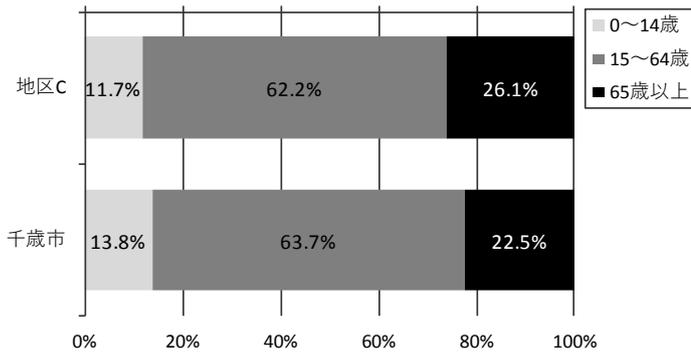
地区C人口の推移【住民基本台帳】



地区C人口増減指数（1998年=100）

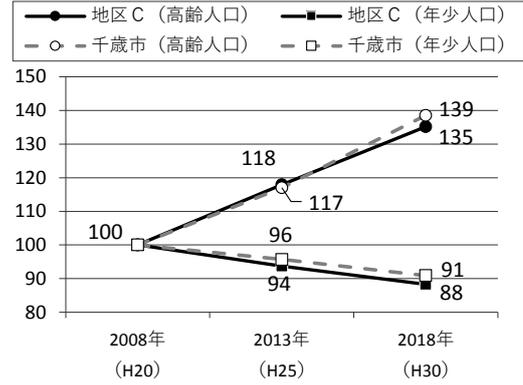


年齢3区分別人口構成比（2018年）【住民基本台帳】



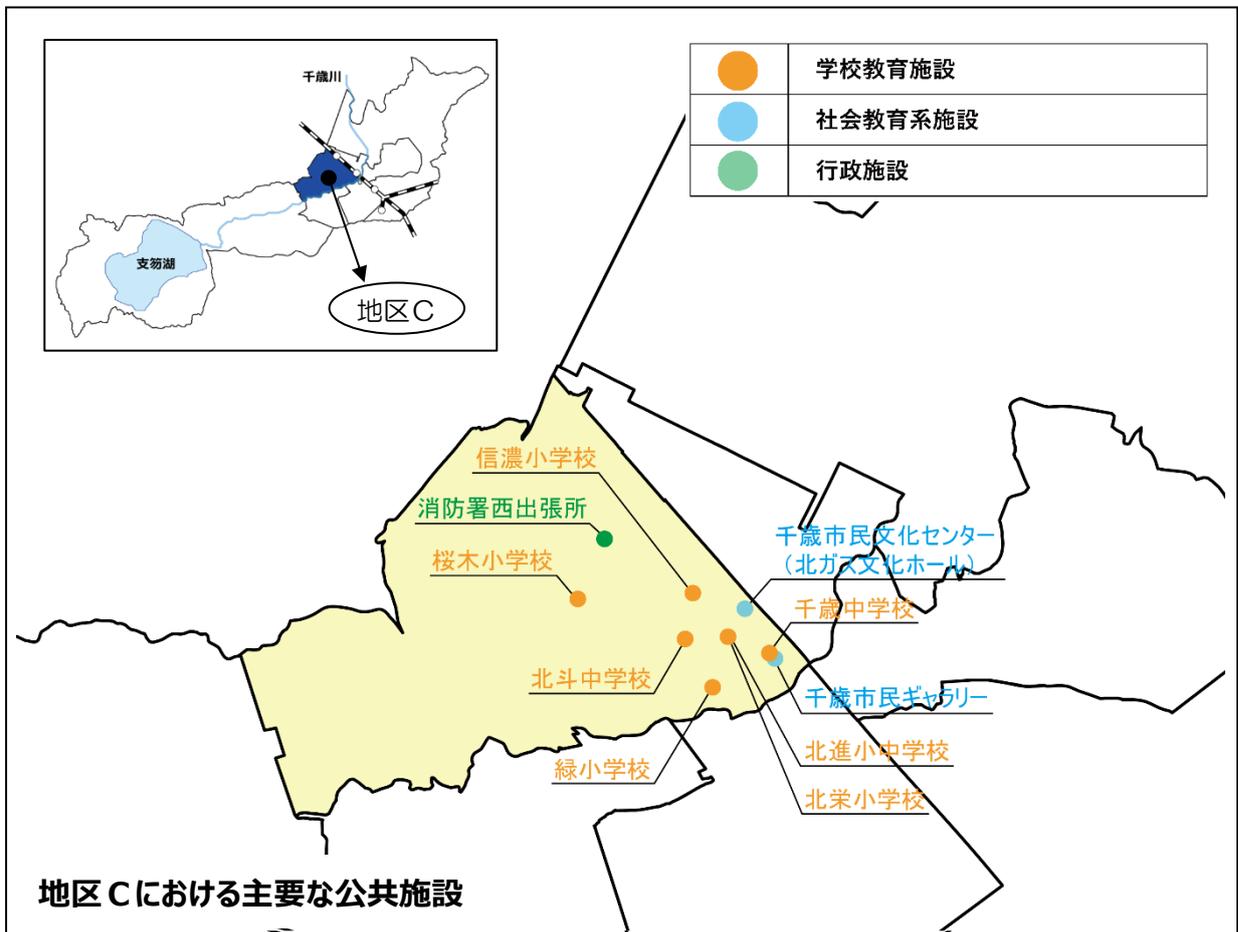
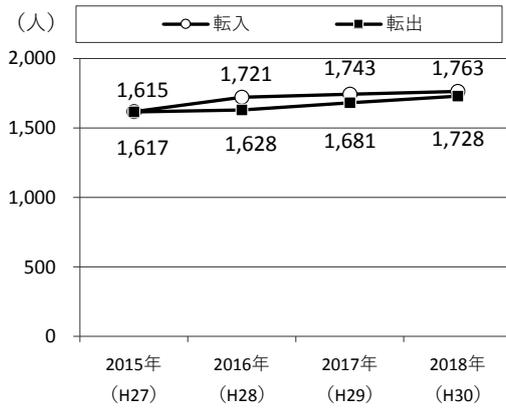
高齢・年少人口比率の増減指数

（2008年=100）【住民基本台帳】



地区C転出入者数の推移

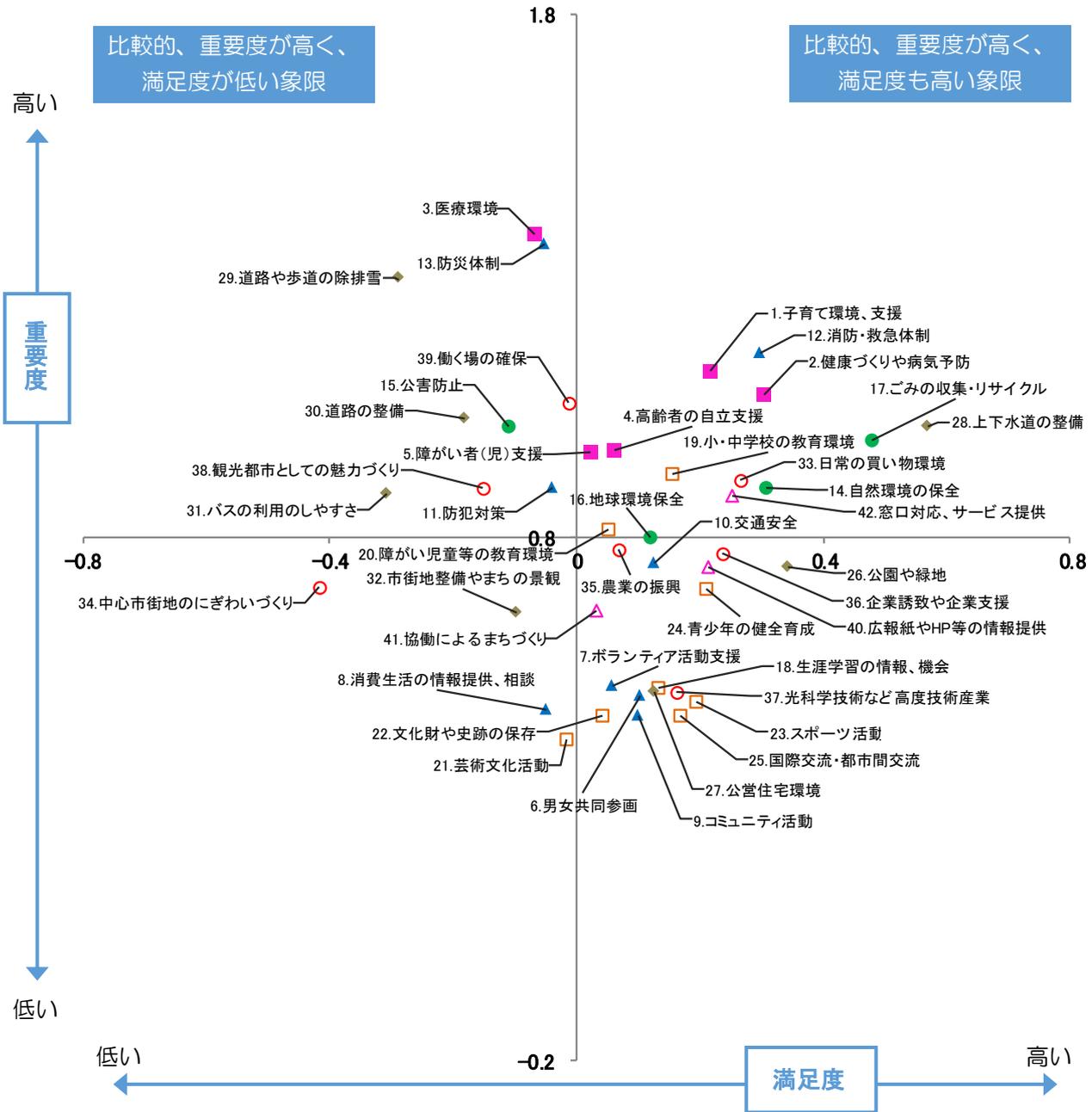
【住民基本台帳】



b) 市民アンケート結果

問2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (CSポートフォリオ\_地区C)

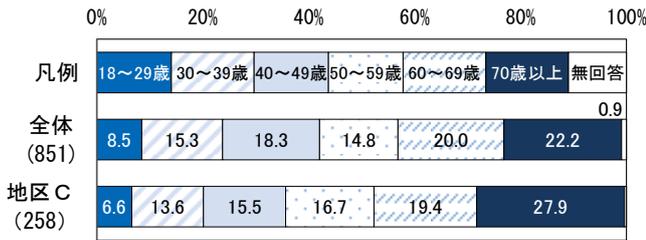
※全市のグラフはP194 参照



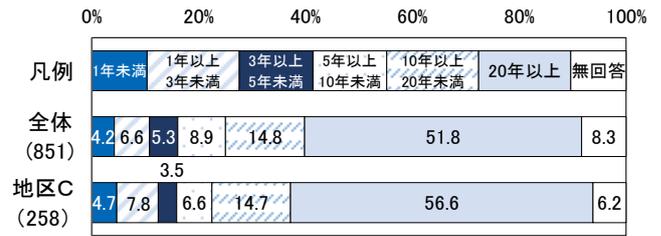
[分野の凡例]

■ 保健・医療・福祉について	▲ 生活環境や安全・安心について
● 環境保全について	□ 教育・スポーツ・文化・国際交流について
◆ 都市環境や都市基盤の整備について	○ 産業の振興について
△ 市民参加や市民協働について	

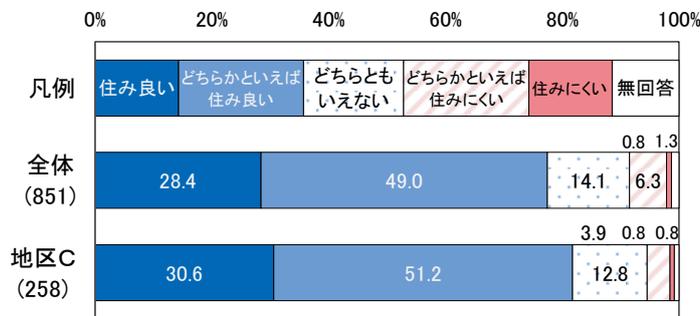
【問1】(イ) 年齢<属性別：居住地>



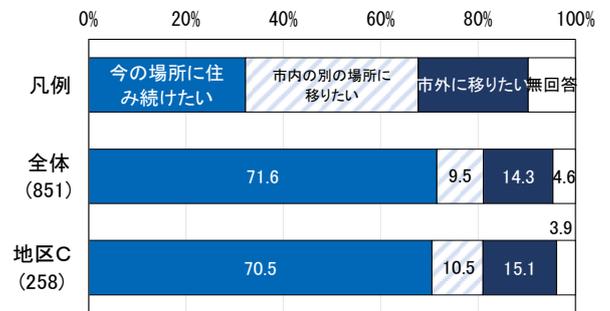
【問1】(工) 居住年数<属性別：居住地>



【問3】現在の千歳市の住みごころ<属性別：居住地>



【問4(1)】定住意向<属性別：居住地>



【問4-(2)】今の場所に住み続けたい理由(上位5項目)

千歳市 (n=609)		地区C (n=182)	
項目	回答割合	項目	回答割合
持ち家がある(または家を購入する)から	70.3%	持ち家がある(または家を購入する)から	62.6%
空港があるから	29.1%	空港があるから	26.4%
勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	22.7%	勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	23.1%
市外への交通の便が良いから	19.2%	自然が豊かだから	23.1%
自然が豊かだから	18.1%	市外への交通の便が良いから	18.7%

【問4-(3)】今の場所から移りたい理由(上位5項目)

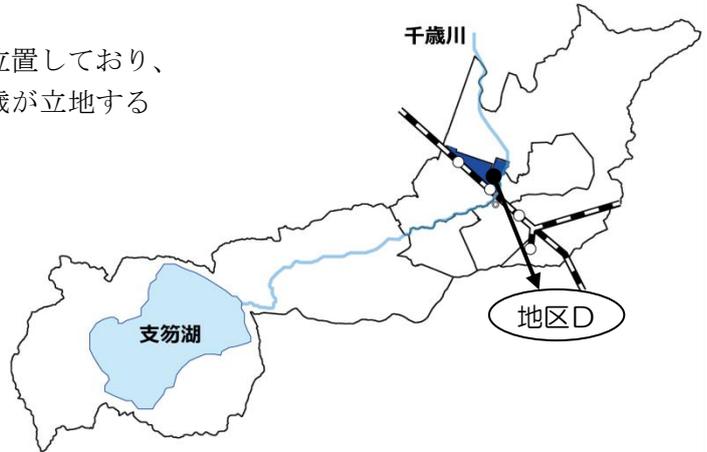
千歳市 (n=203)		地区C (n=66)	
項目	回答割合	項目	回答割合
買い物が不便	31.5%	買い物が不便	22.7%
医療や福祉面が不安だから	29.6%	医療や福祉面が不安だから	22.7%
市内の交通の便が悪いから	21.7%	実家(または家族や親戚)のそばに住みたいから	21.2%
騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	21.2%	千歳市外が生まれ故郷だから	16.7%
余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	18.7%	騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	16.7%

### 3-4. 地区D

(北陽、長都駅前、勇舞、上長都の一部、高台、富丘、北光、あずさ、北信濃の一部、末広、花園、稲穂、清流、幸福、みどり台北、みどり台南)

#### ①地区の状況

地区DはJR千歳駅とJR長都駅の北側に位置しており、市立千歳市民病院や道の駅サーモンパーク千歳が立地する低層住宅地を主体とした地区です。



#### ②地区の課題

◎地区Dの人口は増加が顕著で、千歳市全体に占める人口の比率も大きく増加していますが、転入者と転出者の数は概ね同程度で推移しています。また、全市と比べて高齢化率が低くなっていますが、年少人口の比率は減少しています。

◎市民アンケートについて全市の状況と比較すると、地区Dは比較的若く、居住年数の短い回答者が多い傾向となっており、千歳市での暮らしに関する満足度と重要度については、全市と同様の傾向となっています。

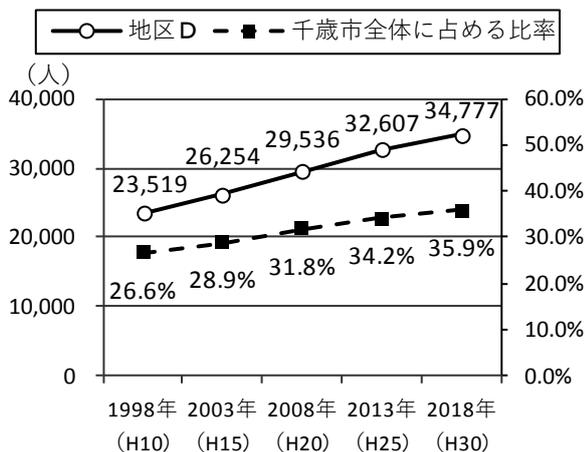
また、住みごちに関する評価は全市と同様の傾向がみられますが、今の場所に住み続けたいと回答する方の割合が高くなっています。

今の場所に住み続けたい理由では、「実家がある（または家族や親戚がいる）から」が上位となっているほか、「持ち家がある（または家を購入する）から」「市外への交通の便が良いから」が全体と比較して高くなっています。

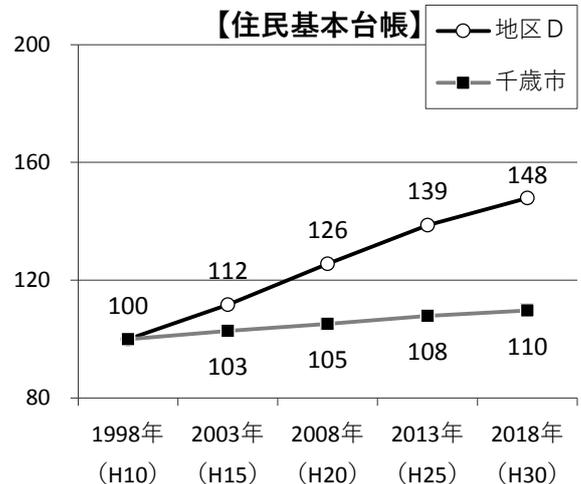
また、今の場所から移りたい理由では、全体と同じ項目が上位にあげられていますが、「余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから」と答えた方の割合が、全体と比べて高くなっています。

#### a) 統計データ

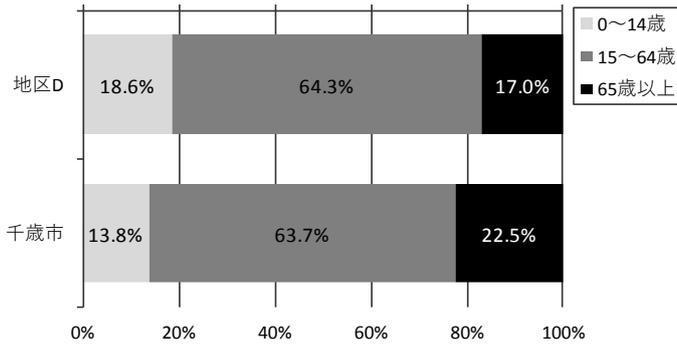
地区D人口の推移【住民基本台帳】



地区D人口増減指数（1998年=100）

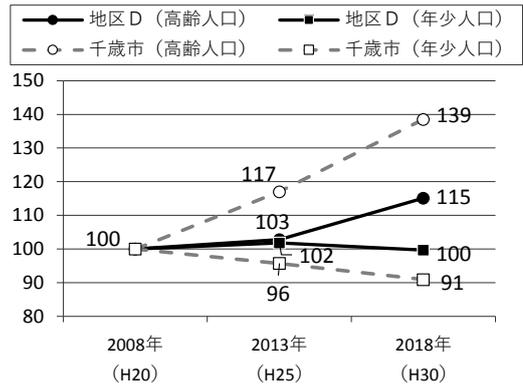


年齢3区分別人口構成比（2018年）【住民基本台帳】



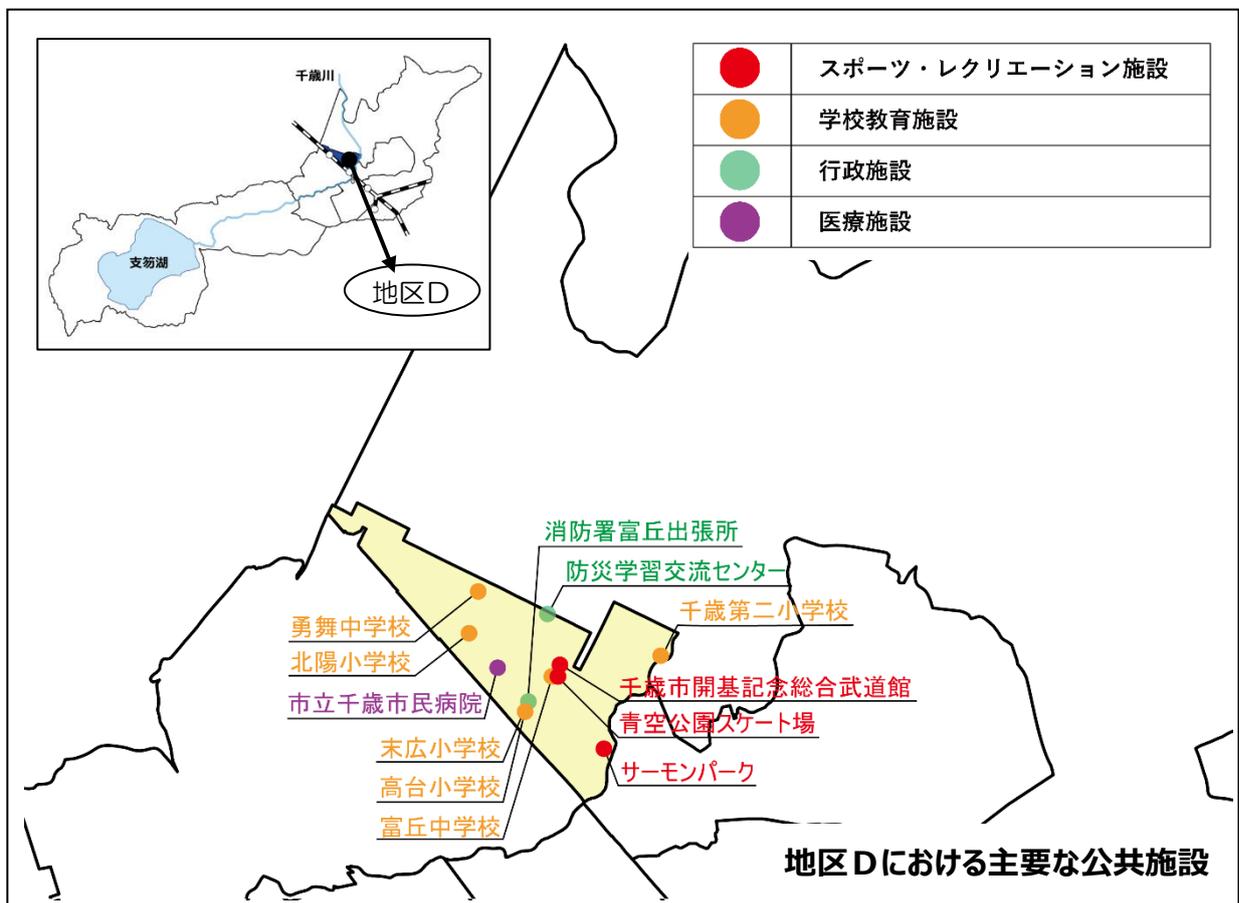
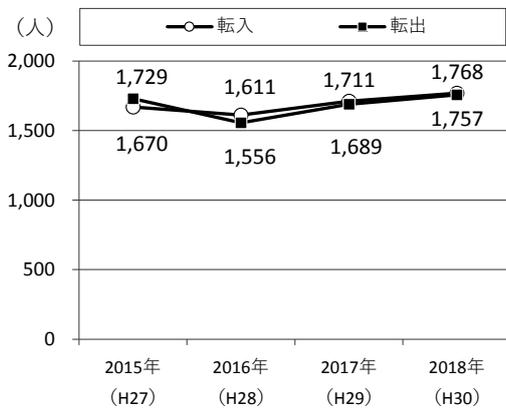
高齢・年少人口比率の増減指数

（2008年=100）【住民基本台帳】



地区D転出入者数の推移

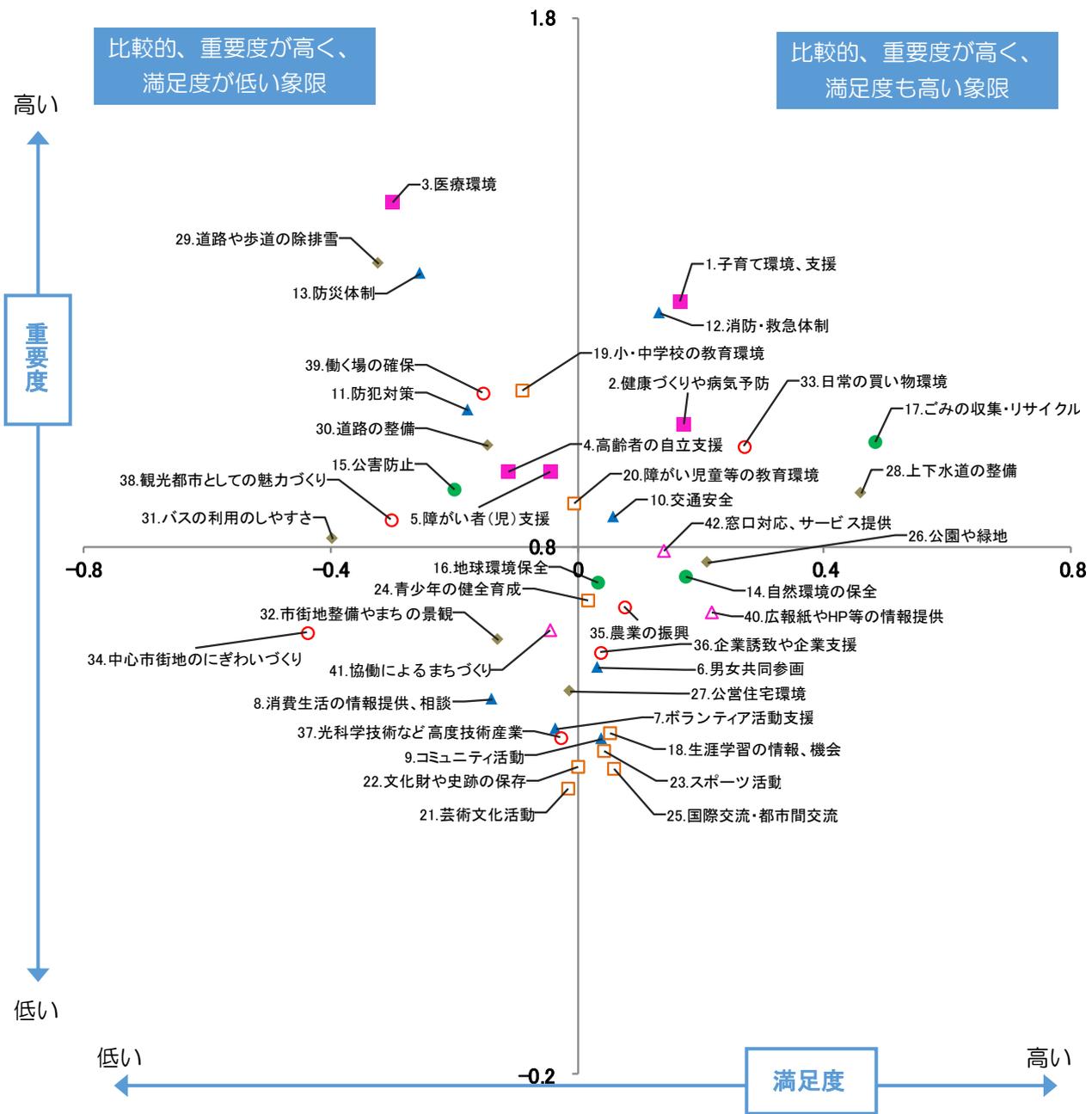
【住民基本台帳】



b) 市民アンケート結果

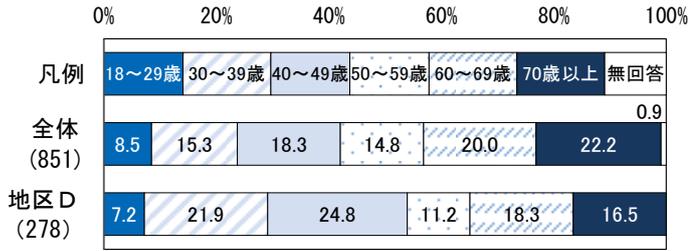
問2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (CS ポートフォリオ\_地区D)

※全市のグラフは P194 参照

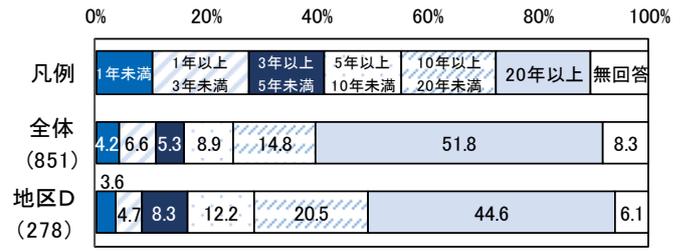


[分野の凡例]	
■ 保健・医療・福祉について	▲ 生活環境や安全・安心について
● 環境保全について	□ 教育・スポーツ・文化・国際交流について
◆ 都市環境や都市基盤の整備について	○ 産業の振興について
△ 市民参加や市民協働について	

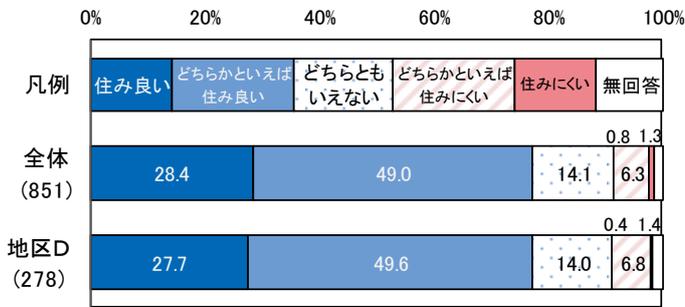
【問1】(イ) 年齢<属性別：居住地>



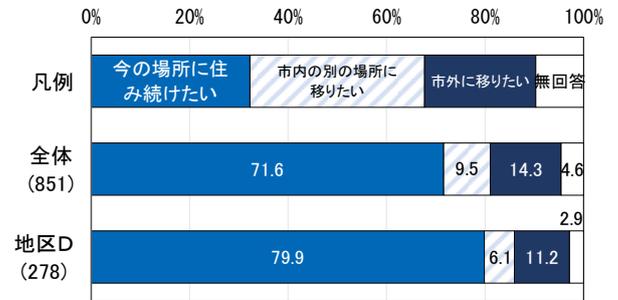
【問1】(工) 居住年数<属性別：居住地>



【問3】現在の千歳市の住みごころ<属性別：居住地>



【問4(1)】定住意向<属性別：居住地>



【問4-(2)】今の場所に住み続けたい理由(上位5項目)

千歳市(n=609)		地区D(n=222)	
項目	回答割合	項目	回答割合
持ち家がある(または家を購入する)から	70.3%	持ち家がある(または家を購入する)から	77.0%
空港があるから	29.1%	空港があるから	32.0%
勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	22.7%	市外への交通の便が良いから	26.1%
市外への交通の便が良いから	19.2%	勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	25.7%
自然が豊かだから	18.1%	実家がある(または家族や親戚がいる)から	17.6%

【問4-(3)】今の場所から移りたい理由(上位5項目)

千歳市(n=203)		地区D(n=48)	
項目	回答割合	項目	回答割合
買い物が不便	31.5%	医療や福祉面が不安だから	31.3%
医療や福祉面が不安だから	29.6%	余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	29.2%
市内の交通の便が悪いから	21.7%	市内の交通の便が悪いから	25.0%
騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	21.2%	買い物が不便	25.0%
余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	18.7%	騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	25.0%

### 3-5. 地区E

(青葉、青葉丘、日の出、日の出丘、住吉、東郊、豊里、梅ヶ丘、弥生、寿、旭ヶ丘、祝梅、東部隊、流通)

#### ①地区の状況

地区Eは、青葉、日の出、東郊、寿などの工業・商業・住居が調和した多機能調和型業務地を有する地区ですが、地区の大部分は市街化調整区域となっており、陸上自衛隊東千歳駐屯地のほか、農地などを有する地区です。



#### ②地区の課題

◎地区Eの人口は減少傾向ですが、転入超過が続いています。また、千歳市全体と比べて高齢化率がやや高く、少子高齢化が進んでいます。

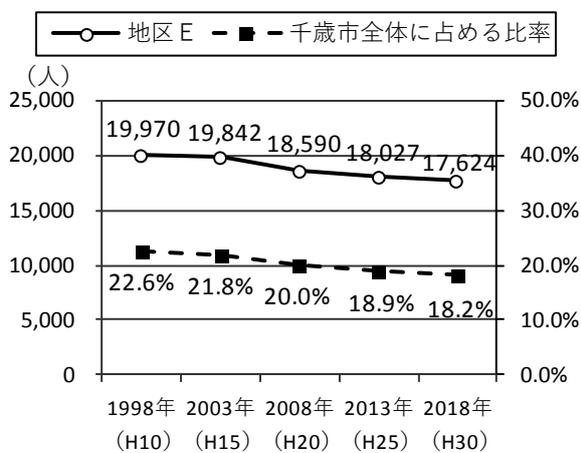
◎市民アンケートについて全市の状況と比較すると、地区Eは比較的高齢で居住年数の長い回答者が多くなっています。また、千歳市での暮らしに関する満足度と重要度や、住みごこち、定住意向に関する設問については全市と同様の傾向がみられます。

一方、今の場所に住み続けたい理由では、「買い物が便利だから」が全体と比べて特に高くなっているほか、「気候・気象条件が良いから」も上位にあげられています。

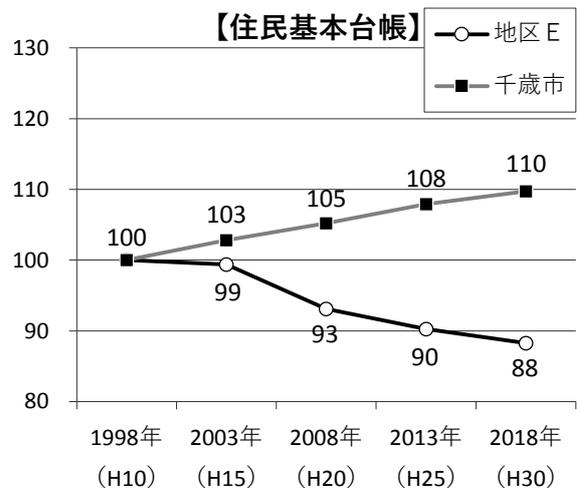
今の場所から移りたい理由では、「騒音・振動・悪臭などの公害が多いから」と答えた方の割合が高くなっています。

#### a) 統計データ

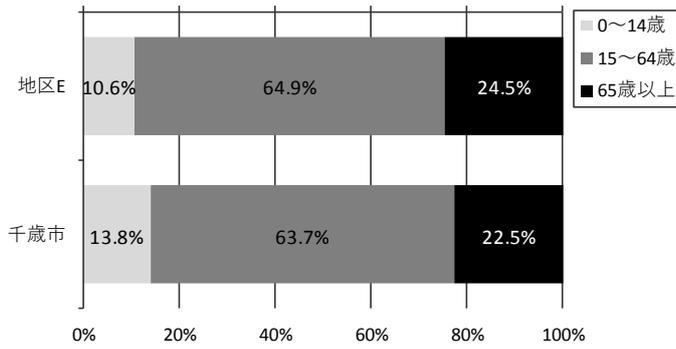
地区E人口の推移【住民基本台帳】



地区E人口増減指数（1998年=100）

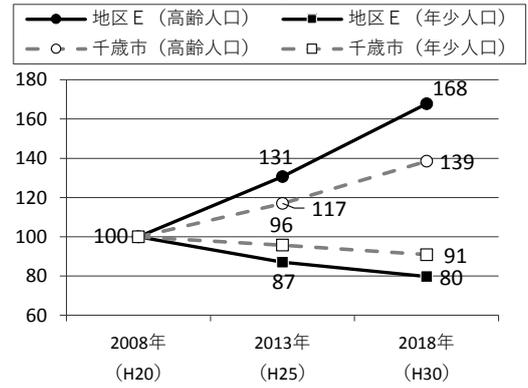


年齢3区分別人口構成比（2018年）【住民基本台帳】



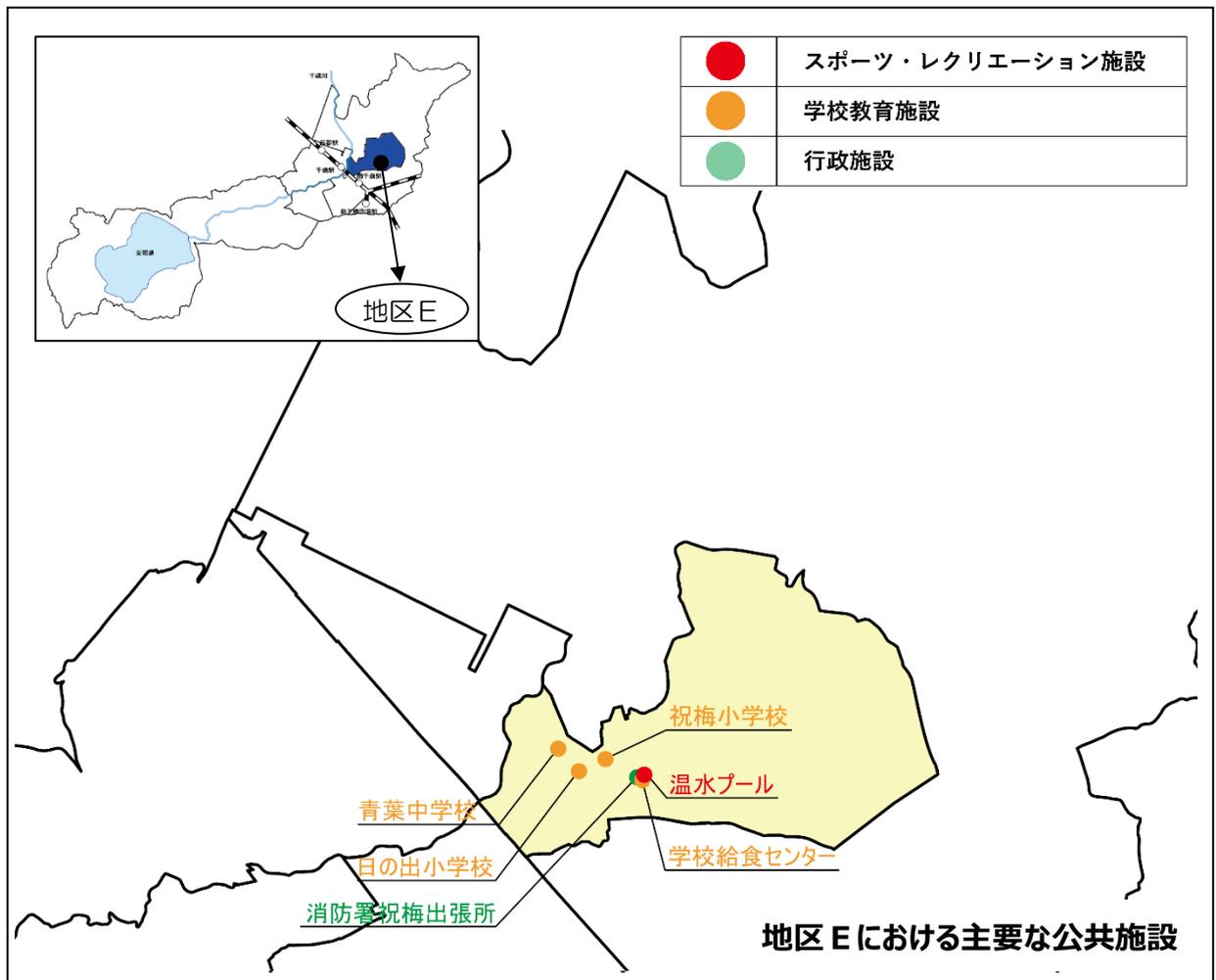
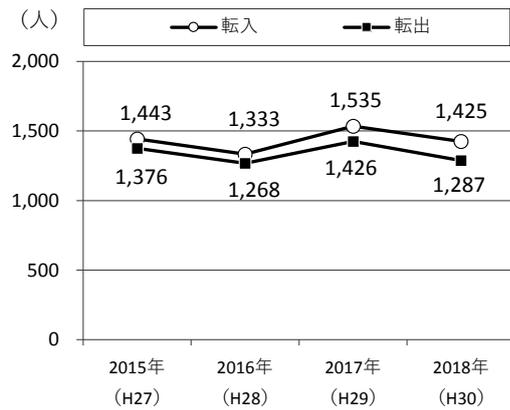
高齢・年少人口比率の増減指数

（2008年=100）【住民基本台帳】



地区E 転出入者数の推移

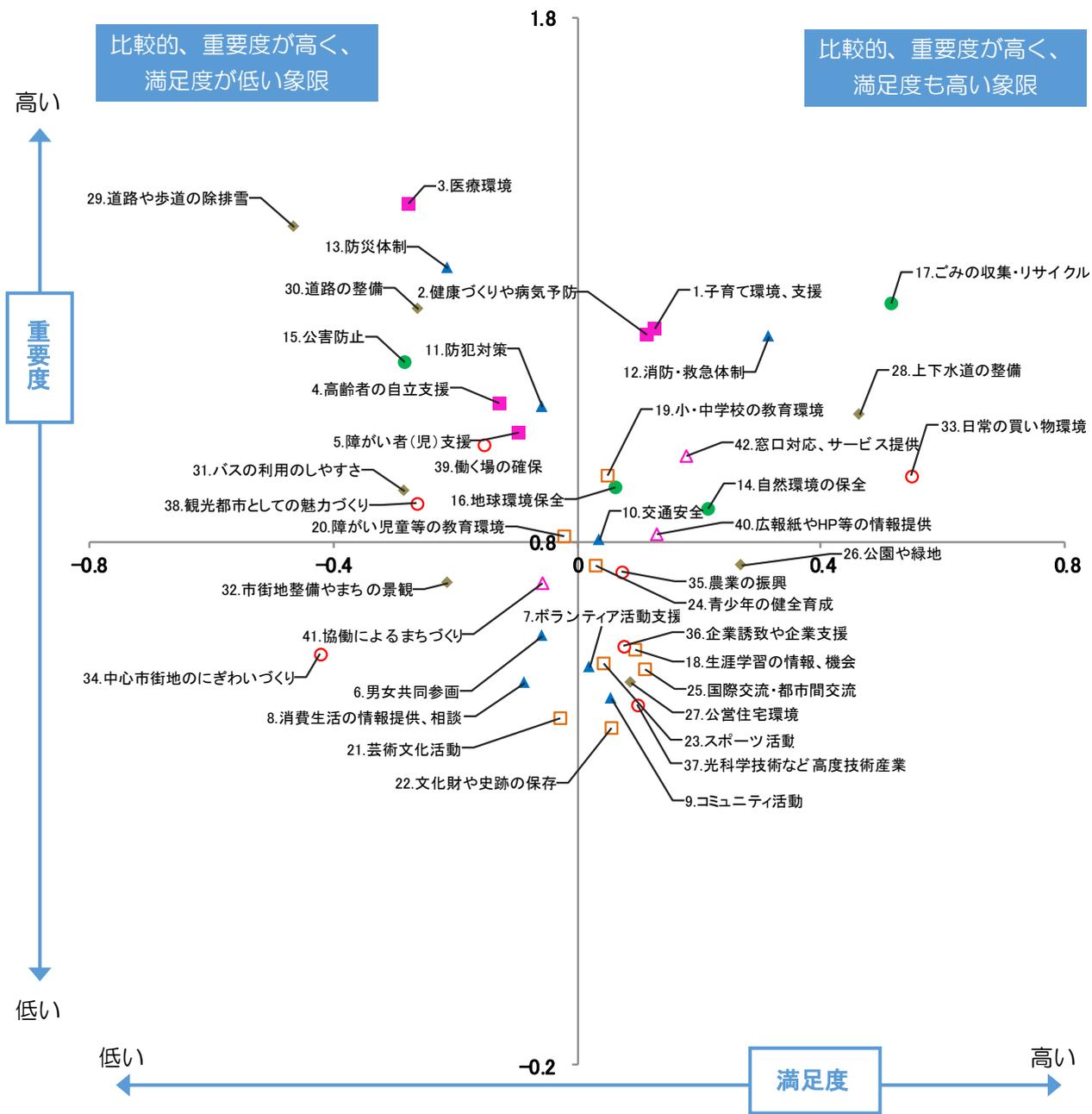
【住民基本台帳】



b) 市民アンケート結果

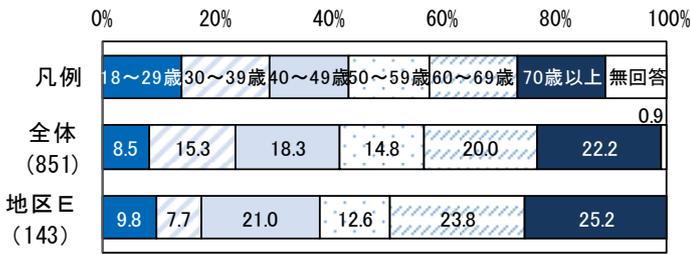
問2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (CS ポートフォリオ\_地区E)

※全市のグラフは P194 参照

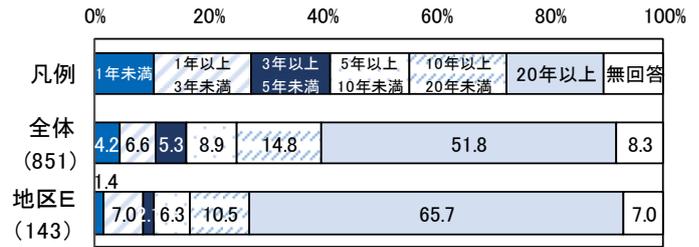


[分野の凡例]	
■ 保健・医療・福祉について	▲ 生活環境や安全・安心について
● 環境保全について	□ 教育・スポーツ・文化・国際交流について
◆ 都市環境や都市基盤の整備について	○ 産業の振興について
△ 市民参加や市民協働について	

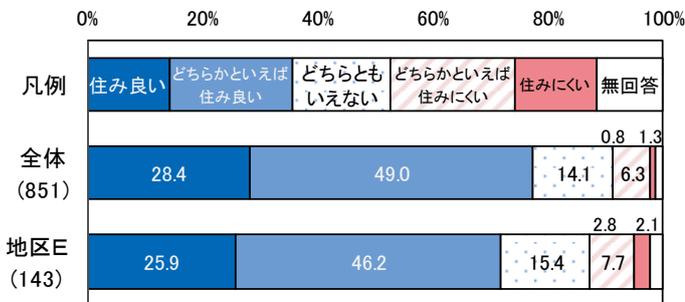
【問1】(イ) 年齢<属性別：居住地>



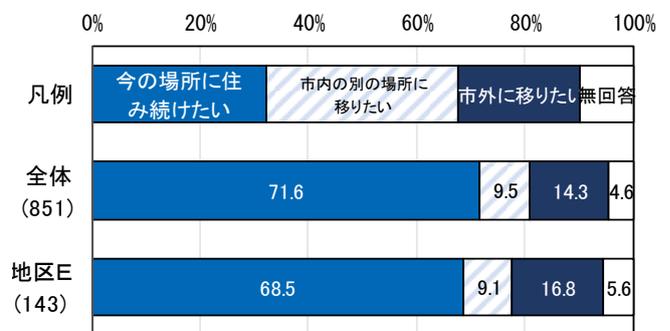
【問1】(工) 居住年数<属性別：居住地>



【問3】現在の千歳市の住みごころ<属性別：居住地>



【問4(1)】定住意向<属性別：居住地>



【問4-(2)】今の場所に住み続けたい理由(上位5項目)

千歳市(n=609)		地区E(n=98)	
項目	回答割合	項目	回答割合
持ち家がある(または家を購入する)から	70.3%	持ち家がある(または家を購入する)から	77.6%
空港があるから	29.1%	空港があるから	27.6%
勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	22.7%	買い物が便利だから	26.5%
市外への交通の便が良いから	19.2%	気候・気象条件が良いから	22.4%
自然が豊かだから	18.1%	勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	19.4%

【問4-(3)】今の場所から移りたい理由(上位5項目)

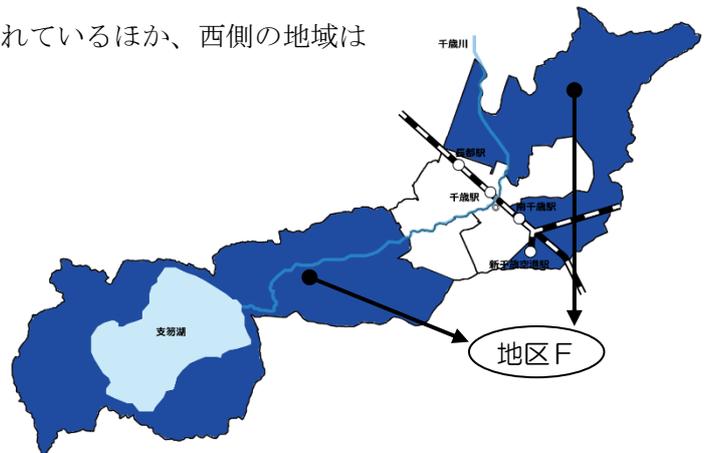
千歳市(n=203)		地区E(n=37)	
項目	回答割合	項目	回答割合
買い物が不便	31.5%	医療や福祉面が不安だから	37.8%
医療や福祉面が不安だから	29.6%	騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	32.4%
市内の交通の便が悪いから	21.7%	買い物が不便	18.9%
騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	21.2%	千歳市外が生まれ故郷だから	16.2%
余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	18.7%	住宅環境が悪いから	16.2%

### 3-6. 地区F

(都、長都、釜加、根志越、中央、駒里、泉郷、美々、柏台、柏台南、幌加、協和、新川、東丘、支笏湖温泉、幌美内、モラップ、水明郷、藤の沢、美笛、支寒内、奥潭)

#### ①地区の状況

地区Fは、東側の地域が農地として利用されているほか、西側の地域は森林地帯や国立公園となっています。



#### ②地区の課題

◎地区Fの人口は減少傾向であり、転入者と転出者の数は概ね同程度で推移しています。また、千歳市全体と比べて高齢化率は特に高くなっていますが、2013年以降、高齢人口比率の伸びが鈍化しつつあります。

◎市民アンケートについて全市の状況と比較すると、地区Fは40代や50代の回答者が多い傾向となっています。また、千歳市での暮らしに関する満足度と重要度について、「公害防止」の満足度は高くなっていますが、「ごみの収集・リサイクル」「小・中学校の教育環境」「バスの利用のしやすさ」「農業の振興」「企業誘致や企業支援」は満足度が低くなっています。重要度については、「医療環境」「農業の振興」が高く、「防犯対策」「公害防止」は低くなっています。

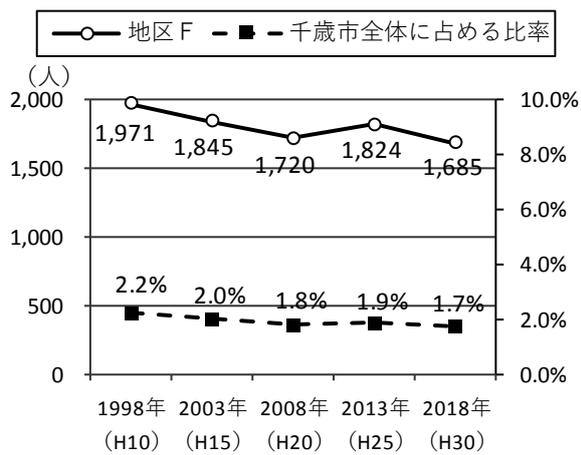
また、住みごちに関しては住みよいと答えた回答者がやや少なくなっていますが、定住意向は全市と同様の傾向となっています。

今の場所に住み続けたい理由では、「実家がある（または家族や親戚がいる）から」「千歳市が生まれ故郷だから」など地縁に関する理由のほか、「買い物が便利だから」「自分にあう仕事（職場）があるから」などの生活環境に関するものが上位となっており、「持ち家がある（または家を購入する）から」と回答した方の割合は全体と比べて低くなっています。

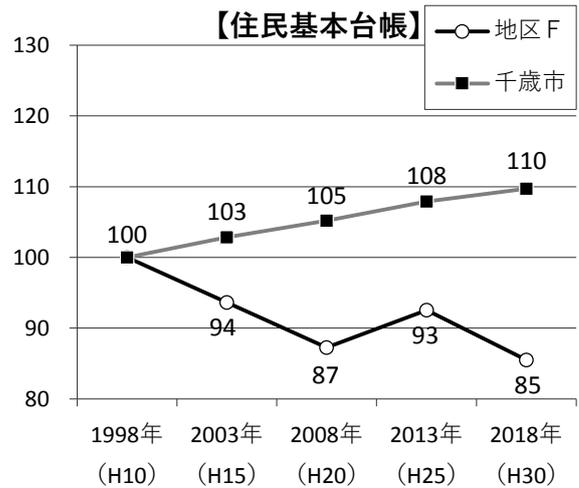
また、今の場所から移りたい理由では、回答者数が少ないものの、全員が「買い物が不便」と回答しています。

a) 統計データ

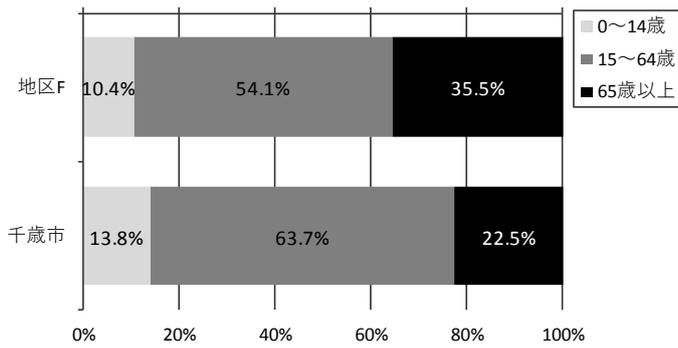
地区F人口の推移【住民基本台帳】



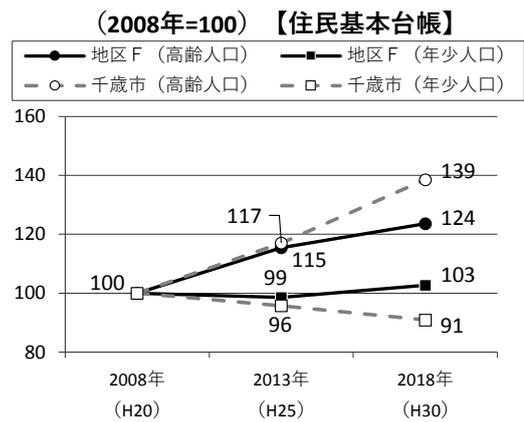
地区F人口増減指数 (1998年=100)



年齢3区分別人口構成比 (2018年)【住民基本台帳】

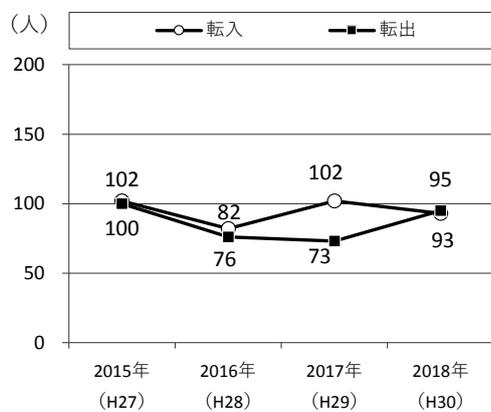


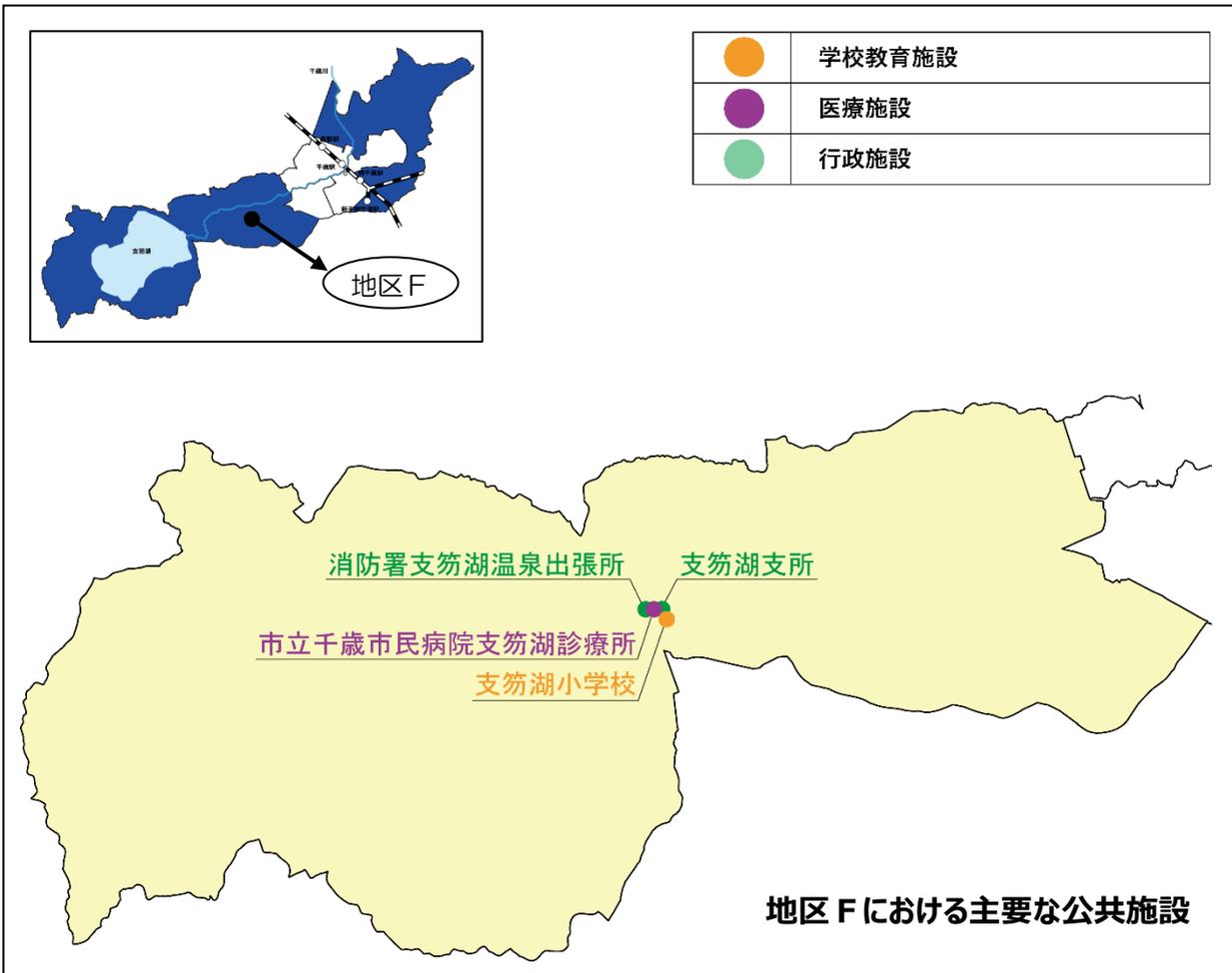
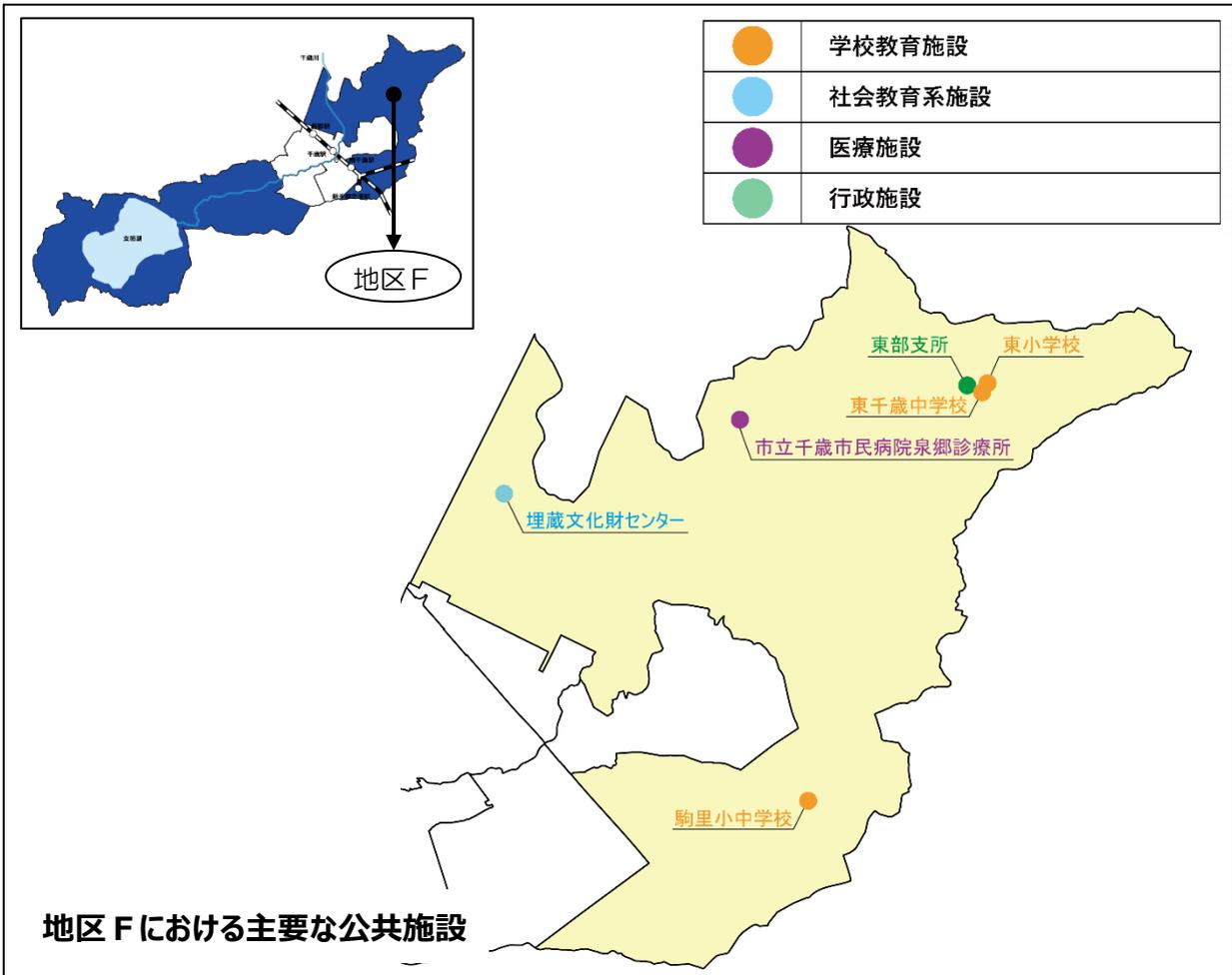
高齢・年少人口比率の増減指数



地区F転出入者数の推移

【住民基本台帳】

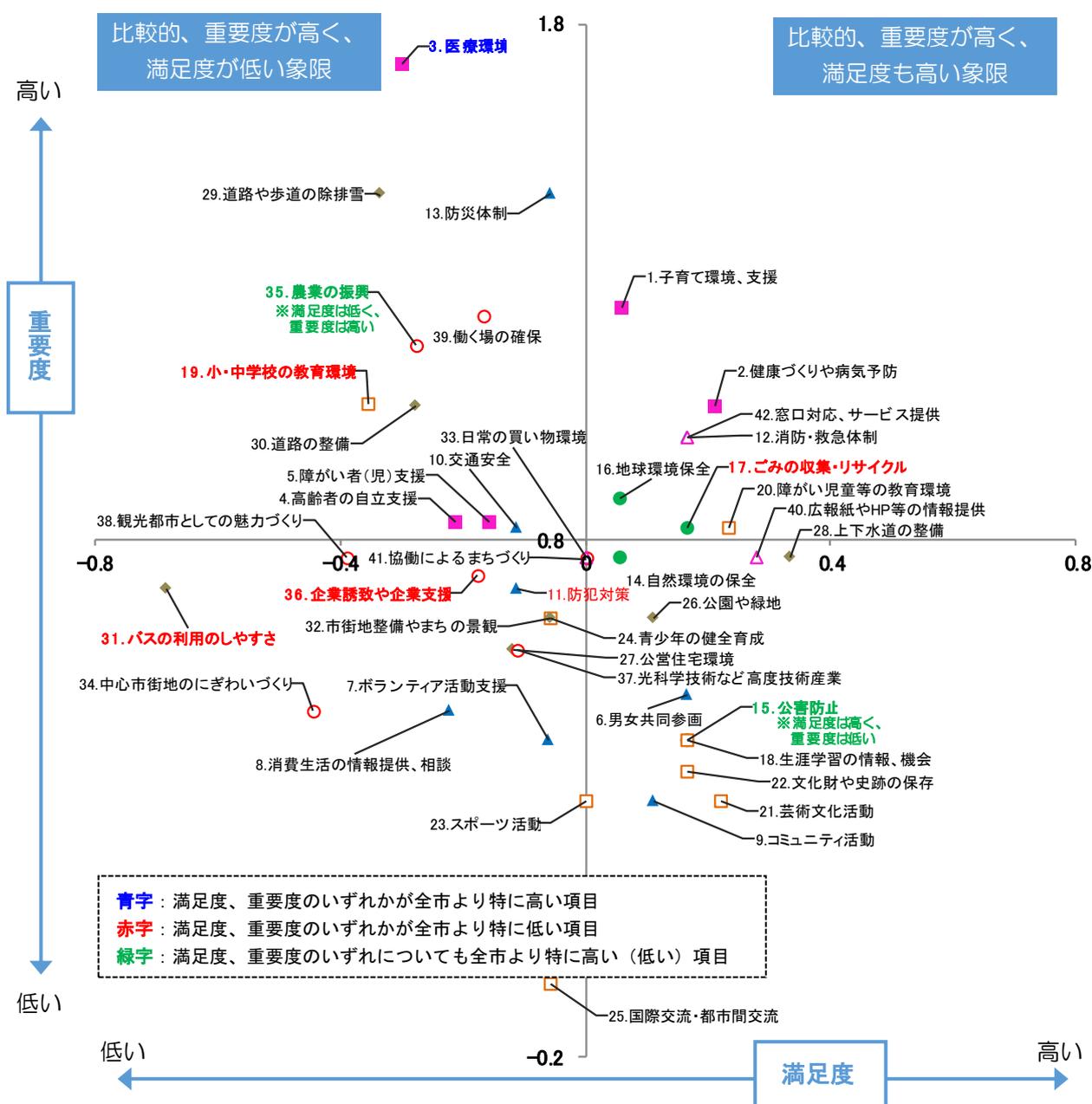




b) 市民アンケート結果

問2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (CSポートフォリオ\_地区F)

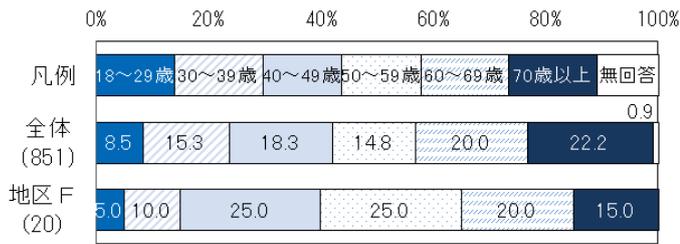
※全市のグラフはP194参照



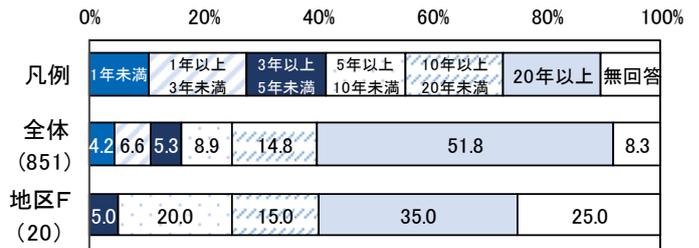
[分野の凡例]

■ 保健・医療・福祉について	▲ 生活環境や安全・安心について
● 環境保全について	□ 教育・スポーツ・文化・国際交流について
◆ 都市環境や都市基盤の整備について	○ 産業の振興について
△ 市民参加や市民協働について	

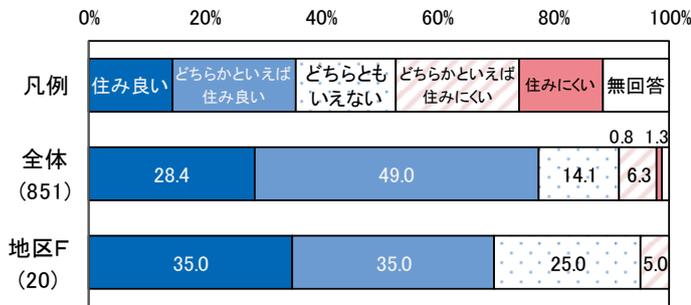
【問1】(イ) 年齢<属性別：居住地>



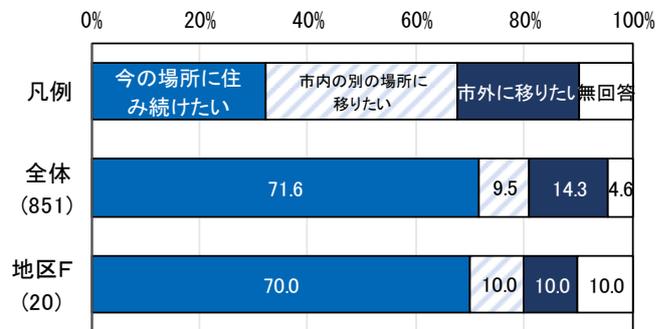
【問1】(工) 居住年数<属性別：居住地>



【問3】現在の千歳市の住みごころ<属性別：居住地>



【問4(1)】定住意向<属性別：居住地>



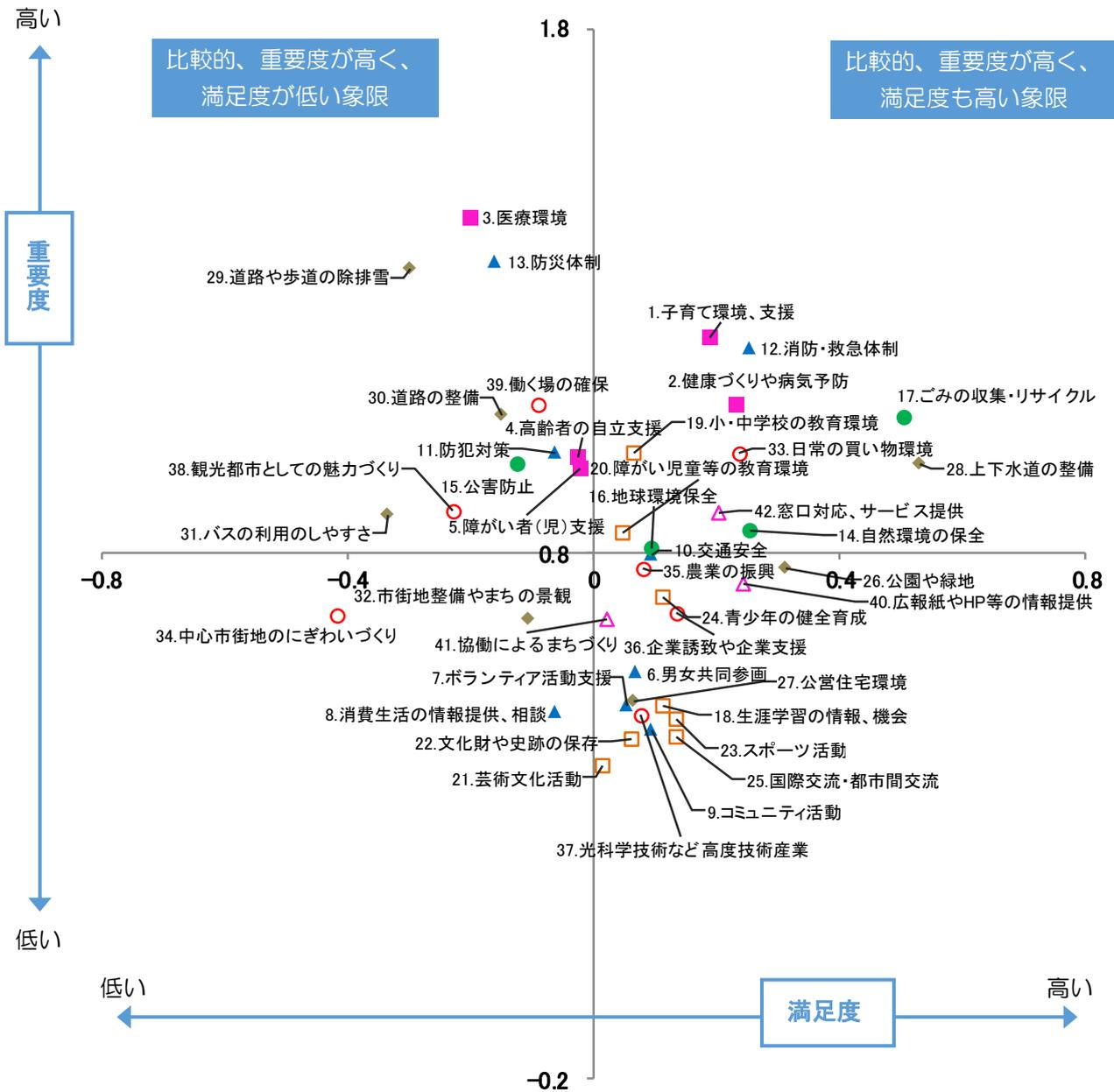
【問4-(2)】今の場所に住み続けたい理由(上位5項目)

千歳市(n=609)		地区F(n=14)	
項目	回答割合	項目	回答割合
持ち家がある(または家を購入する)から	70.3%	持ち家がある(または家を購入する)から	57.1%
空港があるから	29.1%	実家がある(または家族や親戚がいる)から	28.6%
勤務先や通学先が近い(または通いやすい)から	22.7%	買い物が便利だから	28.6%
市外への交通の便が良いから	19.2%	千歳市が生まれ故郷だから	21.4%
自然が豊かだから	18.1%	自分にあう仕事(職場)があるから	21.4%

【問4-(3)】今の場所から移りたい理由(上位5項目)

千歳市(n=203)		地区F(n=4)	
項目	回答割合	項目	回答割合
買い物が不便	31.5%	買い物が不便	100.0%
医療や福祉面が不安だから	29.6%	市内の交通の便が悪いから	50.0%
市内の交通の便が悪いから	21.7%	気候・気象条件が厳しいから	25.0%
騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	21.2%	医療や福祉面が不安だから	25.0%
余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	18.7%	騒音・振動・悪臭などの公害が多いから	25.0%
-		余暇や生きがい、娯楽を楽しむ場や機会が少ないから	25.0%

(参考) 問2 千歳市での暮らしに関する満足度と重要度に係る要素分析 (CS ポートフォリオ\_全市)



- [分野の凡例]
- 保健・医療・福祉について
  - 環境保全について
  - ◆ 都市環境や都市基盤の整備について
  - ▲ 生活環境や安全・安心について
  - 教育・スポーツ・文化・国際交流について
  - 産業の振興について
  - △ 市民参加や市民協働について